任天堂公式ガイドブック

20th Anniversary

ファイアーエムブレム大全



Fire Emblem

Nintendo

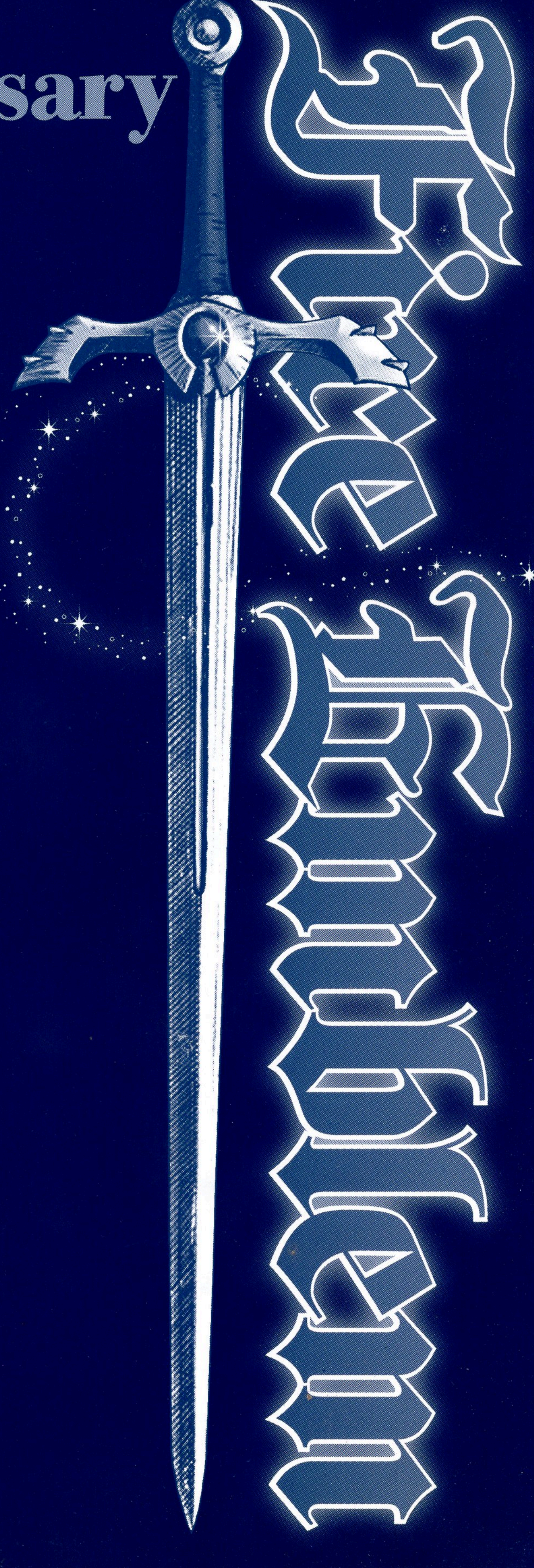
小学館

WC

任天堂公式ガイドブック

20th Anniversary

ファイアーエムブレム大全



Nintendo
小学館

任天堂公式ガイドブック

20th Anniversary
ファイアーエムブレム大全



小学館

Many thanks to 20 years

『ファイアーエムブレム』20周年によせて



山上　仁志
Yamagami Hitoshi

『烈火の剣』以降、すべてのシリーズのプロデューサーをしています。

この当時はGBAで制作していましたが、FC時代から『ファイアーエムブレム』はTVゲームユーザーとして大好きだったので、私には「いつかもう一度TVで遊びたい！」という思いがありました。そして、私がプロデューサーになる以上、この夢を実現したいと強く考えていました。どうすればもう一度TVゲームとして作ることができるかを考え、その結果、まず海外に進出し、このゲームのファンを増やすという決断をしました。初めて成広さんにこの話をしたとき、「本気ですか」と言われたことを今でも思い出します。

『烈火の剣』で北米、欧州進出を成功させ、そして『蒼炎の軌跡』で私の念願であったTVに復帰させることができました。これも、このシリーズを愛してくださる世界中のファンの皆様のお陰だと痛感しています。今後もより魅力的な『ファイアーエムブレム』を作っていきたいと考えていますので、皆様どうぞ応援をよろしくお願いします。

Profile
任天堂株式会社　企画開発本部 企画開発部 第２プロダクショングループ グループマネージャー／『烈火の剣』以降の『ファイアーエムブレム』シリーズのプロデューサーを担当。そのほかにも、『ヨッシーのクッキー』『パネルでポン』『罪と罰』『伝説のスタフィー』など、多数のシリーズを手がけている。



成広　通
Narihiro Toru

もう20年も経ったんですね。これも今まで多くのファンの皆様に支えられてこその記念すべき出来事だと思います。ゲームを作り始めた当時はまだゲーム業界というものすらなかった時代で、作り手も遊び手も一緒で、熱意と意欲を持った人たちが自然と集まって、楽しみながら、自分たちが遊びたいものをただひたすら作っていました。そんな中で、シミュレーションにもRPGのような物語を乗っけるともっと面白くなるのでは？、という思いから『ファイアーエムブレム（以下『FE』）』が生まれたんです。

僕が『FE』シリーズで、いちばん思い出深いのは『聖戦の系譜』。恋愛システムを新しく取り入れたことで、いわゆるカップリングというか、「一緒に戦わせたい！」というような遊び方も出てきて、今まで以上に一手一手が意味を成し、プレイヤーの駒の動かし方にバリエーションが生まれました。

それに、エンディングも複数用意して本当に大変でした。どれだけの人に全部見ていただけたのかな？（笑）　また、『FE』といえばキャラクターですね。ぼくがキャラクターでいちばん好きなのはトラバント。トラバントって『FE』を象徴していると思うんです。あのとき描かれていた人間模様の中で、ひと際存在感がありましたね。それから個人的には、ステラやホメロスも好きです。

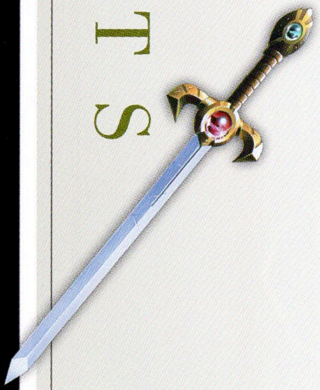
先日知人に「『FE』って、遊んだ人に対してごほうびがかえってくるまでが長いゲームだよね」って言われたんです。確かに、遊びとしてはシンプルなのだけど、はじめに覚えてもらうことが多いので…。ここは永遠の課題なのですが、でも、覚えたことによって得られる深い喜びは伝えていきたいですし、クリアしたときのごほうびはもっと大切にしていきたいです。そして、"戦い"と"絆"をテーマにしているけど、勧善懲悪じゃないところにリアリティーがあるのが、このゲームの味だと思っています。たかがゲームだけど、何かプレイヤーの心に伝えられるものがあればいいなと思っています。

『FE』には、物語的なものはあるけど、ぼくたちはただ器というか、きっかけを作っているにすぎなくて、皆さんがプレイすることでそれぞれの人の中に違う思い出や歴史を刻みながら、クリアしてもらってやっと完成するゲーム。だから遊んでくれている人はじっくりと自分の『FE』を遊んでくれている…。本当に感謝しています。

これからももっともっと楽しんでもらえるための器を作っていきますので、楽しみにお待ちいただけたらと思います！

Profile
株式会社インテリジェントシステムズ 総合開発部　プロデューサー／制作やプロデュースに携わったおもなソフトとして、『ファミコンウォーズ』シリーズ、『ファイアーエムブレム』シリーズ等がある。

CONTENTS



Message & Illustration

北　千里……4
金田榮路……5
こがわみさき……6
おがきちか……7
山田孝太郎……8

Fire Emblem History……9

World Guide……17

アカネイア・バレンシア大陸編……17
ユグドラル大陸編……71
エレブ大陸編……109
マギ・ヴァル大陸編……159
テリウス大陸編……179

Gallery & Interview……217

ファイアーエムブレム トレーディングカードゲームイラストコレクション……218
『アカネイア戦記』イラストギャラリー……230
『新・紋章の謎』キャラクターイラスト集……234
スペシャルインタビュー辻横由佳……238
ブックガイド……239

Column

肖像変遷記……68
赤緑の系譜……70
トライアングルアターック!の系譜……108
もうひとつのエレブサーガ……157
勇者の戦い『スマブラ』出張編……158
『蒼炎の軌跡』ムービー用設定イラスト……216

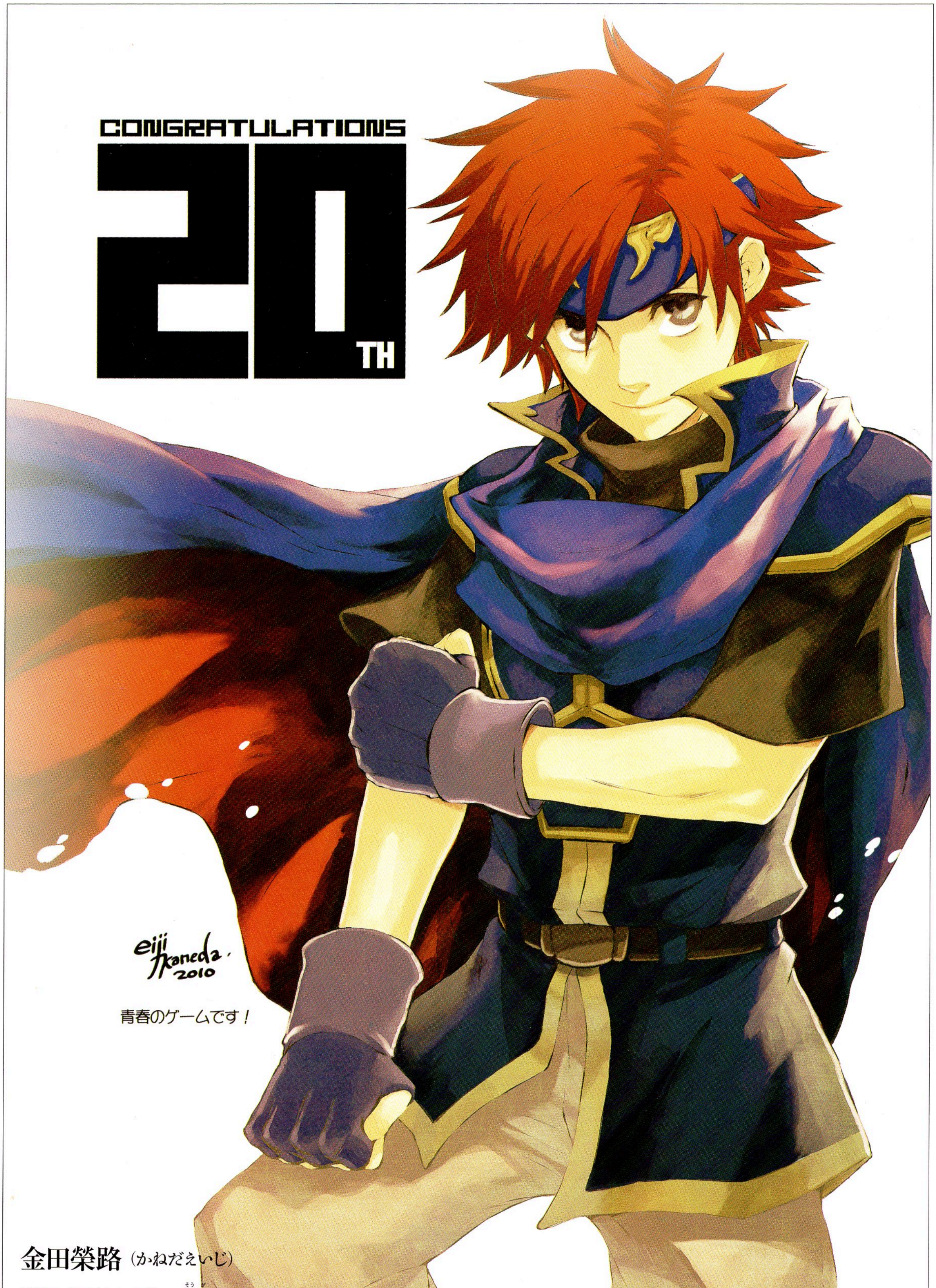
※「ワールドガイド」では、キャラクターの各イラストがどの作品登場時のものかを判別するため、イラストの出典作品を略称で明記しています。略称の見方は以下のとおりです。

【暗黒竜】……暗黒竜と光の剣
【新暗黒】……新・暗黒竜と光の剣
【トラキア】……トラキア776
【烈火】……烈火の剣
【暁】……暁の女神
【TCG】……トレーディングカードゲーム
【公式サイト】…トラキア776・旧公式サイト
【紋章】……紋章の謎
【聖戦】……聖戦の系譜
【封印】……封印の剣
【蒼炎】……蒼炎の軌跡
【戦記】……アカネイア戦記



北 千里（エンジンズ）

格闘アクションゲーム『サムライスピリッツ』シリーズや『SNKvs.CAPCOM』のキャラクターデザイン、イラストレーションを手がける。クリエーターチーム“エンジンズ”に所属し『ファイアーエムブレム　蒼炎の軌跡／暁の女神』のイラストレーションを手がける。



青春のゲームです！

金田榮路（かねだえいじ）

フリーイラストレーター。挿画、ゲーム、アニメなど幅広いジャンルで活動中。代表作はTVアニメ『創聖のアクエリオン』キャラクター原案など。



こがわみさき

漫画家。代表作に『陽だまりのピニュ』（スクウェア・エニックス）。2010年以降は『電撃大王 GENESIS』（アスキー・メディアワークス）にて「空声」を発表するなど各所で活躍中。



おがきちか

一迅社「コミックZERO-SUM」で「Landreaall（ランドリオール）」、太田出版「エロティクス・エフ」で「侍ばんぱいや」を連載中。

ファイアーエムブレム20周年
おめでとうございます！

僕はエレブ大陸を舞台とした
『覇者の剣』という漫画を
担当させていただきました。
京都での白熱したミーティングが
なつかしい…（笑）
制作の方々とファンとが大切に、熱く
愛情をもって今も育て続けている
本当にすばらしい作品だなと思います。
自分自身漫画描きとしても
成長させていただき、感謝しております。

手強いシミュレーションの新作、
楽しみにしています！



山田孝太郎

1980年長野県生まれ。月刊少年ジャンプで漫画家デビュー。同誌で『ファイアーエムブレム 覇者の剣』を連載（2001年11月～2005年7月）。繊細な筆致で描かれるキャラクターと、迫力溢れる戦闘シーンで人気を集める。現在は、月刊コミックアライブにて『聖剣の刀鍛冶』を連載中。



Fire Emblem History

ファイアーエムブレム　ヒストリー

FIRE EMBLEM HISTORY

数々の名作を生んできた『ファイアーエムブレム』シリーズ。
その20年に渡る軌跡を任天堂のゲーム史とともに振り返ってみよう。

1980年……・『ゲーム＆ウォッチ』発売。
1983年……・『ファミリーコンピュータ』発売。
1986年……・『ファミリーコンピュータディスクシステム』発売。
1989年……・『ゲームボーイ』発売。
1990年……・『ファイアーエムブレム　暗黒竜と光の剣』発売。
・『スーパーファミコン』発売。
1992年……・『ファイアーエムブレム　外伝』発売。
1994年……・『ファイアーエムブレム　紋章の謎』発売。
1995年……・『バーチャルボーイ』発売。
・スーパーファミコン周辺機器『サテラビュー』発売。
1996年……・『ファイアーエムブレム　聖戦の系譜』発売。
・『NINTENDO64』発売。
・『ゲームボーイポケット』発売。
1997年……・書き換えサービス『ニンテンドーパワー』開始。
・『ファイアーエムブレム BSアカネイア戦記編』配信開始。
1998年……・『ゲームボーイライト』『ゲームボーイカラー』発売。
1999年……・『NINTENDO64』周辺機器、『64DD』発売。
・『ファイアーエムブレム　トラキア776』
書き換え開始。
2000年……・『ファイアーエムブレム　トラキア776』発売。
2001年……・『ゲームボーイアドバンス』発売。
・『ニンテンドーゲームキューブ』発売。
・『大乱闘スマッシュブラザーズDX』にマルスとロイが参戦。
2002年……・『ファイアーエムブレム　封印の剣』発売。
2003年……・『ゲームボーイアドバンスSP』発売。
・『ファイアーエムブレム　烈火の剣』発売。
2004年……・『ファイアーエムブレム　聖魔の光石』発売。
・『ニンテンドーDS』発売。
2005年……・『ファイアーエムブレム　蒼炎の軌跡』発売。
・『ゲームボーイミクロ』発売。
2006年……・『ニンテンドーDS Lite』発売。
・『Wii』発売。
2007年……・『ファイアーエムブレム　暁の女神』発売。
2008年……・『大乱闘スマッシュブラザーズX』にマルスとアイクが参戦。
・『ファイアーエムブレム　新・暗黒竜と光の剣』発売。
・『ニンテンドーDSi』発売。
2009年……・『ニンテンドーDSi LL』発売。
2010年……・『ファイアーエムブレム　新・紋章の謎
～光と影の英雄～』発売。













ファイアーエムブレム 暗黒竜と光の剣

発売日：1990年4月20日
ファミリーコンピュータ

記念すべきシリーズ第1作！

アリティアの王子マルスと、暗黒竜メディウスの戦いを描いたシリーズ第1作。SLG（シミュレーションゲーム）の戦略性に、RPGの壮大なストーリーを追加。さらに、それまでのSLGでは単なる“駒(こま)”にすぎなかったユニットにキャラクター性を持たせ、「シミュレーションRPG」という新ジャンルを確立した。

シリーズの基礎は、この第1作でほぼ完成しており、「死んだキャラクターは基本的に生き返らない」というおなじみのシステムも、本作から採用されている。





↑タリス城陥落(かんらく)の報せが届き、マルスが挙兵。すべてはここから始まった。



↑ユニット同士の会話やレベルアップなど、RPG要素が多く盛りこまれた。

ファイアーエムブレム 外伝 FIREEMBLEM

発売日：1992年3月14日
ファミリーコンピュータ

新システムが多数盛りこまれた意欲作

2人の主人公、アルムとセリカと、邪神ドーマを崇(あが)めるリゲル帝国との戦いを描いた、シリーズ第2作。前作『暗黒竜と光の剣』の世界観を踏襲(とうしゅう)しているが、舞台は異なり、前作のアカネイア大陸から遠く離れた、バレンシア大陸が戦いの舞台となっている。

本作は「外伝」の名にふさわしく、武器から「耐久力」がなくなったり、上級職から下級職へのクラスチェンジが可能（一部のクラスのみ）になったりと、システム面でもさまざまな試みがなされている。また、ステージ間には全体マップが表示され、2人の主人公の進軍ルートを選択できるようになった。これらの要素によって自由度が大幅に上昇し、RPG色がかなり濃くなっている。

2人の主人公の物語が複雑に絡(から)みつつクライマックスへと向かう展開は、「シリーズ随一」との声もある。




↑アルムとセリカ、2人の主人公による重層的な物語が展開する。



↑クラスチェンジで複数の職業に分岐する「村人」が、戦略の幅を広げた。

FIREEMBLEM ファイアーエムブレム™ 紋章の謎

発売日：1994年1月21日
スーパーファミコン

名作を不動のものにした代表作！

シリーズ初の二部構成となり、第1部に『暗黒竜と光の剣』のリニューアル版、第2部にその後のマルスたちの戦いが描かれた新作を収録している。これにより、旧作からのファンだけなく、新たなユーザーをも獲得し、『ファイアーエムブレム』シリーズの人気を決定づけた。システム面では、行動終了後のユニットを再行動可能にする「踊り子」や、支援効果システムが初登場した。



暗黒戦争、英雄戦争という2つの戦争を描いた本格戦記的物語が展開。とくに、第2部では『暗黒竜と光の剣』では語られなかったアカネイア大陸の歴史の真実が、次々と明らかになる。



ファイアーエムブレム 聖戦の系譜™

発売日：1996年5月14日
スーパーファミコン

親子二代に渡る壮大なストーリー

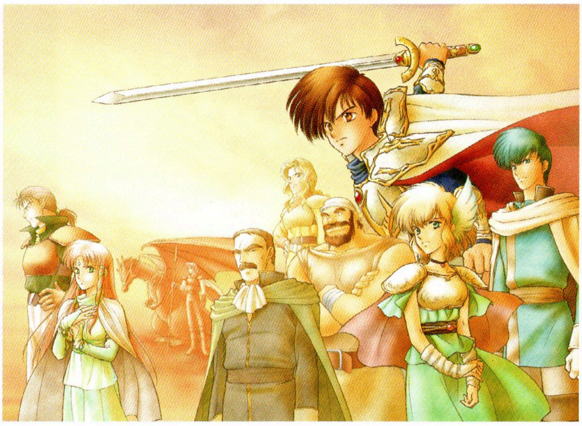
前半はシアルフィ家の公子シグルド、後半はその息子セリスを中心に、親子二代の壮大なストーリーが展開する。システム面では、キャラクター同士が恋に落ち、結婚して子どもを産むという「恋愛システム」が搭載され、人気を博した。また、「スキルシステム」の導入により、キャラクターの個性がより明確になった。シリーズおなじみの武器の「3すくみ」関係も、本作が初登場。



“愛”のゲームであるので、夫婦や恋人、あるいは聖戦士の血を引く兄妹といった関係にある2人が隣接していると、攻撃時に必殺の一撃（通称“ラブアタック”）が繰り出されることもある。



Fire Emblem トラキア776 ファイアーエムブレム



発売日：1999年9月1日
スーパーファミコン

シリーズ屈指の難易度を誇る外伝

前作『聖戦の系譜』の外伝的作品で、トラキア解放のために立ち上がった、レンスターの王子リーフにスポットを当てている。当初は、ゲーム書き換えサービス『ニンテンドーパワー』用ソフトとして登場するが、後にパッケージ版ソフトとしても発売された。

システム面では、「捕らえる」「かつぐ」などの新コマンドが登場。新コマンドの登場により、戦略の幅が大きく広がった。ちなみに、本作は「シリーズ屈指の難易度」と評されており、その難易度の高さは、いまなおファンの間で伝説となっている。



↑捕らえた敵ユニットの持ち物をもらえることもある。このシステムも、非常に重要な戦略のひとつだった。



↑本作には『聖戦の系譜』と関係の深い人物が数多く登場する。たとえば、第1章から登場する彼女も……。

FIREEMBLEM ファイアーエムブレム 封印の剣



発売日：2002年3月29日
ゲームボーイアドバンス

初の携帯ゲーム機対応作品！

舞台は、かつて人と竜とが覇権を争ったエレブ大陸。突如、東の大国ベルンが各地への侵略を開始。大陸南方の小勢力、フェレ家の嫡男ロイは、ベルンの侵略を阻止するために、仲間とともに立ち上がる。

シンプルなシステムと抜群の操作性で、携帯ゲーム機の魅力である「手軽なプレイ」を実現した作品。また、キャラクター同士が会話することで信頼関係が築かれる「支援会話」システムを採用。支援会話ではキャラクターの意外な一面も見られ、ファンにも好評を博した。



←フェレ侯エリウッドが病に冒されているために、息子のロイが、父のかわりにフェレ軍を率いることになる。



←支援会話により、各キャラクターのバックボーンがわかるようになり、そのおかげで、どのキャラクターもより個性豊かなものとなった。

FIRE EMBLEM ファイアーエムブレム 烈火の剣

発売日：2003年4月25日
ゲームボーイアドバンス

前作の20年前を描いたGBA第2弾

『封印の剣』の続編で、物語の舞台は前作と同じエレブ大陸。主人公は、遊牧民の少女リンとフェレ領公子エリウッド、そしてその親友であるヘクトル。ちなみに、エリウッドは、前作の主人公ロイの父親である。

物語は「リン編」「エリウッド編」「ヘクトル編」の三部構成となっており、序章にあたる「リン編」は全編チュートリアルとなっている。「エリウッド編」「ヘクトル編」にはそれぞれヒロイン候補が数人おり、主人公が特定の相手と支援Aになると、エンディングが変化する。また、「軍師システム」という独自のシステムが採用されており、プレイヤーの分身を、主人公たちの軍師としてゲーム中に登場させることが可能になった。





↑物語は、リンが軍師を介抱する場面から始まる。以降、軍師はリンやエリウッドの旅に同行することとなる。



↑前作では病に冒されていたエリウッド。本作では、仲間とともに各地を旅する元気な姿を見ることができる。

FIRE EMBLEM ファイアーエムブレム 聖魔の光石

発売日：2004年10月7日
ゲームボーイアドバンス

GBA第3作は2人の主人公が登場！

GBA第3弾。舞台はマギ・ヴァル大陸。帝国の侵略を受けたルネス王国の2人の兄妹、王子エフラムと王女エイリークの戦いが描かれる。ちなみに、『封印の剣』および『烈火の剣』にストーリーのつながりはない。

本作では、物語の途中に分岐点が用意されており、そこでエフラムとエイリークのどちらを選ぶかで、その後のストーリー展開やバトルマップが変化する。さらに、上位へのクラスチェンジ後の兵種を2種類から選べる「分岐クラスチェンジ」や、何度でも挑戦可能なバトルマップ「EXマップ」なども導入。GBA版前2作にはなかった「スキルシステム」も、本作では復活した。また、チュートリアルモードも充実しており、シリーズの初心者でも遊びやすい作りとなっている。





↑それぞれ別行動をとっていたエフラムとエイリークだが、物語が佳境にさしかかるころには合流を果たす。



↑クラスチェンジが2回可能な「見習いクラス」が登場。彼らは、部隊の主戦力となりうる強力ユニットだ。

ファイアーエムブレム 蒼炎の軌跡

発売日：2005年4月20
ニンテンドーゲームキューブ

シリーズ初の3Dグラフィック！

女神に祝福されし大地テリウスを舞台に、若き傭兵のアイクが、亡国の姫を助けて王国再興のために立ち上がる。久々の据え置き型ゲーム機用タイトルで、多くの面で進化を遂げている。シリーズ初となる3Dマップに加え、ムービーによる演出を採用。もちろん、バトルの演出も大幅にパワーアップした。

演出面のほか、システム面の進化も顕著。進化を遂げた「スキルシステム」をはじめ、ラグズと呼ばれる特殊ユニットによる「化身」、武器錬成も可能な「拠点」など、新要素も追加された。難易度も「ノーマル」「ハード」「マニアック」の3種類があり、中でも「マニアック」は、『トラキア776』に匹敵する手強さとなっている。





↑3Dになったバトルマップ。マップのバリエーションも増えている。



↑キャラのパラメータに、調子の良し悪しを示す「バイオリズム」が登場。

ファイアーエムブレム 暁の女神

発売日：2007年2月22日
Wii

『蒼炎の軌跡』の3年後を描いた続編

前作『蒼炎の軌跡』から3年後の世界が舞台。先の戦争で敗北し、帝国の支配下に置かれることとなったデイン王国。帝国の圧政から人々を救うために、ミカヤは戦いにその身を投じる。

アイクをはじめ、『蒼炎の軌跡』で活躍したキャラクターも数多く登場する。全四部構成となっており、第1部から3部までは、それぞれ異なる人物の視点で物語が進められる。システム面に関しては、基本的には前作を踏襲しているが、プラットフォームがニンテンドーゲームキューブからWiiに移ったことで、ムービーなどの演出面は大幅にパワーアップしている。また、『蒼炎の軌跡』のクリアデータを引き継いでプレイすると、特別なイベントが発生するという特典もあった。





↑第1部の主人公であるミカヤ。ちなみに、アイクは第3部の主人公。



↑演出、グラフィックともにパワーアップしたムービーシーン。

ファイアーエムブレム 新・暗黒竜と光の剣



発売日：2008年8月7日
ニンテンドーDS

シリーズの原点がDSで蘇る！

シリーズの原点ともいえる『暗黒竜と光の剣』に新たなエピソードを加えてリニューアルされたのが、本作『新・暗黒竜と光の剣』。冒頭に、マルスのアリティア脱出までを描いた「序章」を追加。さらに、ホルスやエッツェルなど、新キャラクターのサイドストーリーが追加されている。

リニューアルにあたり、『暗黒竜と光の剣』にはなかった「武器の3すくみ」や「支援関係」を採用。さらに、新要素として、仲間の兵種をパターンの中から自由に選べる「兵種変更」も加わった。また、何度でも再開可能な途中セーブ、「ポイントセーブシステム」が採用され、シリーズ初心者でも遊びやすい作りとなっている。

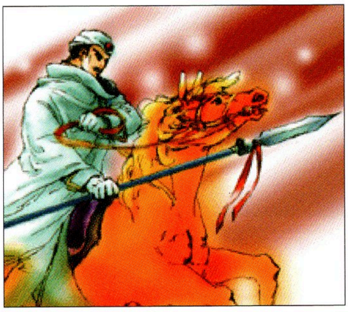


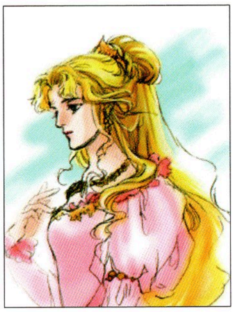
↑ポイントセーブシステムの導入により、MAP途中でのやり直しが可能に。



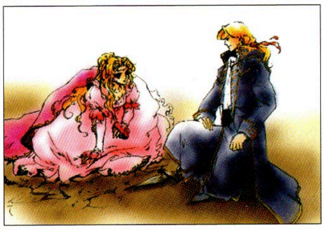
↑序章の追加や新キャラクターの登場など、ファンにも新たな発見がある。

BS ファイアーエムブレム アカネイア戦記編









発売日：1997年9月29日配信開始
スーパーファミコン（サテラビュー）

アカネイア陥落が描かれた幻の作品

『サテラビュー』用に配信されたシミュレーションRPG。全4話で構成され、『暗黒竜と光の剣』の直前のアカネイア大陸を舞台に、アカネイア王国の首都パレス陥落（かんらく）から、ニーナの脱出までを描いている。他のスーパーファミコン作品と違い、イベントシーンではキャラクターたちの声も収録されていた。ちなみに、キャラクターの声は、井上和彦氏をはじめとする声優陣が担当。

これまではファンの間で「幻の作品」とされてきた本作だが、『新・紋章の謎』に収録され、「新・アカネイア戦記」として復活を果たす。

サテラビューとは？

1995年に発売された、スーパーファミコン用の衛星放送アダプタ。このアダプタを接続することで、衛星データ放送によるゲームデータ配信を受信することができた。ゲームのデータ放送は2000年に終了している。





World Guide

アカネイア・バレンシア大陸編

収録作品

ファイアーエムブレム 暗黒竜と光の剣

FIREEMBLEM ファイアーエムブレム 紋章の謎

ファイアーエムブレム FIREEMBLEM

ファイアーエムブレム 新・暗黒竜と光の剣

BS ファイアーエムブレム アカネイア戦記編

アカネイア大陸



AKANEIA SAGA

英雄アンリが
暗黒竜メディウスを倒して100年後……
突如としてメディウスは復活した。
悪の司祭ガーネフと手を組んだメディウスは、
ドルーア帝国を再興。
それまで平和だったアカネイア大陸を制圧する。

アンリの血を引くアリティアの王子マルスは、
父母を失い、辺境の島国タリスへと逃げのびていた。
しかし、タリスにもドルーアの魔の手が迫るに至り、
マルスはわずかな兵とともに反ドルーアの戦いに
身を投じるのである……。

後に暗黒戦争と呼ばれたこの戦いは、
マルスの活躍によって終わりを告げた。
メディウスは討たれ、ドルーア帝国も崩壊。
人々は荒れ果てた祖国の再建に力を尽くし始めた。

それから1年。
シーダ姫との婚礼を間近に控えたマルスのもとに、
アカネイアの皇帝となったハーディンから
書簡が届く。
「グルニアの反乱軍を討伐せよ」。
その1通の書簡が、
後に英雄戦争と呼ばれる戦いの幕開けとなる——。



◆アカネイア暦年表

神話・伝説の時代

年	出来事
前4000年頃	・竜族、アカネイア大陸に文明を築く。
前1000年頃	・竜族に退化の兆候。竜石に力を封じることで、獣化を抑制する。
前740年頃	・地竜族により、人類が滅亡の危機にさらされる。
	・神竜王ナーガ、竜の祭壇に地竜族を封印。メディウスに竜の祭壇の守りを命じる。
前500年頃	・神竜王ナーガ、封印の盾と神剣ファルシオンを残して没する。

解放戦争

年	出来事
元年	・アドラ1世、アカネイア聖王国を建国。
493年	・メディウス率いるドルーア帝国、アカネイア聖王国を襲撃。ドルーアはアカネイア聖王国を滅ぼし、竜人支配が始まる。
	・アカネイアの王女アルテミスが、地方都市アリティアへ落ちのびていたことが判明。アルテミスを象徴に、解放軍が組織される。
	・解放軍のリーダー・カルタス伯爵、アルテミス王女よりファイアーエムブレムを託される。
498年	・アリティアのアンリ、冒険行の末に神剣ファルシオンを入手。これをもってメディウスを倒す。
	・アカネイア聖王国復興。カルタス伯爵、アルテミス王女と婚姻し、アカネイアの王となる。
499年	・カルタスの弟マーロン伯により、オレルアン建国。
500年	・アリティア建国。初代国王にはアンリが迎えられる。
501年	・オードウィンにより、グルニア建国。
503年	・マケドニア建国。初代国王にはアイオテが迎えられる。
537年	・アンリ死去。相続争いの結果、グラがアリティアから分離独立。
550年	・大賢者ガトー、カダインに魔道学院を開く。
579年	・タリス建国。七王国の成立。

暗黒戦争

年	出来事
597年	・復活したメディウス、再びドルーア帝国にマムクートを集める。
598年	・グルニア、マケドニア、ドルーアに与する。ドルーア帝国再興。
600年	・ドルーア帝国、アカネイア聖王国への侵攻開始。暗黒戦争の勃発。
602年	・ドルーア帝国軍、アカネイアの王都パレスを包囲。パレスへの救援に向かったアリティア王コーネリアス、グラ王ジオルの裏切りにあって敗死。
	・アリティアにグラ軍が侵攻。アリティアのマルス王子、タリスへ落ちのびる。
	・アカネイアの王都パレス陥落。
604年	・アカネイアの王女ニーナ、カミユの手引きにより、オレルアンへ落ちのびる。
	・ニーナ王女、オレルアンにてドルーア打倒の檄を飛ばす。マルス王子、タリスにて挙兵。
	・マルス王子、オレルアンにてニーナ王女に拝謁。ファイアーエムブレムを託される。
	・マルス率いる同盟軍、アカネイアの王都パレスを解放。
	・同盟軍がグラを制圧。マルス、父の敵であるジオルを討つ。
	・同盟軍、アリティアを解放。グルニア、マケドニアを制圧。
	・マルス、ガーネフを打倒し、神剣ファルシオンを取り戻す。
605年	・マルス、神剣ファルシオンを手にメディウスを討つ。メディウスを失い、ドルーア帝国は瓦解。暗黒戦争が終結する。

神聖帝国成立

年	出来事
606年	・オレルアンの王弟ハーディン、ニーナ王女と婚姻し、アカネイアの王となる。
	・ハーディン、アカネイアの国号を「アカネイア神聖帝国」に改め、自らを皇帝と称するようになる。

バレンシア動乱

年	出来事
606年	・ペガサス三姉妹、バレンシア大陸に渡り、ソフィア・リゲルの2王国による動乱に巻きこまれる。

英雄戦争

年	出来事
607年	・マルス、ハーディンの命によって、グルニアの反乱討伐へ出征。
	・マルス、グルニアの王子ユベロ、王女ユミナを庇護。
	・アカネイア神聖帝国軍、アリティアを制圧。
	・マルス率いる同盟軍、ラング将軍を討ち、グルニアを解放。
	・カシミア大橋にて、マルスの同盟軍とハーディンのアカネイア軍が激突。マルス、カダインへと逃れる。
	・マルス、「アンリの道」をたどる。
	・マルス、アリティアへ進軍し、アカネイア軍より祖国を奪還する。
	・マルス、グラへ進軍し制圧。
	・マルス、アドリア峠にて、オレルアンの精鋭・狼騎士団と激突。これを撃退。
608年	・マルス、帝都パレスにて、ハーディンと決戦。闇のオーブよりハーディンを解放する。
	・ハーディンの持っていた闇のオーブを得たことで、封印の盾が完成。
	・マルス率いる同盟軍、竜の祭壇にてガーネフを撃破。
	・マルス、竜の祭壇の最奥にて、暗黒竜と化したメディウスと決戦。神剣ファルシオンと、完成した封印の盾を手に、これを撃破する。
609年	・マルス、七王国の統治を委ねられる。アカネイア連合王国の成立。

暗黒竜と光の剣
紋章の謎
アカネイア戦記
新・暗黒竜と光の剣
外伝

神話・伝説の時代

太古の昔　神話の時代

アカネイア大陸に竜族が現れたのは、数千年前とも数万年前ともいわれる。竜族は高度な文明を誇っていたが、それが突如崩壊の危機を迎える。出生率が低下し、理性を失って獣化するものが現れたのだ。竜族は、自らの獣性を「竜石」に封じ、人間化することで獣化を避けようとした。こうして人間化した竜族が「マムクート」である。マムクートが各地で隠棲し始めると、大陸には人間が台頭。しかし、獣化した地竜族が暴走したことにより、人類は滅亡の危機に瀕するのだった。





神竜族と地竜族

もっとも力を持つ竜族は神竜族であるが、地竜族はそれに次ぐ力を有していた。地竜族はプライドが高く、マムクートとなることを拒否。その多くが獣化して人類の脅威となった。

解放戦争

メディウスの侵攻と英雄アンリ

神竜族の王ナーガは人間を哀れみ、地竜族との戦いを始める。多大な犠牲を払いつつ、神竜族は、地竜族を竜の祭壇の奥深くに封印する。しかし、平穏を手にした人間は、やがて力をつけて驕り、マムクートをさげすみ、虫けらのように扱うことになる。

裏切りに激怒したメディウスは、ドルーアの地にマムクートの帝国を建て、人間への侵攻を開始。人間たちの中心国家であったアカネイアを、瞬く間に滅亡させた。

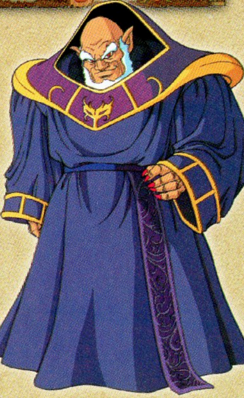
人間たちの希望は、アカネイア王家唯一の生き残りのアルテミス王女。アリティアに逃れていた彼女を象徴として解放軍を組織し、人間はドルーア帝国への抵抗を開始。指揮官のカルタス伯爵には、アルテミス王女から王家の代行者の証「炎の紋章」が託された。

メディウスが最前線に現れたことで解放軍は窮地に陥るが、そこに英雄アンリが登場。アルテミスを愛していたアンリは、過酷な旅の末に神剣「ファルシオン」を入手し、この神剣でメディウスを討ち果たす。



守護神ナーガの伝説

神竜王ナーガは、"守護神ナーガ"として伝説に。地竜族の封印を維持する「封印の盾」、竜殺しの神剣「ファルシオン」を残すと、5千年に及ぶ生涯を閉じたのだ。



地竜族唯一のマムクート

メディウスは、部族の方針に反して唯一のマムクートとなった地竜族。神竜王ナーガの命で地竜族の封印の監視をするなど、元来秩序を守る立場だったが……。

英雄アンリの伝説

過酷な旅を経て、氷竜神殿で神剣「ファルシオン」を手に入れたアンリ。この剣を手に、メディウスと対峙したアンリは、7日7晩も続いた死闘の末にメディウスを討ち果たす。



THE AKANEIA CONTINENT

七王国の成立と暗黒戦争

七王国の成立とドルーア帝国の復活

アンリにメディウスが討たれた後、大陸では新たな国が続々と誕生する。アカネイア暦498年、アルテミスと婚姻したカルタス伯爵が王となり、アカネイア聖王国を再興。以後5年の間に、オレルアン、アリティア、グルニア、マケドニアが次々と建国されるのである。さらに、537年にグラ、579年にタリスが建国され、七王国成立の運びとなった。

597年にメディウスが復活すると、かねてからアカネイアに反発を抱いていたマケドニア、グルニアがこれに連合、598年にドルーア帝国が再興される。さらに、グラも密かに内応を約束。これにより、七王国は2つの勢力に分かれて争うこととなる。



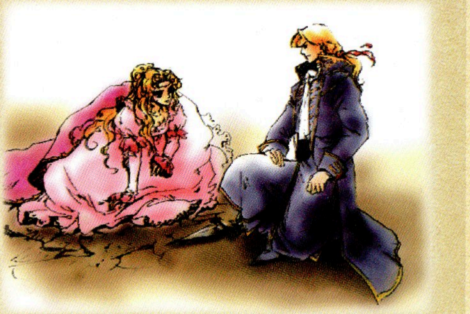


アカネイア聖王国敗亡

アカネイア暦600年、ついにドルーア帝国はアカネイア聖王国への侵攻を開始する。アカネイアは敗退を続け、ついに602年、王都であるパレスを包囲されてしまう。アリティアのコーネリアス王が救援に向かうが、途上のメニディ川にて、グルニアのカミュ将軍と対峙。同盟国であるグラ軍の突然の裏切りもあり、アリティア軍は壊滅してしまう。

まもなく首都のパレスも陥落。王族はことごとく処刑されるが、ただひとりニーナ姫だけは、カミュ将軍が庇護したことで命を救われる。

604年、カミュは、なぜかニーナをオレルアンへと逃がす。そして、カミュはその罪を問われ、前線からはずされることになるのだった。



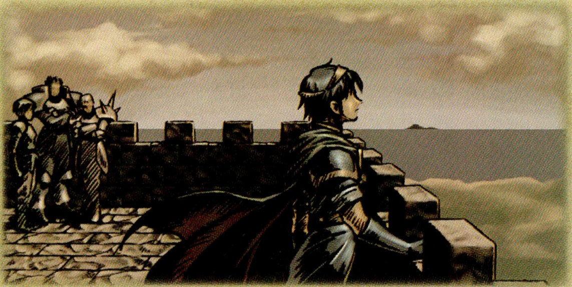
ニーナとカミュ 悲劇の出会い

ニーナとカミュは宿敵同士。しかし、カミュはニーナを守り続け、やがて2人の間には愛情が芽生える。しかし、その想いは後の戦いの遠因に……。

アリティアの滅亡とマルスの雌伏

メニディ川の戦いにおいてアリティア軍は壊滅。コーネリアス王は討ち死にし、神剣「ファルシオン」も行方不明となる。アリティア領にグラ軍が侵入した状況下、アリティアの王女エリスは、弟のマルスに逃げのびるように命じる。姉エリスと母リーザは敵軍の手に落ちるが、マルスはなんとかタリス王国へと脱出。

辺境の小国で、マルスは3年ほど雌伏の時期を過ごすことになる。



➔タリスへの脱出時、マルスは、誰も守れなかった無力さを痛感する。



マルス脱出の影に…

犠牲なくして、マルスの脱出は叶わなかった。脱出の時間をかせぐために、エリスはあえてアリティア城に残留。追っ手を引きつける囮となり、戦場に散った騎士もいた。

暗黒戦争

アカネイアの象徴・ファイアーエムブレムの下に

オレルアンに落ちのびたニーナはアカネイア解放の檄を飛ばすが、彼女を戴いたオレルアン軍は、ミネルバ率いるマケドニア軍の前に敗北してしまう。しかし、アカネイア暦605年、海賊が侵入したことをきっかけにマルスがタリス島にて決起。ガルダの海賊を討伐すると、そのままニーナとの合流を図る。

オレルアン城を奪還したマルスに、ニーナは、アカネイア王家の紋「炎の紋章」を授与し、ドルーア打倒と大陸解放を託す。これによって同盟軍の指揮官と認められたマルスは、王都パレスを奪還。そして、大陸全土を解放すべく各地へ軍を進めた。

マルスの進軍ルート(暗黒戦争)



↑東方の辺境タリス王国にて決起したマルスは、オレルアンにてニーナと合流。そこで授与された炎の紋章の下、同盟軍を率いてパレスを奪還し、さらに各地を転戦する。そして、ドルーア帝国との最終決戦に臨むのだった。



←タリスで決起したマルス率いるアリティア騎士団は、サムスーフ山脈を越えてニーナと合流。以後同盟軍の中核となり、大陸各地を転戦することになる。



←オレルアン城にて、炎の紋章を託されるマルス。ニーナを守って戦っていたオレルアン王弟ハーディンも、マルスの指揮下に入ることになった。

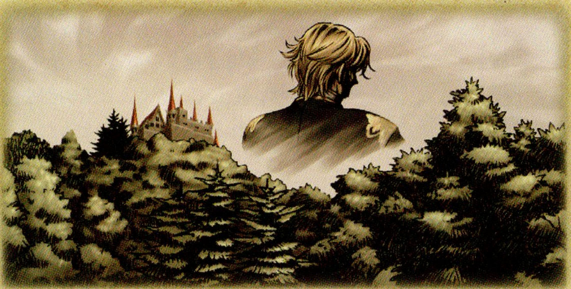
祖国解放と列強国との決戦

パレス奪還後も、マルス率いる同盟軍は着々と戦果をあげる。父の敵であるグラを制圧したマルスは、続いて祖国アリティアを解放。大陸一の精鋭騎士団を擁するグルニア、強靭な竜騎士で襲いくるマケドニアをも撃破する。だが、その激闘は悲しみの連鎖でもあった。

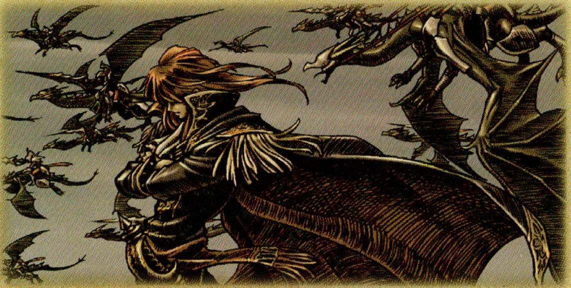
アリティア解放で、マルスは母がすでに殺されていたことを知る。グルニアとの決戦では、ニーナが最愛のカミュを喪う。そして、マケドニアのミシェイル王を討ったのは、実妹であるミネルバであった。



↑母が殺された悲しみをこらえ、マルスはアリティア解放の歓喜に沸く民に応える。



グルニア 大陸最強といわれたグルニア黒騎士団も、同盟軍にはかなわない。マルスやニーナはカミュに投降を呼びかけるが、カミュは騎士として祖国に殉じることを選んだ。



マケドニア 大陸の覇者たらんとして、ドルーアすら利用しようとしていたミシェイル。その野望に終止符を打ったのは、かつて彼を敬愛してやまなかった妹のミネルバであった。

暗黒戦争

神剣ファルシオンの奪還と地竜王メディウスとの死闘

神剣「ファルシオン」を持つ魔王ガーネフは、「マフー」という暗黒魔法に守られていた。同盟軍は、マルスが大賢者ガトーより託された光魔法「スターライト」でマフーを破り、ファルシオンを手に入れる。

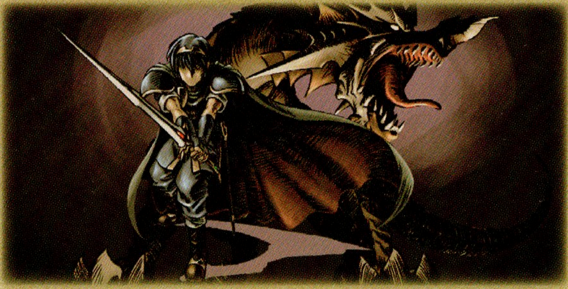
竜殺しの神剣を手に、マルスはメディウスとの最終決戦に臨む。ドルーア帝国と同盟軍との激しい戦いの中、マルスは地竜王メディウスと対峙。長きに渡る死闘の末、マルスはついにメディウスを討ち果たす。



↑ファルシオンを手に、メディウスすら従えようとしたガーネフ。だがその野望は、光と星のオーブから作られた魔法「スターライト」の前に潰え去った。



↑マルスに破れて地に倒れるメディウス。しかし、地竜王は滅びたわけでなく……。



↑竜殺しの神剣ファルシオンを奪還し、地竜王メディウスとの決戦に臨むマルス。ドルーア帝国の最奥で、アンリの伝説が再現されようとしていた。

神聖帝国成立

束の間の平穏と新たな戦乱への序曲

暗黒戦争は終息するが、戦乱の傷跡が深く刻まれていた。一躍英雄となったマルスやミネルバは祖国へと戻って復興に尽力。強力な指導者を必要とするアカネイアでは、ニーナの伴侶に復興を任せることとなる。

その候補にはマルスとハーディンがあがったが、ニーナは、マルスとタリス王女シーダが恋仲であることを配慮し、ハーディンを迎える。

アカネイア王国第24代国王となったハーディンは、強引ともいえる指導力で瞬く間に国力を回復。「神聖帝国」を興すと宣言し、その初代皇帝となる。神聖帝国は日に日に周辺国への影響力を強めるが、その支配による軋みが新たな戦火を生んだ。

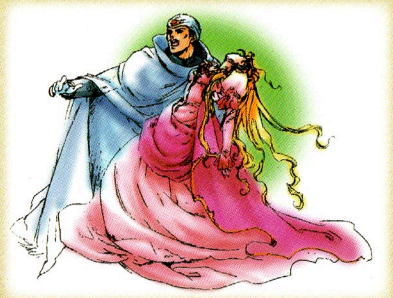


↑アカネイア暦606年、国民の祝福と期待の中、ハーディンとニーナは結婚する。

神聖帝国成立後の統治者配置



↑皇帝となったハーディンは、グラ、グルニアの支配を画策。グラはシーマ王女を配置して間接統治。ロレンスが先王の遺児を立てて治めていたグルニアでは、ロレンスを追放し、その後ラングを派遣して暴発を待った。



ニーナとハーディン

ニーナがオレルアンに落ちのびて以来、ハーディンは、彼女を守って暗黒戦争を戦いぬいた。密かにニーナを慕う彼は、その伴侶として迎えられて歓喜するが……。

英雄戦争

THE AKANEIA CONTINENT

グルニア・マケドニアの反乱と戦乱の予兆

アカネイア暦607年、アカネイア統治下のグルニアで反乱が勃発。皇帝ハーディンの要請でグルニアへ向かったマルスが目にしたものは、横暴きわまりない司令官ラングと、占領軍に虐げられたグルニアの民だった。しかも、反乱軍リーダーのロレンスは、暗黒戦争をともに戦ったマルスの盟友。ロレンスから、マルスはハーディンの変心を聞かされることになる。そのハーディンの命で、休む間もなくマケドニアの反乱鎮圧へと向かうことになるマルス。マルスの胸中には、ハーディンを信じたい思いと、アカネイアの専横への疑念が渦巻いていた。



◀ロレンスはマルスに、グルニア先王の遺児ユベロ、ユミナの保護を頼んで自爆。しかし、ユベロ、ユミナはラングに連行されてしまう。

消えたミネルバ



マケドニアでは、改革を進めるミネルバ王女に反対勢力が反旗を翻す。囚われたミネルバは、死んだはずの兄ミシェイルに連れ去られる。



オグマの逃避行

ロレンスからユベロ、ユミナの庇護を託されたオグマは、単身ラングから2人を奪還。幼い王子と王女を抱え、追っ手から逃げ続ける。

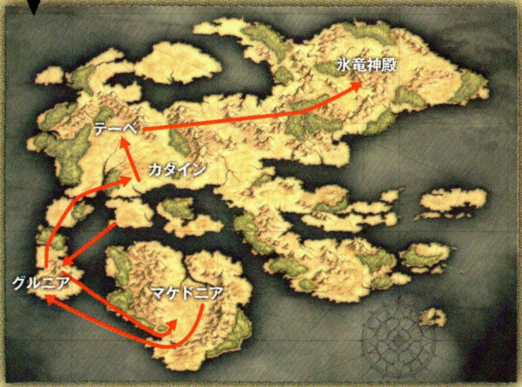
アリティア失陥

マケドニアの反乱を鎮圧したマルスにラングが命じたのは、グルニア王家のユベロ王子、ユミナ王女を捕らえること。だが、2人のことをロレンスから頼まれていたマルスは、これを拒否。逆に2人を保護しようと、オグマとの合流を図る。

しかし、これはハーディンの思惑どおりであった。マルスの行動を「アカネイアへの反逆」と断じたハーディンは、アカネイア、グラ、オレルアンの軍を率いてアリティアを急襲、これを陥落させたのだ。

報せによれば、ハーディンは闇のオーブに守られており、破るには光のオーブが必要という。光のオーブを得るために、大賢者ガトーのいる氷竜神殿へ向かうマルス。不毛な大砂漠、灼熱の火山、峻険な山地を越えた先に広がる氷原――氷竜神殿へと至るその過酷な道は、かつてアンリがファルシオンを求めてたどったことから「アンリの道」と呼ばれていた。

マルスの進軍ルート(英雄戦争①)





⬆アリティアを出発したマルスはグルニア、マケドニアと転戦。アカネイア軍との衝突を避けてカダインに入ると、そこから氷竜神殿を目指す。

◀あまりに早すぎるアリティア侵攻。前々から進軍準備がされていたことは明白だ。

炎の紋章に隠された秘密

氷竜神殿にたどり着いたマルスは、「炎の紋章」の秘密をガトーから聞かされる。炎の紋章こそ、地竜族の封印維持の要となる「封印の盾」だったのだ。しかし、かつてラマーン神殿から盗まれたこの盾は、聖玉をくりぬかれて力を失っている。地竜族の封印を守るためには、失われた聖玉を5つすべて集め、紋章の盾を完成させる必要があった。



◀紋章の盾の完成を願い、聖玉でもある光と星のオーブ2つをマルスに託すガトー。ハーディンを守る闇のオーブも、聖玉のひとつらしい。

英雄戦争

アリティア・グラの解放

大賢者ガトーの大ワープでアリティアへと跳んだマルスと同盟軍は、まずアカネイア占領下にあるアリティアを解放。続いてグラからアカネイア軍を駆逐すると、グラのシーマ王女は、国と民の将来をマルスに託し、自身も同盟軍へ加わる。その後、同盟軍はアカネイア軍との正面衝突を避けるべく、中央山脈の山中を進軍。アドリア峠にてオレルアン軍の奇襲を受けるが、オレルアン王の説得により攻撃は中断。オレルアン軍は撤退した。

そして、アカネイア暦608年、ついに同盟軍は王都パレスに到着。マルスとハーディンという暗黒戦争における英雄同士の戦いに、終幕が訪れようとしていた。

マルスの進軍ルート(英雄戦争②)



↑マルス率いる同盟軍は、アリティア、グラを解放したのち、アカネイアへ。その後、地竜族封印のために竜の祭壇へ向かうことになる。

アカネイア皇帝ハーディンとの決戦

闇のオーブには、野心や欲望を増幅させる効果がある。ハーディンはニーナの心が自分にないと知って悩み、それゆえ闇のオーブに心をとらわれ、非道な"暗黒皇帝"と化したのだった。もはや、ハーディンを討つしか彼を救済する手段はない——。

そして、ハーディンは敗れ、マルスの手には闇のオーブが残される。こうして最後の聖玉がそろい、「封印の盾」が完成する。





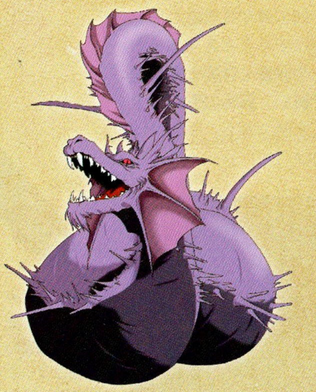
紋章の盾の完成

闇のオーブを入手したことで、光、星、大地、命、闇という5つの聖玉が、およそ600年ぶりにすべてそろった。これによって「封印の盾」が完成する。

ガーネフの陰謀と復活の暗黒竜

英雄戦争と並行して、高位のシスターが行方不明になるという事件が続発する。レナ、マリア、エリス、ニーナの4名はガーネフにさらわれ、メディウス復活のための生贄とされていたのだ。竜の祭壇の奥で、マルスたちはシスターたちと再会する。

生贄となることで心が壊れた彼女らは、メディウスを守るかのようにふるまい、マルスたちの前に立ちふさがる。しかし、彼女たちを愛する者の言葉がその心を蘇らせ、メディウスへの道が開かれる。再びファルシオンを手にしたマルスによって、暗黒竜は討たれるのであった。





ガーネフの狙い

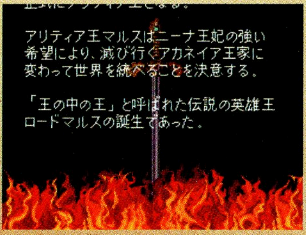
ハーディンに闇のオーブを渡し、暗黒竜にシスターを捧げるガーネフ。死から蘇った"魔王"は、世界の破滅をもくろんでいた。

暗黒竜と化したメディウス

メディウスは、変体することにり、地竜よりも強大な暗黒竜と化していた。恐ろしき竜には、封印の盾の効果は及ばない。

アカネイア連合王国成立へ

たびかさなる戦争の傷跡は深く、七王国は一体となっての復興を求めた。そして、その盟主にマルスを望んだのである。アカネイア暦609年、正式に第5代アリティア王となり、シーダを妻に迎えたマルスは、アカネイア連合王国の盟主にも就任。このアカネイア連合王国の成立により、ようやく大陸に平和な時代が訪れることとなった。



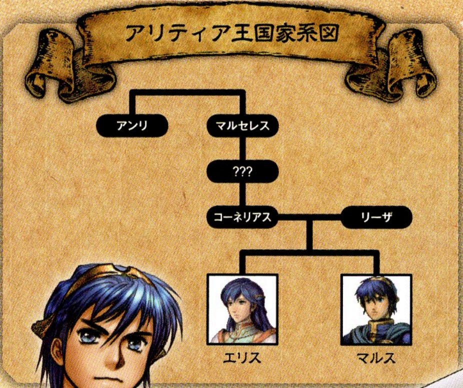
←後世、マルスは"王の中の王"、"英雄王ロードマルス"などと呼ばれることになる。

アリティア王国

英雄の血が息づく国

もともとは辺境の一都市。伝統的にアカネイア王国への忠誠が厚く、解放戦争では最後までアルテミス王女を守りきった。解放戦争終結後、アンリを初代国王に迎えて建国。アンリが生涯妻帯しなかったため、王位と神剣ファルシオンは、弟マルセレスに受け継がれた。アンリを規範とする王室は、以後も英雄の気風を継承し、やがて希代の英雄王マルスを生むこととなる。

アンリ 神剣ファルシオンを手にメディウスを討った解放戦争最大の英雄。アルテミス王女を愛していたが結ばれることは叶わず、生涯独身を貫いた。





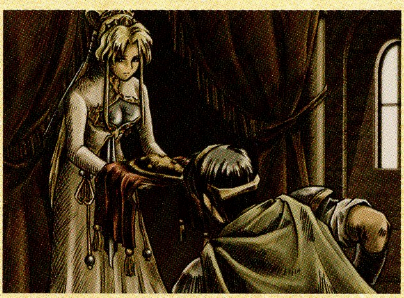
【新暗黒】

マルス

メディウスを討った光の王子

マルセレスの曾孫にあたるアリティアの王子。暗黒戦争でアリティアが攻められると、辺境の島国タリスへと落ちのびる。以後、祖国奪還のために雌伏を続け、ガルダの海賊のタリス侵入をきっかけに決起。アカネイア解放の檄を飛ばしていたニーナ王女の下に馳せ参じ、世界を救う者に与えられる覇者の証「炎の紋章」を託される。同盟軍の指揮官となると、次々とドルーア帝国諸国を撃破。ついには、ガーネフから奪還した神剣「ファルシオン」を手に、メディウスを討ち果たした。

マルスのもっとも秀でた資質は、「人を動かす力」であったという。立場や国の異なる英雄たちも、彼の下では団結。敵を味方にすることさえあった。そうして、マルスは、数々の苦境を仲間と乗り越えるのである。常に単独で戦い、孤独の影がつきまとうアンリを"個の英雄"と呼ぶなら、マルスは"群の英雄"であるといえる。





⬅⬇ニーナから炎の紋章を託されて同盟軍の指揮官となったマルスは、激戦の末みごとにメディウスを討ち果たした。



【暗黒竜】

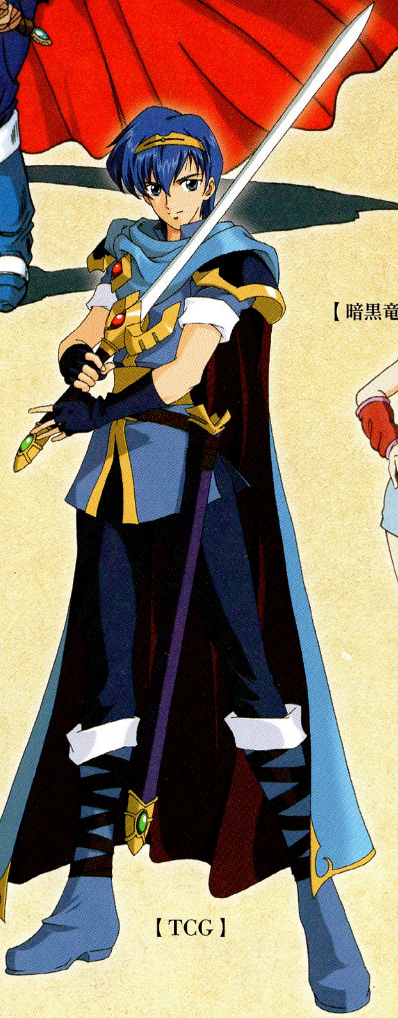


【暗黒竜】

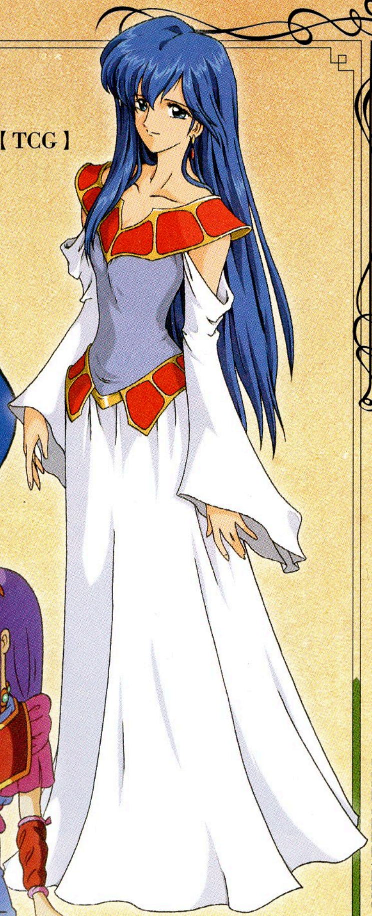
THE AKANEIA CONTINENT



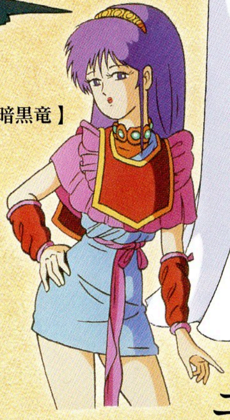
【紋章】



【TCG】



【TCG】



【暗黒竜】

大陸を救った英雄として

暗黒戦争終結後、マルスはシーダを婚約者として迎え、祖国アリティアの復興にあたる。しかし、皇帝となったハーディンと対立し、英雄戦争が勃発することとなる。英雄戦争において、マルスはハーディンを闇のオーブから救済し、さらに復活したメディウスを討つことで再び大陸の救世主となる。

そして、相次ぐ戦乱に疲弊した国々の求めに応じ、戦後アカネイア連合王国の盟主となるのだった。



↑英雄戦争終結後、タリスのシーダ王女と結婚。2人で大陸の復興に尽力する。

エリス

自己犠牲も厭わない強き姉

アリティアの王女でマルスの姉。暗黒戦争では、マルスの逃げる時間をかせぐために、落城寸前のアリティア城に残留。英雄戦争でアカネイア軍の奇襲を受けた際も、自らを顧みずにシーダを逃がすことを優先する。誰かを助けるために自分を犠牲にする強さを持っていたが、その性格が災いし、ガーネフに2度も捕らわれることとなってしまう。

弟マルスの親友であるマリクとは、幼いころからのつきあい。静かに愛を育んでいたようで、英雄戦争終結後に結ばれる。

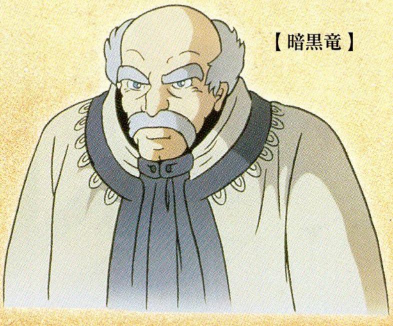


↑マリクとのつきあいは古く、体の弱かった幼き日の彼を、エリスが看病したこともあった。

モロドフ

マリクを教え導く相談役

アリティア王国の貴族（伯爵）。暗黒戦争では、エリスの命に従い、マルスをタリスへ落ちのびさせた。以後は、おもに政策面でマルスを支え、相談役として若き主君を導く。暗黒戦争終結後に病となると、モロドフは、後事をジェイガンに託して歴史の表舞台から消えるのだった。



【暗黒竜】

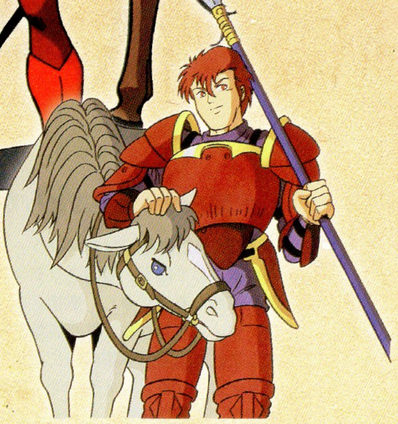
カイン

死地より還りし赤き騎士

マルスとともにタリスへと落ちのび、暗黒戦争と英雄戦争をともに戦いぬいたアリティアの騎士。メニディ川の戦いで壊滅したアリティア軍の数少ない生き残りであるほか、英雄戦争時にアリティアが失陥した際も、敵の包囲を突破するなど、数々の死線からも常に生還を果たした。英雄戦争の終結後は、アリティア王国騎士団の隊長に就任。ジェイガンの没後は、マルスがもっとも信頼する部下となる。かけだしのころは、"猛牛"と呼ばれていた。



【紋章】



【暗黒竜】



⬆マルスにコーネリアス王の最期の言葉を伝えたのもカイン。主君を救えなかった無力さを悔む。



【紋章】

アベル

緑の騎士の愛は誰のもとへ？

カインと並び、マルスの下で暗黒戦争を戦った騎士。"黒豹"の異名もある。暗黒戦争後は、軍を退いて店を開く。以後もマルスへの忠誠は揺るがないが、英雄戦争では、恋人のエストを人質にとられ、やむなくアリティア軍に槍を向けたこともある。

英雄戦争終結後、エストはアベルのもとを去るが、それは、エストが、姉パオラの想いに気づいたからかもしれない。アベルは、パオラからも想いを寄せられていたのだ。アベルはエストを追うのだが……。

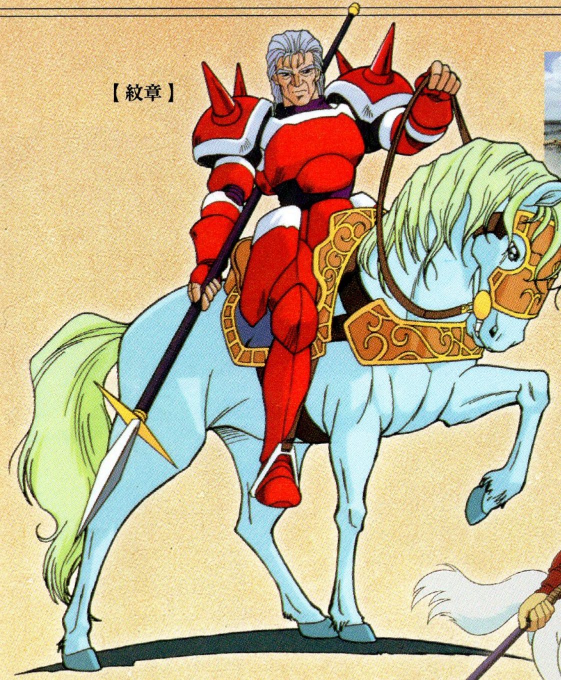


【暗黒竜】



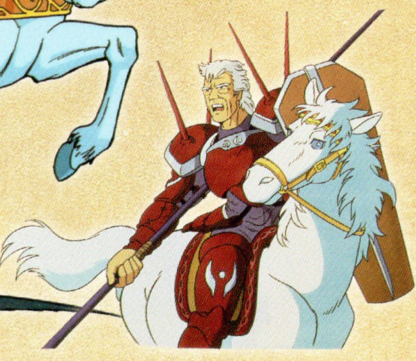
⬆エストを人質にとられ、屈服を強いられたアベルは、愛と忠誠の間で思い悩むことに……。

【紋章】





【暗黒竜】



ジェイガン

若き君主を支える宿将

マルスの守役。アリティア落城の際には、マルスを守りつつ無事にタリスまで落ちのびさせた。暗黒戦争では騎士団の隊長として自ら戦場に立つが、終戦後は現役を引退。英雄戦争には、軍師として従軍することとなる。以後もマルスのよき相談役となり、生涯を通じて若い主君を支え続けた。



↑現役を退いても貫禄は衰えず。マルスに無礼を働いた敵将を一喝で退けることも。

ゴードン

弓騎士として追い求める頂

アリティア脱出時からマルスに従う弓兵。暗黒戦争終結後にジョルジュに弟子入りし、弓の腕を磨く。英雄戦争のころにはアリティア一の弓兵といわれたが、終戦後、ゴードンはなぜかアリティアを去る。そして、ジョルジュの背を追うかのように、アカネイア自由騎士団に参加するのだった。

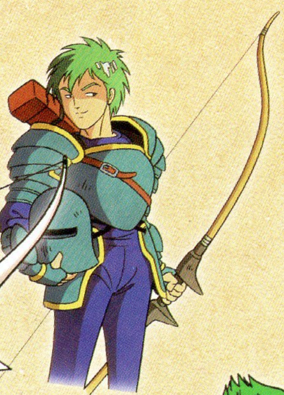


↑英雄戦争でジョルジュと対峙したゴードンは、同盟軍に加わるよう師を説得する。

【紋章】



【暗黒竜】

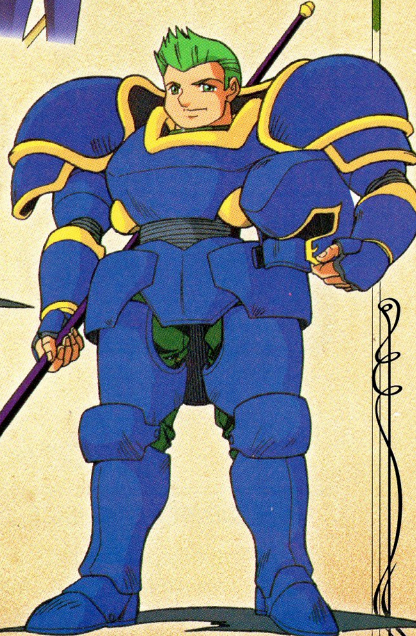


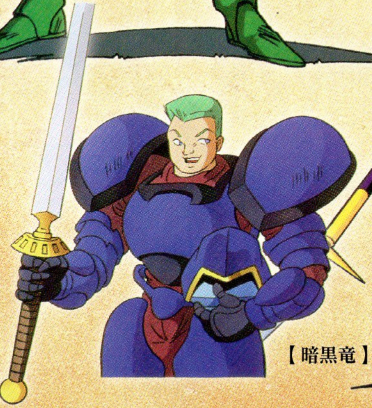
ドーガ

マルスを守る厚き盾

アリティアの重騎士。マルスがアリティアから脱出する際、タリスへ落ちのびるための船を手配した。以後、暗黒戦争と英雄戦争を戦いぬき、マルスの盾となり続ける。マルスの信任も厚かったようで、マルスがアカネイアの統一王となると、ドーガはグルニアの守備を任される。

【紋章】





【暗黒竜】

マリク

祖国、友、そして愛しき人のために

アリティア貴族で、マルスやエリスとは幼なじみ。マルスの力となり、エリスを守るためにカダインへ留学して魔道士を志す。マルスの挙兵を知ると、志願して同盟軍に従軍。また、エリスとは相思相愛の仲であり、英雄戦争において互いの感情を知った2人は、戦争終結後に結ばれることとなる。カダイン留学中は、ウェンデルに師事。上位魔法「エクスカリバー」を与えられたり、カダインの統治を託されたりと、ウェンデルの信任は厚かったが、これがエルレーンの嫉妬をかう結果となる。

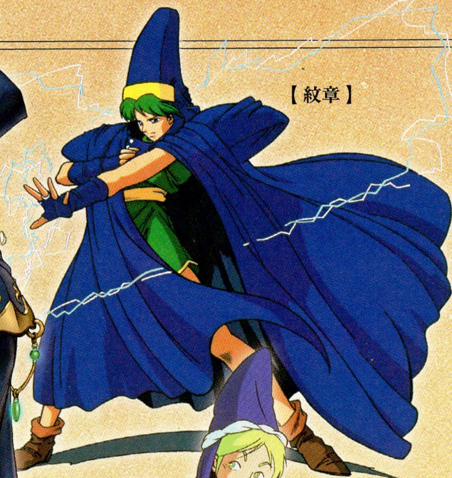


メディウスに捧げられて心の壊れたエリスに、これまで秘めてきた感情をぶつけるマリク。その深い想いがエリスを救う。

【新暗黒】



【紋章】





【暗黒竜】

【新暗黒】



フレイ

もうひとりのアリティア宮廷騎士

暗黒戦争の初期、コーネリアス王がアカネイアへの援軍として出陣する際に、アリティア城の守備にあたっていた騎士。ジェイガンの指揮の下、アベル、カインといった同僚と協力しつつ、マルスのタリス亡命に尽力する。後の戦いには登場していないので、このマルスの脱出行において脱落したと思われる。

if……

フレイは『新・暗黒竜と光の剣』のノーマルモードにのみ登場。ノーマルモードの序章ではマルスのアリティア脱出が描かれるが、1章へ進むにはキャラクターを1人犠牲にする必要がある。そして、1章から始まるハードモードにはフレイの姿はない……。犠牲となったのは、フレイであったのだろう。



【新暗黒】



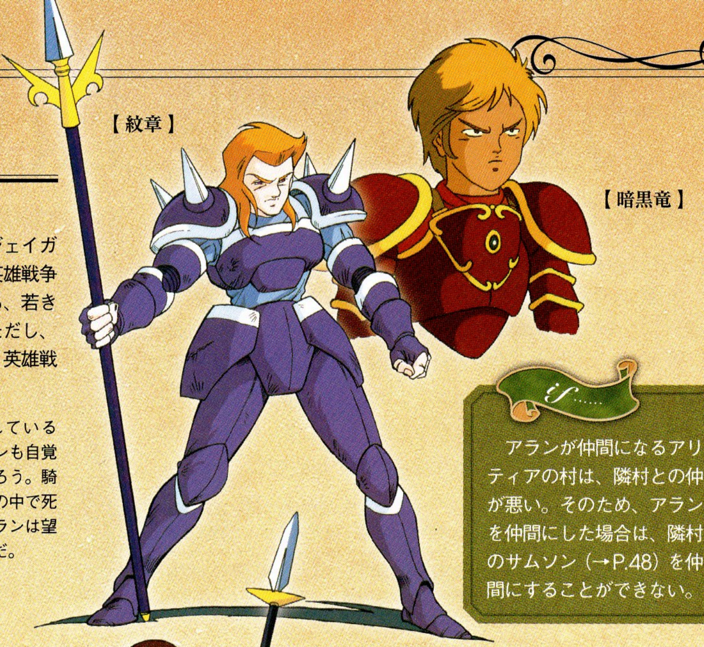
ノルン

祖国の危機に弓を手にした少女

アリティアの窮状を知り、志願兵となった少女。ドーガとともに、マルスの指揮下に入る。暗黒戦争終結後は村に戻り、ひとりの女性として幸せに過ごしたという。

if……

ノルンは『新・暗黒竜と光の剣』のノーマルモード序章で、自軍の犠牲が2名以上いる場合のみ登場。ドーガやゴードンと互いに支援関係にあり、ロマンスが生まれていたかもしれない。



アラン

聖騎士を襲った悲劇

アリティア出身の聖騎士。暗黒戦争終結後、ジェイガンに請われてアリティア騎士団の隊長となる。英雄戦争勃発のきっかけとなったグルニア遠征においても、若きアリティア騎士たちの束ね役として従軍する。ただし、そのころから体調がおもわしくなかったようで、英雄戦争を戦いぬいた後に、病に倒れて没してしまう。



病に冒されていることを、アランも自覚していたのだろう。騎士として戦いの中で死ぬことを、アランは望んでいたようだ。

if……

アランが仲間になるアリティアの村は、隣村との仲が悪い。そのため、アランを仲間にした場合は、隣村のサムソン（→P.48）を仲間にすることができない。



ロディ

次代を担う気鋭の宮廷騎士

暗黒戦争終結後にアリティア軍に加入。当初は未熟だったが、英雄戦争を戦いぬくことで成長し、後に大陸有数の聖騎士となる。セシルとは恋仲だったという。

ライアン

兄ゴードンの背を追って

ゴードンの実弟。兄に憧れてアリティア騎士団に入る。英雄戦争後に兄はアカネイアへと去るが、ライアンはアリティアに残り、テンプルナイツに加わった。

セシル

若きアリティア騎士団の紅一点

アリティアでは珍しい女性騎士。英雄戦争から従軍を始め、生涯アリティア王家に忠誠を誓ったという。戦災者の世話をするなど、慈悲深い女性だったようだ。

ルーク

軽快なる遊び人騎士

もとは気ままな遊び人。ロディとは、騎士としても、セシルに想いを寄せる男としてもライバル関係。英雄戦争終結後に騎士団から退き、遊び人に戻ったという。

アカネイア聖王国

炎の紋章に秘められた歴史

大陸最古の王国にして、七王国の盟主。世界を救う主体であることを自認し、王家にかわって世界を救う者に炎の紋章「ファイアーエムブレム」を託す。しかし、炎の紋章には、なぜか悲劇がつきまとう。解放戦争の折、アルテミスは炎の紋章をカルタス伯爵に託し、後に彼と結婚するが、彼女が本当に愛していたのはアンリであった。暗黒戦争期のニーナも、愛するカミュを失う。炎の紋章で王家が蘇るとき、代償として最愛の者を失う——人は、それをアルテミスの宿命と呼んだ。

アルテミス	解放戦争期のアカネイア王女。解放戦争後、貴族の要求に従いカルタス伯爵と結婚。一児をもうけた後に死去。
カルタス伯爵	アカネイア貴族。炎の紋章を託され、解放軍の指揮官となる。戦後アルテミスと婚姻し、アカネイア王となる。

"盗賊"アドラの大陸制覇

ラーマン神殿から封印の盾と三種の神器を奪った盗賊アドラは、封印の盾から聖玉をくりぬいて売却。その金で兵を雇い、自らは三種の神器を手にして大陸制覇に乗り出す。そして、10年後、アドラが建てた国こそがアカネイア。彼は、自分に幸運をもたらした封印の盾を、王家の紋章「ファイアーエムブレム」としたのだった。

三種の神器



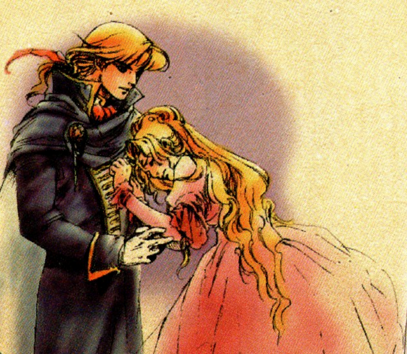
THE AKANEIA CONTINENT

ニーナ

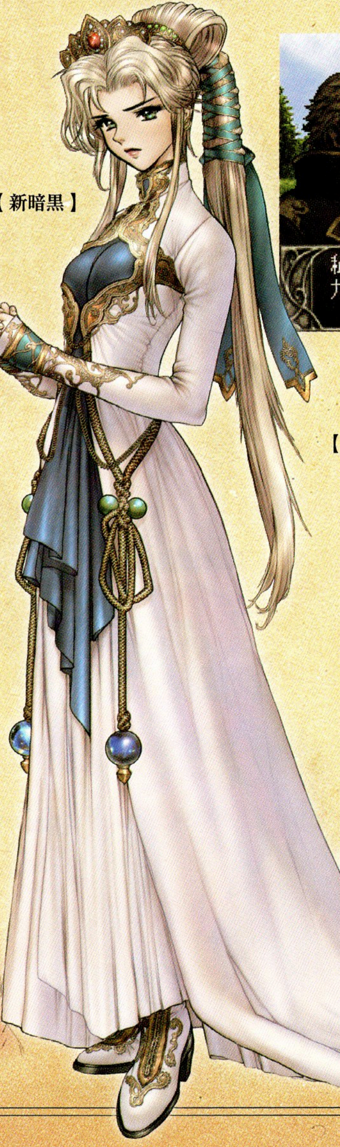
アルテミスの宿命に翻弄されし王女

アカネイア王女で、王家唯一の生き残り。暗黒戦争の王都パレス陥落時に捕虜となり、グルニアのカミュに保護された。カミュは父の敵であったが、身を挺して自分を守った彼を、やがてニーナは愛するようになる。その後、ドルーア帝国へ移送されそうになるが、カミュの手引きで脱出。オレルアンのハーディンを頼り、そこにマルスが馳せ参じると、彼に覇者の証である炎の紋章「ファイアーエムブレム」を託した。

しかし、これにより、ニーナは「アルテミスの宿命」にとらわれてしまったのかもしれない。暗黒戦争において、ニーナは愛するカミュを失ってしまう。その後、ニーナは、祖国復興のためにハーディンを夫として迎えるが、カミュへの想いを捨てきれず。それが英雄戦争勃発の遠因となってしまう。英雄戦争終結後、ニーナはマルスに後事を託すと姿を消すのだった。



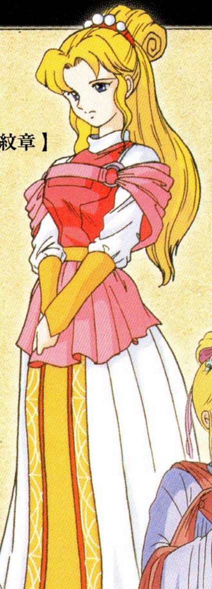
【新暗黒】



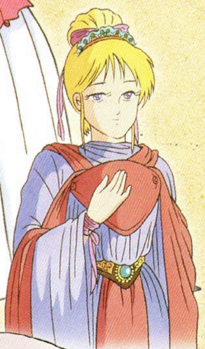


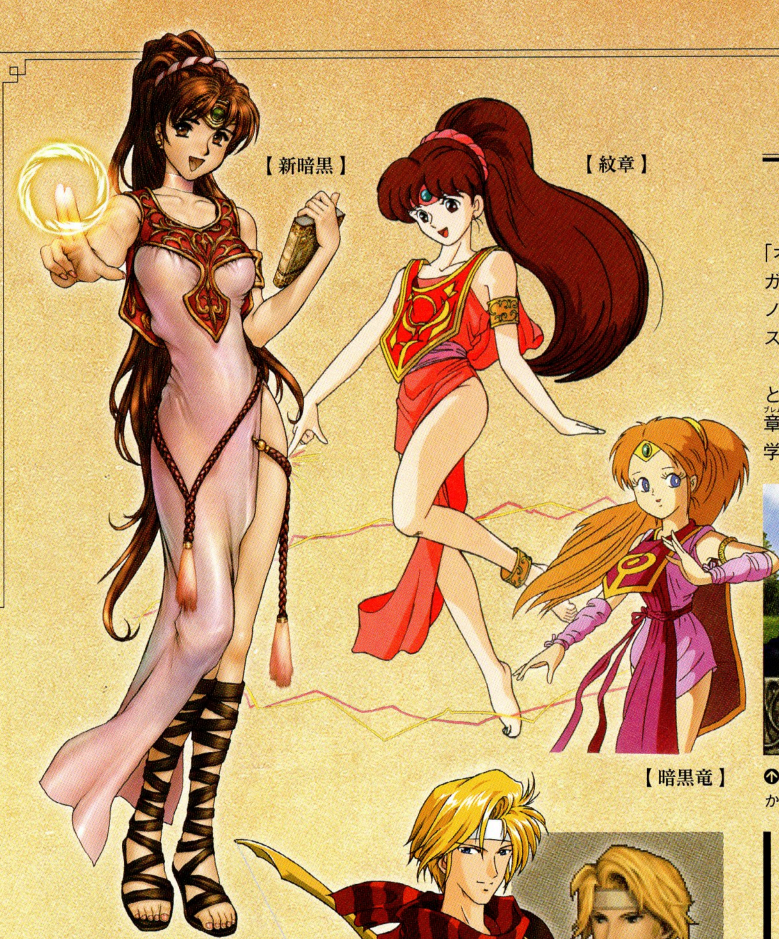
↑カミュとマルスの激突を止められず、ニーナは最愛の人を失う。彼女も、アルテミスの宿命から逃れることはできなかった。

【紋章】



【暗黒竜】





【新暗黒】 【紋章】 【暗黒竜】

リンダ

ミロア大司祭の忘れ形見

大司祭ミロアの娘。父の死後、上級魔法の「オーラ」を受け継ぐ。暗黒戦争期、父の敵のガーネフから逃れようと男装して身を隠すが、ノルダの奴隷商に捕らえられる。そこをマルスに救出され、同盟軍に加わった。

暗黒戦争終結後は、アカネイアの宮廷女官となる。英雄戦争では、ニーナの命で炎の紋章をマルスに届ける。戦争後はパレスの魔道学院で働き、そこで好きな人ができたという。



↑リンダが好きな相手は不明。マリクとは仲がよかったが、マリクにはエリスがいるし……。

ミロア

アカネイアを守護していた大司祭。大賢者ガトーの弟子で、オーラの魔道書とカダインの統治を委ねられた。それを兄弟弟子のガーネフに妬まれ、暗黒戦争で殺されることになる。



【TCG】 【新暗黒】

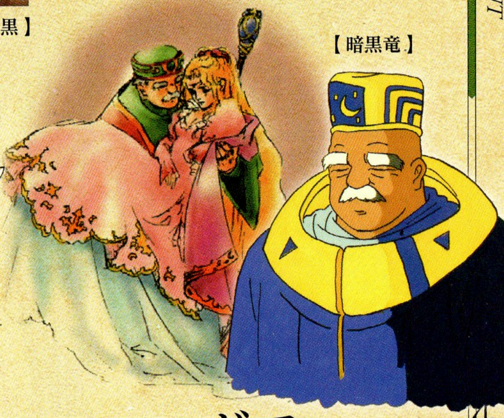
ジョルジュ

ニーナに忠誠を誓う大陸一の弓騎士

弓にかけては大陸一といわれるアカネイア騎士。暗黒戦争のパレス陥落の折にドルーア軍の捕虜となるも、隙をみて脱出。ニーナ王女のいるマルスの軍に加わる。暗黒戦争後は弓騎士団の隊長に就任。英雄戦争ではハーディンよりニーナの意思を尊重し、マルスとともに戦う。英雄戦争終結後にアカネイア自由騎士団を結成し、ニーナの去ったアカネイアを守り続けた。



↑アストリアは、ともにニーナへの忠誠厚い僚友。後に自由騎士団でも協力しあう。

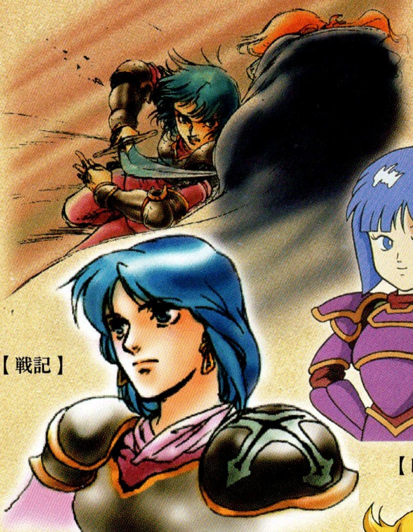


【暗黒竜】

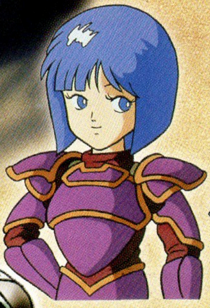
ボア

国とニーナのはざまで……

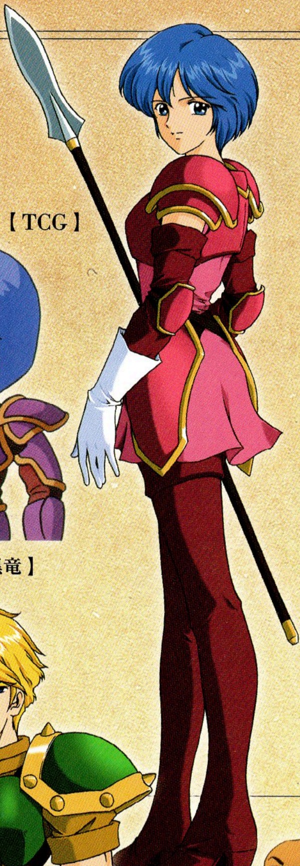
アカネイア司祭。暗黒戦争終結後、ニーナに、アカネイア復興のためにマルスかハーディンと婚姻するよう要求。これが英雄戦争勃発のきっかけを作ってしまったことを後悔する。囚われのニーナを救おうとするが、ハーディンに害されてそのまま命を落とす。



【戦記】



【暗黒竜】



【TCG】

ミディア

祖国に身を捧げた女聖騎士

アカネイア最高司令オーエン伯爵の娘であり、勇敢な女聖騎士。パレス陥落の折、父がカミュに殺され、自らも囚われの身となる。パレスが解放された後は、同盟軍の一員として転戦。暗黒戦争終結後、ニーナに請われてアカネイア騎士団の隊長となる。英雄戦争では、ハーディン皇帝の横暴を見かねてパレスで反乱を起こすが、鎮圧されてしまう。



↑アストリアとは、誰もが認める恋人同士。英雄戦争終結後に結ばれることとなる。



【暗黒竜】



【TCG】

アストリア

誇り高きアカネイアの勇者

アカネイアの傭兵隊を束ねる勇者。暗黒戦争では恋人のミディアを人質にとられ、やむなくグルニアに従ったこともある。アカネイアという国への忠誠は厚く、英雄戦争では、ハーディンのやり方に疑問を抱きつつも、祖国のためにマルスに剣を向ける。英雄戦争終結後はミディアと結婚し、夫婦でアカネイア自由騎士団に加わった。

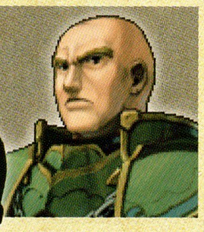


←英雄戦争では、アカネイアの三種の神器である、メリクルソードを下賜されている。ニーナからの信頼も厚かったようだ。

捕囚となるまで抵抗し続けた騎士



【暗黒竜】



【新暗黒】

トムス

暗黒戦争期、パレス陥落まで抵抗し続けた騎士のひとり。暗黒戦争終結後に一時は将軍となるが、ハーディンと対立して軍を退く。



【新暗黒】

ミシェラン

アカネイアの重騎士でトムスの相棒。パレスで最後まで抵抗し続けた。暗黒戦争終結後、トムスが軍を退くと自らも軍を辞した。



【新暗黒】

トーマス

暗黒戦争時、パレスで戦った弓兵。トムス、ミシェラン、ミディア、ボアとともに囚われの身となり、暗黒戦争終結後に姿を消す。

【新暗黒】



◀ホルス

裏切り者の汚名を受けて

アカネイアの領主。暗黒戦争では、領民たちを守るために裏切り者の汚名をあまんじて受け、ドルーア帝国に屈した。領内のグルニア勢力を同盟軍に駆逐されると、ホルスは直ちに降伏。死んで詫びようとするが、ニーナはそれを許さず、暗黒戦争を戦いぬくことで罪を償うこととなる。



↑安易に死ぬより、生きて汚名をそそぐべき。ニーナの説得にホルスは応じた。



【TCG】

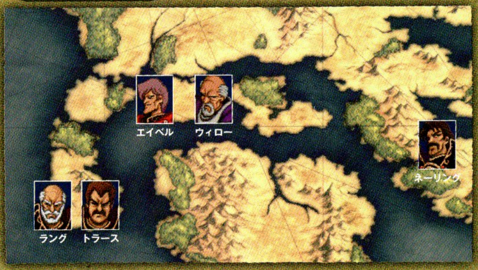
◀ラング

戦争の火種となった強欲将軍

アカネイアの貴族。暗黒戦争では、ドルーア帝国と通じて私腹を肥やす。ハーディン皇帝の即位後はグルニアで民を苦しめ、反乱に対しては弾圧して占領軍司令官となる。この悪辣なラングにマルスが反発したことが、英雄戦争勃発の原因となった。後に、義憤に駆られたマルスに討たれる。

アカネイア神聖帝国の将軍たち

将軍配置図



ラングとトラースはグルニアを、エイベルとウィローはアリティアをそれぞれ占領。ネーリングは首都パレスの守備にあたった。



【紋章】

トラース

グルニアに派遣されたアカネイアの将軍。グルニア占領軍の副司令官で、ラングの居城である「悪の巣」オルベルン城を守備する。兵科がシューターという将軍は、アカネイアではきわめて珍しい。



【紋章】

エイベル

アリティア占領軍として派遣された、アカネイア神聖帝国の将軍。アリティア城外の守備にあたる。エストを人質にとることで、アベルとアリティア軍を戦わせるという卑劣な策をとった。



【紋章】

ウィロー

アリティア占領軍の司令官を務めたアカネイアの将軍。アリティア城内の守備にあたる。マルスの姉のエリスを捕らえ、ガーネフに引き渡したのは、おそらくこのウィローと思われる。



【紋章】

ネーリング

アカネイアの首都である、パレスの守護を任された将軍。城外の守備を任されるだけあって、皇帝ハーディンへの忠誠は厚かったようで、その散り際には「皇帝陛下万歳」と叫んだ。

オレルアン王国

アカネイアへの忠誠厚い草原の王国

もともとは「草原の民」と呼ばれる剽悍な騎馬民族の住む地域だったが、アカネイア暦499年、アカネイア王となったカルタスが軍を進めて平定。カルタスの弟のマローン伯を初代国王として、オレルアン王国が建国された。王同士が兄弟だったこともあり、アカネイア聖王国とは建国当初から緊密な関係を維持。暗黒戦争においても、アカネイアから逃れてきたニーナ王女を庇護している。以前は、アカネイアから来た貴族層が草原の民を奴隷のように扱ったが、オレルアン王弟ハーディンが、こうした境遇から草原の民を解放。草原の民はハーディンに感謝し、熱狂的な忠誠を捧げた。





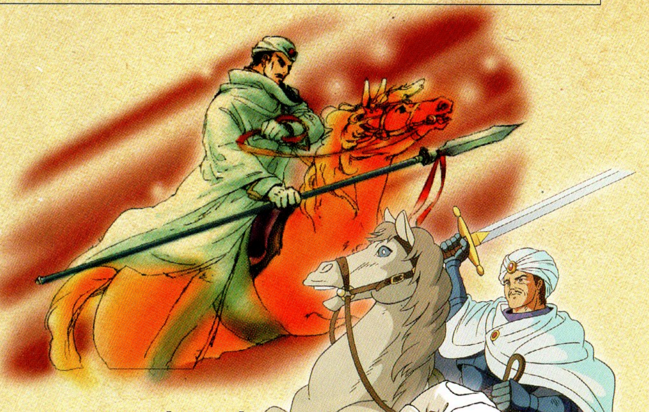
オレルアン王 【新暗黒】

ハーディンの兄。体が弱く子もないので、弟を頼みとして軍の権限を委ねる。英雄戦争においてはアカネイアに協力していたが、後に中立に転じた。

ハーディン

"草原の狼"と呼ばれし英雄

オレルアンの王弟。草原の民を奴隷の立場から解放したことから、"草原の狼"と呼んで敬われた。暗黒戦争ではニーナを庇護。不屈の騎士であり、マケドニアの侵攻によってオレルアンの国土の大半を奪われても、抵抗を続けた。マルスがオレルアンに参じると、指揮権の分裂を恐れて自らマルスの指揮下に。その後、マルスを支え続け、暗黒戦争を戦いぬく。暗黒戦争終結後にニーナの伴侶に迎えられ、第24代アカネイア王となる。ニーナを深く愛する彼は、おおいに喜んだという。



【暗黒竜】



◀マルスの将としての器に、いち早く気づくハーディン。自身がマルスの下につくことで、同盟軍の分裂を回避する。

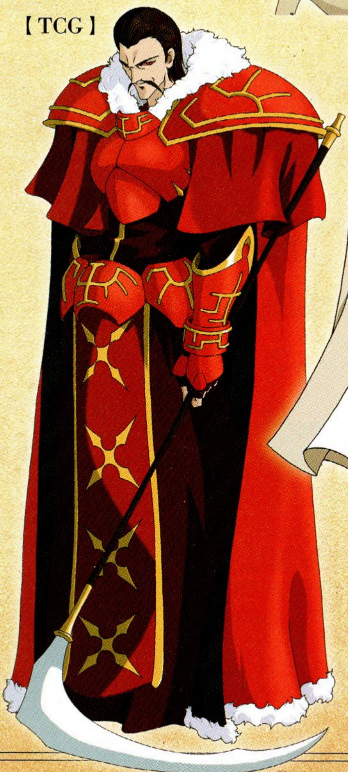
"暗黒皇帝"が抱えた苦悩と心の闇

アカネイア王として大陸再建に邁進するハーディンだったが、まもなくニーナの心が自分にないことに気づいて深く苦しむようになる。その心の隙につけこんだのがガーネフ。ガーネフから闇のオーブを見せられたハーディンは、その心をオーブに支配されて残虐な野心家へと変貌。アカネイアを"神聖帝国"とすると自ら皇帝となり、周辺諸国への支配を強めていく。

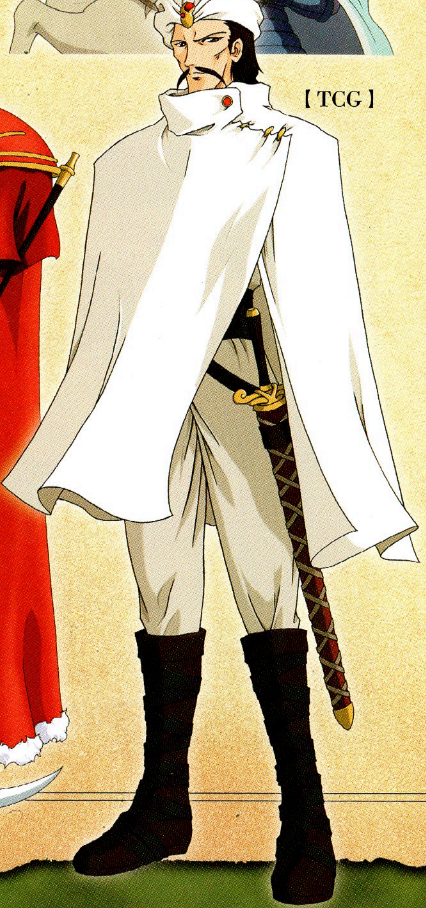
心ある将はハーディンの下を去り、あるいは追放された。逆らった者を次々と処刑するハーディンは、いつしか"暗黒皇帝"と呼ばれるようになる。

闇のオーブに囚われたハーディンは、死によってようやく解放される。自分を止めてくれたマルスに感謝しつつ、死に臨むハーディン。その最期にハーディンが遺したものは、ニーナへの愛の言葉だったという。

【TCG】



【TCG】

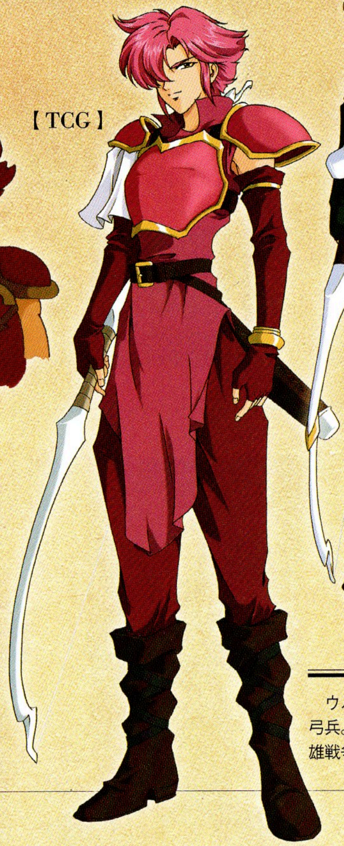


ハーディンに忠誠を捧げた“狼”たち

【暗黒竜】



【TCG】



【TCG】



【TCG】



ウルフ

ハーディンへの忠誠厚い草原の民の騎馬弓兵。暗黒戦争ではハーディンとともに同盟軍に加わる。暗黒戦争終結後、オレルアンの精鋭部隊、狼騎士団の団長となる。ハーディンを信じて疑わず、英雄戦争ではマルスに奇襲を仕掛けた。

ザガロ

ウルフと同じオレルアンの騎馬弓兵。狼騎士団の副長として、英雄戦争ではマルスと敵対する。

ビラク

オレルアンの騎士。草原の民を解放したハーディンに心酔しており、常にその命に従う。

ロシェ

マルスを信じ続けたオレルアンの騎士

オレルアンの騎士。ウルフ、ザガロ、ビラクとは血よりも濃い絆で結ばれている。暗黒戦争終結後に一時軍を離れるが、後に聖騎士として復帰。その間、アリティアに滞在することもあった。ハーディンを尊敬するとともにマルスも信じており、英雄戦争では両軍の対立に悩むことになる。



↑アドリア峠の戦いでは、仲間とマルスの衝突に思い悩む。

【暗黒竜】



【TCG】



アドリア峠の戦い

アカネイア暦608年、マルス率いる同盟軍は、アカネイア軍との衝突を避けるべく中央山脈の山中を進み、アカネイアの王都パレスを目指した。だが、その山中のアドリア峠で、パレスへの援軍として南下していたオレルアンの狼騎士団と遭遇。同盟軍は、隊列の伸びきった横腹に奇襲を受けてしまう。暗黒戦争における盟友同士の戦いは、双方に深刻な犠牲を強いるかに思われた。しかし、そこにオレルアン王が現れ、狼騎士団を説得。ハーディンがもはや正気ではないと悟った王は、中立に立つと宣言し、オレルアン軍を撤退させるのだった。



↑圧倒的に不利な状況で、同盟軍はオレルアン軍の奇襲を受けることとなる。

マケドニア王国

脅威に抗う天空の騎士たち

マケドニアは、ドルーア帝国が人間の奴隷を使って開拓させた地であった。しかし、英雄アイオテが奴隷たちを率いてドルーアへの抵抗活動を開始。解放戦争でドルーアが滅亡すると、解放奴隷たちはアイオテを国王に迎え、アカネイア暦503年にマケドニアを建国する。ドルーアと国境を接する国だけに、軍の精強さは大陸でも一二を争うほど。野生の飛竜や天馬たちを飼いならして乗騎とする竜騎士や天馬騎士ら、天駆ける騎士たちが軍の主力を担う。アカネイアの貴族たちが解放奴隷たちの国であるマケドニアを見下しがちであったので、国内にはアカネイアへの反発がくすぶっている。



英雄アイオテと2つの秘宝

マケドニア解放の立役者であるアイオテは、自ら竜にまたがりドルーアと戦い続けた建国の英雄。竜騎士の弱点である矢を防ぐ「アイオテの盾」は、彼の愛用品だったという。ほかに、「オートクレール」という三種の神器に匹敵する斧も伝わっている。

ミシェイル ►

野心ゆえに道を誤った"アイオテの再来"

暗黒戦争期のマケドニア王。ミネルバ、マリアの兄。王子のころから"アイオテの再来"と呼ばれ、国民の期待を集めた。メディウスが復活すると、ドルーア帝国と結んでアカネイア聖王国を滅ぼすことを父王に進言。それを退けられると、父王を殺害して自ら王となる。本心では、アカネイアを滅ぼした後、グルニアのカミュと結んでメディウスを打倒するつもりであったが、妹のミネルバの離反、マルスの同盟軍の勝利によって構想が瓦解。やがて、マケドニア本土の戦いで、ミネルバの手にかかった。

しかし、ミネルバはとどめを刺さず、マリアの献身によって命を救われた彼は己の野心を捨てる。英雄戦争期にミネルバがリュッケに捕らえられると、その居城に乗りこんで彼女を救出。マリアがガーネフに連れ去られると、ガーネフの弱点である「スターライト」を手に入れ、マルスに託した。命を拾ったミシェイルは、その命をただ妹たちのために費やし、その生涯を閉じた。



【新暗黒】



【暗黒竜】



【TCG】



↑旧知のガトーは、野心ゆえに道を誤ったミシェイルの将器を惜しんだ。



↑ガーネフに操られていたのではという疑問を、ミシェイルは否定する。

ミシェイル麾下の将軍たち



ベンソン 【新暗黒】

暗黒戦争期、オレルアン地方へ進軍する将軍。マチスを配下に加えていた。



ムラク 【新暗黒】

オレルアン城の城外に軍を展開。ハーディンを追い詰め、ニーナを捕らえようとする。



マリオネス 【新暗黒】

オレルアン城を制圧していた守将。撤退も考慮に入れ、盗賊たちに宝物を集めさせた。



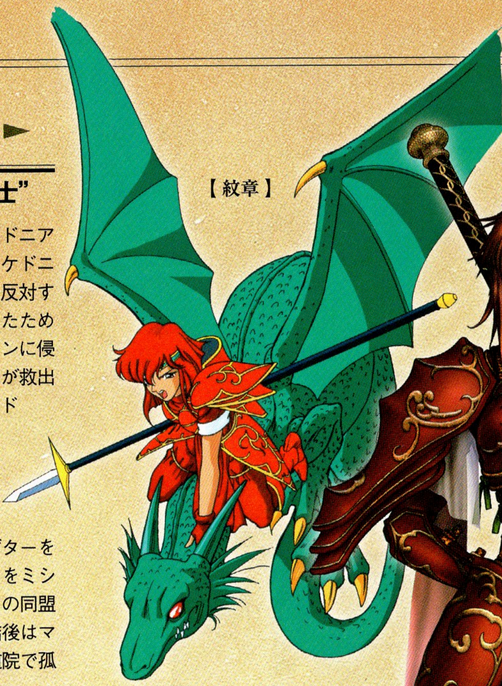
オーダイン 【新暗黒】

マケドニアの国境にある森の砦を守る聖騎士。勇猛な竜騎士たちを次々と投入する。

ミネルバ

祖国を憂う“赤い竜騎士”

“赤い竜騎士”と呼ばれるマケドニアの王女。暗黒戦争においてはマケドニアがドルーア帝国につくことに反対するが、妹マリアを人質にとられたために、白騎士団を率いてオレルアンに侵攻する。マルスによってマリアが救出されると、同盟軍に加入。マケドニアを正すべく、かつて敬愛していた兄ミシェイルにも槍を向ける。暗黒戦争終結後、マケドニアの統治者として改革を進めるが、旧勢力にクーデターを起こされて囚われの身に。そこをミシェイルに救出され、再びマルスの同盟軍に身を投じた。英雄戦争終結後はマケドニアをマルスに託し、修道院で孤児の世話をして暮らしたという。



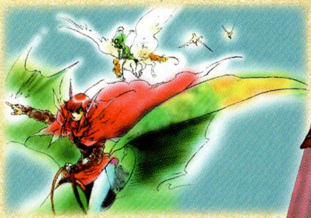
【紋章】

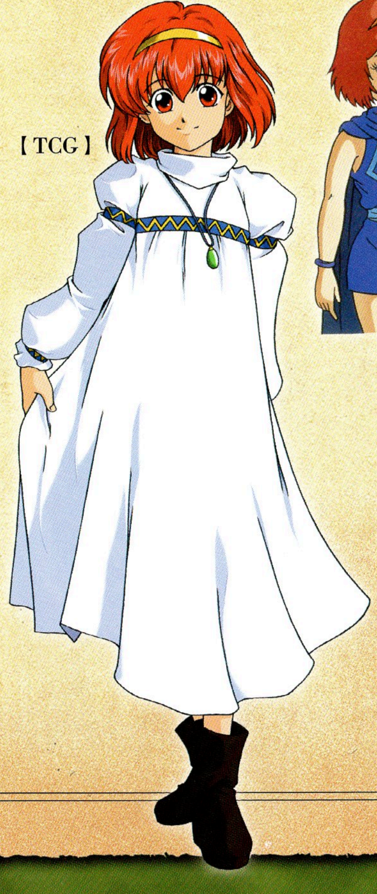
【暗黒竜】



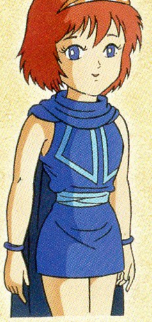
【新暗黒】







【TCG】



【暗黒竜】

マリア

兄姉を想うマケドニア王女

マケドニアの王女で、ミシェイル、ミネルバの妹。暗黒戦争ではマケドニアからグルニアへの人質となるが、マルスによって救出されて同盟軍に加わる。

兄、姉への想いは深く、ミネルバの手にかかってミシェイルが瀕死となると、寝ずに看病して命を救う。英雄戦争ではメディウスへの生贄となってマリアの心は壊れるが、姉ミネルバの声によって自らの意思を取り戻した。戦後は、姉とともに修道院で過ごしたという。



◀性格は天真爛漫。初対面のマルスに「おそばにおいてください」とお願いして、ミネルバをあきれさせたこともある。

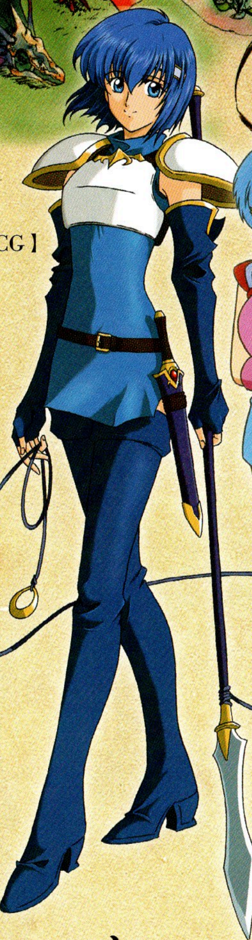


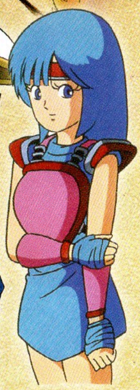
◀ミシェイルを救おうと、寝食を忘れて看病するマリア。彼女の一途な祈りがミシェイルを救うことになる。

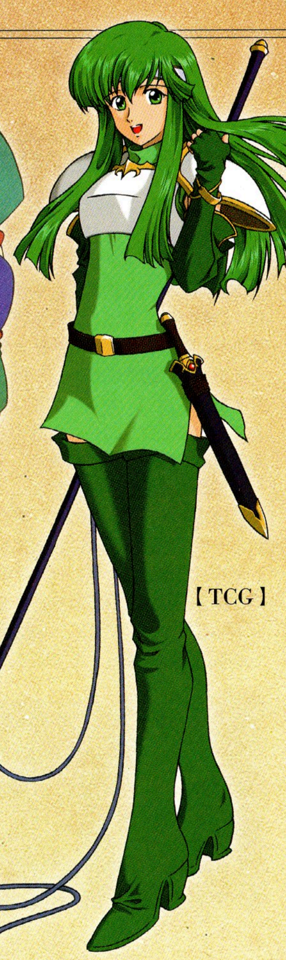

【紋章】



【暗黒竜】


【TCG】


【暗黒竜】


【TCG】

THE AKANEIA CONTINEN

カチュア ►

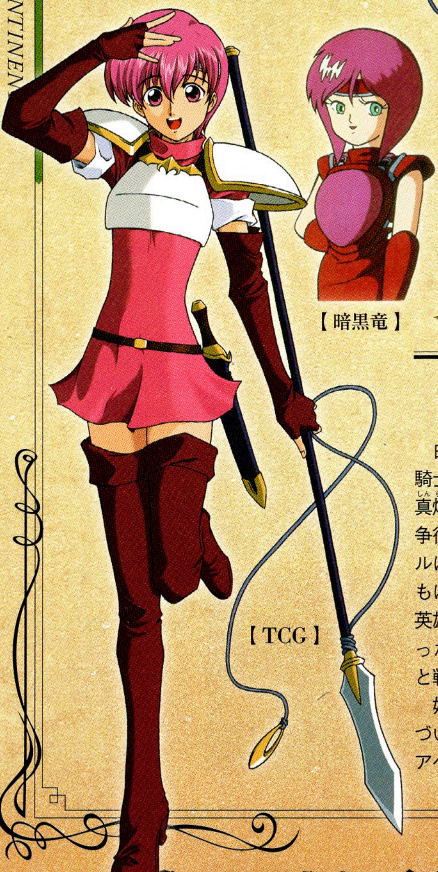
誰にも言えない想いを秘めて

白騎士団に所属する天馬騎士三姉妹の次女。暗黒戦争では、ミネルバのあとを追って同盟軍に加入。次第に指揮官であるマルスに惹かれるが、すでにマルスにはシーダという恋人がいたために、その想いを表に出すことはなかった。英雄戦争でマケドニアに反乱が起こると、助けを求めてマルスの下へ。マケドニア平定後も、同盟軍の一員として戦った。

パオラ ▲

ミネルバの信頼厚い三姉妹の長女

ミネルバに忠誠を誓う天馬騎士三姉妹の長女。ミネルバの信頼が厚く、白騎士団天馬騎士の隊長格を務める。暗黒戦争では、妹のカチュアとともに同盟軍に加入。アリティアのアベルに密かに惹かれるが、妹のエストがアベルと恋仲になったために想いを隠した。暗黒戦争、英雄戦争ともに、マルスの同盟軍に協力。戦後は、マケドニアの復興に尽力した。


【TCG】

【暗黒竜】

◄ エスト

天真爛漫な天馬騎士の恋

白騎士団に所属する、天馬騎士三姉妹の三女。性格は天真爛漫でマイペース。暗黒戦争従軍中にアリティアのアベルに夢中になり、戦後彼とともに暮らし始めた。しかし、英雄戦争では自身が人質となったために、アベルが同盟軍と戦うことになる。

姉パオラの秘めた想いに気づいたのか、英雄戦争後にはアベルの前から姿を消す。

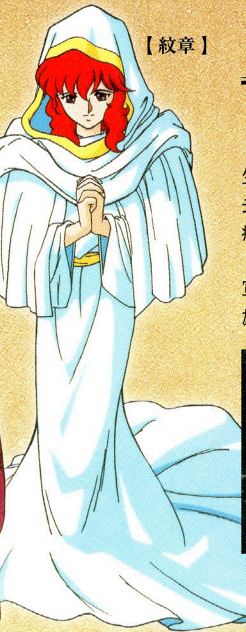
バレンシア大陸にも……

この天馬騎士三姉妹は、暗黒戦争と英雄戦争の戦間期にバレンシア大陸に渡る。エストが海賊に捕まってしまったので、パオラとカチュアが救出に向かったのだ。三姉妹は、エスト救出に力を貸してくれたセリカに感謝し、彼女の下でバレンシア動乱を戦うことにしたのだった。





【戦記】



【紋章】



【暗黒竜】

レナ

恋を知ったマケドニアの聖女

マケドニア出身のシスター。マチスの妹。貴族の生まれで、ミシェイルからの求婚を断ったという過去を持つ。暗黒戦争期に大陸東方で貧しい人々の治療をするが、サムシアンという凶賊に捕らえられてしまう。そこからジュリアンとともに脱走し、同盟軍に加わる。ジュリアンとはやがて恋仲となり、英雄戦争終了後にともに暮らし始める。



英雄戦争期、メディウスへの生贄としてガーネフに捕らえられたレナを救うのは、やはりジュリアン。そんな彼に、レナが大胆に告白を。



【TCG】

マチス

ちょっと頼りないレナの兄

マケドニアの貴族。レナの兄。流されやすい性格のようで、暗黒戦争ではむりやり軍に入れられてオレルアンへ派遣されるが、レナの説得であっさり同盟軍に加入。英雄戦争ではリュッケの反乱に巻きこまれるが、そこではレナの恋人ジュリアンに叱責され、やはり同盟軍に鞍がえした。



【暗黒竜】

ミネルバに反旗を翻した将軍たち



【TCG】



【紋章】

リュッケ

ハーディンにそそのかされ、英雄戦争期にマケドニアで反乱を起こす。追放されていた将軍たちを集め、ミネルバを捕らえることに成功した。



【紋章】

ルーメル

英雄戦争において、リュッケとともに、マケドニアで反乱を起こした竜騎士。ウォレンを配下として加え、国境の森を守っていた。



【TCG】

ウォレン

反乱から離脱したマケドニアのハンター

マケドニアの猟師。弓の腕をかわれてリュッケの反乱に加わるが、旧知のカチュアに説得されて同盟軍に助力。英雄戦争終結後は、またもとの猟師暮らしに戻った。

THE AKANEIA CONTINENT

グルニア王国

三英雄のひとりが建てた騎士の国

アカネイア暦501年、解放戦争における三英雄のひとりオードウィンが辺境の部族を斬り従えて建国。尚武の気風をよしとする軍事大国で、大陸一の精鋭である黒騎士団と、木馬隊と恐れられる戦車部隊を擁する。暗黒戦争では、ドルーア帝国に加担してアリティア、アカネイアを制圧するが、マルス率いる同盟軍に敗れることになる。戦後、アカネイアから派遣されたラング将軍の圧政に苦しみ、607年に反乱を起こした。

オードウィン

アンリ、カルタス伯爵に並ぶ、解放戦争三英雄のひとり。騎士としてドルーア帝国との戦いで奮戦。解放戦争後に、グルニア地方の守備隊長となると、近隣の部族を従えてグルニアを建国。アカネイア聖王国からの独立を果たす。

ルイ

暗黒戦争期のグルニア王。ユベロ、ユミナの父。勇猛なグルニアの国風にそぐわず気弱な性格で、メディウスが復活すると直ちにドルーアに与した。マルスの決起後、グルニアの敗戦が相次ぐと病に倒れ、そのまま死去する。

THE AKANEIA CONTINENT

ユベロ

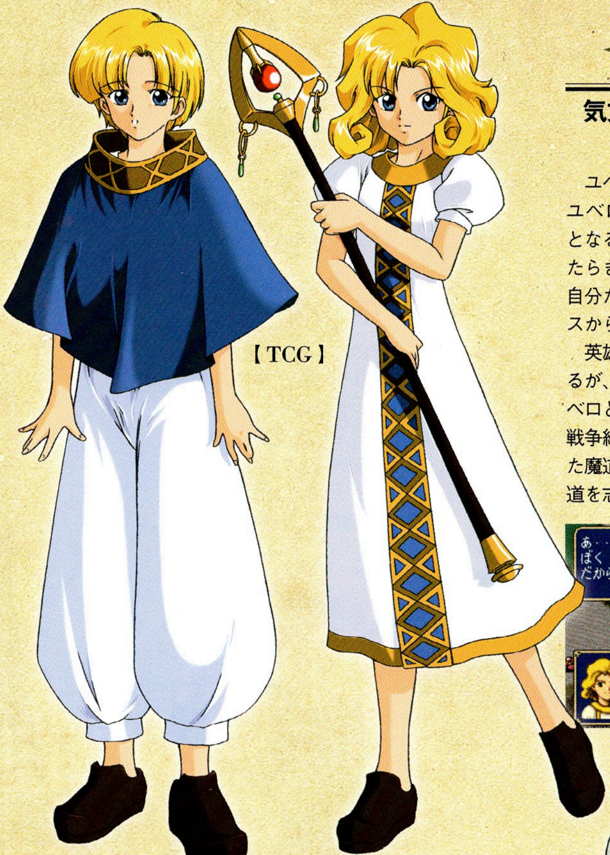
気弱で争い嫌いの グルニア王子

グルニア王子で、ユミナとは双子。暗黒戦争期にガーネフを恐れた父王ルイにより、ユミナとともにカダインの人質となる。

そこで保護を受けたウェンデルの教えもあって、争い嫌いの心優しい少年に育つ。戦後、ロレンスに引き取られてグルニアに帰還。英雄戦争ではラングに捕らえられるものの、オグマによって救出される。英雄戦争後は、マルスの後見の下に勉学に励んだ。



↑師のウェンデルに似て争い嫌い。気弱だが、ユミナを気遣う優しい面も。



【TCG】

ユミナ

気丈で負けん気の強い グルニア王女

ユベロとは双子のグルニア王女。ユベロとともにカダインの人質となる。気が強く、一度言い出したらきかない性格。グルニアでは、自分たちを保護してくれたロレンスから離れようとしなかった。

英雄戦争でラングに捕らえられるが、オグマに救出されると、ユベロと一緒にマルスの軍へ加入。戦争終結後は、パレスに新設された魔道学院に留学し、シスターの道を志した。



↑気が強いとはいえまだ幼く、ときには弱さものぞかせる。

ロレンス

"祖国"に殉じた忠義の将

グルニアの重鎮。暗黒戦争ではグルニアの民を守るために、あえて同盟軍に降る。戦後、ユベロとユミナをカダインから迎えてグルニアの自治を行うが、ハーディンと対立し追放される。ラングによる圧政が始まると、民のために決起。反乱が失敗に終わると、マルスに後事を託して自爆する。最後まで民に殉じ、その生涯を閉じた。



↑若いころにタリスに赴き、タリスの統一に協力したこともある。それゆえ、シーダとは旧知の仲であった。

【TCG】



カミュ

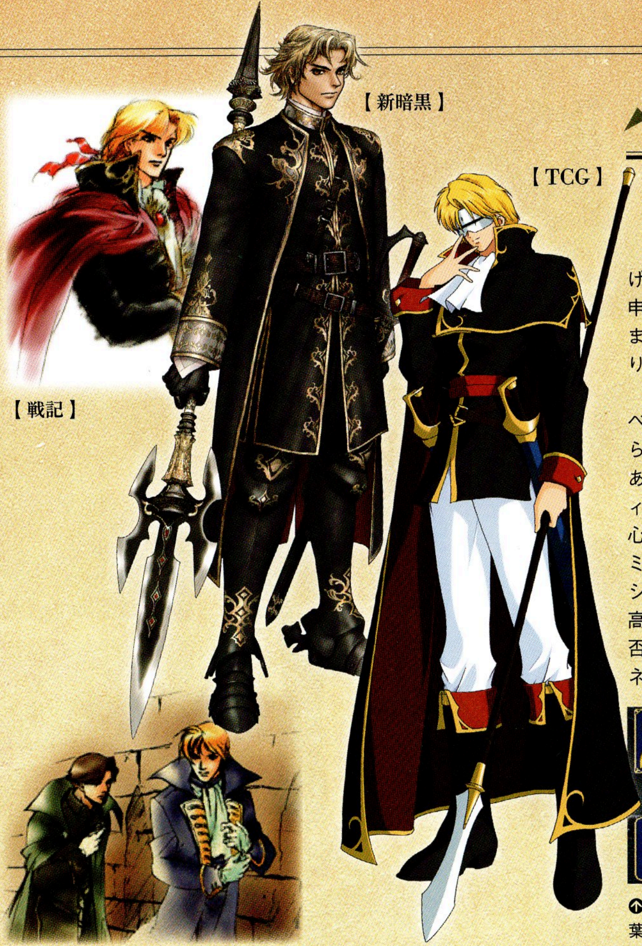
グルニア最強の黒騎士

黒騎士団を率い、"ブラックナイツカミュ"と恐れられたグルニアの騎士。暗黒戦争で、コーネリアス王率いるアリティア軍、オーエン伯爵率いるアカネイア軍を撃破。アカネイアの王都パレスの占領後、王族の処刑に携わる。だが、ニーナだけは殺せず、彼女を守り続け、それによってドルーア帝国の咎めを受けた。

戦況が悪化すると戦線に復帰。グルニア本土での戦いでは、ニーナから同盟軍への協力を求められるも、それを拒んで国に殉じた。



↑ニーナへの想いをふりきるカミュ。敗戦後は行方不明に。



シリウス

仮面に想いを隠して

ユベロとユミナを連れて逃げるオグマに出会い、助力を申し出た仮面の騎士。そのままマルス率いる同盟軍に加わり、英雄戦争終結に尽力。

彼は素性を語らないが、ユベロたちを知っていることからも、グルニアゆかりの者であることは確か。また、メディウスに捧げられたニーナの心を呼び戻し、彼女から「カミュ」と呼ばれたことからも、シリウス＝カミュの可能性は高い。ただし、本人はそれを否定。戦後、何も語らずアカネイアから姿を消す。



↑ニーナに残した「すまぬ」の言葉の意味するところは……。

THE AKANEIA CONTINENT

暗黒戦争期のグルニア将軍たち 各顔絵は【新暗黒】のもの。

ハーマイン



レフカンディ砦を守る。ミネルバと呼応して戦おうとするが、彼女は撤退してしまう。

デジャニラ



アカネイア貴族ホルスの領地に駐屯。ホルスが裏切らないように監視していた。

カナリス



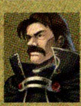
中立の港湾都市ワーレンににらみをきかせる騎士。ワーレンの東にある城を守る。

ギガッシュ



グルニアの誇る戦車部隊"木馬隊"を率いる将軍。自らも戦車を用いて戦った。

ジューコフ



辺境のディール城にてマリアを捕らえていた将軍。同盟軍にマリアを奪還される。

ホルザード※1



アリティア城外を守っていたグルニア騎士。チェイニーを牢に捕らえていた。

将軍配置図



大陸の広い範囲をグルニアの将軍たちが占領。いかにグルニア軍が精強であったかの、証明といえるかもしれない。

ボーゼン



アカネイアの王都パレスを占領して統治した。破壊魔法「ボルガノン」の使い手。

ダクティル



アリティアの北、マクロニソス城の守将。同盟軍と戦うようエッツェルに強いる。

スターロン



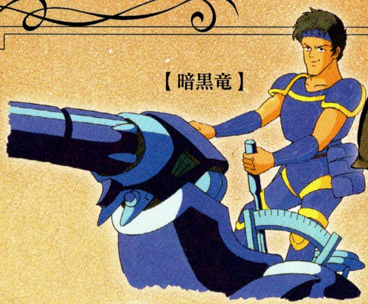
黒騎士団の指揮官のひとり。グルニアを守るべく、カシミア海峡にて同盟軍を迎撃。

ラリッサ



グルニアの敗残兵の一部を率いる騎士。村人を盾にしようとしてユミルに阻まれる。

※1【新暗黒】での呼称。【暗黒竜】【紋章】では「ホルスタット」。



【暗黒竜】



【TCG】

ジェイク

女好きのグルニア戦車兵

グルニアの戦車兵。暗黒戦争ではパレス城外の守備にあたる。ノルダの娘アンナとは恋人同士。女の子にあまいらしく、敵兵であるにもかかわらずシーダのことを心配する。そのシーダから説得されて同盟軍に加わる。あまり戦いが好きではないようで、暗黒戦争終了後は軍を退き、焼け野原となった町の復興にあたった。



←本来は人好きのする心の優しい青年であり、グルニアの侵攻には心を痛めていたようだ。

ジェイクの恋人は有名人？

アンナ



赤毛のポニーテールと、顔に指を当てるしぐさが特徴のアンナ。実は、彼女は他のシリーズにも登場。彼女とは、預かり所や秘密の店などで会えるはず。



【暗黒竜】



【TCG】



【新暗黒】

ユミル

村人を守った勇猛な戦士

暗黒戦争期、グルニアの残党から村人たちを守った戦士。グルニアの残党を追い払ったマルスに協力を申し出て、暗黒戦争を戦った。

ロジャー

愛（？）に導かれた重騎士

グルニアの重騎士。暗黒戦争にて、グルニア軍がワーレンに立ち寄った同盟軍を攻撃した際、シーダから説得を受けて同盟軍に加わる。すでに両親は亡くなっていたが、それでも終戦後はグルニアに戻り、戦火で焼けた故郷の復興に尽くした。



←シーダから「あなたは愛を信じますか？」と問いかけられたら、ロジャーでなくとも驚くだろう……。



【TCG】

マリーシア

ちょっとおませなグルニアの少女

グルニア出身のシスターで、レナの弟子にあたる少女。英雄戦争にてグルニアの反乱鎮圧にマルスがやってくると、アカネイア兵から身を守るために同盟軍に加わる。密かにマルスを慕うが、シーダの献身には叶わないと思って身を引いたようである。



←祖母がマルスに向かって「望むなら嫁に」と言ったときは、まんざらでもないような様子を見せていた。

タリス王国

マルスを守った辺境の新興国

アカネイア暦579年に建てられたばかりの新興国。騎士団すら持たない小国であるが、辺境にあったこともあり、ドルーア帝国の脅威を免れていた。暗黒戦争では、アリティアから脱出したマルスたちをかくまい、後の決起まで援助を惜しまない。結果として、暗黒戦争の終結に大きく貢献することとなった。

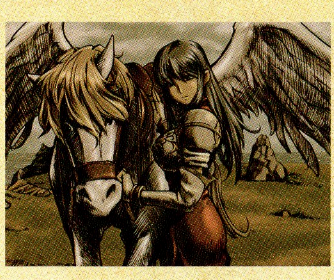


シーダ

マルスの支えとなった優しき王女

タリスの王女。亡命してきたマルスを兄と慕って育つが、やがてその感情が愛情に変化。マルスのほうも同様だったらしく、暗黒戦争終結後に婚約し、英雄戦争終結後に結婚することとなる。

タリス島にてマルスがドルーア打倒の兵をあげると、シーダもそれに従軍。暗黒戦争、英雄戦争という2つの戦争においてマルスのそばで戦い、彼の心の支えとなった。マルスの身を常に、そして深く案じており、「もしマルスの命を召すのであれば、替わりに自分の命を」と神に祈るほどであったという。



ガルダの海賊にタリス城が落とされ、マルスに救援を求めたシーダ。これが、マルス決起のきっかけとなる。

人を惹きつける天性の才

マケドニアの民以外では珍しい天馬騎士のシーダは、同盟軍にとって戦力としても貴重だが、それ以上に人を惹きつけて心を動かす力で、大きく同盟軍に貢献する。彼女の説得によって敵軍から同盟軍へ身を投じた者の中には、大陸屈指の剣士であるナバールなどもおり、こうした英雄たちの力が同盟軍をいっそう強くしたのだ。

また、シーダを守るために奮戦し、あるいは彼女の戦う姿に勇気づけられる者も多かった。マルスにとってだけではなく、同盟軍全体にとっても、シーダは勝利の女神のような役割を果たしていた。



ロレンスもシーダに心動かされた者のひとり。彼によれば、シーダは幼いころから人を動かす魅力を持っていたという。





【新暗黒】



【紋章】

タリス王

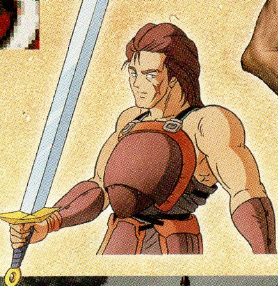
懐深きタリスの統一王

辺境の島国タリスの初代国王。シーダの父。もとはタリス島の一部族の長だったが、若き日のロレンスの協力を得てタリス島の統一をなしとげる。このロレンスを始め、タリス王は諸外国に多くの友を持ち、国を越えた交流関係を結んだという。暗黒戦争においてマルスたちがタリスを頼ったのも、その人柄を見こんでのことだ。

事実、タリス王はマルスたちを迎え入れ、東の砦を与えるなどして援助を惜しまない。マルスがタリス島で挙兵して大陸へ渡ろうとしたとき、タリス王は「人々と共に戦うことの大切さ」を説く。その教えは、"群の英雄"マルスの誕生に一役かうことになった。



⬆部族統一をなしとげた英雄の教えは、しっかりとマルスに受け継がれた。



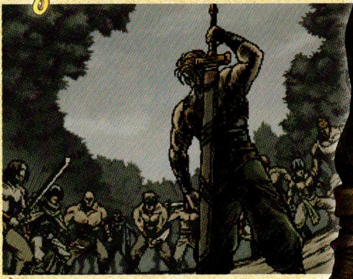
【暗黒竜】



【新暗黒】



【紋章】



オグマ

情義に厚い傭兵隊長

タリス王、シーダの父娘から受けた恩に報いるべく剣を捧げる、剣闘士出身の傭兵隊長。暗黒戦争では、部下の三戦士とともにマルスに協力。終戦後にタリス島に戻るが、タリス王の要請でグルニアへ渡ると、ロレンスに力を貸す。ロレンスからユベロ、ユミナのことを託されたこともあり、2人がラングに捕らえられると単身で救出に向かう。幼い2人の保護を求めてマルスの同盟軍に合流し、そのまま英雄戦争を戦いぬいた。終戦後はタリス島には戻らず、人々の前から姿を消した。



⬅従軍するシーダの身を案じるオグマ。彼女を守ることも、彼が暗黒戦争を戦いぬいた理由のひとつだろう。



⬅ロレンスに協力してグルニアの反乱に参加。その死を知ると、戦友の無念を少しでも晴らそうと、ユベロ・ユミナを救出。

オグマがタリスに忠節を誓う理由

ノルダの奴隷剣闘士だったオグマは仲間たちと逃亡を企て、自らを犠牲にして脱走劇を成功させる。見せしめに鞭打ちされたオグマは瀕死となるが、そんな彼を救ったのが幼き日のシーダ。父とともにアカネイアに来ていた彼女は、鞭打ちの場面に通りかかると、涙ながらにオグマをかばう。

タリス王のとりなしで命を救われたオグマは、それ以降タリスに剣を捧げる。英雄戦争終結後にオグマが姿を消すのは、シーダがマルスと結ばれたことで、自らの役割を終えたと感じたからだろうか。



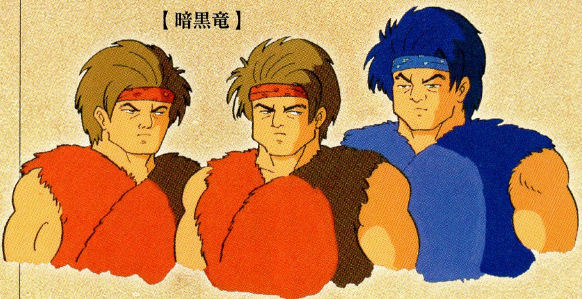
⬆サムトーはオグマの剣闘士時代の仲間。彼の口からオグマの過去が明らかに。



⬆幼き日のシーダは、その身を投げ出しまでしてオグマをかばったのだ。

THE AKANEIA CONTINENT

オグマ配下の三戦士



【暗黒竜】

バーツ

タリスの戦士でオグマの部下。暗黒戦争では、オグマとともにマルスの軍に加わる。終戦後はアカネイアの兵となるも、後に脱走。タリスには戻らず、一説では海賊になったとも。



【TCG】



【新暗黒】

サジ

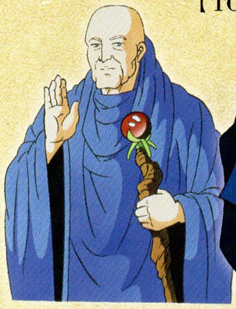
暗黒戦争期、オグマとともにマルスに軍に加わったタリスの戦士のひとり。戦争が終わるとタリスに戻り、きこりとして静かな生涯を送る。



【新暗黒】

マジ

タリス島の戦士。バーツやサジと同様、オグマの配下で、暗黒戦争ではマルスに従軍する。戦後はサジと一緒にタリスに戻り、きこりとして暮らした。



【暗黒竜】



【TCG】



⬆マルスの決起直後から暗黒戦争終結までの間、治療の杖で貢献し続けた。

リフ

辺境の村の僧

タリスの村に隠棲していた僧侶。マルスの決起後、ほどなくして軍に志願。暗黒戦争終了後はアリティアに修道院を開き、子どもたちの世話に余生を捧げた。



【暗黒竜】



【TCG】

カシム

出稼ぎハンターは母思い？

タリス出身の猟師。本人が言うには「母の薬代のため」に各地で雇われ弓兵となって金を稼ぐ。暗黒戦争ではシーダから、英雄戦争ではマルスから薬代をもらうと、感激して軍に志願。

英雄戦争後にはかなりの貯金ができたようであり、本当に母の薬代のために働いていたのかは不明。とはいえ、弓の腕は確かであり、従軍後は戦力としてしっかり貢献した。



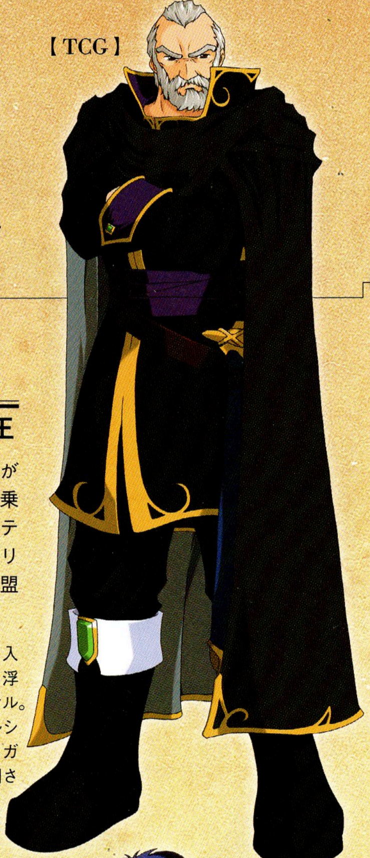
⬆金せびりに必死なのは、病の母のためなのか、それとも……。

グラ王国

“兄弟”を裏切った王国

もとはアリティアの一部だったが、アンリの死後の後継者争いの結果、アカネイア暦537年に分離独立。以後、グラとアリティアとは“兄弟国”として同盟関係を結ぶ。しかし、暗黒戦争のメニディ川の戦いではグラが突然裏切り、アリティア軍を壊滅させた。

【TCG】



ジオル ►

同盟国の背後から襲った不実の王

暗黒戦争期のグラの国王。ドルーア帝国が復活すると密かに内通。ガーネフの甘言に乗り、メニディ川の戦いで同盟国であるアリティアを裏切る。マルスにとっては父コーネリアスの敵であり、後にそのマルスに率いる同盟軍によって討たれることとなる。



⬅同盟軍侵入の報を受け、浮き足立つジオル。彼は、ファルシオンを求めるガーネフに利用されたのだ。



【TCG】

▲シーマ

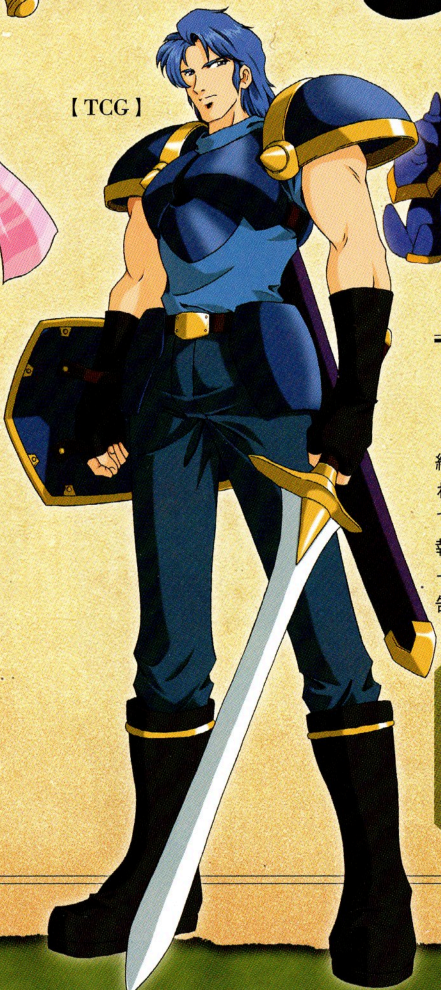
国民の希望を背負ったグラの王女

ジオルの第二夫人の娘。皇帝ハーディンに請われてグラの王位に就くと、国民からの期待と希望を一身に集める。しかし、英雄戦争において、自分とグラはハーディンに利用されていただけだと痛感。さらに、マルスの高潔な行動に心打たれて同盟軍に協力した。



⬅自分を支えてくれたサムソンとは恋仲に。英雄戦争後は王位を捨て、彼とパレスで暮らし始める。

【TCG】



【暗黒竜】



◄サムソン

シーマの傍らに立つ
アリティア出身の勇者

アリティア出身の勇者。暗黒戦争終結後、グラの王位に就いたシーマに雇われる。ハーディンに利用されたことで敗戦を重ねたグラは、サムソンへの報酬にもこと欠くが、それでも彼はシーマの傍らを離れず。やがてシーマの告白を受けて生涯彼女を支えた。

if……

アラン（→P.31）とサムソンは、どちらか一方しか仲間にできない。サムソンが、こうしてグラにいるということは……。

THE AKANEIA CONTINENT

ドルーア帝国

マムクートたちの国

マムクートを迫害する人間に怒ったメディウスが、マムクートを集めてアカネイア暦490年に建国。人間たちの盟主国であるアカネイアを、二度も滅亡に追いこんだ。良くも悪くもメディウスが中心の国であり、メディウスが討たれると国ごと滅亡する。



メディウス

人間の増長に怒った地竜族の王

地竜族の王族。神竜王ナーガの命で地竜族の封印を監視するが、力をつけた人間が増長し、マムクートを迫害し始めたことに激怒。ドルーア帝国を興し、マムクートによる世界支配を企てる。アカネイア暦498年にアンリに討たれるが、597年に復活。605年にマルスによって討たれると、ついに608年に暗黒竜として復活を果たす。これを倒したのは、「封印の盾」と神剣「ファルシオン」を手にしたマルスだった。

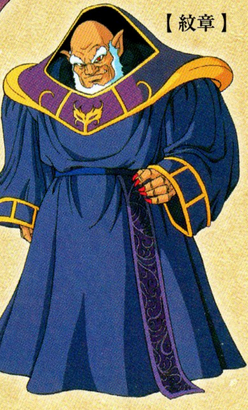
【暗黒竜】



【TCG】



【紋章】



ドルーア帝国のマムクートたち



【TCG】



ジョーゼン



【新暗黒】

火竜族のマムクート。アカネイアの王都パレスの城外に陣取っていた。手あたり次第に近づく同盟軍兵士を襲い、恐怖をもたらした。

モーゼス

暗黒戦争時にアリティアを支配し、罪なき人々を虐殺した魔竜族のマムクート。メディウス第一のしもべといわれる。マルスの母リーザを殺し、姉エリスをガーネフに引き渡した。



【新暗黒】

ゼムセル



【新暗黒】

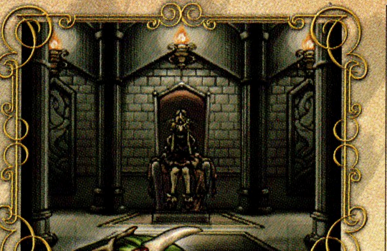
ドルーアの地にて、メディウス居城の城門を守っていた魔竜族のマムクート。大地を犯した人間を深く憎み、同盟軍を襲った。



竜族

ドルーアに与さない竜たち

竜の力を竜石に封じ、マムクートとなることで竜族は獣化を免れた。その後人間によるマムクート迫害に対抗すべくドルーア帝国が興されるが、すべての竜族がそれに加わったわけではない。辺境でひっそりと暮らす者、人間を陰ながら導く者、ドルーアとは別の形で人間を支配する者などもいた。

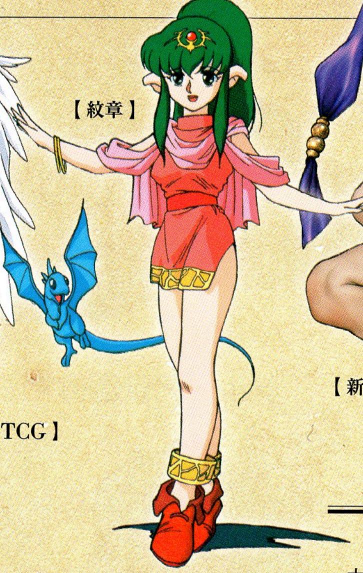


神竜王ナーガとファルシオン

ナーガは、野生化した竜族から人間を守るべく戦った神竜族の王。激戦の末に地竜族を封印したナーガは、さらに自らの牙から神剣「ファルシオン」を鍛える。そして、人間を守るようにとガトーに命じ、息を引き取るのだった。



【TCG】



【紋章】



【新暗黒】

▲チキ

神竜族の王族最後の生き残り

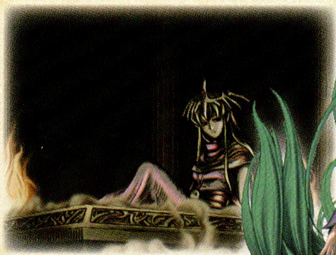
ナーガの娘にあたる神竜族の王女。「封印の盾」が失われたことで獣化する恐れがあり、ナーガの命によって氷竜神殿で眠りにつかされていたが、チキの孤独を哀れんだバヌトゥによって人間世界へ連れ出される。暗黒戦争と英雄戦争の双方でマルスに協力。英雄戦争中に封印の盾が再び完成したので、獣化の運命から逃れられた。戦後は、パレスで仲間に囲まれて幸せに暮らしたという。



←人間世界に出て10年ほどで、ガーネフに捕らえられて術で操られる。その術がバヌトゥに解かれると、同盟軍に加わってメディウス討伐に協力した。



←獣化する運命を避けるために眠りにつかされていたが、孤独は耐えがたいものだった。封印の盾を完成させることで、マルスはチキを孤独から救おうとする。





【新暗黒】

►ナギ

異界で眠り続ける謎の神竜族

異世界で眠りにつく神竜族。生まれや経歴はいっさい不明。神竜族の王族であるのは確かで、もう1本の神剣「ファルシオン」を持っていた。

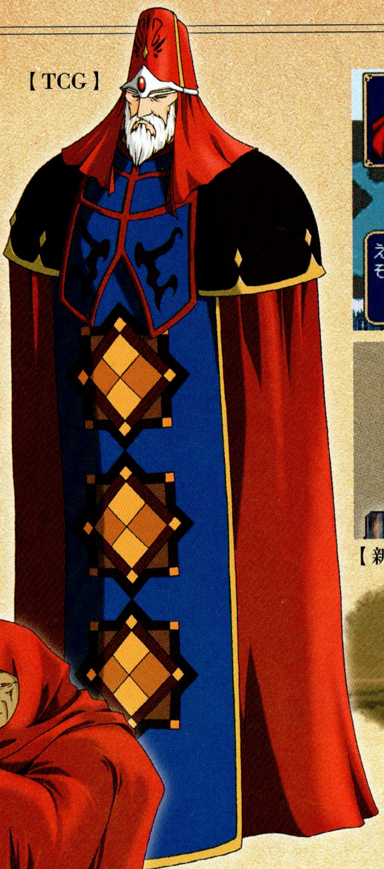
ガトー

人間に魔道を伝えた白き大賢者

神竜族の生き残り。「人間を守るように」という神竜王ナーガの遺言を、忠実に守り続ける。竜石を捨てたので神竜になることはできないが、魔道の力に通じている。この魔道の力を数百年前から人間に伝え、“白の賢者”と呼ばれるようになる。アカネイア暦550年には、カダインに魔道学院を設立。本格的に魔道を人間たちに伝授し始め、ミロア、ガーネフらを直弟子とする。そのほか、ウェンデルやエリスも教えを得た者たちだ。

世界の維持に心を砕き、メディウスが人間支配をもくろむと、アンリやマルスといった英雄たちを援助することでその野望を阻止。また、地竜族の封印が力を失いつつあることを悟ると、マルスを導いて「封印の盾」を完成させ、これによって封印の力を蘇らせようとした。

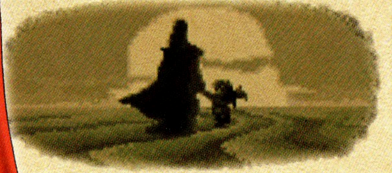
【TCG】






【新暗黒】

↑チキも救うためにも「封印の盾」を完成させてほしいと、ガトーはマルスに頼む。




【新暗黒】

【TCG】



バヌトゥ

ぬくもりを教えたチキの“おじいちゃん”

ガトーに従う火竜族のマムクート。氷竜神殿でチキのめんどうをみていたが、孤独に苦しむチキを哀れに思い、人間の村で過ごさせる。マルスの同盟軍には、ガーネフに連れ去られたチキを探すために加わることになる。

チェイニー

自由気ままな能力者

竜石を捨てた神竜族。神竜にはなれないが、他人に変身する能力を持つ。人間の増長にあきれ、人間支配に乗り出したメディウスの心情にも理解を示す。しかし、マルスのことは気に入っており、暗黒戦争と英雄戦争の双方で力を貸す。チキは妹のような存在で、たびたび彼女をからかう。


【新暗黒】


【TCG】

ペラティの支配者マヌー

アカネイア大陸東方の辺境には、ペラティ王国という島国がある。他国との交流を持たないこの国は、火竜族のマムクート、マヌーが支配していた。ペラティは、同じマムクートであるドルーア帝国とも同盟関係を持たなかったが、グルニア軍に追われた同盟軍が侵入してくると、問答無用でマルスたちに襲いかかった。



↑マヌーはペラティを「神聖なる大地」と呼び、侵入者を皆殺しにしようとした。


【新暗黒】

マヌーは、火竜族のマムクート。長くペラティを支配していた。

カダイン

砂漠に建てられた魔道の学府

アカネイア暦550年、ガトーが砂漠に設立した魔道学院。魔道士や修道士たちの修行の場として発展する。しかし、人間が魔道を戦争や商売に利用し始めると、失望したガトーはこの地を去る。有力者の去ったカダインは、ガーネフの支配するところとなり、暗黒戦争ではドルーア帝国に与することとなる。





【紋章】

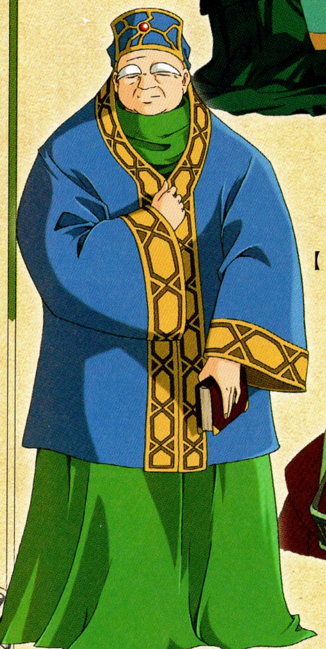
【新暗黒】



【暗黒竜】



THE AKANEIA CONTINENT

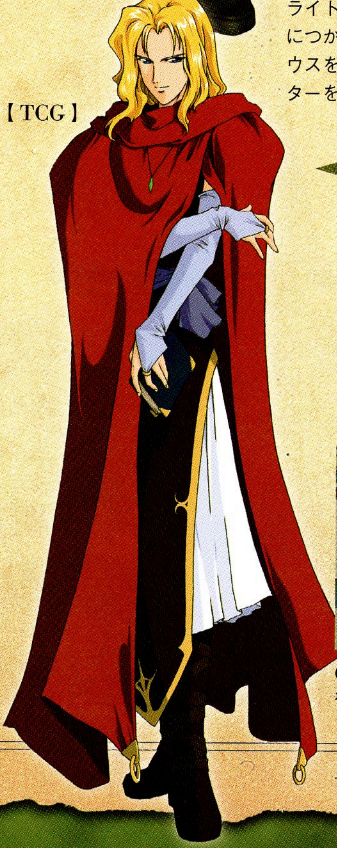


【TCG】



【暗黒竜】

【TCG】



ガーネフ

世界支配をもくろんだ"魔王"

もとは才能ある魔道士だったが、師のガトーが「オーラ」をミロアに託したことに嫉妬。ガトーから「闇のオーブ」を盗み、黒魔術に手をそめる。

やがて世界支配をもくろむようになり、メディウスと手を組むが、神剣「ファルシオン」と神竜族チキを手駒とし、世界征服後には、メディウスも滅ぼすつもりであった。ガーネフの「マフー」は相手の攻撃を封じる無敵の黒魔術だが、「スターライト」に破られるという弱点を同盟軍につかれて敗北。英雄戦争では、メディウスを再び復活させるべく、各地でシスターをさらって生贄とした。

エルレーン

マリクを妬んだ若き魔道師

ウェンデルの弟子。英雄戦争時は、マリクとともにカダインを治めるよう命じられる。「エクスカリバー」を受け継いだマリクに嫉妬し、襲いかかった。



↑ウェンデルの説諭により改心。以後は嫉妬心を捨てて同盟軍に協力する。

ウェンデル

争いを好まぬ篤実な司祭

マリク、エルレーンの師。暗黒戦争ではガーネフの支配を嫌ってカダインから脱出し、マルスの同盟軍に加わる。ユベロ、ユミナを保護するなど篤実な性格で、争いを嫌う。暗黒戦争後は高司祭としてカダインを治めるが、ガトーの命によって星のかけらの探索行に向かうことになる。

流れ者／その他の辺境

ジュリアン

守るべき宝を見つけた盗賊

もとは盗賊で、凶賊サムシアンの一員。囚われの身だったレナとともに脱出し、保護を求めて同盟軍に加わる。暗黒戦争終結後は足を洗い、恋仲となったレナと孤児院で働く。英雄戦争期にレナがガーネフにさらわれると、彼女を救うべく再びマルスの下へ。無事レナを救い出し、戦後は一緒に暮らし始めた。



レナとともにサムシアンから逃げるジュリアン。大切な人との出会いが彼を変えた。

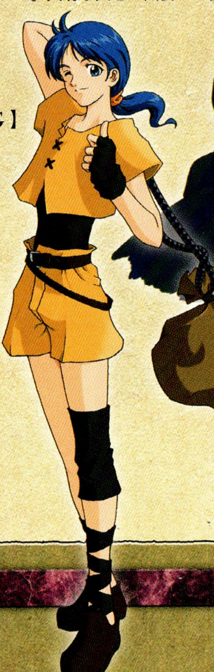


【暗黒竜】

【紋章】



【暗黒竜】



【TCG】



【暗黒竜】

ダロス

海賊から足を洗って

もとはガルダの海賊の一味だが、海賊稼業に嫌気がさしてマルスの同盟軍に投降。暗黒戦争後、船乗りとして気ままな生活を送る。

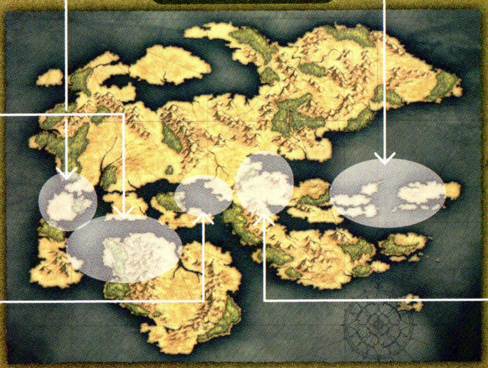
リカード

懲りないジュリアンの弟分

ジュリアンの弟分の盗賊。アカネイアを中心に活動するが、へまをしてグルニアの占領軍に捕まる。そこを救われて、同盟軍に加わった。足を洗った兄貴分と違い、英雄戦争後も懲りずに盗賊家業についているという。

アカネイアの賊たち

賊たちの分布



ラーマンの盗賊

ダール



【紋章】

ラーマン神殿を荒らした盗賊の首領。ナバールを雇っていたが、裏切られる。

マケドニアバイキング

ガイル



【紋章】

バイキングの長。マケドニア・グルニア付近の間の海を荒らし回っていた。

海賊

バフス



【新暗黒】

オレルアン付近を荒らしていた海賊の長。村から子どもたちをさらった。

ガルダの海賊

ガザック



【新暗黒】

ガルダの海賊。タリスへ侵入し、城を制圧する。マルスに討たれてしまう。

ゴメス



【新暗黒】

ガルダの海賊の長。大陸東方を荒らし回り、一時はガルダを支配していた。

サムシアン

ハイマン



【新暗黒】

“サムスーフの悪魔（サムシアン）”と恐れられた凶賊集団の首領。

【戦記】





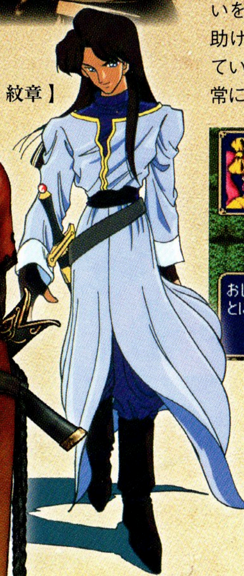
【紋章】



【暗黒竜】



【新暗黒】



▲ナバール

大陸に名の知れた紅の剣士

“紅の剣士”として知られる大陸屈指の凄腕剣士。雇い主をあまり選ばないのか、暗黒戦争期にはサムシアンに、英雄戦争期にはラーマンの盗賊に雇われていた。とはいえ、好んで凶賊に手を貸すわけでもないようで、暗黒戦争では、シーダの説得を受けて同盟軍に加入。この戦いを通してマルスを認めたのか、英雄戦争でフィーナに助けを求められると、彼女を伴って自ら同盟軍へ加わっている。宮仕えには興味がないようで、戦いが終わると、常にどの国に仕えることもなく風のように姿を消す。



◀フィーナを伴い、アリティア軍と合流を図るナバール。フィーナのおしゃべりに、クールなナバールも調子が狂い気味か。

【TCG】



【紋章】



【TCG】



◀サムトー

剣闘士上がりの傭兵はナバールの偽物!?

英雄戦争において、「ナバール」を騙ってラングに雇われていた剣士。外見がナバールと似ているので人違いされることが多く、開き直って「ナバール」を名乗るようになったらしい。もとはノルダの奴隷剣闘士で、自分たちを脱走させてくれたオグマは命の恩人。オグマに恩返しをすべく、同盟軍に加わった。

▲フィーナ

風を追う踊り子

ワーレン出身の踊り子。旅の一座からはぐれたところをラーマンの盗賊に捕まりそうになり、ナバールに助けを求める。ナバールとともに同盟軍に加わると、その踊りで多くの兵を力づけたという。英雄戦争終結後、ナバールのあとを追うかのように風のように姿を消す。

ワーレンを守る傭兵コンビ

港湾都市ワーレン

大陸東部に位置する貿易港で知られる独立都市。ドルーア帝国に対して多額の税金を支払うことによって自治を保つ。いっぽう、アカネイア諸国とも友好関係を保ち続けたこの都市は、暗黒戦争期では数少ない中立地帯であった。



【TCG】



【暗黒竜】



【TCG】



【暗黒竜】

シーザ

ワーレンの町を守っていた傭兵。ワーレンで同盟軍がグルニア軍に包囲されたとき、助力を申し出る。暗黒戦争後は、どこかの町を守っているとも、一軍の将になったともいわれる。

ラディ

ワーレンを守る傭兵、相棒のシーザとともに、グルニア軍の包囲網を同盟軍が突破できるよう協力する。相手は不明だが、暗黒戦争のさなか恋に落ち、終戦後は剣を捨てたという。

【新暗黒】



アテナ

恩義に報いる異国の剣士

暗黒戦争時、オレルアン近郊の村で同盟軍に加わった女剣士。漂流して衰弱したところを村人に助けられ、その恩に報いようと海賊と戦った。異なる大陸から流れ着いたのか、片言の言葉で話す。

【暗黒竜】



【新暗黒】



ベック

辺境出身の戦車兵

大陸東部の辺境ディール出身の戦車兵。暗黒戦争期、メニディにてグルニアの木馬隊に苦しむ同盟軍に加勢する。戦後は辺境を巡り、ドルーアの残党掃討にあたった。

【新暗黒】

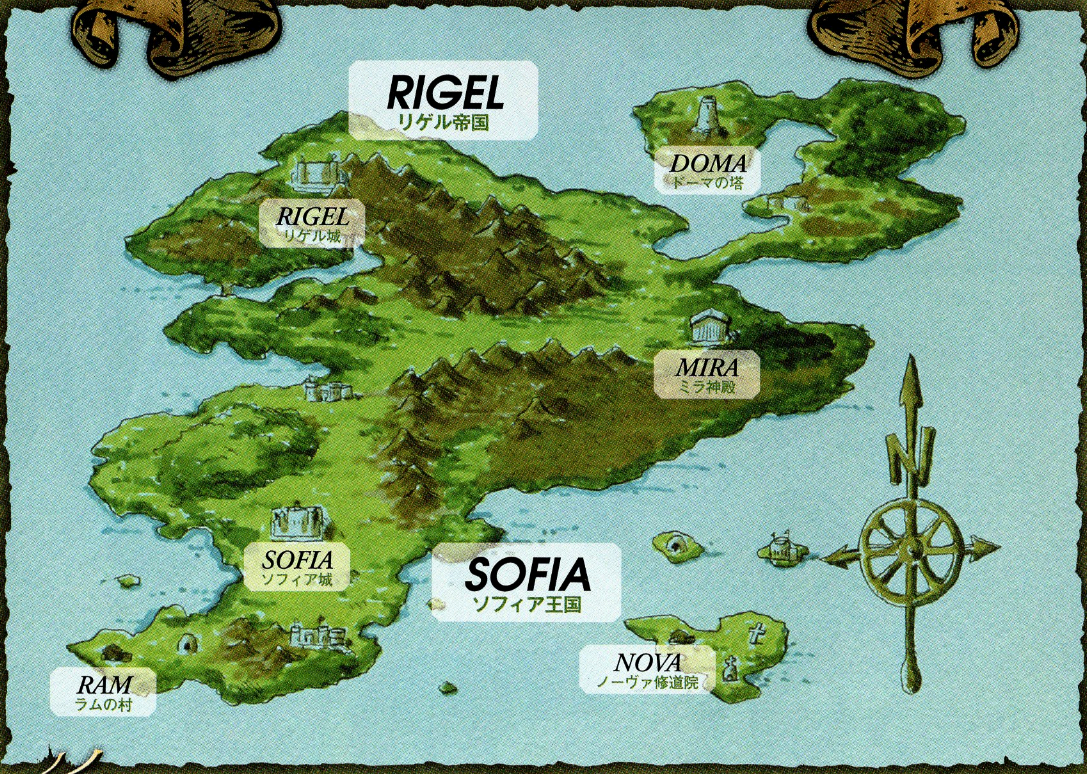


エッツェル

妻を奪った戦争を終わらせるために

旅の闇魔道士。メニディ川の戦いに巻きこまれ、妻アーシェラを失う。妻の指輪を盾にグルニア軍への協力を強要されるが、グルニア軍をマルスが討つと、戦争を終わらせるため同盟軍に志願した。

バレンシア大陸



THE BARENSIA CONTINENT

BARENSIA SAGA

バレンシア大陸には２人の神が存在していた。
ひとりは優しさと美しさ、
そして自然との調和を司る妹神、大地母神ミラ。
もうひとりは力と欲望、
そして自然の征服を司る兄神、邪神ドーマ。
永きに渡って対立してきた兄妹は、
やがて盟約を結び、バレンシア大陸を２つに分かつ。
北の地を治めるのはドーマ。
その地には、リゲル帝国が建てられた。
南の地を治めるのはミラ。
その地にはやがてソフィア王国が生まれた。

時が流れ、人々はやがて神を忘れる。
リゲル帝国の人々は、
たくましきがゆえに優しさを失い、
ソフィア王国の人々は、豊かなるがゆえに堕落した。

そして、戦乱の世が訪れる。
凶作にあえぐリゲル帝国は、
皇帝ルドルフの下、ソフィア王国へ侵攻。
ソフィア王国を牛耳っていた宰相ドゼーは、
戦いもせずに降伏した。
大陸は戦火と虐政に覆われ、
人々は救世主の出現を願った——。

やがて、２つの希望の灯が大陸に燈る。
解放軍に身を投じたアルムと、
ソフィア王家の王女セリカ。
ほんの小さな２つの灯火は、やがて大陸の闇を
払わんほどに輝きを増してゆくことになる——。

◆アカネイア暦年表

神話・伝説の時代

?
- ・兄妹神ドーマとミラ、バレンシア大陸の統治をめぐって対立。
- ・ドーマとミラの間に盟約成立。大陸北部をドーマ、大陸南部をミラが治めることに。
- ・大陸北部にリゲル帝国、大陸南部にソフィア王国がそれぞれ興る。

バレンシア動乱

590年頃
- ・アムル、セリカ生まれる。
- ・人間の堕落により、大地母神ミラの力が衰退。大地から恵みが減りはじめる。
- ・リゲル帝国、3年連続の凶作にみまわれる。
- ・リゲル帝国のルドルフ帝、ソフィア王国に援助を請う。しかし、ソフィア王リマ4世はこれを拒否。
- ・ルドルフ、わが子アルムをマイセンに託す。
- ・ソフィア王国の宰相ドゼー、王子、王女の暗殺を開始。セリカはマイセンに救出される。
- ・アルムとセリカ、マイセンの庇護の下、ラムの村にて育つ。
- ・セリカ、ノーヴァ修道院へ入る。

604年
- ・ミラ、ファルシオンによって封印される。ソフィア王国領でも凶作始まる。
- ・リゲル帝国、ソフィア王国へ侵攻。ソフィア王国を支配していたドゼーは、リマ4世を弑逆し、直ちにリゲル帝国に降伏。帝国のソフィア支配に手を貸し、自らの地位を守る。

606年（外伝）
- ・アルム、解放軍に参加、リーダーとして迎えられる。ドゼーの支配への反抗開始。
- ・セリカ、ミラ神殿へ向かうべくノーヴァから旅立つ。
- ・解放軍、ソフィア城を奪還。ドゼー、リゲル帝国に援軍を求める。
- ・解放軍、ドゼーを撃破。ソフィア王国北部のリゲル帝国軍を撃退。ソフィア王国解放に成功。
- ・セリカ、大陸東部の盗賊勢力を駆逐。
- ・ミラが封印されたと知ったセリカ、封印を解くためリゲル帝国領ドーマの塔を目指す。
- ・セリカ、ドーマ教団の最高司祭ジュダに囚われる。
- ・解放軍、リゲル帝国に進軍。ルドルフ1世を撃破する。
- ・アルムがルドルフ1世の息子と判明。帝国民は「ルドルフ2世」としてアルムを熱狂的に迎える。
- ・アルム、セリカを救出。邪神ドーマを討つ。
- ・アルム、バレンシア統一王に即位。セリカを王妃として迎える。

神話・伝説の時代

ドーマとミラの対決と2つの国の勃興

兄妹神であるドーマとミラは、バレンシア大陸の統治を巡って対立する。優しさと美しさを司る妹神ミラは、生き物が自由に遊び戯れる楽園を夢見た。だが、力と欲望を司る兄神ドーマはそれを堕落と見なし、力こそがすべてという弱肉強食の世界を求めたのである。互いに相いれぬ神々は永きにわたって争い、そして、ひとつの盟約をかわす。バレンシア大陸を南北に分かち、ドーマは北を、ミラは南をそれぞれ治めることとしたのである。



そして、バレンシア大陸には2つの国が生まれた。北には騎士の国のリゲル帝国。彼らはその強さで、大陸を外敵から守る。南には文化の国のソフィア王国。実り豊かなその大地は、人々に日々の糧を与えた。異なるがゆえに均衡を保つ両国。しかし、時の流れが、そんな両国の在りようにひずみを生じさせる。そして、大陸北部に凶作が訪れたとき、そのひずみは戦火となって大陸を覆うこととなる。

バレンシア動乱

大陸を襲った凶作と皇帝ルドルフの決意

ソフィアの民が自然との共存を忘れたことにより、ミラの力は衰退の一途をたどる。ミラの力は、バレンシアの実りの力。その衰退は、リゲル帝国の3年連続の凶作という形で現れた。

リゲル帝国の皇帝ルドルフ1世は、困窮する国を憂い、南のソフィア王国を訪れて援助を求めた。ミラの支配地であるソフィアには、まだ実りの力が残っていたのだ。ところが、時のソフィア王リマ4世は、宰相ドゼーの甘言に乗り、余裕があるにもかかわらず援助を拒絶してしまう。失望したルドルフ皇帝は、ソフィアへの侵攻を決意。そして、ソフィアの騎士マイセンに我が子を託し、リゲル帝国へと戻るのだった。


【 ルドルフ 】


【 マイセン 】

ルドルフとマイセンの密約

侵略者となった自分は、いずれ勇者に討たれる。ルドルフは我が子がその勇者になることを望み、アルムをマイセンに託した。

バレンシア動乱

リゲル帝国の侵攻と動乱の始まり

ソフィア王国でクーデターをもくろむ宰相ドゼーは、手始めに王子王女の暗殺を開始。マイセンがその罪を問うも、逆にドゼーによって宮廷から追い出される。生き残った王家の子息は、マイセンが密かに救った幼い王女セリカのみだった。

それからおよそ10年、リゲル帝国軍がソフィア王国へと侵攻する。本来なら、神々の盟約によってリゲルとソフィアは戦えないはず。しかし、皇帝ルドルフはドーマから与えられたファルシオンでミラ神を封印し、盟約を無効にしたのだ。この脅威に、ドゼーは国王リマ4世を弑逆し、戦いもせずに降伏。ソフィアを守るどころかリゲルの手先となり、率先してソフィアの民を虐げた。

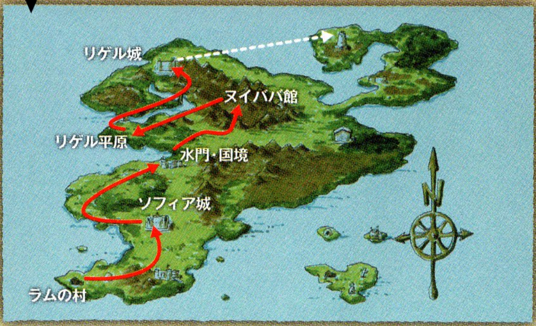
さらに、大地母神ミラの力が消えて、ソフィアからも実りが消える。凶作と戦禍の中で辛苦にあえぐ人々は、救世主の出現を祈るのだった。

解放軍から生まれた希望の光

ラムの村で育ったアルムは、ドゼーとリゲル帝国の圧政からソフィアを救うべく、解放軍に加わる。解放軍のリーダーのクレーベは、マイセンの孫だというアルムに指揮権を譲渡。解放軍を率いることになったアルムは、ドゼーを、そしてリゲル帝国軍をソフィアから駆逐する。

さらにリゲル帝国領へ進軍し、皇帝ルドルフを討つアルム。最期のときを迎えたルドルフは、自分とアルムが親子だと明かすと、アルムに邪神ドーマを滅ぼすよう言い遺す。

アルムの進軍ルート

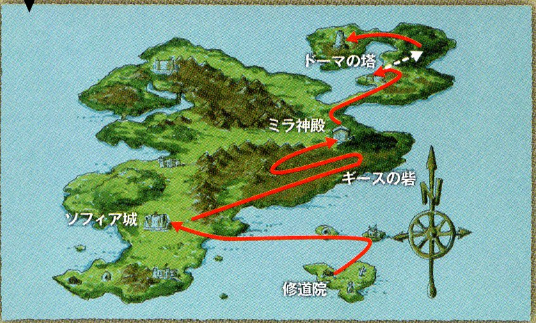


解放軍と合流したアルムはまずソフィア城を解放。大陸西部を転戦し、リゲル帝国まで攻め上る。そして、ルドルフの遺言に従ってドーマ討伐へ。

大地母神ミラの復活のために

凶作が続くのは、ミラ神になにか異変が起きたからではないか。そう考えたセリカは、ソフィア王国の北東にあるミラ神殿へと旅立つ。大陸東部に跋扈する賊を討ちながら北上したセリカは、ミラ神殿に到達。そこで彼女は、ルドルフがミラを封印したこと、そしてドーマの塔に至ればミラを復活できるかもしれないことを知る。ドーマのしもべたちと戦いつつ、ドーマの塔を目指すセリカ。しかし、彼女は、ドーマ教団の祭祀長ジュダに囚われてしまう。

セリカの進軍ルート



ノーヴァ修道院を出たセリカは、海賊や盗賊を討ちながら大陸東部を北上。ミラが封印されたと知り、その封印を解くためにドーマの塔へ向かう。

邪神ドーマの討伐とバレンシア統一王国の誕生

囚われのセリカを救って邪神ドーマを討つべく、アルムはリゲル城の地下通路を通ってドーマの塔へ急ぐ。窮地に陥ったセリカと合流すると、アルムは塔の地下で見つけた「ファルシオン」を手にドーマに戦いを挑む。死闘の末、ついにドーマに打ち勝つアルム。しかし、封印されゆくドーマがアルムに残したのは、意外な言葉であった――「我ら兄妹の意思を受け継ぎ、この地を治めよ」。

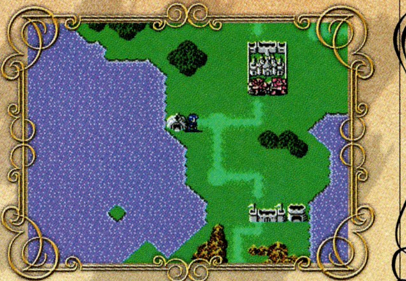
これまでバレンシアの神々は、人間に深くかかわりすぎていた。ドーマが力を与えたリゲルの民は優しさを忘れ、ミラが恵みを与えたソフィアの民は働くことを止めた。神の過剰な干渉が、人の歩みを歪めていたのだ。ファルシオンによってミラもドーマも眠りにつくことになるが、そもそもこのファルシオンをルドルフに与えたのはドーマ自身である。人間たちを解き放つために、神は自分から眠りにつこうとしたのかもしれない。

リゲル帝国の皇子アルムと、ソフィア王国の王女セリカの結婚により、バレンシア大陸は統一されることとなる。統一国家バレンシア王国の誕生。それは、人々が神の手から自立し、自分たちの足で未来へと歩み始めたことの象徴となった。

解放軍

圧政に立ち上がった義勇の軍勢

ソフィア宰相ドゼーやリゲル帝国による圧政から民衆を解放するために立ち上がった抵抗勢力。当初はクレーベをリーダーとしていたが、後にアルムを指揮官に迎え、ソフィア、リゲルの両軍勢と戦う。アルムがバレンシアを統一した後は、統一王国の騎士団に解放軍の多くの者が参加することになる。



アルム



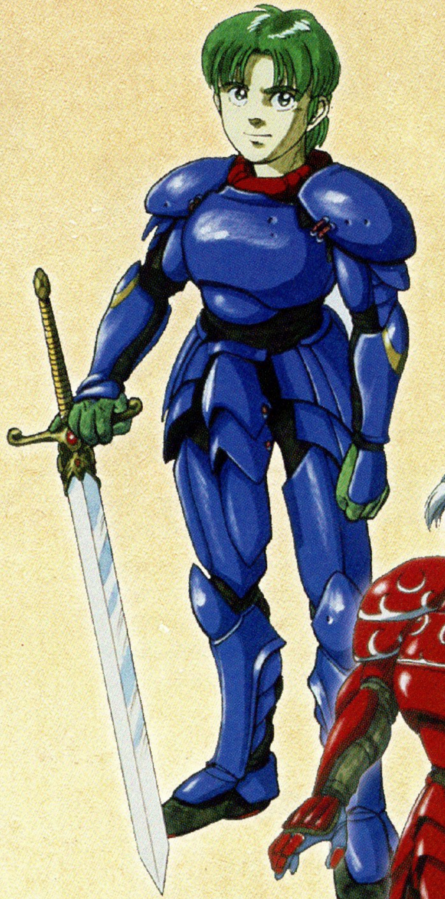
混迷するバレンシアに生まれた希望の光

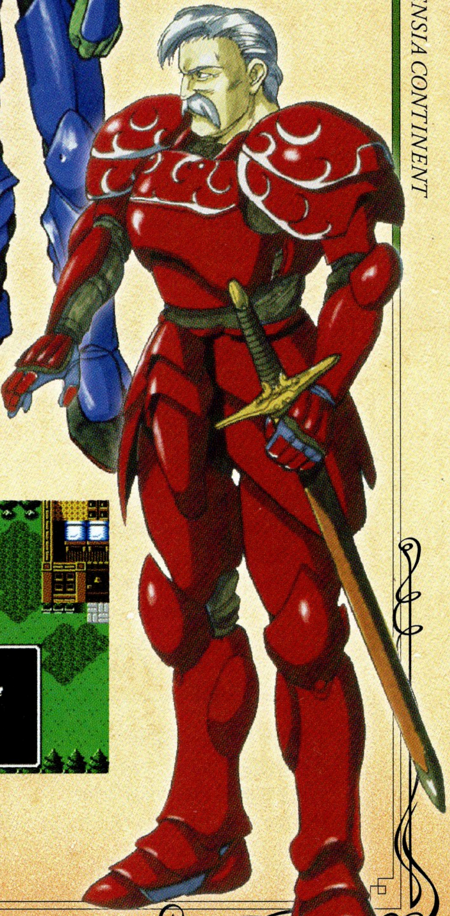
リゲル帝国皇帝ルドルフ1世の実の息子。本名をアルバイン・アルム・ルドルフといい、右腕に十字のあざがある。物心つかないうちにマイセンに託され、孫としてラムの村で育つ。ソフィア王家の王女であるセリカとは、幼いころの一時期、ラムの村で一緒に暮らしていた。マイセンの協力を仰ぎにルカがラムの村に現れると、自ら志願して解放軍に加入。解放軍リーダーのクレーベから解放軍の指揮を任され、ソフィア、リゲルの両国を相手に戦い始める。ルドルフの血を引き、マイセンに鍛えられたアルムは、指揮官として才能を開花させ、圧政から民衆を救い、邪神ドーマを封印した英雄となる。

動乱終結後はセリカと結婚。バレンシア王国の初代国王となり、大陸を統一する。後世の人々は、彼を千年王朝の基礎を築いた「聖王アルム1世」として讃えたという。



←マイセンにかわって解放軍に加わることを決めたアルム。小さなラムの村から旅立った少年は、やがてバレンシアを導く希望の光となる。





マイセン



後事を託されたソフィアの将軍

かつては英雄として知られたソフィア王国の騎士。その高潔さを見こまれ、リゲル帝国のルドルフ1世からアルムを託される。また、ソフィアの王女セリカを宰相ドゼーの暗殺の手から救出。リゲル、ソフィアの継承者を両方とも保護することとなる。アルムとルドルフの相克を避けようと解放軍への協力を断るが、アルムが解放軍に志願したため、子が父を討つという悲劇となる。その後は解放軍に参加し、バレンシア王国成立後には宰相となってアルムを補佐した。



↑アルムが解放軍に加わることに反対するマイセン。父と子の相克を避けたかったのだが……。

●バレンシア大陸のキャラクターイラストは、すべて『ファイアーエムブレム 外伝』のものです。





マチルダ

囚われた解放軍の女騎士

解放軍に所属する聖騎士。クレーベとは恋仲。ドゼーの捕虜となり、見せしめに処刑されそうになるが、アルム率いる解放軍によって救出される。その実力は“伝説の女騎士”と呼ばれるほどであるが、戦争終結後は軍から退くことになる。やがてクレーベと結婚し、騎士ではなく妻として暮らし始める。

❶マイセンのかわりに、自分たちを率いてほしいとアルムに頼むクレーベ。以後は、アルム指揮下の一騎士としてバレンシアの動乱を戦いぬいた。





ルカ

アルムの解放軍参加のきっかけとなった兵士

解放軍の兵士。マイセンに解放軍への協力を求めるために、ラムの村を訪れる。これをきっかけとして、アルムは解放軍に志願。ルカはそれを喜び、アルムを解放軍のアジトまで案内する。解放軍の指揮権がアルムに移ったあとも、その下で数々の戦いに参加。バレンシア王国成立後は、王国騎士団の一員となった。

クレーベ



アルムに解放軍を託した元リーダー

ドゼーの圧政からソフィア王国を救うべく立ち上がった解放軍のリーダー。クレアの兄で、マチルダとは恋人同士。マイセンに新たな王になってもらおうと考えたが、マイセンはそれを固辞。そこで、孫であるアルムに代役を期待し、解放軍の指揮権を委ねる。バレンシア王国成立後は、騎士団を任されることになる。

クレーベの信任厚き部下

フォルス



クレーベに従って戦っていた解放軍の兵士。クレーベの方針に従い、アルムの指揮下に入る。動乱終結後は、バレンシア王国の騎士団に参加し、バレンシアの復興に尽力した。

パイソン



解放軍の弓兵。解放軍のアジトでは見張り役を務める。アルムに従って各地を転戦するが、動乱終結後はバレンシア王国の騎士団には加わらず、自警団を結成して村人を守ったという。

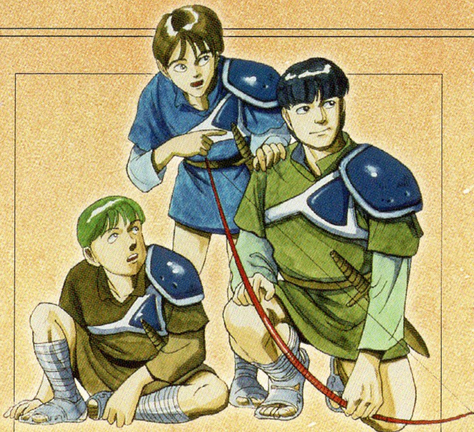




クレア

クレーベの妹は解放軍のアイドル？

解放軍の一員でクレーベの妹。バレンシア大陸では珍しい天馬騎士。ドゼーの配下に囚われていたところをアルムに救われ、以後、彼の下で戦うことになる。密かにアルムに惹かれるが、アルムの幼なじみのグレイ、ロビンから猛烈な恋のアタックを受けることになる。動乱終結後、しつこさに負けてグレイと結ばれた。



ラムの村で育った アルムの幼なじみ

グレイ



ラムの村の村人。幼なじみのアルムたちとともに解放軍に志願する。ロビンとのクレア争奪戦に勝ち、みごとに彼女と結ばれる。

ロビン

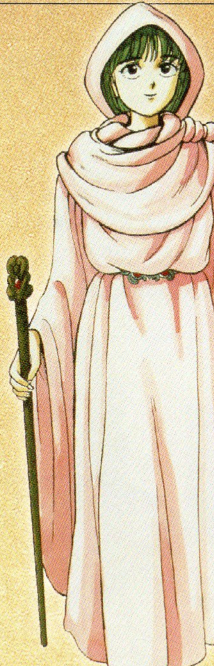


幼なじみと一緒に解放軍に加入したラムの村の村人。グレイとはクレアを争う恋敵ともなる。動乱終結後はバレンシア騎士団に参加。

クリフ



アルムらと幼なじみの村人。皆が解放軍に加入すると聞き、自分も志願した。動乱終結後、アルムに別れを告げて姿を消す。





◀シルク

解放軍を支える ミラ神のシスター

大地母神ミラを信奉するシスター。盗賊たちに囚われていたところをアルムたちに救われ、以後行動をともにするようになる。動乱終結後は、傷ついた人を助けるためにリゲル帝国で活動した。



⬆アルムに助けられ、シルクは盗賊のアジトから脱出。その後解放軍に入る。



リュート▼

妹を救うために 闘う魔道士

妖術師タタラに操られた妹デューテを救うために、解放軍に助けを求めた旅の魔道士。アルムたちの協力を得てタタラを倒し、妹の洗脳を解くことに成功する。その後、妹とともに解放軍の一員として戦い、リゲル帝国軍の撃破に貢献。ただし、本人は自分の魔力はまだ未熟と考えており、バレンシア大陸の統一を見届けると、修行のために他の大陸へと旅立った。



⬅森の村でアルムと出会ったリュートは、妹を助けてくれと懇願する。







◀デューテ

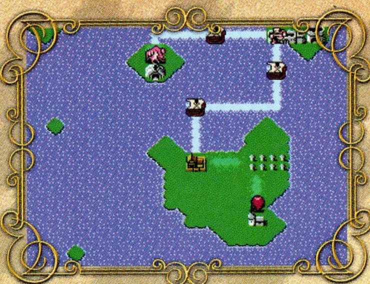
妖術師に操られた リュートの妹

リュートの妹。優れた魔術の才ゆえに妖術師タタラに目をつけられ、操られることになる。解放軍がタタラを討ったことによって呪縛から解き放たれると、兄とともに解放軍の一員として活動。破壊の魔力を振るう自分が好きではなかったらしく、動乱終結後は魔力を封印し、普通の女性として生活する道を選んだ。



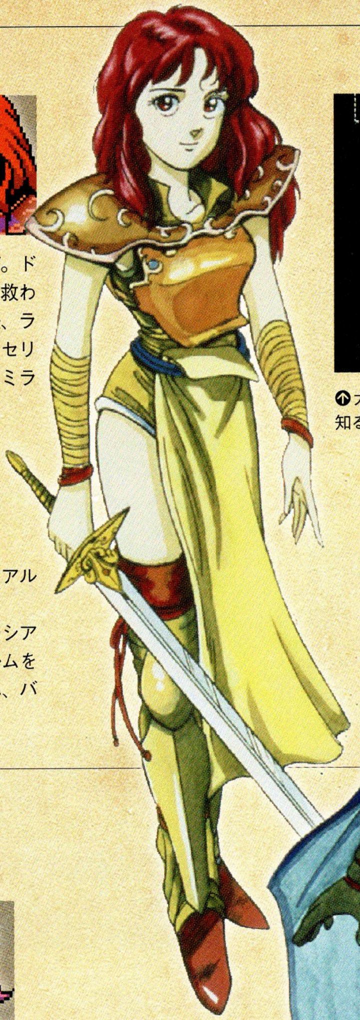
⬅タタラの呪縛で意思を奪われていたデューテは、死と破壊をふりまく魔女と化した。

ノーヴァ修道院



ミラの声を聞くために

バレンシア大陸の南東に浮かぶ小島に、ノーヴァ修道院はある。ソフィアから実りが消えて3年、ミラの教えを静かに伝えるこの修道院にも、難民が助けを求めて訪れるようになっていた。ミラ神になにか異変が起こったのでは……。それを確かめるために、セリカは修道院の仲間たちとミラ神殿へ旅立った。





セリカ ►

ミラが治める大地の正当な後継者

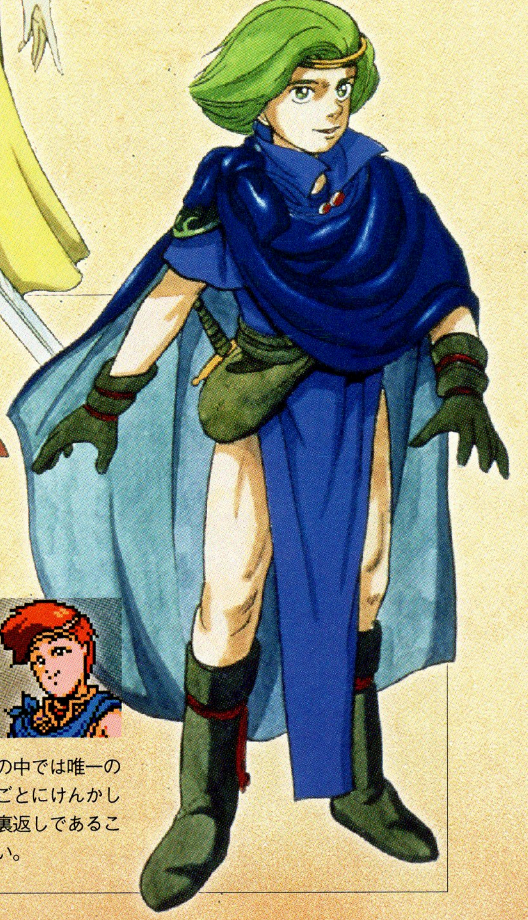
ソフィア王家唯一の生き残り。本名はアンテーゼ。ドゼーが王家の子息を暗殺し始めたとき、マイセンに救われ、数年ほどラムの村でアルムと暮らした。その後、ラムの村にも暗殺の手が伸びる危険があることから、セリカだけノーヴァ修道院に預けられる。この修道院でミラの教えを修め、神官戦士となる。

ソフィアに凶作が続くと、セリカはその原因を探ろうとミラ神殿へ向かう。修道院の仲間たちと盗賊討伐を行いつつ、大陸東部を北上。神殿に到着した彼女はミラが封印されたと知ると、その封印を解くべくドーマの塔を目指した。ドーマ教の祭祀長ジュダによって囚われの身となるが、窮地をアルムに救い出され、共闘してドーマを討ち果たした。

後にセリカはアルムと結ばれ、統一されたバレンシア王国の初代王妃となる。その優しさと聡明さでアルムを支えたセリカは、「ミラの生まれ変わり」ともいわれ、バレンシアの民から敬愛されたという。



↑大地母神ミラに何が起きたのか？　その真相を知るために、セリカは修道院から旅立つ。



セリカとともに旅だったミラの信徒たち

メイ



セリカとともに修道院で学んだ女魔道士。ボーイとはいいケンカ仲間。バレンシア大陸統一後は修道院へ戻り、ボーイと一緒に働いている。

ジェニー



ミラ教のシスター。セリカとともにノーヴァ修道院から旅立つ。動乱終結後は、誰もがまさかと思う相手と恋に落ち、結ばれたらしい。

ボーイ

ノーヴァ修道院で学んだ魔道士。セリカとともに旅立った一行の中では唯一の男性。メイとはことあるごとにけんかしているが、それが好意の裏返しであることにお互い気づいていない。

ノーマ

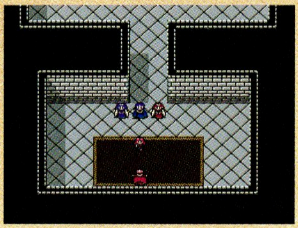




セリカを教え育てた ミラ教の大司祭

ミラ教の大司祭。ラムの村が危険だと考えたマイセンからセリカを託され、彼女をノーヴァ修道院で神官戦士として育てる。そのため、セリカがソフィア王家の生き残りであることを知っている数少ない人物である。

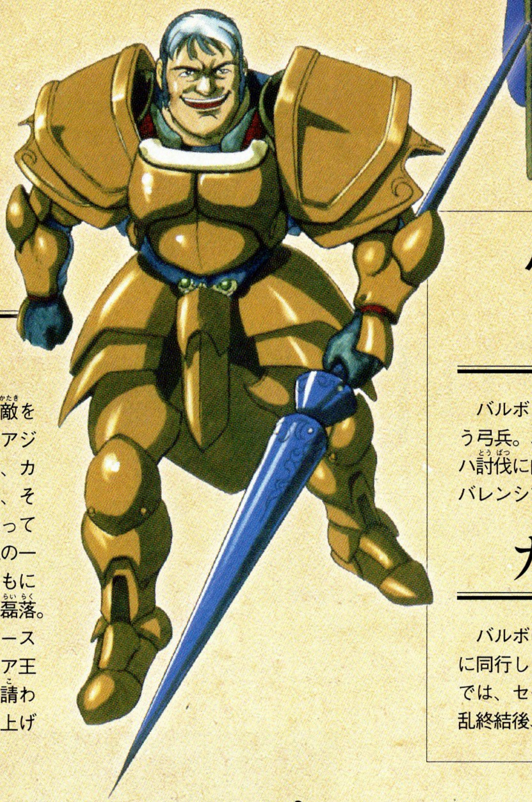
セリカの旅立ちを見送りはしたものの、心配になって後に合流。ドーマとの決戦にも参加する。バレンシアの統一後は、ミラとドーマの2つの教団を統合。その最高司祭となって、信徒を教え導いた。



⬆セリカを始め、メイ、ジェニー、ボーイは、全員ノーマの教え子だ。



バルボ



海賊退治に 闘志を燃やす好漢

家族を海賊に殺され、その敵を討とうと海賊の首領ダッハのアジトに乗りこんだ重装兵。レオ、カムイを引き連れているものの、それでも多勢に無勢で窮地に陥っていた。そこをセリカから修道院の一行に救われ、彼女と行動をともにするようになる。性格は豪放磊落。賊を憎み、その後も盗賊王ギース討伐などでも活躍。バレンシア王国が統一されると、アルムに請われて王国騎士団の若者を鍛え上げる指南役に就いた。

バルボの手下たち

レオ



バルボを「兄貴」と呼んで従う弓兵。バルボとともにダッハ討伐に向かい、セリカたちと出会う。統一後のバレンシア王国では騎士団に参加する。

カムイ



バルボに雇われ、海賊退治に同行した傭兵。セリカ一行では、セーバー、ジェシーら同業と意気投合。動乱終結後、ジェシーの王国樹立に協力する。

セーバー

セリカが港で出会った 用心棒



ノーヴァの港でセリカに雇われた用心棒。セリカの旅立ちの早い内から修道院一行を守った。動乱終結後はジェシーに協力し、ともに砂漠の王国を建てた。美しい妻を迎えたというが相手は不明。修道院のあの娘か。

アトラス

盗賊王ギースを憎む 山の村人



ソフィア王国北部の山の村に住む村人。弟や妹をさらったギースを憎んでおり、ギース討伐に向かうというセリカ一行に加わる。

動乱終結後、弟たちを無事に見つけ出すと村へ戻り、きこりとして静かに暮らす。

ジェシー

ギース打倒に協力する 砂漠の傭兵

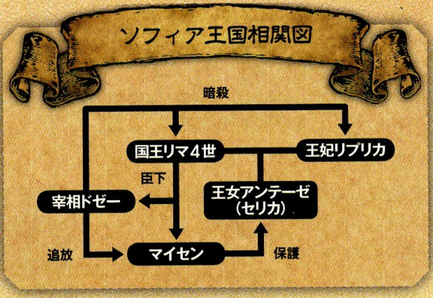


ギースを討ちに向かうセリカ一行に加わった傭兵。動乱終結に力を貸した後、無法地帯と化していた砂漠へ向かって新王国樹立に力を尽くす。後に砂漠の国の王となった彼は“砂漠の傭兵王”と呼ばれたという。

ソフィア王国

豊かさゆえに堕落した国

大地母神ミラの加護の下に興こった国。大地の実りに恵まれるが、その豊かさに慣れた人々はやがて感謝の心や自律心を失い、怠惰で放埒になる。国王リマ4世などは、隣国の窮状を知っても、手をさしのべるどころか嘲笑う始末。彼の傲慢な態度が、バレンシア動乱を引き起こすことになる。





ドゼー

主君を暗殺した佞臣

ソフィア王国の宰相。暗君リマ4世を傀儡同然に操り、王国の実権を握る。反逆を企み、その手始めとして王族の子息の暗殺を開始。それをマイセンに咎められるが、リマを4世をそそのかして、逆にマイセンを追放することに成功する。ソフィア王国がリゲル帝国の侵攻を受けると、これを好機と見てリマ4世を弑逆。直ちにリゲル帝国に降伏し、その手先としてソフィアに圧政を敷いた。後に解放軍によって討たれる。

ソフィア王国の将軍
スレイダー



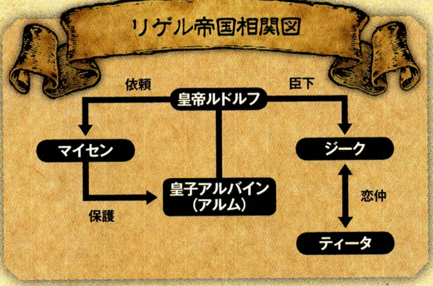
ソフィア王国の聖騎士。ドゼーの親衛隊の隊長。凄腕として知られ、ドゼーに反発する者に恐れられていた。ソフィア城を守備していたが、アルム率いる解放軍によって討たれる。

THE BARENSIA CONTINENT

リゲル帝国

剽悍なる騎士の国

力と欲望を司る邪神ドーマの加護の下に興った国。厳しい規律の下、精強な軍を擁する。大地母神ミラの加護がソフィアに比べて薄いので、ミラの力が衰えたことによって凶作にみまわれることになる。そして、帝国が実りを求めてソフィア王国に侵攻したことにより、バレンシア動乱が勃発する。

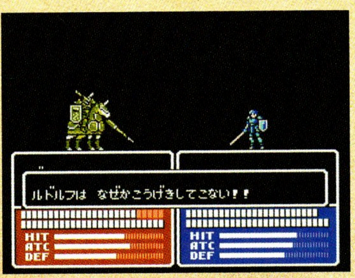




ルドルフ

英邁な皇帝が侵略者となった理由

ソフィア王国に侵攻し、バレンシア動乱を引き起こした皇帝。困窮にあえぐ自国民のためにソフィア王国へ援助を求めるが、リマ4世に拒否される。大陸そのものが衰亡しかねないと危ぶんだルドルフは、自分を捨石とすることを決意。まず自身が力を持って大陸全土を制圧。その後、しかるべき英雄に侵略者である自分が討たれることで、大陸を1つにまとめようとしたのだ。できれば、大陸を統一する英雄が我が子であってほしいと考えたルドルフは、息子のアルムをソフィアの騎士マイセンに託す。後にルドルフを討ち、大陸の救世主となった解放軍のリーダーは、ルドルフの望んだとおり息子のアルムであった。



解放軍のリーダーとなったアルムと対峙したとき、ルドルフは反撃することなくアルムの攻撃を受け続けた。英雄となった我が子の成長を身をもって受けることは、苦渋の決断を下した彼にとって喜びですらあったのかもしれない。



マッセナ

リゲル帝国の親衛隊長。ルドルフからすべての事情を聞かされており、ルドルフ敗北後の帝国軍をまとめ、アルムに引き継がせる役を担った。



ジーク

記憶をなくした最強騎士

リゲル騎士団の将軍。重傷の状態で海岸に流れ着いたところを発見され、ティータの看病で命を取りとめる。過去の記憶を失っていたが、そんな自分に名前を与えてくれたルドルフの人柄にうたれて忠誠を誓う。リゲル帝国によるソフィア侵攻には反対していたが、恋人となったティータを人質にとられてやむなく従軍。ティータが解放されたと知ると、民を苦しめていたジェロームを討ち、アルムに協力して解放軍の一員となる。



「十字のあざを持つ者あらば、その者にすべてを捧げよ」というルドルフの言葉を思い出し、ジークは解放軍に加入。十字のあざを持つ我が子アルムのために、ルドルフがそうジークに伝えていたのだろう。



ティータ

ジークを想うリゲルの聖女

癒しの力を使うリゲル帝国の聖女。海岸に倒れていたジークを見つけて看病。やがて、ジークと恋に落ちる。戦争に反対だったジークに対する人質として妖術師のヌイババに捕らえられるが、解放軍によって救出される。以後は解放軍の一員として従軍し、バレンシアの戦乱を止めるために尽力する。ジークを深く愛しているが、それゆえに、いつか彼が記憶を取り戻したら自分のもとを去るのではないかと、不安に思っている。



ジークを裏切らせないための人質として囚われていたティータ。彼女が救出されたと聞いたジークは、非道な行いを繰り返していた将軍ジェロームへと軍を向けるのだった。

ジークの正体は?

記憶を失っているというジーク。その顔は、アカネイア大陸のグルニアの将軍カミュにうりふたつ。暗黒戦争に敗れたカミュ将軍は戦死したという話だったが、死体は見つかっていなかった。もし彼が、バレンシアに流れ着いたのだとしたら……。

バレンシア動乱を戦いぬいたジークは、戦いの中で記憶を取り戻したという。彼がカミュであり、過去から逃げずに向き合おうとするなら、なんらかの形で一度アカネイアに戻るかもしれない。





カミュ
【暗黒竜】

上が『暗黒竜と光の剣』のカミュの顔。左右反転すれば、ジークとうりふたつだ。

THE BARENSIA CONTINENT

リゲル帝国の将軍

ローソン



ドゼーの援軍要請に応え、ソフィアの森に進駐した聖騎士。解放軍と最初に衝突したリゲル帝国の将軍となる。

ガゼル



ソフィアの森の北、国境の水門へと至る路上で解放軍と交戦。騎馬弓兵であり、配下にも弓兵が多かった。

シーザス



リゲル領の国境の森林地帯で、解放軍を迎撃。バレンシア独自の兵科である黄金騎士(上級聖騎士)だった。

ジェローム



自国内の村からも略奪するような強欲な将。その非道さに反発したジークに、攻められることとなる。

マグナム



リゲル城の南にある大滝で解放軍を迎え撃った将軍。魔女のヘステと連携して攻め、解放軍を苦しめた。

ミューラー



リゲル城の目前、難攻不落の要塞を守っていた騎馬弓兵。精鋭部隊を率い、解放軍をくい止めようと奮戦。

ギースの盗賊団

砂漠に拠って立つ盗賊たちの"王国"

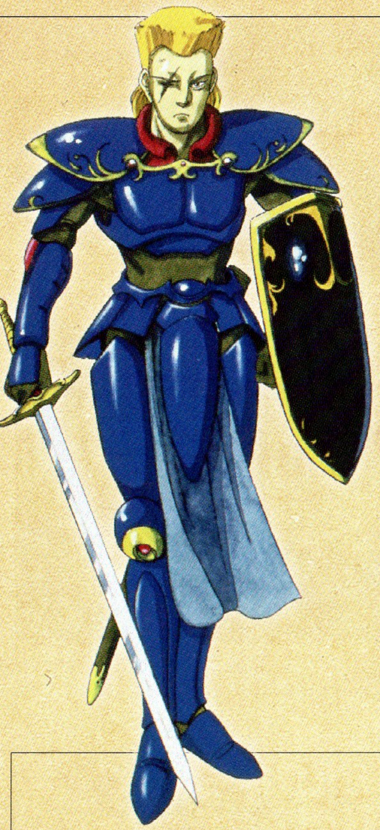
バレンシア動乱期、ソフィア王国東部の海と砂漠には、海賊や盗賊たちが跋扈していた。この賊たちを統括するのが、盗賊王ギースである。ほとんどが不毛の砂漠とはいえ、影響下に置かれた土地は広大。ソフィア王国からの干渉もなく、その支配地はまさにギースが治める"王国"といえた。動乱終結後も、これらの地域はバレンシア王国に組みこまれず、ジェシーによって新王国が築かれる。

ギース



砂漠の盗賊王

バレンシア動乱期、ソフィア王国東部を支配していた盗賊・海賊たちの"王"。絶大な勢力を誇るが、セリカ一行によってギースが討たれると、彼の王国は崩壊するのだった。



THE BARENSIA CONTINENT

◀ディーン

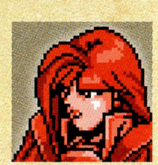
ギース配下の凄腕傭兵



ギースに雇われていた凄腕の傭兵。悪行ばかりを重ねるギースに愛想をつかしていたが、ソニアと互いを牽制し合っていたため、裏切ることができなかった。ギースが討たれると、セリカへの協力を申し出る。バレンシア動乱が治まると、新たな戦いの場を求め、南の大陸へ渡ったという。

ソニア▼

父の魔の手から逃れて



ジュダの娘。マーラ、ヘステの妹。ジュダによって魔女の身に堕とされそうになったため逃げ出し、砂漠に身を寄せる。ギースに雇われていたが、従うのは本意ではなかったようで、ギースが討たれるとセリカ一行に加入。後にジュダや魔女となった姉たちと戦うことになる。

if……

ディーンとソニアはギースを倒すと仲間になるが、そのギースと戦うには、2人のうちどちらかを倒す必要がある。つまり、ディーとソニアは、どちらかしか仲間にならない。



◀ギースの砦へのルートは2つ。北をディーン、南をソニアがふさいでいる。

ギース配下の賊徒

ダッハ



バレンシア大陸南東部を荒らし回っていた、海賊たちの首領。バルボの家族を殺した敵でもある。アカネイア大陸のエストを捕らえ、ギースに渡したのは、このダッハの配下の海賊の仕業と考えられる。

ブライ



「暗黒の剣」という魔剣を操る傭兵剣士。ミラ神殿へ至る道の途中にある谷で、部下の傭兵たちを率い、道行く人を襲っていた。通りかかったセリカ一行に襲いかかり、返り討ちに遭うことになる。

ガッハ



ソフィアの港のすぐ北の海岸を支配していた盗賊。アカネイアからやってきたパオラ、カチュアを捕らえようとしていた。ミラ神殿を目指すセリカ一行によって討たれる。

ウォルフ

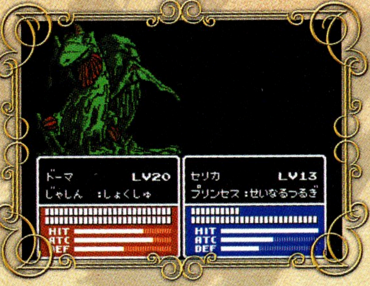


ソフィア王国東部に広がる砂漠の、中央に位置する砦を守るギース配下の狙撃弓兵。大量の弓兵を率い、砂漠で移動に困った者を狙い撃ちにしようとする。ギース討伐に向かうセリカたちに討たれる。

ドーマのしもべたち

邪神ドーマに従いし者たち

邪神ドーマを信奉する者たちのすべてが、邪悪というわけではない。とはいえ、破壊の魔法や邪悪な術を使う者が多いのもまた事実。とくにジュダが祭祀長になってからは妖術師、祈祷師、魔女たちが教団内で力を増し、おなじドーマの信徒を捕らえることさえあった。ドーマのしもべには醜怪な容貌をした者もいるが、これは名状しがたい姿をしたドーマ（右の写真がドーマの真の姿）の力を、色濃く享受した証なのかもしれない。





◀ジュダ

ドーマ復活を画策する魔王

ドーマ第一のしもべを自負する、ドーマ教団の祭祀長。実の娘であるマーラ、ヘステを魔女としてドーマに捧げるなど、酷薄な性格をしている。ドーマ教の大賢者ハルクを追い落とし、教団を掌握すると、ドーマの完全復活と、そのドーマによるバレンシア支配を画策。人の苦しみこそがドーマにとって最上の贄であると信じ、教団の妖術師たちを各地に派遣して、死と苦しみをふりまく。セリカ一行を捕らえてなぶり殺そうともするが、アルム率いる解放軍が救出。合流したアルム、セリカたちによって討ち滅ぼされる。

父の手により魔に堕ちた姉妹

マーラ



ジュダの娘。ソニアの姉。父の手により魔に堕とされ、破壊衝動にとらわれた魔女と化す。殺すことでしか、彼女を救済する術はない。

ヘステ



マーラと同じく、魔女に堕とされたジュダの娘でソニアの姉。一度解放軍に討たれるが、ジュダの術でマーラとともに復活。再度解放軍を襲う。



◀ハルク

セリカに手を貸した大賢者

ドーマ教の大賢者。ジュダと対立するが闘争に敗れ、賢者の里へ逃れて隠棲を始める。ドーマの信徒の中では珍しく破壊を好まず、賢者の里が平穏なのも、彼が里を守っているからこそであった。

セリカが賢者の里を訪ねると、「ミラを封じたファルシオンは、現在ドーマの塔に納められている」と教えてくれる。さらにセリカの願いを聞き入れ、遠く離れたアルムにドーマの加護を与える。バレンシア動乱終結後、ドーマ教はミラ教と統合されるが、その最高司祭の座はノーマに譲ったようだ。

バレンシアの妖術師たち



タタラ

ソフィア・リゲル間の国境にある水門を守っていた妖術師。デューテを洗脳して魔女とし、解放軍を襲わせた。



ミカエラ

ミラ神殿を掌握していた、ドーマ教の祈祷師。魔物ガーゴイルを召喚すると、セリカ一行の襲撃を指示した。



ガルシア

死人の沼を支配していた祈祷師。ミカエラと同様にガーゴイルを呼び出し、セリカの行く手を阻んだ。



ドルク

死人の沼の西方の砦を与えられた祈祷師。ジュダから侵入者を殺すよう命じられる。強力な魔物である屍竜を召喚する。



ジャミル

ドーマの塔への道をふさぐドーマの門を守っていた妖術師。その呪力は強大で、大地をも揺るがした。



ヌイババ

恐山を支配し、その頂上に館を構える伝説の妖術師。ジークの裏切りを防ぐために、ティータを捕らえていた。



ガネフ

ドーマの塔の地下、ドーマが復活した祭壇でアルムやセリカを待ちかまえた妖術師。ヌイババに匹敵する呪力を秘める。

肖像変遷記

アカネイア・サーガは、複数のタイトルでリメイクされた唯一の作品。
タイトルごとにさまざまなタッチで描かれた、キャラクター肖像の変遷を追ってみよう。

マルス成長の軌跡

同一タイトル内でも肖像に成長のあとが見られる、主人公のマルス。【新暗黒】序章の表情は、なんとも初々しい。

マルス



【暗黒竜】　【紋章】第1部　【紋章】第2部①　【紋章】第2部②　【新暗黒】序章　【新暗黒】

ヒロインの特権!

【紋章】の第1部と第2部とで、バリエーション違いの肖像を披露。これも、ヒロイン(候補)ならではの特権か。

シーダ



【暗黒竜】　【紋章】第1部　【紋章】第2部　【新暗黒】

マルスにとってもっとも大事なヒロインのシーダ。【紋章】の第1部に比べ、マルスと婚約したあとの第2部は、少しおとなっぽいかも。

ミネルバ



【暗黒竜】　【紋章】第1部　【紋章】第2部　【新暗黒】

【紋章】の肖像は、下部分に注目。多少手のしぐさに変化が。ちなみに、【暗黒竜】では、ミネルバが敵のときに別の肖像が見られる。

チキ



【暗黒竜】　【紋章】第1部　【紋章】第2部　【新暗黒】

成長著しいのがこのチキ。【紋章】の第1部と第2部とで、顔立ちにかなりの成長のあとが。やはり、子どもは成長が早いということか。

変装姿もかわいい?

ガーネフから逃げるために、男装していたというリンダ。しかし、その変装姿でも十分かわいいような……。

リンダ



【暗黒竜】　【紋章】第1部変装　【紋章】第1部　【紋章】第2部　【新暗黒】変装　【新暗黒】

イメチェン男子

男性でも、【紋章】の第1部と第2部とで変化した者はいる。成長というより、変貌に近い人物もいるが……。

マリク



【暗黒竜】　【紋章】第1部　【紋章】第2部　【新暗黒】

こちらは、まっとうに成長した印象のマリク。守りたい人がいる少年は、すぐに大人の男の仲間入りをするということなのかもしれない。

ハーディン



【暗黒竜】　【紋章】第1部　【紋章】第2部　【新暗黒】

【紋章】の第2部で、かなり変貌した人。闇のオーブに囚われたせいとはいえ、わずか2年の間に、ずいぶんと様変わりしてしまった。

変遷の基本形はこちら

タイトルごとに新たに描き起こされた、肖像変遷の基本形がこちら。全体的なイメージは、やはり統一されている。

オグマ



【暗黒竜】　【紋章】　【新暗黒】

ジュリアン



【暗黒竜】　【紋章】　【新暗黒】

レナ



【暗黒竜】　【紋章】　【新暗黒】

マリア



【暗黒竜】　【紋章】　【新暗黒】

ジョルジュ



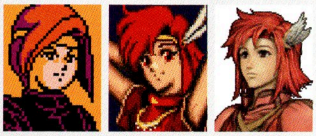
【暗黒竜】　【紋章】　【新暗黒】

ミディア



【暗黒竜】　【紋章】　【新暗黒】

チェイニー



【暗黒竜】　【紋章】　【新暗黒】

エリス

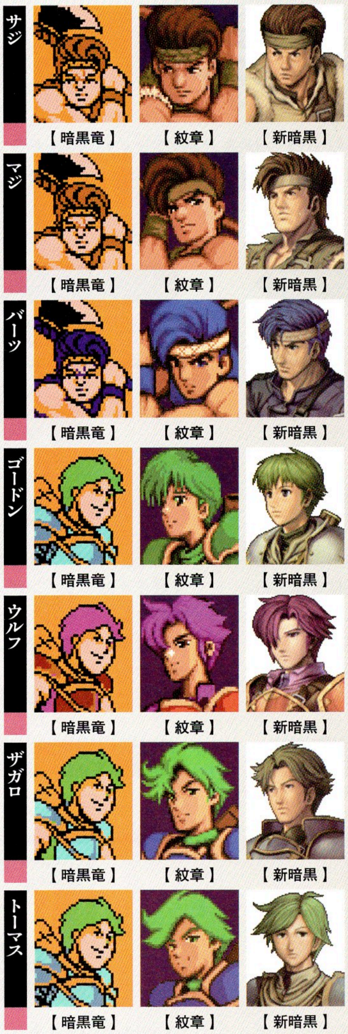


【暗黒竜】　【紋章】　【新暗黒】

脱・そっくりさん！

【暗黒竜】のときはちょっと似ていた人物も、【紋章】からはめでたく差別化。ずいぶんと印象が変わった人も……。





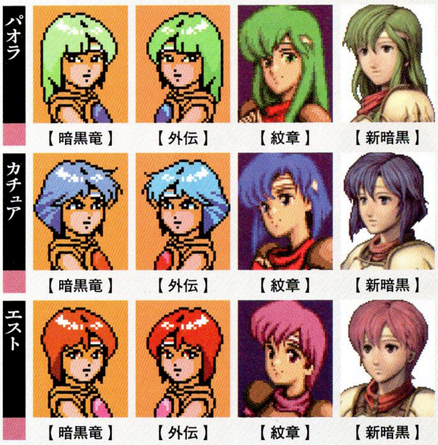
敵だってイメチェン！

味方だけでなく、当然敵にも肖像の変化あり。宿敵のメディウスは、どのタイトルでもさすがの貫禄。ハイマンは、作品を重ねるごとになぜかどんどん薄着に……。



バレンシアへ行ってきました

バレンシア大陸にまで足を伸ばしたのが、この天馬騎士三姉妹。4タイトルすべてに登場する「プレイヤーキャラクター」は、彼女たちだけだ。



同一人物……？

作中で明言はされないが、おそらく同一人物だろうというこの人の変遷。実は、他人の空似だったり……。



復活の5人！

【紋章】では出番なしの5名が【新暗黒】で復活。
※【暗黒竜】のベックとジェイクは後日談時の肖像。



赤緑の系譜

シリーズのファンにはおなじみの、「イメージカラーが赤と緑のライバル騎士２人」。
こうして比べてみると、それぞれ似ているようで、実はいろいろ違った特徴があるもの……。

暗黒竜と光の剣、紋章の謎、新・暗黒竜と光の剣

カイン／アベル




“元祖赤緑”といえるのが、このカインとアベル。どちらもアリティア騎士団所属のソシアルナイトで、性格はきまじめ。対照的なのはその生涯で、カインは王家一筋のストイックな生涯を送るが、アベルは騎士団をやめて恋人と店を開いたら実は三角関係だったという、なかなか波乱含みのラブロマンス状態。男としては、どちらもうらやましいかも……。

聖戦の系譜

ノイッシュ／アレク




両者ともに主人公の騎士団所属の騎士。赤（ノイッシュ）が力と守備力に秀で、緑（アレク）が素早さと技に秀でている。この2点に加え、赤は女性に縁遠く（カップリングを強化する支援会話なし）、緑は女性に恵まれる（シルヴィアとの支援会話あり）という点も継承された。ただ、その違いを明確にするために、アレクがやや軽薄な性格となったが……。

封印の剣

アレン／ランス




代々フェレ家に仕える騎士一族の出身であり、必要以上に熱くなりがちなアレン。それに対して、他家から転じてきたランスは、いつもクールな理論派。『封印の剣』の“赤緑騎士”は、どちらもフェレ騎士団に所属する騎士でありながら、性格や境遇は正反対。とはいえ、両者ともエリウッドやロイへの忠誠心は厚かった。

烈火の剣

ケント／セイン




２人ともキアラン騎士隊に属するソシアルナイト。無類の女好きであるセインが、手あたり次第に女性に声をかけ、堅物のケントがそれを諫める。この一連の流れは、リンの旅ではもはや日常の光景に。いっぽう、主家筋のリンに想いを寄せるケントが、セインに恋の相談する場面もあり、色恋沙汰に関しては持ちつ持たれつの２人であった。

聖魔の光石

フォルデ／カイル




いつも自由気ままなフォルデと、まじめ一辺倒のカイルは、ともにルネス騎士団所属の騎士。カイルはフォルデをライバル視しており、フォルデのだらけきった姿を見るたびに大声をあげる。というのも、カイルはかつて武道大会でフォルデに敗れたことがあり、確固たる実力を持ちながらふらふらとしているフォルデに、がまんならなかったのだろう。

蒼炎の軌跡、暁の女神

ケビン／オスカー




もとは王宮騎士団の同僚のケビンとオスカー。入隊2年目の馬術勝負でオスカーに敗れたケビンは、打倒オスカーを誓う。そして、すべてを忘れて訓練に没頭する。そう、彼はすべてを忘れた。肝心のライバルのことさえも。そんなケビンが、オスカーの姿が騎士団にないことに気づくのは、オスカーが団を除隊して半年後のことだった……。



World Guide

ユグドラル大陸編

収録作品

ユグドラル大陸



JUGDORAL SAGA



記憶の彼方の時代
魔王の闇が世を満たし
世界は悪夢の中にあった
果てもない嘆きの日々
むなしく見上げる天は暗い
十二の神、天より来たり
邪悪な闇に立ち向かい
光を呼び、魔を焼きつくし
失われし希望が
再びこの世に蘇った
そして今、
無数の昼と夜がめぐり
すべては伝説の中へ

◆グラン歴年表

時代	年	出来事
古代国家時代	001年	・ユグドラル大陸の中央、ユン河の西にグラン王国が成立。
	230年	・グラン王国が共和制に移行する(共和国グラン立国)。
	310年	・共和国グランが領土を拡大、盛栄の時代を迎える。
	440年	・大司教ガレのもとに暗黒神ロプトが降臨、「ロプト教団」が始動する。
暗黒教団時代	447年	・ロプト教団の戦士によって共和国グランが滅亡する(十二魔将の乱)。
	448年	・ガレ大司教が帝位につく(ロプト帝国の成立)。
	449年	・反乱分子を処分、10万以上の犠牲者を出す(大粛清)。
	452年	・暗黒神への生贄として多数の子どもが火に投じられる(ミレトスの嘆き)。
	453年	・推定犠牲者が数万人にも及んだ大虐殺が行われる(エッダの虐殺)。
	535年	・皇族の"聖戦士"マイラが反乱を起こす。
	611年	・大陸の各地で自由解放軍が興る。
	632年	・解放軍の戦士12人が人の姿に身をやつした神から奇跡を授かり、「十二聖戦士」が誕生する(ダーナ砦の奇跡)。
聖戦~国家連立時代	633年	・十二聖戦士の力を借り、ロプト帝国に反旗を翻した「聖戦」が始まる。
	648年	・ロプト帝国皇帝のガレ十七世が討たれる(ロプト帝国滅亡)。
		・十二聖戦士によってグランベル七公国とその周辺五王国が建国される。
	649年	・グランベル王国が成立。
ユグドラル動乱期(ロプト教団暗躍期)	757年	・イザーク王国のリボー一族がダーナを掠奪し、住民を虐殺。ダーナと友好関係にあったグランベル王国がイザークに向けて出兵する。
		・グランベルとの和平に向かったイザーク王が暗殺され、後継のマリクル王も戦死を遂げる。
		・ヴェルダン王国がグランベル王国に侵攻開始、ユングヴィ城を制圧。それを受けてグランベルから出立したシアルフィ家のシグルド公子軍はユングヴィ城を奪還後、ユングヴィ公女エーディンを救出するため、ヴェルダン王国内へ進軍、ヴェルダン軍を撃破（ヴェルダンがグランベル統治地に)。
	758年	・アグスティ王家のイムカ王が暗殺され、長子シャガールが王位に即位。シャガール王はヴェルダン領を統治するシグルド軍に対して挙兵する(アグストリアの動乱、～759)。
		・シグルド軍がアグストリア諸公連合軍を撃破、加えてハイライン・アンフォニー・マッキリーを制圧し、アグストリア領内で1年間の駐留に入る。
		・グランベル王国クルト王子、暗殺される。
		・シャガールが再度挙兵するもシグルド軍により壊滅(アグストリアをグランベルが占領下に)。
		・グランベル軍がイザークを占領下に。
	760年	・シレジアで内乱勃発。
		・トラキア王国軍が遠征中のレンスター王国軍を奇襲、全滅させる(イードの虐殺)。
		・シグルド軍がグランベル軍を撃破しつつ、グランベル王国内バーハラに進軍。しかし、ヴェルトマー軍によってシグルド軍は壊滅する(バーハラの悲劇)。これにより「バーハラの戦い」終結。
統一帝国圧制期	761年	・グランベル王国がシレジアを占領下に。
		・トラキア軍がレンスターを制圧。
		・グランベル軍がマンスター地方に進軍、メルゲンでトラキア軍と戦闘に入る。トラキアはマンスター地方を和睦の条件としてグランベル帝国に譲渡(グランベル帝国成立)。
		・王女ディアドラと結婚したヴェルトマー家当主アルヴィス卿がグランベル帝国初代皇帝の座に。
光の解放戦争	776年	・帝国による子ども狩りが始まる。
		・マンスター地方でリーフが挙兵(トラキア解放戦争、～777)。
	777年	・セリスがイザークで挙兵(ユグドラル解放戦争、～778)、後にリーフ軍と合流。
		・シアルフィにてアルヴィス皇帝が落命。
	778年	・バーハラ、解放軍によって陥落する(グランベル帝国滅亡)。
	780年	・リーフが新トラキア王国の王位に就く。
		・セリスが新生グランベル王国の国王に就く。

古代国家時代～暗黒教団時代～聖戦

人の前に姿を現した竜族

ユグドラル大陸にかつて存在した大国グラン。だが、その歴史は、ロプト教団によって突如閉じられてしまう。もともとは小さな原始宗教教団にすぎなかったロプト教団だが、司教ガレが暗黒神から強大な力を授かり、教団の者も“魔力”を使用するようになると、彼らは世界を席捲。グランを滅亡させ、ロプト帝国を誕生させることとなる。

以降、ロプト帝国による民への弾圧はとどまることを知らず、膨大な数の人々がその犠牲となっていく。だが、ガレの血を引くマイラが反乱を起こすと、それに呼応して各地で解放軍が決起。それでも帝国の力には及ばなかったが、ある日、若き12人の戦士がダーナ砦で神と遭遇、不思議な力を授かる。

神の正体は竜族で、ガレが暗黒竜ロプトウスの血を飲んだように、12人も竜族の血を受け、ロプトに対抗する力を得る。こうして誕生した“十二聖戦士”は、帝国を次第に追いこみ、15年にも及ぶ戦いの末、大陸に自由と平和を取り戻すことに成功する。



【 神々の系図 】

十二聖戦士が授かった“聖遺物”を記す神々の系譜。右上から時計回りに、神剣バルムンク、天槍グングニル、聖弓イチイバル、聖杖バルキリー、雷魔法トールハンマー、炎魔法ファラフレイム、魔剣ミストルティン、地槍ゲイボルグ、聖斧スワンチカ、光魔法ナーガ、風魔法フォルセティ、聖剣ティルフィング。聖遺物を扱える者の体には“聖痕”が現れる。

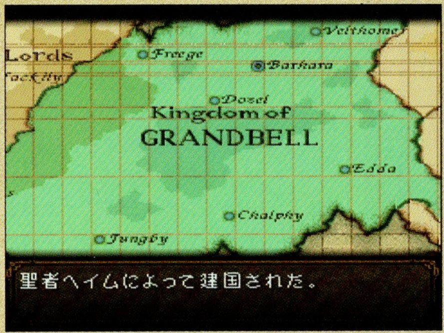
国家連立時代～ユグドラル動乱期（ロプト教団暗躍期）

平穏に暮らす人々を再び覆う暗黒

十二聖戦士たちはそれぞれが立国し、互いに力を合わせて大陸を統治し始める。久しくなかった平穏の時代を享受する人々……。だが、忌まわしき歴史を持つロプト教徒やその子孫たちは人々から迫害を受け、イード砂漠の地下に身を隠していた。

そしてグラン暦760年、イザーク国のリボー一族がグランベル王国の友好都市ダーナを蹂躙する。これを発端に、大陸は再び戦渦に巻きこまれる……。

グランベル王国は、クルト王子自ら軍を率い、イザーク遠征を決めるが、時を同じくしてヴェルダン王国の侵攻を受ける。そこで討伐の命を受けたのが、グランベル王国に属するシアルフィ公爵家のシグルド公子。そこに、同じグランベルの公子アゼルやレックス、親友キュアンが駆けつける。だが、このとき彼らは、大陸を縦走し、長く辛い戦いの旅を余儀なくされるとは、想像もしていなかった……。





←グランベル王国では、病に冒される父王にかわってクルト王子が政務をとりしきっていた。王子が信頼し、遠征に同行させたバイロン卿は、シグルドの父親。

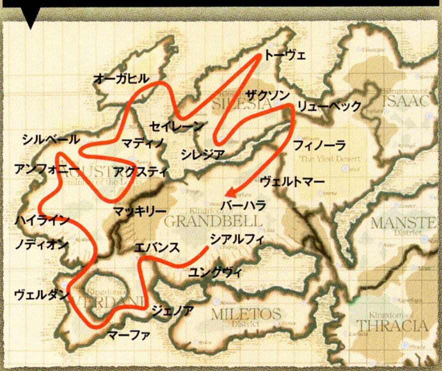


←救援に駆けつけたアゼルとレックス。アゼルは、近衛騎士団長アルヴィス卿の弟。レックスは、バイロン卿を政敵と見なすランゴバルト卿の息子である。



←士官学校時代からの親友キュアンはレンスター王国の王子。その妻は、シグルドの妹エスリンである。

シグルド軍の進軍ルート



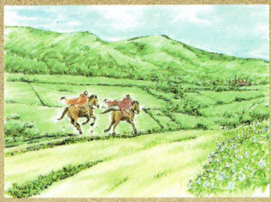
国家連立時代～ユグドラル動乱期（ロプト教団暗躍期）

国家のために戦った代償に得たのは裏切り者の汚名

シグルドたちはヴェルダン、続いて侵攻してきたアグストリア諸公連合を撃破。だが、キュアンとともにシグルドの士官学校時代からの親友であったエルトシャンを、アグストリア王シャガールに処刑されて失う。さらに、シグルドに追い討ちをかけるように、自軍に謀反の疑いがかけられているとの報が届く。イザーク遠征中にクルト王子が暗殺され、その直後にバイロン卿が姿を消したためだった。

故国に剣を向けられぬシグルド軍は、シレジア王妃ラーナの誘いに乗り、追っ手を逃れるために、シレジアに姿を隠すことにする。1年の間、身を潜めていたシグルドたちだが、マイオス公がシグルドの首をグランベルに差し出そうと動き出した。さらに、ダッカー公も、その機に乗じてシレジアの主権を奪わんと兵をあげる。ラーナの恩に報いるために、内乱を鎮圧するシグルド。しかし、グランベルから、ドズル家、ユングヴィ家がシグルド軍討伐のために進軍を開始。シレジアを戦場にしないために、シグルド軍は祖国グランベルでの戦闘を覚悟する。

そのころ、レンスターの王子キュアン死亡の報せがシグルドのもとに入る。シグルド軍と合流すべくイード砂漠を北上する際、かねてから北トラキア地方進出を狙っていた、トラキア王国トラバント王の急襲を受けての悲劇だった。



穏やかな気候、肥沃な大地に恵まれたマンスター地方でも、とくに緑豊かな田園風景が広がるレンスター。



レンスターとは対照的に、国土の多くはやせ、"ユグドラルの天井"と呼ばれる高い山脈に囲まれるトラキア。



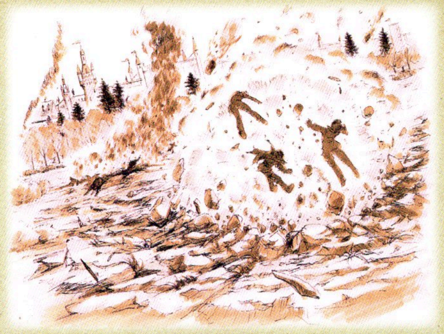
親友のために先を急ぐキュアン。だが、足場の悪いイード砂漠でトラキア軍の急襲を受けて全滅する（イードの虐殺）。

黒い野望の打破は次世代に託される……

長い戦いを続ける中で、シグルドたちは、大陸を巻きこむ戦乱の背後に暗黒教団がいることに気づきはじめる。戦争の発端となったリボー一族の暴挙、リボー族長の首を持って講和を提案したイザーク王マナナンの暗殺、イザーク討伐へと立ち上がったクルト王子の暗殺、同盟国であるはずのヴェルダンおよびアグストリアのグランベル侵攻。これらはすべて、大司教マンフロイとロプト教団の策略によるものだった。マンフロイの目的は暗黒竜の復活にあったが、気づかずに彼の謀略に乗ったのが、ヴェルトマー家の若き当主アルヴィス卿である。

アルヴィスは、ドズル家のランゴバルト、フリージ家のレプトールまでも使い捨ての駒とし、シグルドを消し去ろうとする。やがてアルヴィスからシグルドのもとに、謀反の疑いが晴れ、帰国を待つ旨を知らせる使いが届く。だが、それは罠で、懐かしき王都バーハラに足を踏みいれたシグルドは、暗黒教団の魔法によって全軍殲滅の憂き目に遭う。

差別のない世を目指し、ユグドラル大陸に統一国家建設の計画を描くアルヴィスは、バーハラ王家の血を引くディアドラと結ばれ、グランベルの実権を手中に収める。そして、生まれた2人の子ども。だが、それこそがマンフロイの狙いであった……。



激戦をくぐりぬけた勇士が、暗黒教団のメティオ、アルヴィスのファラフレイムによって沈む（バーハラの悲劇）。



シャナン

"バーハラの悲劇"時は幼く、まだあどけない顔をしていたシャナン。バーハラの悲劇を逃れてイザークに潜伏するが、成長するとイザーク王家の血を存分に発揮し、解放活動で活躍する。



アルヴィス

グランベル王国近衛騎士団長だったアルヴィス。シグルドを裏切り者に仕立て上げ、王の信頼を勝ちとると、グランベル帝国初代皇帝の座にまで上りつめる（写真は皇帝時代のもの）。

統一帝国圧制期～光の解放戦争

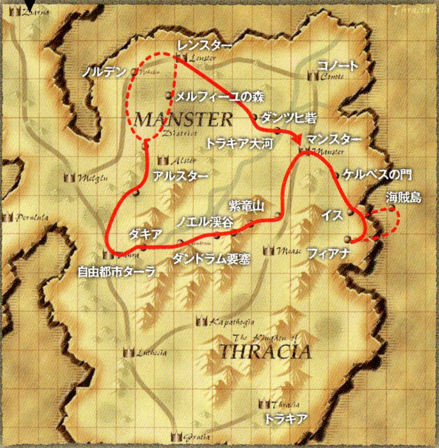
THE JUGDORAL CONTINENT

先に立ったのはレンスターの槍

シレジア、北トラキアを制圧し、同盟国のトラキア王国を除き、大陸全域を支配したグランベル帝国。大陸に平和な日々が到来するかに思われたが、やがて各地で"子ども狩り"が始まる。かつてロプト帝国も行ったこの行為は、人々に恐怖を植えつけ、帝国(教団)の支配を強固にするためのものだった。子どもを争わせ、生き残った者だけを帝国民とするというユリウス皇子の蛮行も、それに一役かった。

だが、帝国・暗黒教団の支配に嘆き苦しむ人々を救わんと、ひとりの青年が立ち上がる。トラキアの襲撃から逃れて生きのびた、王子リーフである。マンスター地方で反帝国軍活動を開始したリーフは、レジスタンスたちやレンスター王国の遺臣と合流。マンスター城に捕えられた子どもたちの解放、かつて過ごした自由都市ターラの防衛、そして、ついに自身が生まれたレンスター城の奪還に成功する。

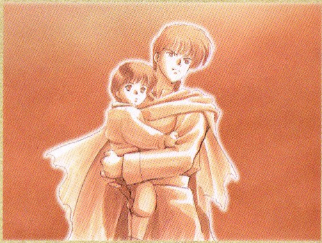
トラキア解放軍の進軍ルート



点線部分は分岐ルート

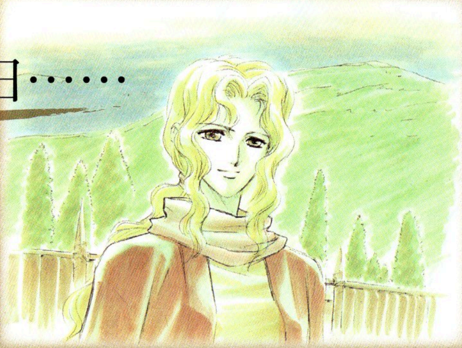


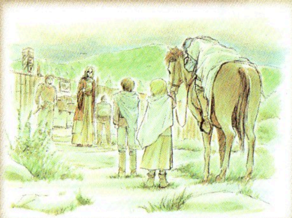
←"イードの虐殺"で地槍ゲイボルグと王子キュアンを失ったレンスター王国は、トラキア軍の襲撃になす術もなく陥落する。



←若きレンスターの騎士フィンはトラキアの猛攻を逃れ、幼いリーフ、ナンナを連れて脱出。その後、3人はマンスター地方を転々とする。

あの日……





重傷を負ったフィンを馬の背に乗せて
王子とナンナ様は村にやってきました。
ナンナ様は、どうか父をお救いくださいと
目にいっぱい涙をためて私にすがりつきました。



でもリーフ様は、私をにらみつけて
『助けてくれたらこれをやる』と
腰にあった剣を差し出されただけ……。
聞けば母上の形見だという。
まだほんの少年なのに、
よほどの苦労をしてきたのだと思いました。

統一帝国圧制期～光の解放戦争

イザークの流星、そして光の公子

レンスター城に入城したリーフたちに、北トラキア王国を統治していたフリージ家が襲いかかる。圧倒的戦力の前に、落城の危機を迎えるリーフ。だが、そこに、セリス率いる反乱軍が現れる。

リーフたちに遅れること数か月。イザーク王子シャナンや若き天才軍師オイフェが組織し、イザークで解放活動を続けていた反乱軍を基盤に、セリスはティルナノグから解放戦争ののろしを上げた。まず、グランベル王国のドズル家によって暴虐の限りを尽くされ、旧国民が奴隷として虐げられていたイザークを解放に導くと、イード砂漠を越えて北トラキア半島に入った。その後も、メルゲンでフリージ家のイシュトーを破り、アルスター城を解放する。

マンスターでリーフ軍と合流したセリス軍は、その勢いを持ってトラキア王国との全面対決に臨む。そこでリーフは、"イードの虐殺"で死亡したと思っていた姉アルテナとの再会を果たす。アルテナを育てたトラキア王トラバントの深謀がいかなるものだったのか、彼を討ち取った今となっては知るよしもない。ともあれ、こうしてセリスたちの活躍により、トラキア半島は帝国軍の支配から完全に解放された。

セリスたちは、次にミレトス地方へと軍を進める。かつて貿易で栄えた自由都市群は、今や暗黒教団の支配する死の街へと変わっていた。その死の街で、セリスはついに宿敵アルヴィスを打ち倒すのだった。

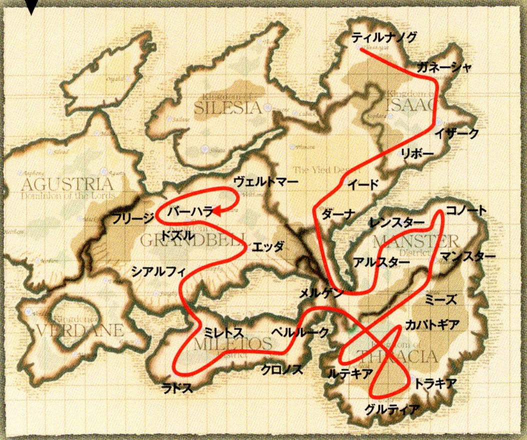


父親同士が親友で、従兄弟の関係にあるセリスとリーフ。マンスター城で合流の際、互いを兄弟のように支え合い、世界を救うことを誓う。



トラバントがアルテナを自らの娘として育てたのは、ゲイボルグを手に入れるためか。あるいは、トラキア半島統一国家をなすための布石か。あるいは、その他の理由があったのだろうか……。

ユグドラル解放軍の進軍ルート



連綿と続いた闇の系譜に終止符を

皇帝を倒しはしたものの、今や帝国の実権を握るのは皇帝の息子ユリウスであり、彼はすでに暗黒竜ロプトウスにその身を奪われていた。そして、暗黒竜を倒せるのは、十二聖戦士の戦いと同様に光神ナーガの力を継ぐ者、セリスやユリウスの妹であるユリアだけだった。ミレトスでマンフロイがユリアをさらったのは、ナーガの血族を取りこむためだったのだ。

エッダ、シアルフィを次々と制圧したセリス軍は、ヴェルトマーですべての黒幕であるマンフロイを討つ。記憶を取り戻し、光の聖書を手にしたユリアは、ナーガと化してロプトウスと化したユリウスと激突。この戦いにより、竜の血がもたらした禍根は絶たれることとなった。



かつてスルーフが授かった予言。世界を救うとされた"三つの光"とは、"光の公子"と称されたセリスとリーフ、光魔法を継承したユリアのことだ。

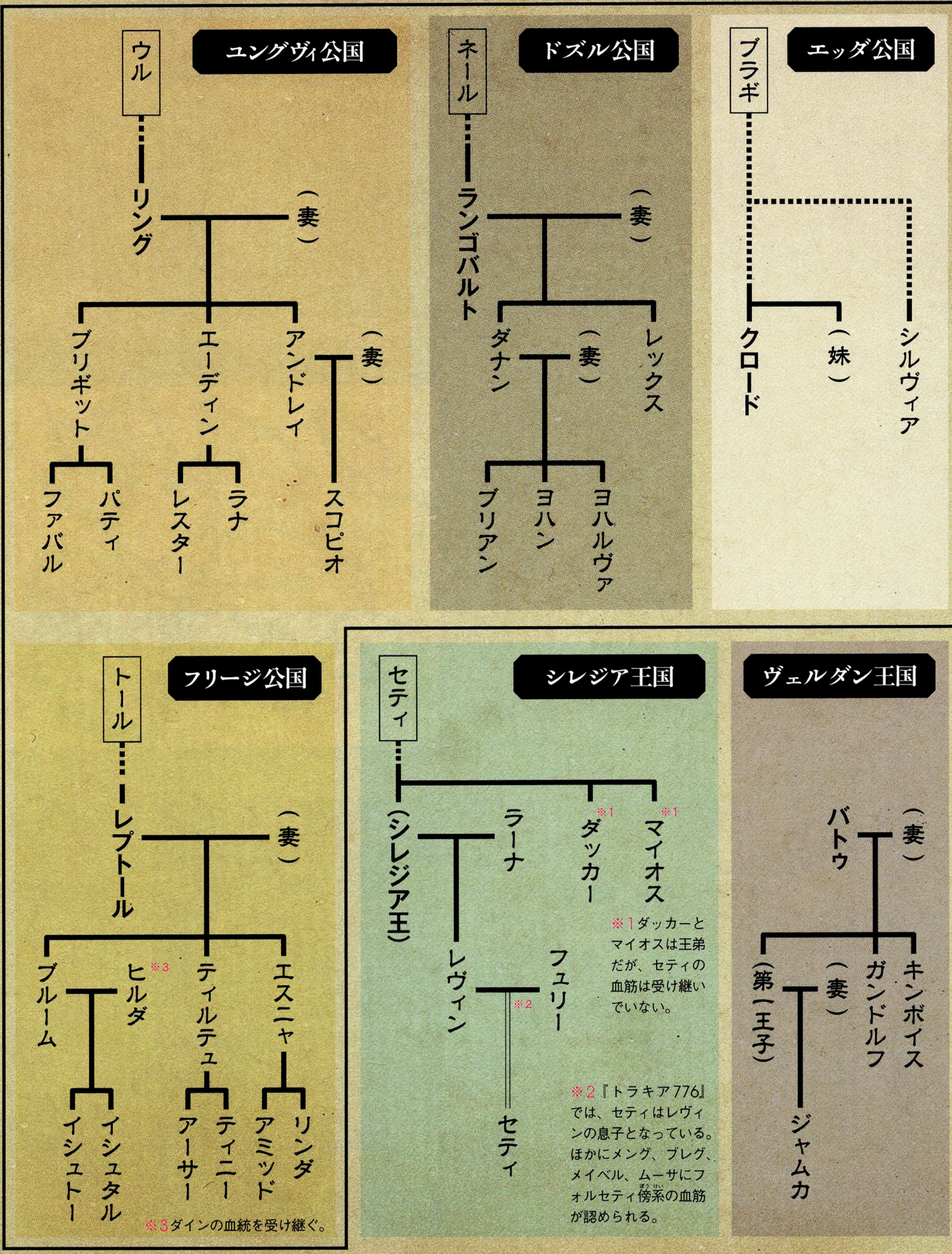


高い志を持ちながら、マンフロイに利用されたまま死んでいったアルヴィス。彼の悲しみも感じつつも、セリスは、王としての道を歩み始める。

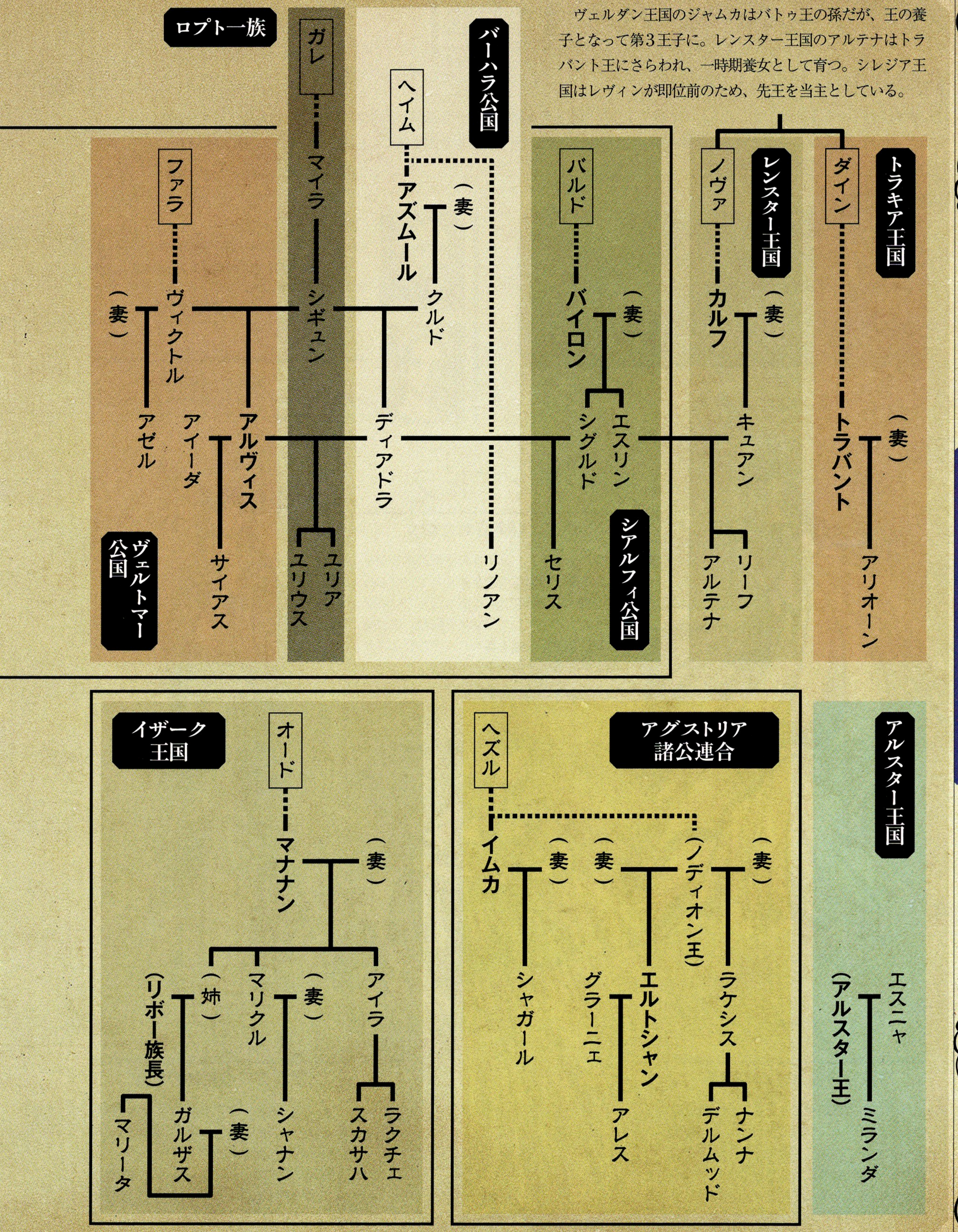
THE JUGDORAL CONTINENT

ユグドラル大陸における主要国の王公族血統図

各国王公家の系図を掲載した。太字は"バーハラの戦い"勃発時の当主。□で囲まれた名は、各家系の祖（"ダーナの奇跡"で竜族から血を授かった聖戦士）。



ヴェルダン王国のジャムカはバトゥ王の孫だが、王の養子となって第3王子に。レンスター王国のアルテナはトラバント王にさらわれ、一時期養女として育つ。シレジア王国はレヴィンが即位前のため、先王を当主としている。



グランベル王国

新時代の礎となりし大国

十二聖戦士の中から1人が王家、残る5人が補佐する公爵家となる形で、グラン王国発祥の地に建国。そのため、もともとの国力で他国より優れ、周辺国と同盟を結ぶも大陸の覇者的位置にあった。グランベル帝国を経て、新生グランベル王国に移行する。

バーハラ王家

●祖／聖者ヘイム　●伝承武器／光魔法ナーガ

聖戦時、解放軍指導者だったヘイム司祭の血族。古代竜族の王ナーガ（姿は幼き少女）から血を授かったために、ロプトウスの一族を唯一倒すことができる神聖魔法ナーガを継承する。



アズムール　【聖戦】

"バーハラの戦い"勃発時のグランベル国王。老いた体のために隠居状態だった。クルトの死後、アルヴィスの虚言にだまされて国を操られる。



クルト　【聖戦】

父王のかわりに政治をとりしきっていたが、イザーク遠征時、ランゴバルトに殺害される。シギュンとの間に不義の子、ディアドラをもうけていた。

【聖戦】

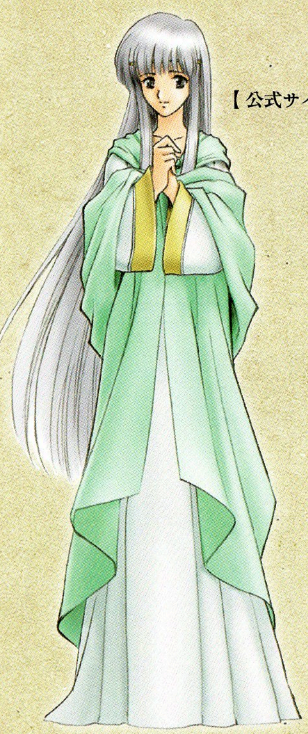


◀ディアドラ

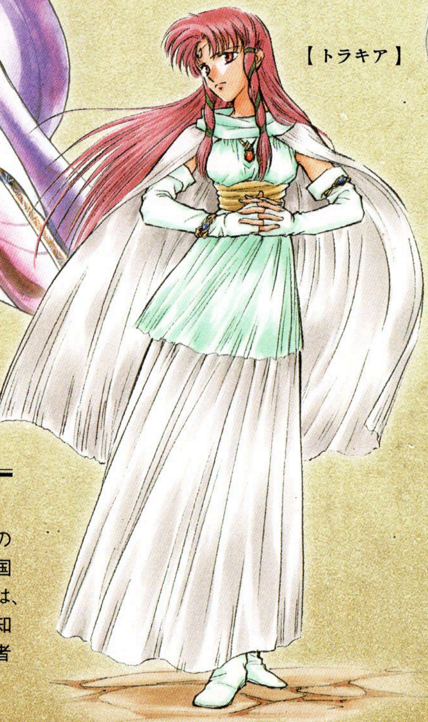
策謀に翻弄された聖女

クルト王子と、マイラの子孫であるシギュンの娘。暗黒竜の血を引くので、ヴェルダン領内の"精霊の森"に隠れ住んでいたが、シグルドと恋をしてセリスを産む。その後、マンフロイに記憶を奪われ、アルヴィスのもとへと連れさられる。

【公式サイト】



【トラキア】



リノアン ▶

市民を守るヘイムの傍系

ヘイムの血筋でもある、ターラ公爵家の娘。城塞都市ターラの市長になると、帝国の子ども狩りに抵抗し続けた。リーフとは、彼がターラ公爵家にかくまわれたころの知り合い。トラキア王子アリオーンの婚約者だが、別に愛する人が……。

▲ユリア

世界を救う光神の化身

アルヴィスとディアドラの子。暗黒神を倒せるナーガの力を受け継ぐ。双子の兄ユリウスに狙われるが、ディアドラがバーハラの街に逃がし、そこをレヴィンに拾われる。その後、レヴィンとともに旅を続けた後に、セリスに預けられる。

シアルフィ公爵家

●祖／聖戦士バルド　●伝承武器／聖剣ティルフィング

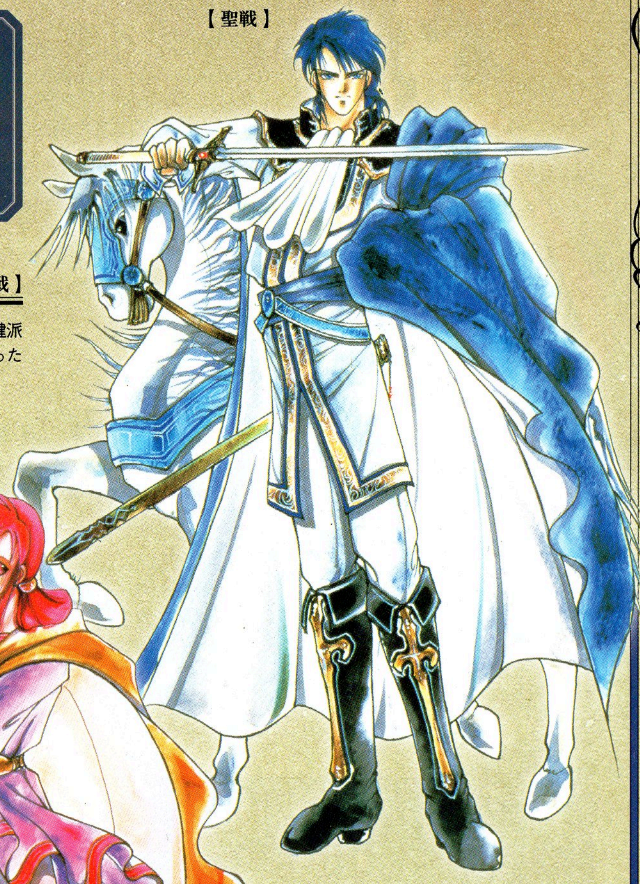
“光の戦士”バルドの一族。シアルフィ領を治める。セリスが新生グランベル王国の王となったあとは、聖戦士バルドの血を弱く受け継ぐオイフェが、シアルフィ家を復興させた。



バイロン

【聖戦】

シグルドの父。ユングヴィ家リング卿とともに穏健派として知られる。クルト王子からの覚えもめでたかったが、イザーク遠征時に王子殺害の汚名をきせられる。

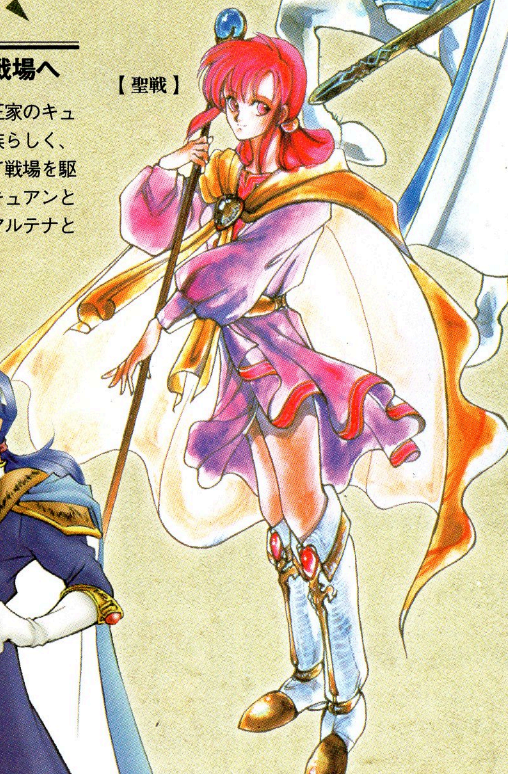


【聖戦】

エスリン

兄を思い、夫を思い、戦場へ

シグルドの妹で、レンスター王家のキュアンに嫁ぐ。聖戦士バルドの血族らしく、杖と剣を操るトルバドールとして戦場を駆けた。“イードの虐殺”の際、夫キュアンとともに砂漠に散るが、その血はアルテナとリーフに受け継がれた。



【聖戦】

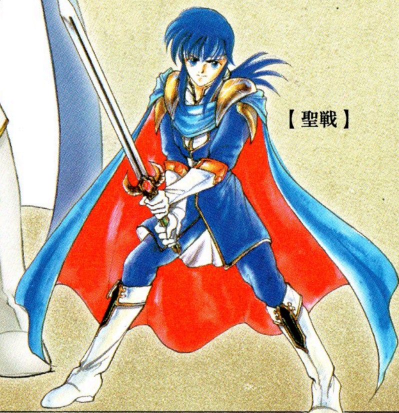
【公式サイト】



シグルド

悲しき聖戦士

シアルフィ家の公子で、“グランベルの聖騎士”の異名を持つ。父の死に際に、「ティルフィング」を継承する。ヴェルダン領内を進軍中に出会ったディアドラと愛し合い、セリスを授かる。アルヴィスの策略によって、王家転覆を企む反逆者との烙印を押されたまま、“バーハラの悲劇”で仲間とともに命を落とす。

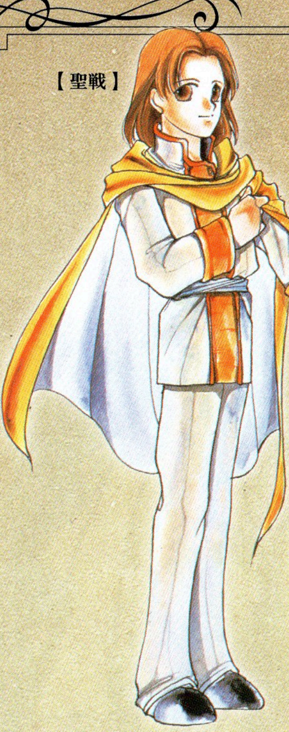


【聖戦】

セリス

闇なる世を光の中へ誘う公子

シグルドとディアドラの子で、聖戦士バルドの力を受け継ぐ。ユリウス・ユリアの異父兄にあたる。2歳のころ、シャナンとオイフェの手で“バーハラの悲劇”を逃れ、ティルナノグの孤児院で育つ。その後、19歳で反帝国軍を指揮し、“光の公子”として世界を解放に導く。唯一ヘイムの血を受け継ぐことから、新生グランベルの王に。



【聖戦】

オイフェ

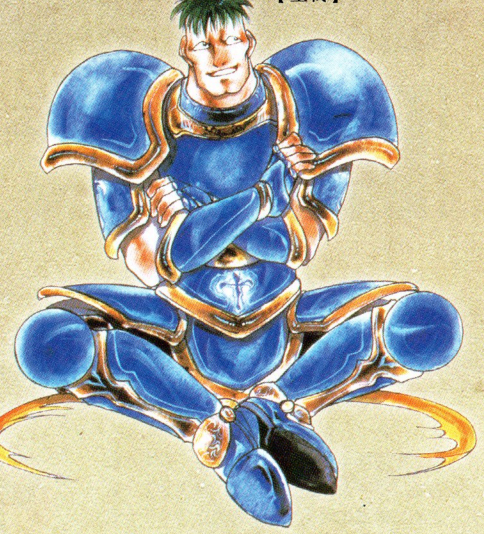
若くから戦場を見つづけた騎士

名軍師スサール卿の孫で、若くして才覚を表した軍師。12歳から騎士見習いとしてシグルドのもとへ。"バーハラの悲劇"の前にシグルドから幼いセリスを託され、イザークへ逃れる。解放戦争ではパラディンとしても活躍した。

アーダン

固い、強い、おそい！

ノイッシュやアレクと同様、シアルフィ聖騎士団グリューンリッターのひとり。そのわりにシグルドになれなれしい。大陸を巡る途中で能力を開花せられたり、貴重な武具まで手に入れたりするという恵まれた運の持ち主。



【聖戦】

THE JUGDORAL CONTINENT

ユングヴィ公爵家

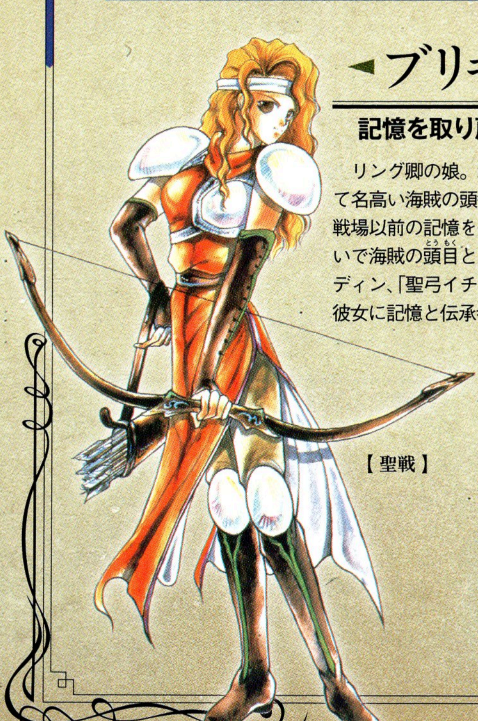
●祖／弓使いウル　●伝承武器／聖弓イチイバル

弓使いウルの血を引く一族。ヴェルダン国境近くのユングヴィ領を治める。そのため、サンディマにそそのかされたバトゥ王がヴェルダン軍を進撃させた際、制圧される憂き目に合う。

ブリギッド

記憶を取り戻した聖戦士

リング卿の娘。幼いころ、義賊として名高い海賊の頭領に連れ去られた。戦場以前の記憶を失い、義父の跡を継いで海賊の頭目となる。だが、妹エーディン、「聖弓イチイバル」との再会が、彼女に記憶と伝承者の力を蘇らせた。



【聖戦】



リング　【聖戦】

グランベル王国内では、バイロン卿とともにクルト王子を支えていたが、王家転覆によって権力を手に入れようとした息子アンドレイに殺害される。



アンドレイ　【聖戦】

ユングヴィ家の長男で、ブリギッドやエーディンの弟。実父殺害後は、ユングヴィ家当主としてバイゲリッターを指揮するも、シグルド軍に討たれる。



スコピオ　【聖戦】

アンドレイの息子。フリージ軍と協力してセリス軍を撃破しようとするが、返り討ちにあう。父と同様、伝承武器を扱う力は受け継いでいない。



ファバル　【聖戦】

孤児院で育った聖弓の継承者

育った孤児院を助けるために、傭兵となって金を稼ぐ。ブルームに雇われていたが、妹と再会し解放軍へ。ブリギッドの息子。



パティ　【聖戦】

孤児院を助けるため盗賊に

ファバルの妹で盗賊。イード砂漠の宝物殿から「神剣バルムンク」を盗み出すが、そこでシャナンと出会って解放軍へ。



ノイッシュ

騎士道精神に満ちた好青年

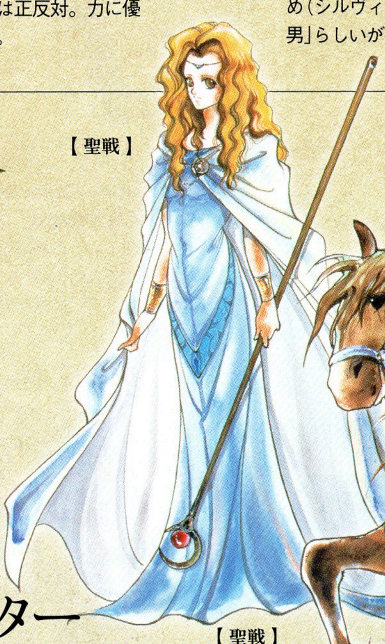
アレクやアーダンと同様、シグルド率いるグリューンリッターのひとりで、親友のアレクとは双璧の存在とされる。ただ、能力や性格は正反対。力に優れて打たれ強く、無口できまじめ。



アレク

剣技も口も軽めの騎士

グリューンリッター所属の騎士で、ノイッシュとは親友。素早さを活かした連続技を得意とする。シグルド軍に入ったシルヴィアにすぐに声をかけるほど、性格は軽め（シルヴィアによると「まともな男」らしいが……）。



エーディン

戦場に咲いた優しき公女

突然の侵略を受け、ヴェルダン軍のガンドルフに拉致される。だが、ジャムカの助けで逃げ出してシグルド軍に加わる。バーハラでの決戦前に、自身の子であるレスターやラナ、他の戦士の子どもと一緒にティルナノグの修道院に逃れ、そこで子どもたちを育てた。





レスター

【聖戦】

解放軍創立時から参加する弓騎士

エーディンの息子でラナの兄。セリスたちとともにティルナノグの孤児院で育つ。後にシャナンが始めたイザークの解放活動に参加する。



ラナ

【聖戦】

母とよく似た優しいシスター

以前から知るセリスを助けようと、解放軍に参加。母エーディンと似て穏やかな少女で、記憶を失ったユリアに声をかける優しさを持つ。

ミデェール

主君を救われた恩義を返さん！

ユングヴィ家に仕えるアーチナイト。ユングヴィ城とエーディンを救ってくれた恩に報いようと、シグルド軍と行動をともにする。エーディンに忠誠心以上の感情を抱く。

ヴェルトマー公爵家

●祖／魔法戦士ファラ　●伝承武器／炎魔法ファラフレイム

火竜サラマンドラの血を継承し、近衛騎士団を務める一族。だが、アルヴィスの父がロプトウスの血族シギュンをめとった日より、ヴェルトマーおよびグランベルは崩壊の一途を辿る。





ユリウス　【聖戦】

残虐な行為を繰り返すユリウスだが、イシュタルの前では優しい顔を見せる。

アルヴィスとディアドラの息子。2人がシギュンから受け継いだ暗黒竜の血が、色濃く合わさった身として生まれる。マンフロイから「暗黒の書」を渡されると、暗黒竜としての力が発現。母ディアドラを殺害し、帝国の実質的支配者となった。



コーエン　【トラキア】

ヴェルトマー家に仕える伯爵でアイーダの父。ファラの聖痕を受け継いだサイアスを、成長するまで辺境の教会にかくまい、マンフロイたちの手から守り続けた。



アイーダ　【聖戦】

"ヴェルトマーの魔女"の異名を持つ、アルヴィスの腹心。彼の命令でレプトール軍にメティオを降らせた。マンフロイから息子サイアスを守り、殺害されてしまう。



【聖戦】

アルヴィス

グランベル帝国初代皇帝。もとは王国近衛軍指揮官。父ヴィクトルが妻の不義により自殺したので、若くして当主となる。己にも暗黒神の血が流れるためか、差別のない世界の実現を目指す。だが、息子ユリウスに実権を奪われ、皇帝としては名ばかりに。

ドズル公爵家

●祖／斧戦士ネール　●伝承武器／聖斧スワンチカ

グランベル王国中心部に位置するドズル地域を治める。グランベル帝国成立後、イザーク地方の統治を任された。公子ブリアンの戦死により、伝承武器の継承者が失われている。



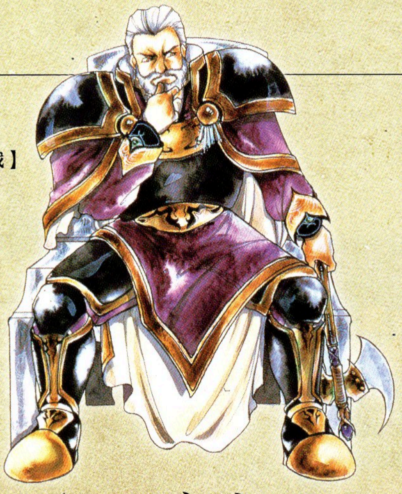
ダナン　【聖戦】

ランゴバルト卿の第一子。イザーク王に任命されると旧イザーク民を奴隷身分に落とし、リボーの王宮で贅の限りを尽くす。セリス率いる解放軍に討たれて死亡。



ブリアン　【聖戦】

ダナンの長男でヨハンやヨハルヴァの兄。「スワンチカ」の継承者でもある。グラオリッターを率いて、親子三代の恨みを晴らそうとセリス軍に挑む。



【聖戦】

ランゴバルト

レプトールと結託して反王子勢力を形成。アルヴィス卿に扇動され、イザーク遠征時にクルト王子を殺害、バイロン卿を襲撃する。その後、リューベック城でシグルド軍の攻撃を受けて戦死。

THE JUGDORAL CONTINENT

【トラキア】



アゼル ►

【聖戦】



巨大な存在の兄の陰で

父のヴィクトルとシギュンの下女だった母を、幼いときに亡くした彼にとって、アルヴィスは父親以上の存在。だが、尊敬と同時に恐れも抱いていた。争いを嫌うが、密かに想うエーディンの危機を知り、親友レックスを連れてエーディン奪還戦に参加する。

サイアス ▲

炎の魔道士の落とし胤

ファラの聖痕を持つ宮廷司祭で、天才軍師として名高い。リーフに請われてトラキア解放軍に参加。帝国崩壊後は、ヴェルトマー家の再建に尽力し、聖王セリスに仕えた。

騎士団の名称から見える各家の特徴

グランベル王国の王公爵家は、エッダ家以外、直属の近衛騎士団（リッター）を抱えているが、各団の名前には家系を象徴する色名を表す名がつけられている。たとえば、バーハラ王家ならば「ヴァイス（白）」を冠し、「ヴァイスリッター」と呼ばれる。なお、他の騎士団については右のとおり。

公爵家	名称(色)
ヴェルトマー	ロート(赤)
ドズル	グラオ(灰色)
フリージ	ゲルプ(黄)
シアルフィ	グリューン(緑)
ユングヴィ	バイゲ(ベージュ)

ヨハン

【聖戦】



愛はときに人を狂わせる

ダナンの二男で、イザーク城主に任命される。解放軍に所属する女性に好意を抱き、自作のポエムを捧げるも袖にされてばかり。その後、彼女を追って解放軍へ。

ヨハルヴァ

【聖戦】



実直な斧戦士

ダナンの三男でソファラ城主。兄と同じ女性に惚れているためか、仲はよくない。粗野だが、女や子どもには手を出さない。ロプト教団や父を見限って解放軍に入る。

レックス ►

クールなエリート

ドズル家の次男。親友アゼルとともに、ユングヴィ公女奪還戦からシグルド軍に参加する。常に冷静で、激高した面などは見せず、父ランゴバルトが倒されたときも、内心思うところはあったろうが顔には出さなかった。勇士の中でもとくにエリートらしい人物。

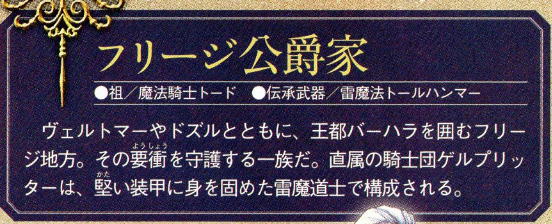


【聖戦】

フリージ公爵家

●祖／魔法騎士トード　●伝承武器／雷魔法トールハンマー

ヴェルトマーやドズルとともに、王都バーハラを囲むフリージ地方。その要衝を守護する一族だ。直属の騎士団ゲルプリッターは、堅い装甲に身を固めた雷魔道士で構成される。



【聖戦】

レプトール

グランベル王国宰相。だが、王の信頼がバイロンやリングにあることを不満とし、アルヴィスの企みに乗る。王家転覆の暁には、アグストリア王となるはずだったが、アルヴィスに裏切られ、"バーハラの戦い"最終戦で死亡。



ブルーム

【聖戦】

レプトールの息子。グランベル帝国領、北トラキア王国の王位に就く。小物で、残虐さでは妻ヒルダ、才能では子のイシュトー・イシュタルに劣る。



ヒルダ

【聖戦】

ミレトス地方のクロノス城を治める、ブルームの妻。ティルテュをいじめ殺し、子ども狩りを率先して行う残虐性の持ち主。ヴェルトマー家の生まれ。



イシュトー

【聖戦】

フリージ家の長子に生まれるも聖痕を持たず、「トールハンマー」は扱えない。だが「親に似ず優れた」と評判のマージファイター。ライザは恋人。



ライザ

【聖戦】

イシュトーがもっとも信頼する部下で彼の恋人。その能力は軍内で高く評価されていた。イシュトー同様、メルゲン城でセリス軍を迎え撃って戦死。







⬆狂気にそまっていくユリウスを、止めもできない葛藤に苦しむ。

イシュタル

【聖戦】

「トールハンマー」の継承者で、グランベル帝国王家騎士団ヴァイスリッターを率いる。ユリウスとは愛し合う仲で、彼の狂気を憂う。帝国の蛮行に賛同せず、捕らえられた子どもたちを逃がしていた。



【聖戦】

▲ティルテュ

アーサー

【聖戦】

悲しい境遇も笑顔で語る魔道士



母と妹をブルームに連れ去られ、シレジアで育つ。妹が生きていると知って旅立つが、途中で出会ったペガサスナイトと意気投合し、解放軍入りする。

ティニー

【聖戦】

戦いに狩り出された薄幸の少女



母ティルテュの死がヒルダのいじめによるものとは知らずに育ち、ブルーム軍にマージとして参加していたが、兄アーサーと出会って解放軍へ。

ティルテュ

明るさを取りあげられた少女

ブラギの塔に向かうクロード神父とともにフリージ家を出奔、そのまま解放軍へ。"バーハラの悲劇"を逃れ、息子アーサー、娘ティニーとシレジアに隠れ住むが、フリージ家に連れ戻されると、ヒルダによって非業の死を遂げる。



アミッド

【聖戦】

母と伯母の敵を討つために

母はティルテュの妹エスニャ。伯父ブルームに連れ去られた妹に再会するために、育ったシレジアを旅立つ。途中で出会った女の子に感化されて解放軍入り。



リンダ

【聖戦】

兄とジェイクを助けた娘

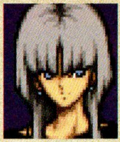
母ともどもシレジアからブルーム家へ連れ去られる。フリージ軍として出陣したところをアミッドと再会。解放軍では、成長の早いサンダーマージとして活躍。



オーヴォ

【聖戦】

フリージ軍の将軍であるマージナイト。だが、指揮官の能力はヴァンパよりも劣る。得意魔法はエルサンダー。レンスター城攻防戦で戦場に散る。



ヴァンパ

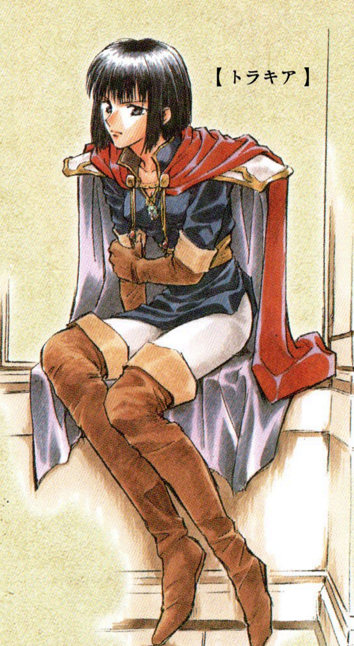
【聖戦】

ブルーム直属の魔法戦士。部下のフェトラやエリウと組み、トライアングルアタックを放つ。ティニーが同じ軍にいたときは、ライバル視していた。

【トラキア】



【トラキア】



オルエン

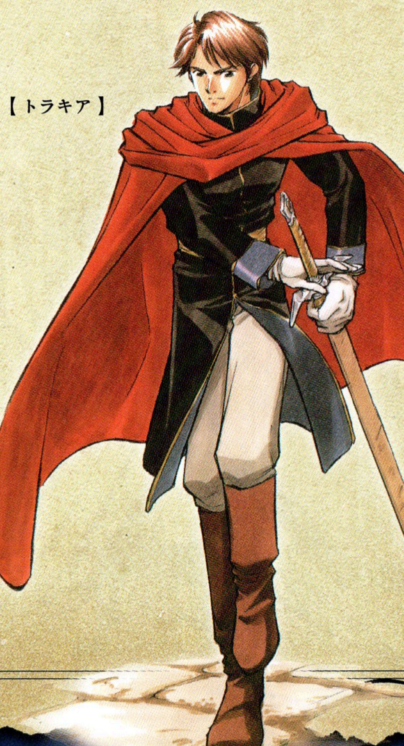
兄の庇護を離れた魔道騎士

尊敬する兄ラインハルトのあとを追って帝国軍に入るが、子ども狩りを目のあたりにして自分の進む道を失う。その際、部下フレッドの誘いで解放軍に参加。その後戦場で対面した兄から、成長の証として聖なる剣を譲り受けた。「ダイムサンダ」はこの兄妹専用。

ラインハルト

オルエンの尊敬する兄。指揮官としてはもちろん、戦士としても優れ、魔法「ダイムサンダ」とマスターソードで"聖戦士トードの再来"と称されるほどの戦いぶりを見せる。幼少時から仕えるイシュタルに忠誠を誓う。

【トラキア】



フレッド

オルエンを支える副官

オルエンの副官。ケンプフがオルエンを投獄したことに異議を唱え、ダンドラム要塞で退却の許されぬ戦いを強いられる。その際、リーフ王子と共同戦線を張って脱出。このときの縁で、後にオルエンを連れて解放軍の扉を叩く。終戦後は主筋の娘と結婚。

【トラキア】



ケンプフ▶

有能かつ人望の厚いラインハルトを一方的に妬み、妹オルエンにいやがらせを繰り返した。フリージ王家の血筋であることをひけらかし、他人の命をつゆほども気にかけず、卑劣な手段で立身出世を果たそうと画策する小人物。

数多くの軍団を率いるフリージ家

バーハラにほど近く、アグストリアとの国境にも面する領地に本城を構えるフリージ家。北トラキア王国の統治者にも任じられ、直属騎士団以外にも数多くの軍団を配下に持つ。確認されている軍団と軍団長は右のとおり。


グスタフ


バラート

軍団名	軍団長
第2軍団	グスタフ
第3軍団	ニカラフ
第4軍団	ウォルフ(のちにバラート)
第5軍団	パウルス
第7軍団	ブルック
第8軍団	バルダック
第10軍団	アマルダ
第12軍団	ケンプフ
第15軍団	イリオス
第16軍団	バルマン
第20軍団	リスト
第22軍団	ラルゴ
第26軍団	コーエン
第27軍団	ザオム
第30軍団	フラウス

エッダ公爵家

●祖／大司祭ブラギ　●伝承武器／聖杖バルキリー

エッダ領を治め、代々聖職者の家系。祖はロプト教団マイラ派の教徒ブラギ。民の幸せを願ってロプト帝国に反乱したマイラと同様、ブラギも解放軍に身を投じて聖戦士となった。

【聖戦】



【聖戦】



◀クロード

悲劇の結末を知る司祭

エッダ家当主。伝承する「バルキリーの杖」で死者を1人生き返らすことが可能。祖のブラギが残した塔で神託を受け、クルト王子暗殺の真犯人に加え、戦いの行く末も知っていたらしい。幼いころにさらわれたままの妹がいる。

▲シルヴィア

気品あふれる踊り子

踊り子として旅する途中でレヴィンと出会い、彼につられてシグルド軍入り。彼女の踊りには、人を元気にする力があった。"バーハラの悲劇" を逃れたはずだが、以降は消息不明に。ブラギの血を、弱くだが受け継いでいる。



【トラキア】

アマルダ

正しき道を探す女騎士

フリージ家の将軍。帝国軍に身を置きながら、子ども狩りから子どもたちを救い、山中の村ソルウッドに逃した。スルーフとはその村で知りあった仲。部下を思って軍を裏切れないが、スルーフの言葉でリーフ軍入りを決意する。

イリオス

雑草魂に満ちた将軍

平民でありながらフリージ家の将軍までのし上がったが、軍での扱いに不公平さを感じ、カリンの誘いにのってリーフ軍へ。その際の条件は、レンスター復興後に自分を貴族にすること。カリンからはオルソンと呼ばれていた。



【トラキア】



コープル

将軍の愛を一身に受けて

シルヴィアの息子でリーンの弟。赤子のとき、ダーナでハンニバル将軍に拾われて彼の養子となる。トラバントに、ハンニバルをユグドラル解放軍討伐に向かわせるための人質にされるが、セリスたちに救出される。

【公式サイト】

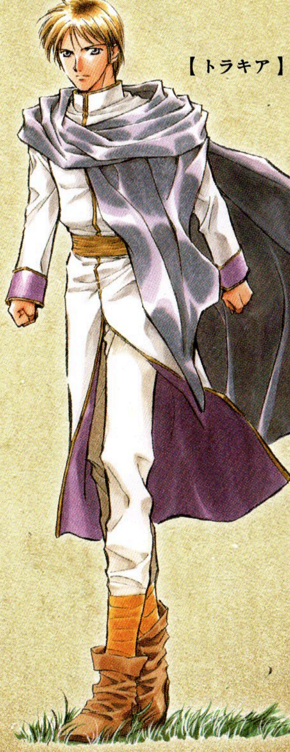


リーン

【聖戦】

母を探すために踊る少女

2歳のころ、母シルヴィアとおぼしき踊り子にダーナの修道院に預けられる。ダーナ領主ブラムセルに捕まるが、アレスに助け出され、彼とともに解放軍へ。



【トラキア】

アウグスト

世界の暗黒面を知る破戒僧

元ブラギの司祭。レヴィンからリーフを手助けするように命を受け、海賊島に潜伏しながらリフィス団を利用してリーフ探しを続けていた。リーフ軍に入ると、軍師であると同時に、王子に厳しい現実や時代の暗黒面を教える役割を担った。



【トラキア】

スルーフ

神託を授かった神父

ブラギの塔でクロード神父から神託を授かり、"光"を見届ける旅を続けていたが、"ツヴァイの光"を持つリーフと出会うと軍に合流した。アマルダのよき相談役となり、後にリーフ軍に誘い入れた。戦争後は、世界各地でエッダ教の布教活動を続ける。

イザーク王国

己の身と剣技だけで生きぬく遊牧民の国

聖戦士がこの地に王国を建てるまで、国らしい国は存在しなかった。イザーク王国誕生後もしばらくは部族の集合体でしかなかったが、賢王マナナンの威光によって国としての機能を果たし始める。だが、その矢先、ある事件によって国は崩壊する……。

イザーク王家

●祖／剣聖オード　●伝承武器／神剣バルムンク

オードの血を引き、一族内に“流星剣”の使い手が現れる家系。イザークを治める王家だが、マナナン王時代に王が暗殺され、王子マリクルも戦死を遂げて、王家は滅亡に瀕してしまう。

THE JUGDORAL CONTINENT



【聖戦】

▲アイラ

強さゆえに戦場に散った女剣士

マナナン王の娘で、流星剣を使う女剣士。グランベルとの戦いで死を覚悟した兄マリクルから、その子シャナンを託される。だが、そのシャナンをキンボイスに人質にとられ、ヴェルダンの傭兵としてシグルドたちと戦うことに。

シグルド軍によりシャナンが救出されると恩義を感じ、“バーハラの悲劇”までシグルド軍と行動をともにした。

シャナン

【聖戦】

過去の借りを返すため剣を振る



少年期をシグルド軍で過ごし、成長後はユグドラル解放軍の前身を組織した。セリスとは兄弟のように思う仲。「神剣バルムンク」の継承者。

スカサハ

【聖戦】

ふたふりの剣の片割れ



双子の妹ラクチェと並んで戦えば、互いの力を高め合って敵を次々となぎ倒す。ただ、普段の彼は兄らしく、勇ましい妹の抑え役を務めている。

ラクチェ

【聖戦】

剣を振れば母とうりふたつ



母アイラに比肩する才能と血気盛んさを持つ女剣士。ティルナノグの孤児院でセリスらとともに育ち、後に解放軍でおおいに活躍する。

ロドルバン

【聖戦】

努力を忘れない剣士



ラドネイの双子の兄で、セリスとは孤児院時代から知る仲。シャナンは、彼にとって父親のような存在であると同時に、憧れの対象でもある。

ラドネイ

【聖戦】

男嫌いのフォーレスト



セリスや兄ロドルバンたちと、幼いころからともに育つ。帝国兵の蛮行を見てきたので極度の男性嫌い。だが、シャナン王子だけは特別らしい。

ディムナ

【聖戦】

妹の恋を見守る兄



解放軍には初期から参加。素早い攻撃を得意とする弓騎士。兄として、セリスに身分違いの恋心を抱くマナのことを心配している。

マナ

【聖戦】

身分違いの恋と知りつつも



ディムナの妹。身分違いと知りつつもセリスに思いを寄せ、彼を追って解放軍にまで参加する。本来は、子ども好きな優しい女の子。

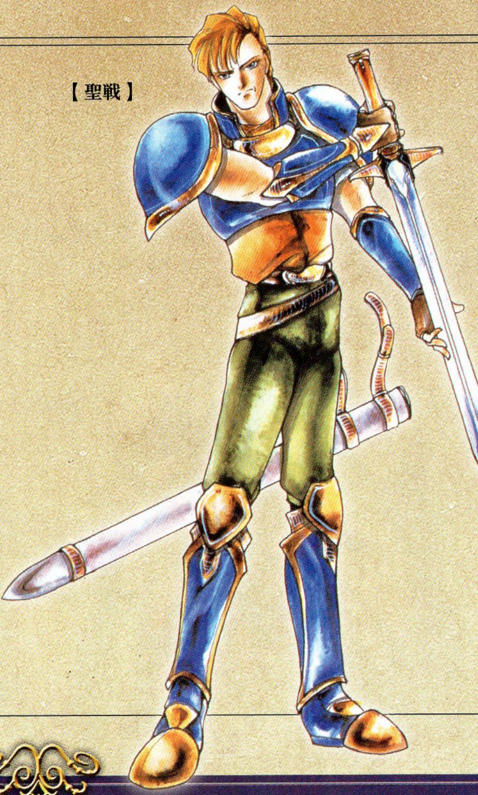


レイミア

【聖戦】

ソードマスターとしての腕は確かだが、金のためなら相手を問わず殺しを請けおう。そのため、“地獄のレイミア”の二つ名を持つ。

【聖戦】



ソファラ領主家

●祖／不明　●伝承武器／なし

領地は周囲を山に囲まれており、ソファラ城も孤城の印象が強い。ソファラ城は、イザーク王国がグランベル帝国領となって以降、ドズル家三男ヨハルヴァの居城となっていた。

ホリン

大義を見つけた領主の息子

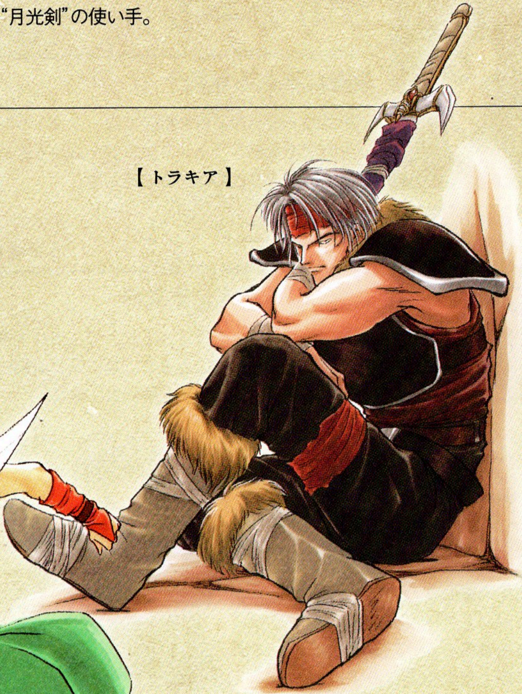
ソファラ領主の息子で、アイラとは幼少時に出会っていた。イザーク王国の崩壊により、闘技場剣士に身を落とす。その間、闘技場では無敗を誇った。金のために戦っていたが、シグルド軍勇士の戦いぶりに惹かれ、大義のために戦うことを決意する。"月光剣"の使い手。

リボー一族

●祖／不明　●伝承武器／なし

リボーの地と城を任されていたが、グラン暦757年、グランベル保護領ダーナで暴虐を働いたために、族長がマナナン王によって斬首。その結果、一族は離散してしまう。

【トラキア】



【トラキア】



マリータ

父の血をしっかと受け継ぐ女剣士

ガルザスの娘でオードの血を引いている。奴隷市場で売られていたところをエーヴェルに救いだされ、それからはエーヴェルと本当の母娘のように育つ。レイドリックに捕らえられ、暗黒の剣に支配されたときは、エーヴェルとレイドリックの傭兵だったガルザスによって救い出された。もともと"月光剣"の使い手だが、ひょんなことから"流星剣"までも会得する。

ガルザス

オードの聖痕を持つ傭兵

イザーク王家マリクルの姉を母に持ち、シャナンとは従兄弟。リボー一族が崩壊したあと、まだ小さかったマリータを連れて旅に出るが、目を離したすきに奴隷商人にさらわれ、離れ離れとなってしまった。すご腕の傭兵としてレイドリックに雇われていた折、牢獄にいたマリータを見つけて助け出す。自分が父親だとは告げなかったが、夢見で気づかれる。

トラキア王国

逆境をはねのけんと翼はためかせる竜騎士の国

トラキア半島の一国が分断されてできた国。だが、北と違い、南のトラキア王国は険しい山々が国土の多くを占め、民は常に貧困状態にあった。そのため、大陸全土を巻きこむ戦乱は、騎士団が傭兵稼業で外貨を稼ぎ、北トラキアに進攻する好機でもあった。

トラキア王家

●祖／竜騎士ダイン　●伝承武器／天槍グングニル

聖戦士のひとり、竜騎士ダインの血筋。ダインは槍騎士ノヴァの兄でもある。トラバント国王は、傭兵稼業で金を稼ぐ現状を打破しようと、トラキア半島制圧の野望に燃えている。



【聖戦】

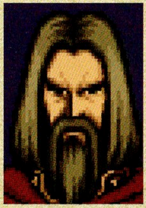


アリオーン

【聖戦】

葛藤に揺れる竜騎士

半島統一のために自ら犠牲となった父トラバントの遺志を継ごうと、レンスター進攻を進めるが、アルテナとのはざまで苦しむ。



ハンニバル

【聖戦】

トラキア軍を支える支柱

"トラキアの盾"と呼ばれる武人で、カパトギア城主。息子を人質にとられ、意に沿わぬ戦いを強いられる。後に息子と解放軍に参加。



【トラキア】

【トラキア】

ディーン ►

人知れず募らせた思いの行方は？

自身の婚約者リノアンの危機を知ったアリオーンが、遣わせた竜騎士。その信頼に応えて騎士団を脱退し、リノアンの警護に全力を尽くす。リノアンにとって彼は、"竜騎士ダインの再来"のような存在だった。グレイドとは、ターラでともに戦った同志。

▲トラバント

トラキアの王。半島制圧を目標に掲げ、非道な手段をとることもいとわない。その一方で、イード砂漠で殺害したキュアンとエスリンの娘アルテナを保護し、育てあげた。最後は「グングニル」をアリオーンに託して戦死する。

◄エダ

使命に向かって一直線

ディーンの妹。兄とともに、ターラ傭兵団としてターラの防衛にたずさわる。竜騎士としては兄に及ばないが、リノアンに対してもアルテナに対しても、まっすぐに使命を果たそうとしている。ともに空を駆ける愛竜の名は、ケイトというらしい。

マンスター地方

独立小国家が並びたつ緑の大地

豊かな国土を分けあい、小国家や独立都市が連立する地方。100年前の確執に縛られ、盟約によって南トラキアとの交易を絶っていた。グランベル帝国によって地方全域が制圧されると、民は新トラキア王国誕生まで苦しい生活を送ることになる。

レンスター王家

●祖／槍騎士ノヴァ　●伝承武器／地槍ゲイボルグ

レンスター地方を治め、継承する槍騎士ノヴァの力でマンスター地方四小王国の盟主として君臨する。だが、トラキアによって落城すると、帝国領北トラキア王国に組みこまれた。



【聖戦】

キュアン

彼もまた半島統一を夢見た男

「ゲイボルグ」の継承者。妻エスリンとともに、イードの砂漠でトラキア軍に討たれる。シグルド、エルトシャンとは士官学校時代からの親友。情厚き男だが、トラキア王国をさげすむところもあった。



【トラキア】

リーフ

半島全土の宿願を実らせた光

赤子のころに、フィンの尽力でトラキアのレンスター城襲撃を逃れる。その後、アルスター、ターラと逃亡の旅の果てに、フィアナ村に身を寄せる。やがて、フィアナ義勇軍を旗揚げし、各地で同志を募りつつ、北トラキア解放を実現。さらには、兄弟の誓いを立てた盟友セリスの力を借りて、トラキア半島統一国家を誕生させる。

アルテナ

【聖戦】



その身には南北の夢が……

両親の死後、トラバントに娘として育てられた。両親の死の真相を知らずに育ったが、真実を知ったあとも父や兄への敬愛は消えない。「ゲイボルグ」の継承者。

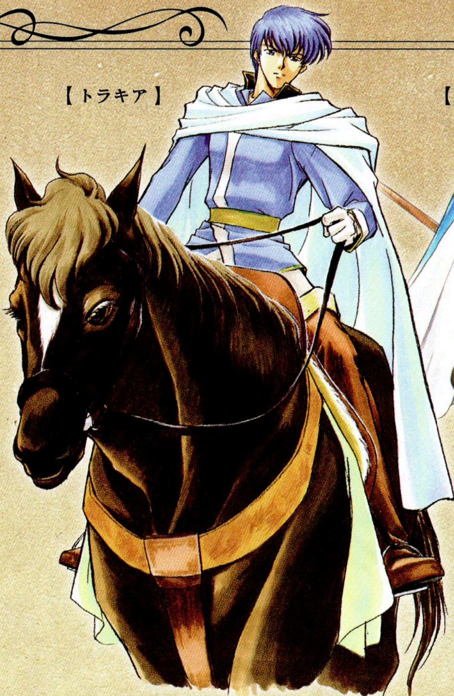
地を駆ける鋭い槍の群れ

レンスター王家直属の騎士団「ランスリッター」。槍騎士の精鋭で構成され、その名を他国に轟かせていた。だが、キュアンに率いられてシグルド軍の援軍として駆けつける途中、機動力を奪われるイード砂漠でトラキア軍の襲撃を受け、壊滅してしまう。



THE JUGDORAL CONTINENT

【トラキア】



【聖戦】



フィン

主君への忠誠を果たした騎士

キュアンの従者としてシグルド軍へ参加。主君とともに一旦帰国した後、キュアンはシグルド軍の援軍に向かい、彼はリーフを託されて国に残る。主君を失ったあとは、リーフ王子とナンナを敵から守って育て上げた。バーハラの戦い、トラキア・ユグドラル解放戦争の両方を経験。平和が訪れると、イード砂漠へと向かった。

if……

『聖戦』『トラキア』に共通して、ナンナには「お父様」と呼ばれるが、これは「育ての」という意味を含む。ラケシスと結ばれなくても変わらぬポイントだ。



↑ベオウルフのこの言葉は気になるが……。

【トラキア】

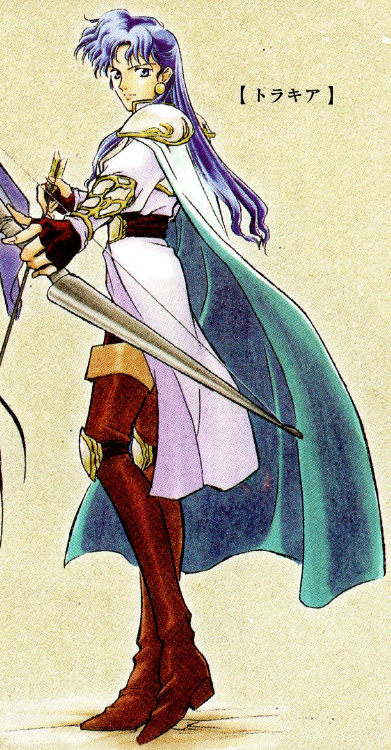


グレイド

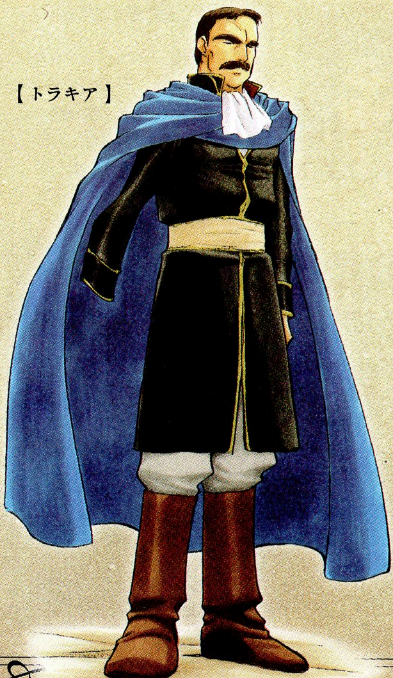
ターラで辛抱を重ねた忠臣

傭兵団としてターラを守っていたレンスターの遺臣。フィンとは親友だが、アルスターで別れて以来、10年会っていなかった。フィンとかわした、グレイドが旗を、フィンが王子を守るという約束を果たし、ランスリッターを育てあげる。セルフィナの夫。

【トラキア】



【トラキア】



ドリアス

身をもって"戦"を教える

元レンスターの伯爵でセルフィナの父。山荘で未来の騎士たちを育てた。10年前のアルスター戦で右腕を失う。レンスターを制圧後、すぐさまアルスターを援護に行きたいリーフを押しとどめ、援軍を走らせる。ブルーム軍の猛攻によって命を落とした。

セルフィナ

若き騎士の母役として

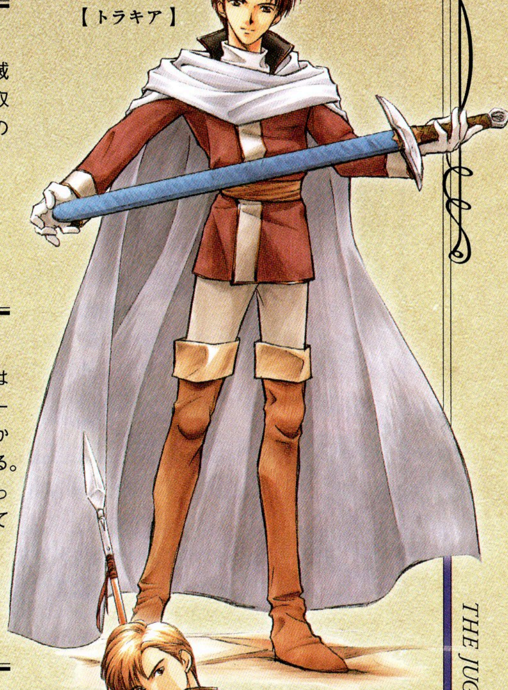
ハンニバル将軍の山荘に潜伏していたレンスター騎士のひとり。若い騎士の母親がわりとして、終戦後も孤児を集めて育て、"トラキアの母"と呼ばれた。ラケシスの気持ちを知りながら冷たかったと、フィンを責めた。



ゼーベイア

部下思いでは天下一品

レンスターの将軍だったが、レンスター滅亡後に帝国軍に下る。その理由は、戦場に取り残されたレンスターの民を守るため。その後、副官たちの家族が帝国に人質にとられ、彼自身も帝国にとどまらざるをえなかった。



カリオン

聖騎士の名を継ぐ若者

ハンニバルに仕えたが、父親はレンスターの聖騎士。山荘にリーフを案内したとき、セルフィナから戦死した父親の形見を受けとる。それは、幼いころに病で亡くなった彼の母が、セルフィナに預けていたエリートの剣だった。

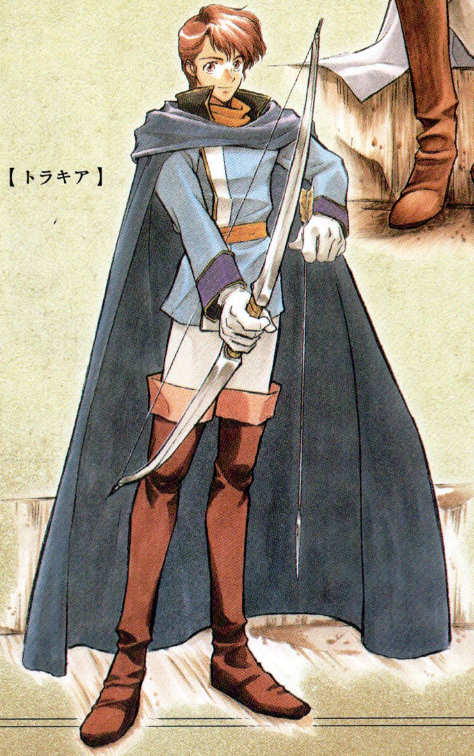


ケイン

実務家として才能を発揮

アルバたちとともに山荘で騎士の鍛錬に励んだ若者。セルフィナに率いられ、山荘に襲いかかるトラキア軍を迎撃した。だが、終戦後は剣を置き、政策面から新生トラキア王国の復興に携わり、リーフや宰相から重用される。





アルバ

南トラキアで奮闘

ドリアスたちに育てられた、新ランスリッターのひとり。彼も両親を戦で失っている。新生トラキア王国では南方に赴任し、王姉アルテナの下で働いた。もとは敵地の人々も、彼の明るさに心を許したという。

ロベルト

レンスター近衛軍の弓騎士

若い騎士が集まる、新ランスリッターの中でももっとも若い。両親を戦争で失ったこともあってか、セルフィナを母と慕う。終戦後は、希望する新生トラキア王国近衛軍へ配属された。だが、幼さと頼りなさは抜けきらなかったようだ。

コノート王家

●祖／不明　●伝承武器／なし

北トラキア地方に並ぶ四小王国のひとつだったが、グランベル帝国の進軍により滅亡し、帝国領に組みこまれる。解放軍がアルスターを制圧したとき、ブルーム王が逃れた城でもある。



アサエロ

【聖戦】

子どもに愛されるヒットマン

孤児たちの親がわりとなり、傭兵稼業で孤児院の運営を助ける。異名は“コノートのヒットマン”。聖戦士に見劣りする自身を悔しく思う。



デイジー

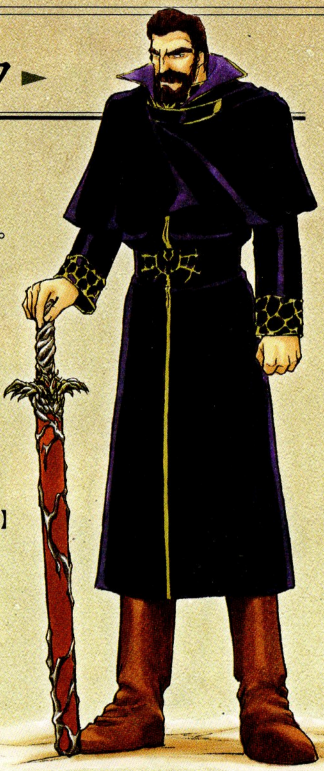
【聖戦】

影は薄いが大事な解放軍メンバー

アサエロの妹。コノートの孤児院で育ち、盗賊稼業で得た金品を仕送りしていた。解放軍に入ってからも、台所事情を考えて盗みを続けた。

レイドリック ▶

元コノート王国の近衛将軍だが、帝国に内通してコノート滅亡に荷担。マンスター城主の座を手に入れる。その後も暗黒教団と組んで悪逆の限りをつくすが、暗黒教団の司祭ベルドによって利用する価値なしとみなされ、十二魔将のひとりにされてしまう。



【トラキア】

マンスター王家

●祖／不明　●伝承武器／なし

北トラキア四小王国のひとつだが、グランベル帝国により滅亡。レイドリックがマンスター城主となると、城の地下牢に狩られた子どもが集められたので、反乱活動の中心ともなった。

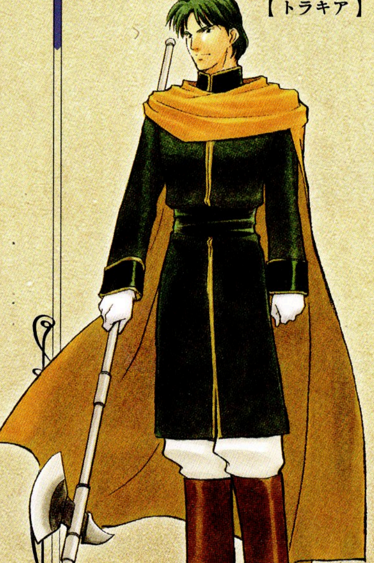


【トラキア】

ダルシン ▶

弟妹の恩義は斧で返す

もとはマンスター城地下牢獄の牢番。弟妹思いで、弟のユベルがリーフ軍によって子ども狩りから救われたと聞き、解放軍に参加する。人情家でもあり、終戦後はケルベス砦へ出向いて盗賊団を壊滅させた。

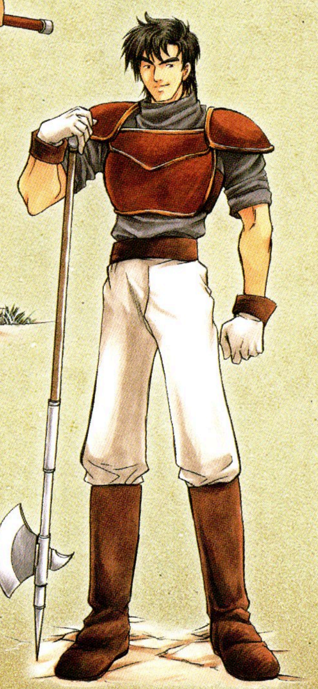


【トラキア】

◀ブライトン

国亡きあとも騎士として

マギ団の中心となり、レジスタンス活動に身を費やす斧騎士。もとはマンスター王国の騎士だったらしい。終戦後はマンスターの復興に尽力するとともに、剣を教えながら妻と平和に過ごした。



【トラキア】

ヒックス ▶

すべては愛息のために

マンスター城下に住む斧騎士。地下牢に捕らえられた息子、マフィーを助けてくれたリーフ軍に加入。終戦後は騎士の身を捨て、故郷で家族と暮らす。ただし、斧を手放すことはなかったという。

アルスター王家

●祖／不明
●伝承武器／なし

レンスター王国の危機も傍観。だが、リーフをかくまった咎で国王は失脚、帝国の支配を受ける。セリスに解放されるまで、数多くの命が失われた屈指の激戦地。



【トラキア】

コノモール

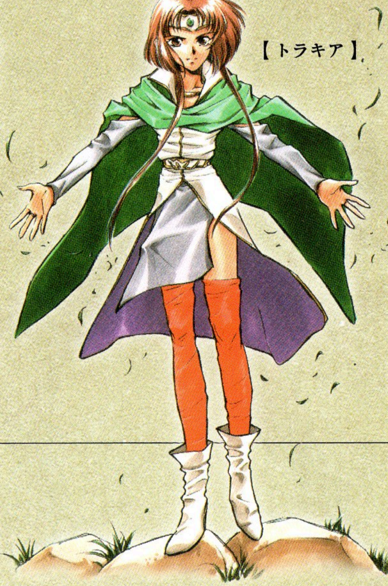
命の重さを知る勇将

アルスターの伯爵。アルスター軍を他国に知れ渡る存在に育てた。ミランダ王女を人質にとられてやむなく帝国軍に荷担するが、部下の命を救うためにみごとな退却を演じた。王女の無事を知り、リーフ軍のレンスター城防衛に参加。

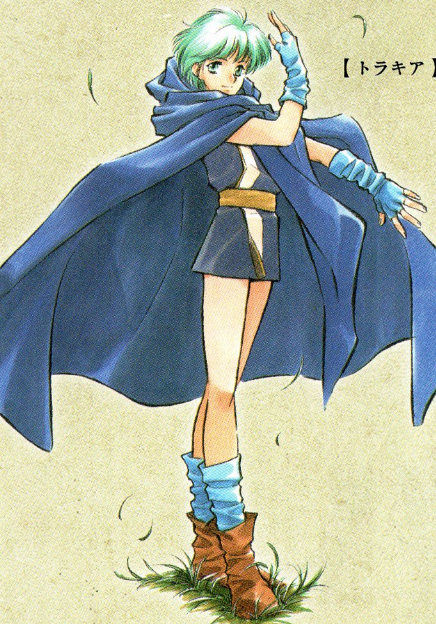
ミランダ

王女ながら自由奔放

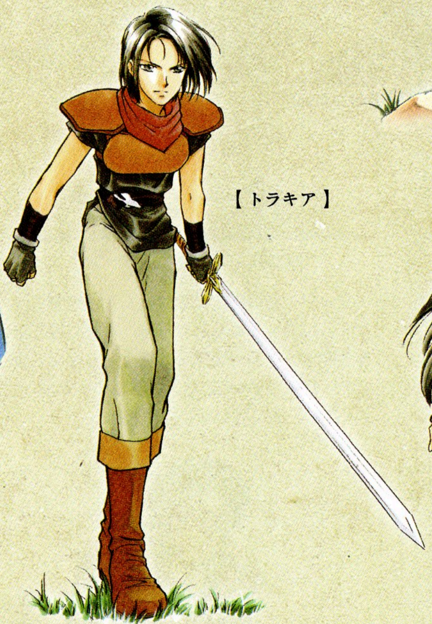
アルスター王女。父王の失脚と同時にアルスター城で人質扱いに。後に暗黒の森の僧院に移送されるが、リーフ軍に救出されて仲間に加わる。新トラキア王国建国後、恋に落ちた騎士と行方をくらました。



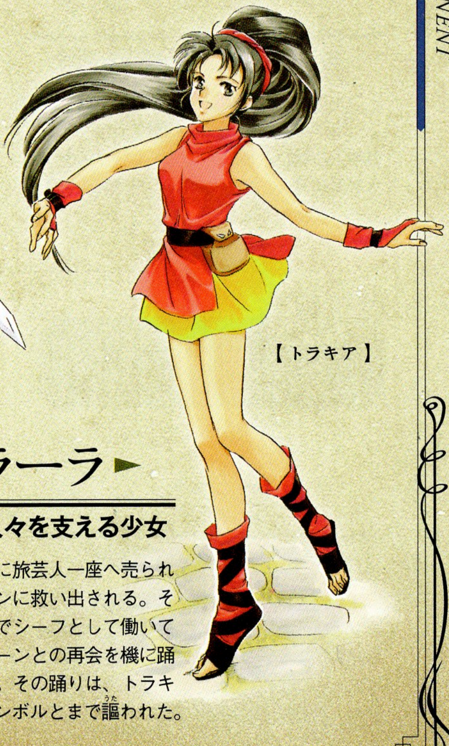
【トラキア】



【トラキア】



【トラキア】



【トラキア】

アスベル

“風”の一員たる魔道士

自由都市フレスト出身の魔道士。ターラで北トラキア奪還を誓ったリーフを探し続ける。マンスターでセティと出会って専用魔法「グラフカリバー」を教わり、リーフの側近として解放戦争を戦う。

マチュア

可憐に剣と斧を振るう

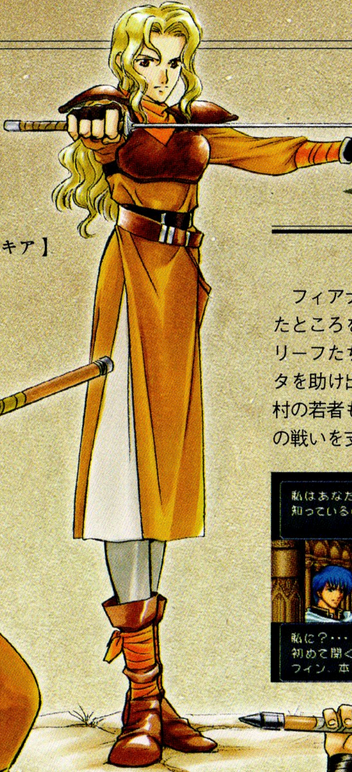
マギ団メンバーのひとりで、セティに厚い信頼を寄せている。また、彼女自身もブライトンから厚い信頼を受けている。終戦後はマンスター再建に情熱を傾けつつ、かつての戦友と家族をもうけた。

ラーラ

踊りで人々を支える少女

幼いころに旅芸人一座へ売られるが、パーンに救い出される。その後マギ団でシーフとして働いていたが、パーンとの再会を機に踊り子に戻る。その踊りは、トラキア復興のシンボルとまで謳われた。

フィアナ村



エーヴェル

戦士をいやす

フィアナ村の領主。十数年前、イスの海岸に倒れていたところを村人に助けられた。それ以前の記憶はない。リーフたちをかくまったり、奴隷市場で見つけたマリータを助け出して義理の娘にしたりと、めんどう見がよく、村の若者も母のように慕っている。旗揚げ時からリーフの戦いを支えるが、ベルドによって石化され……。



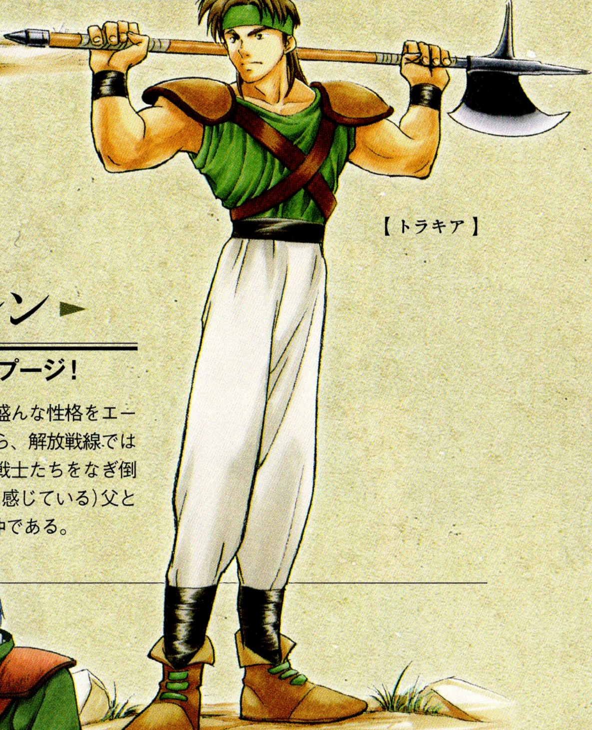
フィンが見た、エーヴェルによく似た人とは。そして、彼女に記憶や聖痕がないのは……。トラキア解放から7年後、そのとき真の終戦が訪れる。



ハルヴァン

“母”の背中を見て育った戦士

フィアナ村の戦士。両親のいない彼や妹パトリシアは、エーヴェルに育てられたという気持ちが強い。後に、領主としてフィアナ村を繁栄に導く。妹が村の裏山で精霊から入手した、勇者の斧を愛用した。



オーシン

うなれ、必殺のプージ！

フィアナ村の戦士。血気盛んな性格をエーヴェルにたしなめられながら、解放戦線では専用斧のプージで帝国軍の戦士たちをなぎ倒した。口うるさい（と本人は感じている）父と2人暮し。タニアとはいい仲である。

イス村

ロナン

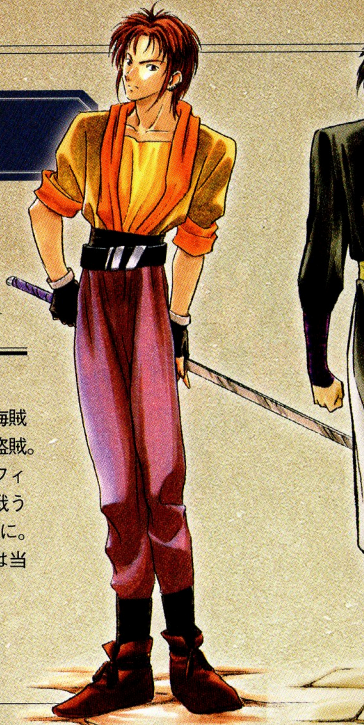
母思いの心優しき猟師

イス村の猟師。弓の腕前には自信がある。村で海賊行為を行っていたリフィス団に憤り、海賊島に渡るフィアナ義勇軍と行動をともにする。その後もトラキア解放軍の一員として働き、終戦後はイス村で猟師に戻った。



THE JUGDORAL CONTINENT

海賊島



【トラキア】

リフィス

悪運だけは強い盗賊

イス村から掠奪を繰り返す海賊団の首領だが、本人は小物の盗賊。リーフ軍に捕縛されるが、サフィのとりなし（ターラで一緒に戦うと嘘をついていた）で軍預かりに。出身はダキアの村で、パーンは当時の顔見知りだが苦手らしい。



【トラキア】

シヴァ

謎多き漆黒の傭兵

サバン出身の傭兵。雇われていたリフィス団が壊滅したあと、ミーズ城近くで他の傭兵と寄り集まっていたところを、リーフ軍が通過。恩賞目的でリーフを狙うが、サフィにさとされて解放軍に参加することに。戦乱終結後、人知れず行方をくらましてしまう。

紫竜山



【トラキア】

タニア

男っぽい口調の裏には恋心

ダグダの娘。父について解放軍に入る。父に似ずに愛らしい顔立ちだが、父親ゆずりの豪放な性格の持ち主。密かに思いを寄せるオーシンとは、憎まれ口を叩き合っているが、戦場では互いを助けあうよき関係。



【トラキア】

ダグダ

紫竜山を変える元山賊

エーヴェルとは旧知の仲で、彼女の器の大きさに惚れこんでいる。もとは山賊で、紫竜山の開墾に励んだが、部下のゴメスに反乱を起こされる。その危機を救ってくれたリーフの力になろうと、解放軍に参加する。



【トラキア】

マーティ

根は純朴な山男

ダグダの部下。ゴメスがダグダに反旗を翻したとき、流されてゴメス側についてしまう。だが、顔見知りにいさめられ、思いなおしてダグダ側についた。解放軍として戦ったが、終戦後は再びダグダと紫竜山の開墾に精を出した。

ターラ公爵家

●祖／不明　●伝承武器／なし

聖者ヘイムの流れをくむ公爵家が治めていたが、リーフをかくまった咎で帝国に自治権を剥奪される。帝国領、前領主の娘リノアンの擁立、トラキアの制圧と終戦まで戦に翻弄された。



ティナ

【トラキア】

シーフの杖振る天然少女

姉サフィを追って街を出るが、パーンたちに捕まって盗賊の手助けをさせられる。無邪気で周囲を振り回すが、シーフやアンロックの杖を操り、解放軍の大きな力となった。

サフィ

命を賭して救国を願う修道女

リノアンに仕える修道女で、ターラ時代のリーフを知る。ターラが危機を迎えた際、支援する戦士を募ろうと命を落とす覚悟で各地を行脚。海賊島に捕らえられたところをリーフ軍に救出される。

【トラキア】

【トラキア】

【トラキア】

ホメロス

ナンナの涙に負けた吟遊詩人

女癖の悪い旅の吟遊詩人。フリージ軍の襲来を避けてターラを脱出しようとするが、ナンナから説教を受けてリーフ軍に。終戦後は実体験をもとにリーフたちの戦いを歌った。

シャナム

剣より口で生きぬく傭兵

イザーク出身。ターラでシャナンの名をかたっていた。その後ロプト教団に雇われるが、ホメロスを頼って解放軍に。偶然だが、マリータが流星剣を覚えるきっかけとなった。

斬新さはゲーム内だけではなかった『トラキア776』

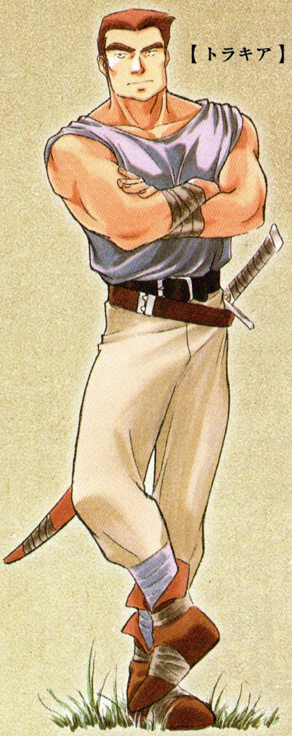
『ファイアーエムブレム』シリーズに初回特典がついたのは、実は『トラキア』が初めて。しかも、予約購入者特典として「プリライト版」と「DXパック」の2種類が用意され、どちらもローソン（Loppi）でのみ予約可能という、ほかに類を見ない商品展開だった。

プリライト版には、ゲームソフトのほか「コレクションカード」（9種）を収録。DXパックにはそれに加え、ビデオ（「The World of Fire Emblem」）・トラキア半島布製マップ（ピンマーカー付）・ぬいぐるみ（ペガサス・ドラゴン）が付属していた。



←DXパック版の購入特典。これだけのグッズを宝箱仕様の箱（中央、ぬいぐるみ下）に入れる凝りようだった。





【トラキア】

ラルフ

男気あふれる傭兵

流れ者だが腕のいい傭兵。彼が偶然立ち寄った村は、アマルダが帝国の魔手から助けた子どもが預けられていた村だった。世話になった礼にと襲撃してきた山賊を迎え撃ち、その後帝国の横暴に耐えかねてリーフ軍に加入する。



【トラキア】

パーン

最後の一線は守る盗賊

盗賊団「ダンディライオン」の首領。だが、貧しい者からの強奪や殺しなど、人道にもとる行為には手を出さない。ラーラやセイラムの恩人で、ラーラの言葉から解放軍に参加を決める。トルードを信頼している。



【トラキア】

トルード

"死神"と呼ばれた剣士

ダキアの森で「ダンディライオン」の用心棒をしていた剣士。長いつきあいのパーンの誘いに乗り、ふたつ返事で解放軍に加わる。剣の腕前もさることながら、体格や体力面にも恵まれ、相手の攻撃を見切る目はなかなかのもの。



【トラキア】

セイラム

教団に疑問を感じた元司祭

元ロプト教団司祭。教団を抜けようとして殺されかけたところを、パーンに助けられる。教団を倒すべきという志が同じと感じ、解放軍に参加。終戦後は、ロプト教団の内幕を記した手記を残す。

ファンへの感謝を受け継いだ『封印の剣』

『トラキア』発売から2年半後、シリーズ初のGBAタイトルとして登場した『封印』は、『トラキア』から「DXパックをローソン(Loppi)でのみ予約販売」という伝統を受け継いだタイトルでもあった。

その特典内容は、卓上カレンダー・バンダナ・ストラップ・クリアファイル(3種)・カンバッジ(6種)など。カレンダーは、後年発売された『烈火の剣』と『蒼炎の軌跡』でも、初回購入者特典として配られた。また、両作にはプレミアムサントラCDも付属。音楽ファンの多いFEらしい特典だった。





←このほか攻略本も特典としてつき、それらが特製紙バッグ(左上端・バンダナ横)に入れられていた。

THE JUGDORAL CONTINENT

アグストリア諸公連合

大陸最強騎士団を擁しながら野望につぶされた国

ヘズル直系のアグスティ王家にノディオン、ハイライン、マッキリー、アンフォニーの四王家が従う連合国家。巡礼の地として有名な「ブラギの塔」のあるオーガヒルもある。グランベルに匹敵する軍事力を備えつつあったが、ひとりの愚王のために崩壊した。

アグスティ王家

●祖／黒騎士ヘズル　●伝承武器／なし

アグスティならびに隣接するマディノ、シルベールを治める。黒騎士ヘズルの直系の王家であるが、いつのころからか、聖なる武器を伝承できる者は現れていない。



【聖戦】

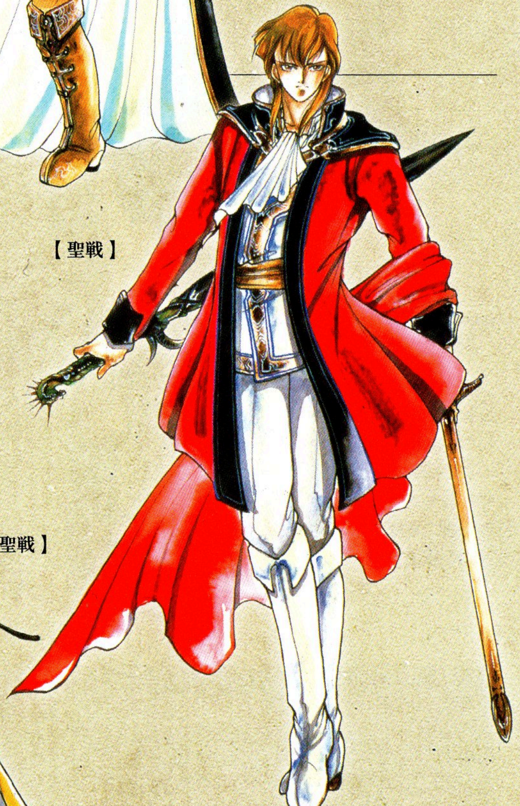
シャガール

マンフロイにそそのかされ、大陸の皇帝となることを目指す。聡明な父王イムカを暗殺、和平を進言するエルトシャンを処刑し、国家滅亡の原因となった。

ノディオン王家

●祖／黒騎士ヘズル　●伝承武器／魔剣ミストルティン

ノディオンを治め、傍系ではあるがヘズルの血を引く王家。伝承武器の「ミストルティン」は、ノディオン王エルトシャン、そして息子のアレスへと継承されている。



【聖戦】

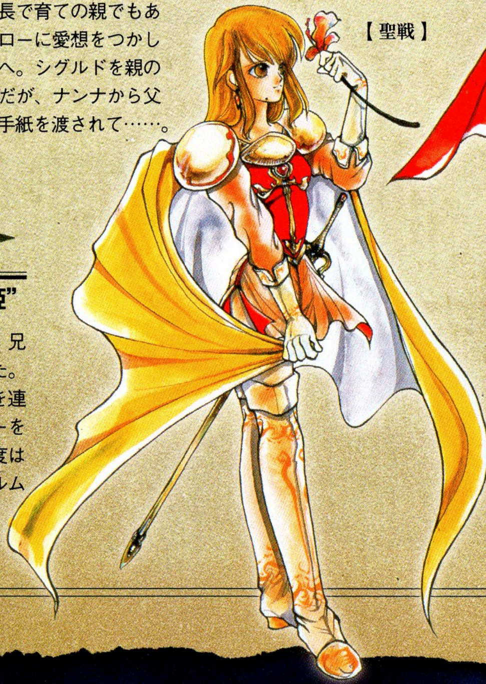
アレス



【聖戦】

魔剣を携えた“黒騎士”

“黒騎士”として恐れられた傭兵。隊長で育ての親でもあるジャバローに愛想をつかして解放軍へ。シグルドを親の敵と恨んだが、ナンナから父が書いた手紙を渡されて……。



【聖戦】

ラケシス

ノディオンの可憐な“姫”

エルトシャンの異母妹だが、兄を理想の男性像と公言していた。“バーハラの戦い”後、ナンナを連れ、アレスを探しにレンスターを訪れる。しばらく過ごすと今度はナンナを残し、イザークへデルムッドを迎えに旅立つが、イード砂漠で消息を絶つ。

エルトシャン

国を憂えた獅子王

“獅子王”の通り名にふさわしく、騎士としてだけでなく指揮官としても優れた武人。大陸最強の騎士団クロスナイツを率いる。レンスター生まれの妻グラーニェとの間にできた息子がアレス。ラケシスは異母妹。

デルムッド

戦場を駆けるカリスマ2世

ラケシスの息子。母親譲りのカリスマ性を持つ。オイフェと諸国の様子を調べに回るなど、セリスやスカサハたちよりひと足早く、解放軍活動を始める。生き別れていた妹ナンナと、リーフ軍で再会を果たす。



【公式サイト】

トリスタン

【聖戦】



体力自慢のフリーナイト

アグストリアの動乱で戦死した、クロスナイツのイーヴを父に持つ。イザークに疎開する途中に妹とははぐれた。その後、解放軍旗揚げ時のメンバーとなる。

ジャンヌ

【聖戦】



生い立ちが強くさせた

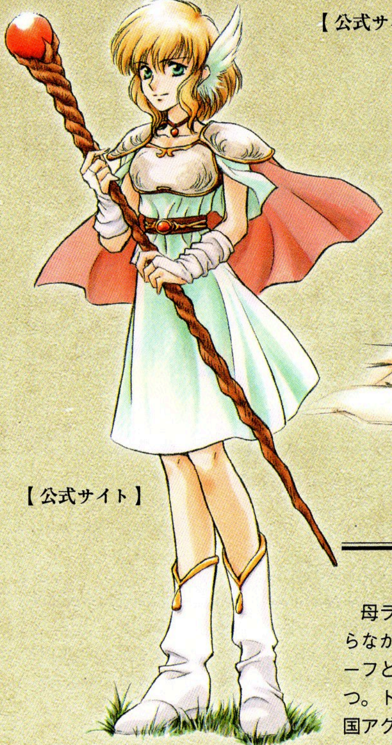
トリスタンの妹。"バーハラの悲劇"を避けてイザークに向かう途中、兄とはぐれてしまう。彼女を拾った商人も帝国兵に殺され、7歳のときにフィンの下へ。

イーヴ

【聖戦】



弟エヴァ、アルヴァとともに、エルトシャンに信頼されたクロスナイツ。ラケシスをシグルド軍に届けたあと、アグストリアの動乱で戦死する。



【公式サイト】

ナンナ

フィンに育てられた王女

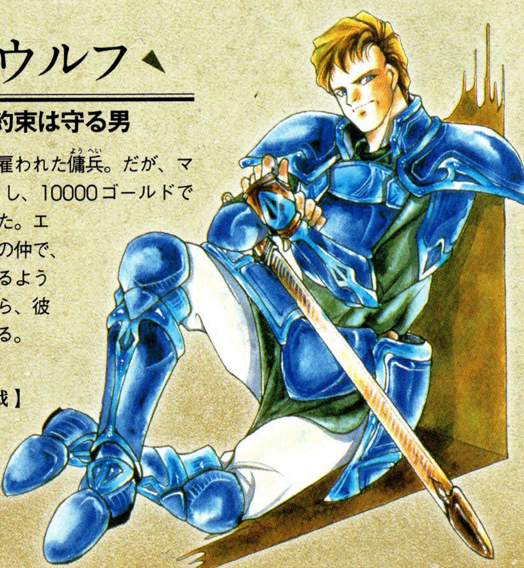
母ラケシスが兄デルムッドを迎えにいったまま戻らなかったので、レンスターに残された彼女は、リーフとともにフィンを父、エーヴェルを母として育つ。トラキア、グランベルの解放戦線に参加後、祖国アグストリアの統一に力を注ぐ。

ベオウルフ

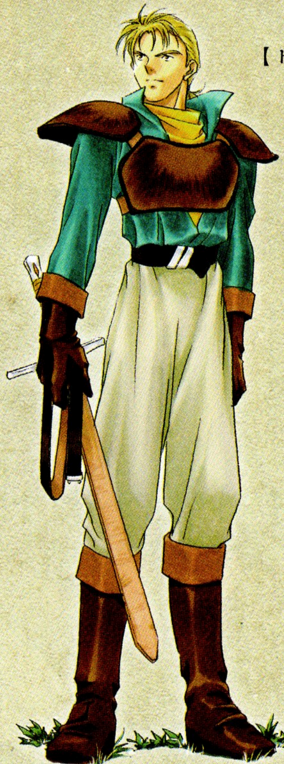
友人との約束は守る男

アンフォニー軍に雇われた傭兵。だが、マクベス王に嫌気がさし、10000ゴールドでシグルド軍に寝返った。エルトシャンとは旧知の仲で、ラケシスを気にかけるよう頼まれていたことから、彼女に戦い方を指南する。

【聖戦】



【トラキア】



フェルグス

世話焼きな旅の傭兵

カリンにからむ帝国軍兵士を痛めつけて投獄される。そこで出会ったリーフの救出を手助けし、そのまま解放軍の仲間に。「ベオウルフの隠し子」「コノート王家の落胤」という噂もあるが、真偽は不明。

シレジア王国

新時代の幕開けに大きく関与した風戦士の国

建国以来、天魔騎士団と風の魔道士の力で100年間の中立を守るが、グランベルの侵攻によってアルヴィス皇帝の直領とされる。再び自由と中立を手にするのは、トラキアやグランベルの解放軍の決起を受け、シレジアでも解放活動が始まった後となる。

シレジア王家

●祖／風使いセティ　●伝承武器／風魔法フォルセティ

長く平和を保っていたが、先王が病死したあとレヴィン王子が跡目争いを嫌って出奔。これにより、王家内のあつれきが激化する。その結果、セティが王位を継ぐまでは空位となる。



ラーナ

【聖戦】

病死した先王の妃でレヴィンの母。謀反の疑いがかかったシグルドをセイレーン城にかくまう。成長した姿を見て、息子に「フォルセティ」を継承する。



ダッカー

【聖戦】

先王の弟でレヴィンの伯父。レヴィンの王位継承を不服とし、アルヴィス側との密約によってアンドレイ軍の支援を得て、シレジア城制圧を画策した。



マイオス

【聖戦】

先王兄弟の末弟。報酬目あてでシグルドの首を狙うが、返り討ちにあう。兄ダッカーと同様に、直系ながらセティの血を受け継いではいない。



メング

【聖戦】

ヴァイスリッター所属のファルコンナイト。同じセティの血筋で、指揮能力以外はまったく同じ力を持つブレグ、メイベルの2人と強力な一撃を放つ。



ムーサー

【聖戦】

父親を殺した反乱軍を恨む帝国軍兵士。セティの血筋を受け継ぐシレジアの騎士でもある。反乱軍を制圧するために、軍を率いてトラキアに遠征する。



【聖戦】

【トラキア】

◀セティ

その名に恥じぬ風の勇者

フュリーの息子。母の病を治すために父を探す旅に出る。だが、立ち寄ったマンスターの状況を見過ごせず、マギ団を指揮。ブラギの剣を手に入れてリーフに託すなど、マンスター解放に協力後にセリス軍に入る。終戦後はシレジアに戻り、王位に就いた。

▲レヴィン

世界に吹いた温かき"風"

アグストリアで出会ったシグルドと行動をともにする。若き竜族フォルセティに体の一部をあずけることで"バーハラの悲劇"後も命を保ち、光の公子たちの戦いを支援する。シレジアの次期国王だったがすでに人の中では生きられず、終戦後に再び旅に出る。

if……

フィンとは逆に、『トラキア』でのセティの設定はレヴィンの子（＝フォルセティ継承者）で固定、「if」の存在はない。





フィー

【聖戦】

元気さがとりえの天馬っ娘

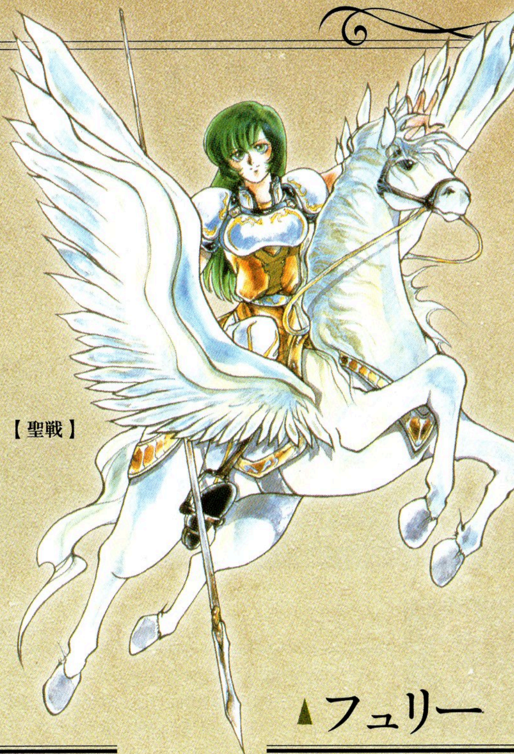
セティの妹。兄がシレジアを飛び出したあとで母が亡くなったため、自身も旅へ。その途中で出会ったアーサーと解放軍に入る。愛馬の名はマーニャ。



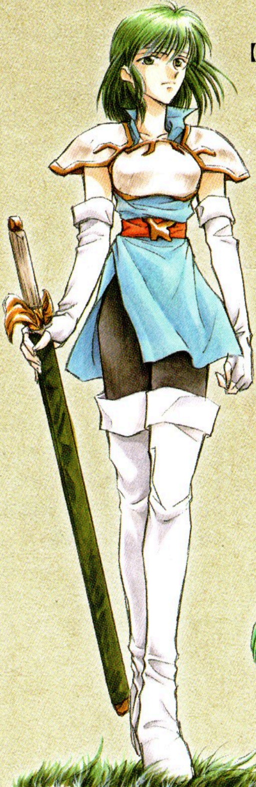
マーニャ

【聖戦】

シレジア天馬騎士団長で四天馬騎士の長。フュリーの姉で、レヴィンが憧れた存在だった。シレジアでの内乱時、パメラ・アンドレイ軍によって戦死。



【聖戦】



【トラキア】

◀ミーシャ

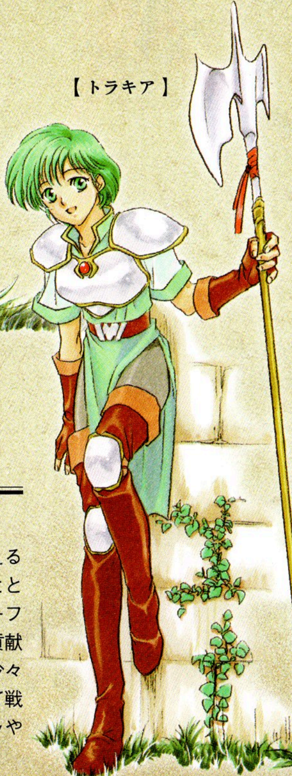
子どもたちのために戦う将軍

飢えた子たちを救おうと傭兵になり、帝国軍で将軍の地位にいたが、子ども狩りの事実を知って解放軍へ。母はディートバ。終戦後、シレジア解放戦争での勲功から初代天馬騎士団長となる。

▲フュリー

強くなった泣き虫

姉マーニャ同様、四天馬騎士のひとり。国を飛び出したレヴィンを連れ戻す流れでシグルド解放軍に参加、"泣き虫フュリー"から強く成長した。性格はまじめで、レヴィンにからかわれていた。

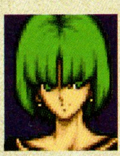


【トラキア】

カリン▶

目標は天馬騎士団

セティにフュリーの死を伝えるために国を出る。フェルグスとともに投獄されるが、その際リーフのマンスター城脱出に大きく貢献する。愛馬の名はエルメス。少々お節介な性格で、帝国軍として戦うことに疑問を感じるミーシャやイリオスを軍に勧誘した。



ディートバ

【聖戦】

シレジア四天馬騎士のひとりとして、マーニャ、パメラにつぐ実力を持つファルコンナイト。マイオスに仕えてシグルド軍を襲撃するも、撃墜される。



ホーク

【聖戦】

優しき光魔法の勇者

失踪した父を探してシレジアを旅立つ。だが、マンスター市民を見捨てられず、光魔法で反政府活動を行う。ルテキアの村人に、恋をすすめられた経験あり。



フェミナ

【聖戦】

目標に突き進む天馬騎士

帰りの遅い兄を追って自身も旅へ。シグルドに憧れ、フュリーのような天馬騎士になるのが夢。ルテキアの村で、シャナンの偽者に言いよられるが……。

ヴェルダン王国

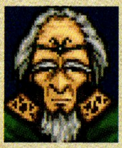
深き森に蛮族と精霊を宿す国

巨大湖と深い森が大部分を占める国土に、たびたび他国との国境を荒らす蛮族が住む。また、"精霊の森"にある村には、昔から不思議な力を持つ一族が隠れ住むという。バトゥ王や息子たちの死後、国土は荒れ果てて、山賊が支配する国となっている。

ヴェルダン王家

●祖／不明　●伝承武器／なし

大陸にある国家では、唯一聖戦士の血族ではない王家。穏やかなバトゥ王が周辺国と同盟を結び、国として確立させるが、グランベル侵略とその失敗によって王家は崩壊する。



バトゥ　【聖戦】

ロプト教団司祭サンディマにだまされてグランベル侵攻を開始し、王家の崩壊を招いた王。早世した長子の子ジャムカを、ガンドルフたちの末弟に迎え入れた。



ガンドルフ　【聖戦】

バトゥ王の次男。ヴェルダン軍を率いてユングヴィ城を制圧し、エーディンを妻にするべくマーファ城に連れ帰った。ミデェールに深手を負わせた相手。



キンボイス　【聖戦】

バトゥ王の三男でジェノアの領主。兄とグランベルに進撃する予定だったが、シグルド軍に撃破される。シャナンを人質にとり、アイラを戦場に送り出した。



【聖戦】

ジャムカ

誠実な弓戦士

バトゥ王の長子の子。ガンドルフたちの掠奪行為を嫌い、捕らえられていたエーディンを逃がした。進撃を止めるよう、シグルドとともにバトゥ王を説得しようとするが、すでにサンディマに殺害されたあとだった。

【聖戦】

デュー

侮れない盗賊戦士

盗みを働いてガンドルフに捕まるが、エーディンの願いを聞いたジャムカに逃がしてもらう。解放軍では、武器や金品を調達しつつ、"太陽剣"の使い手としても活躍。

イード砂漠

灼熱の大地の下に暗黒の歴史を抱く

"バーハラの戦い"の発端となった砂漠の都市ダーナや、神剣バルムンクが収められていたイード神殿のある地。十二聖戦士が誕生したダーナ砦がある場所でもある。教団が復活してからは、暗黒魔道士が支配する"死の砂漠"と化している。

ブラムセル　【聖戦】



帝国軍領となったダーナの領主。ジャバロー傭兵団を雇い、セリス軍を狙った。リーンを手にかけようとしたために、アレスの怒りをかう。

シャルロー　【聖戦】

バサークの杖を使うエリート



ダーナの街でハンニバル将軍に拾われる。成長が早く、バサークの杖を使いこなすプリースト。かわいがってくれたアルテナを慕っていた。

レイリア　【聖戦】

市井に咲いたカリスマ



エリート気質の弟シャルローとともに、カリスマ気質の姉として解放軍で活躍した。ある村で知り合ったアンナから、バリアの剣を手に入れる。

ロプト教団

世界を恐怖に陥れた暗黒教団

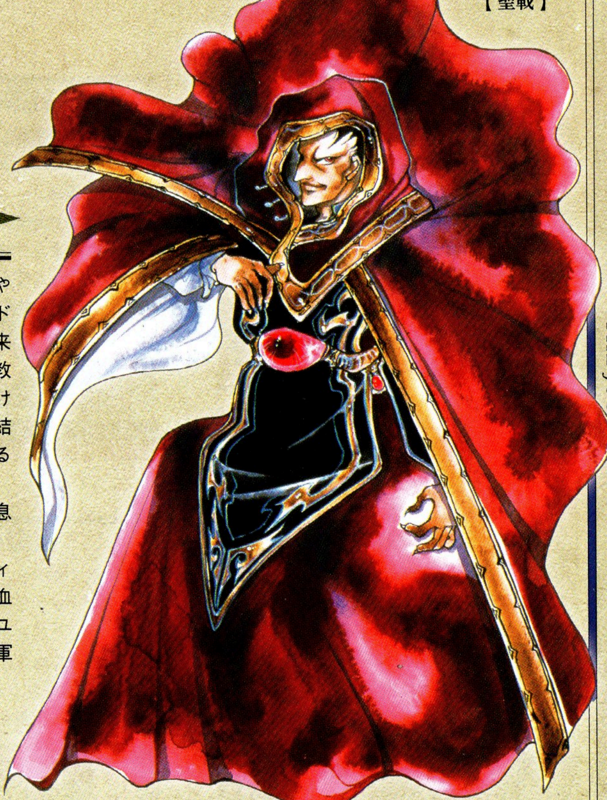
世界を支配したロプト帝国が崩壊後、ロプト教団の残党・子孫は世界中で虐げられる生活を送る。そのため、イード砂漠の地下深くで数百年間も息を潜めていた。だが、司祭マンフロイの策略によって世界に戦乱の種は巻かれ、教団は再び動き始める。

ロプト一族

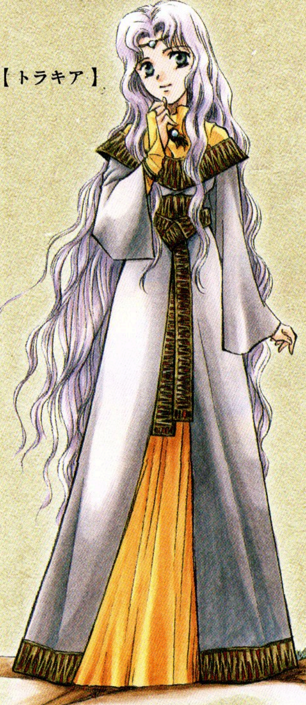
●祖／ガレ　●伝承武器／暗黒魔法ロプトウス

開祖はガレだが、その血族は滅び、生き残っているのは教団と袂を分かった聖騎士マイラの一族のみ。そのため、司祭マンフロイがロプト教団指導者として暗黒竜復活をもくろんだ。

【聖戦】



【トラキア】



マンフロイ ▶

ロプト教団の大司祭。バトゥやアルヴィスをそそのかし、ユグドラル大陸に戦乱を起こすが、本来の目的は暗黒竜の復活とロプト教団の復興。ともにガレの血を受け継ぐディアドラとアルヴィスを結びつけ、ロプトウスの化身である子どもを作り出そうとした。

策略は成功し、アルヴィスの息子ユリウスは「暗黒の書」で覚醒、ロプトウスの化身に。だが、ディアドラがヘイム（神竜ナーガ）の血を引くユリアも産んだために、ユリウスは倒され、自身もセリス軍に討たれることとなった。

▲サラ

暗闇から光のもとへ抜け出した少女

マンフロイの孫娘。母を幼くして亡くし、父は母を愛したことがマンフロイの怒りをかって殺された。そのため、マンフロイを嫌っている。マンフロイ一族専用の石化を解く「キアの杖」を使うことができ、エーヴェルを助けたいリーフの心の声を感じ、その前に現れる。戦後は、リーフの庇護下で穏やかに暮らした。



ベルド

【聖戦】

マンフロイの腹心でトラキア教区責任者。トラバントに情報を流し、イード砂漠でキュアンを襲わせた首謀者。村々を焼いて子ども狩りを実行した。

十二魔将とベルクローゼン

マンフロイやベルドが死者から作り出し、セリスやリーフの前に送りこんできた魔戦士、"十二魔将"とは、グラン共和国を滅亡させた伝説の将から名づけられた。ベルクローゼンとは、教団の闇魔道士や狂戦士で組織した傭兵団を指す。



THE JUGDRAL CONTINENT

トライアングルアタック！の系譜

特定の味方ユニット3人で繰り出す「トライアングルアタック」。3人で敵を囲み、相手に強力な“必殺の一撃”を叩きこむ、文字どおりの“必殺技”だ。その歴代の使い手たちを紹介しよう。

【 File 01 】

暗黒竜、外伝、紋章、新・暗黒竜

トライアングルアタックの代名詞的存在。『暗黒竜』から『紋章』まで3作連続で登場。唯一の使い手だったため、「この技はペガサス三姉妹のみ使用可」という印象をもたらした。



パオラ ペガサスナイト / カチュア ペガサスナイト / エスト ペガサスナイト

【 File 02 】

聖戦の系譜

革新的な『聖戦』で、ついに伝統をうち破る組み合わせが登場。魔道士3人（三姉妹かどうかも不明）によるトライアングルアタックが誕生したのだ。しかも、彼女らは敵ユニット。いろいろな意味で驚かされる存在だった。



ヴァンパ ファイアマージ / フェトラ ウインドマージ / エリウ サンダーマージ

【 File 03 】

聖戦の系譜

『聖戦』に登場する2組目の使い手で、やはり敵ユニット。だが、トライアングルアタックを使うこと以上に、ファルコンナイトにもかかわらず「みきり」スキルのせいで弓攻撃が効かないという点のほうが印象深かったかも。



メング ファルコンナイト / ブレグ ファルコンナイト / メイベル ファルコンナイト

【 File 04 】

封印の剣

シリーズの伝統、ペガサス三姉妹によるトライアングルアタック。ただし、三姉妹の長姉ユーノは、イリアルートに進まないと仲間にできないので、サカルートに進んだ場合は、トライアングルアタックを使えなかった。



ユーノ ファルコンナイト / ティト ペガサスナイト / シャニー ペガサスナイト

【 File 05 】

封印の剣

「ペガサスナイトとは対極に近いアーマーナイトがトライアングルアタックを!?」ということで、プレイヤーに衝撃をもたらした3人組。ボールスとウェンディ（兄妹）にバース（同僚）という組み合わせも意表をついた。



ボールス アーマーナイト / ウェンディ アーマーナイト / バース アーマーナイト

【 File 06 】

烈火の剣

ペガサス三姉妹によるトライアングルアタック。通称“イリア三翼の舞い（ファリナ談）”。次女ファリナはヘクトル編にしか登場しないので、トライアングルアタックも、ヘクトル編限定となっている。



フィオーラ ペガサスナイト / ファリナ ペガサスナイト / フロリーナ ペガサスナイト

【 File 07 】

聖魔の光石

シレーネとヴァネッサの姉妹、そして王女ターナという、フレリア天馬騎士団員3名による組み合わせ。ただし、攻撃するユニット以外は、必ずペガサスナイトかファルコンナイトでなければならないという制約がある。



ターナ ペガサスナイト / シレーネ ファルコンナイト / ヴァネッサ ペガサスナイト

【 File 08 】

蒼炎の軌跡、暁の女神

4人のうち、任意の3人で繰り出せる。エリンシアだけ聖天馬騎士団でないので、一見共通点がなさそうだが、実は彼女の祖母も聖天馬騎士団の出身。もしや祖母から技の出し方を教わっていたのか。



マーシャ ペガサスナイト / タニス ペガサスナイト / エリンシア ペガサスナイト / シグルーン ペガサスナイト

【 File 09 】

蒼炎の軌跡、暁の女神

ランスナイト、戦士、アーチャーという、ちょっと変わった組み合わせ。しかし、全員が弓を装備していないと発動しないので、実際に見る機会は少ない。手槍&手斧装備可なら、もっと日の目を浴びたかも……。



オスカー ランスナイト / ボーレ 戦士 / ヨファ アーチャー



World Guide

エレブ大陸編

収録作品

エレブ大陸



EREB SAGA

かつて「人」と「竜」が共存する大陸があった。
彼らはともに英知をもち、住処を侵すことなく
穏やかな生活を営んでいた。

しかし突然「人」の侵略によって、
そのバランスは破られる。
どちらともが大陸の覇権をかけ争い、
それは大自然の理をも
変化させるほどの大戦となった……。
のちに「人竜戦役」と呼ばれる戦いである。

その結果、敗れた「竜」は大陸から姿を消し、
「人」は戦いの痛手を乗り越えて、
大陸全土、そしてそれに連なる島々へ
着実にその勢力をのばしていった……。

それから千年近い時が流れ——。

大陸エレブ——。
そこには天敵をもたぬ「人」が広がり、
いくつもの文化を築きあげていた。

まず西に、大陸一はなやかで高度な文化を誇る
エトルリア王国。
東に、派手さはないが
堅実な文化と質実剛健の気風をよしとする
ベルン王国。
この２つの王国が中心となり、
それに挟まれる形で小勢力が続く。

複数の領主たちが手を結び、二大王国に対抗する
リキア同盟。
民とともに荒地を切り開くイリア地方の諸騎士団。
広大な草原を馬で駆けめぐるサカ地方の諸部族。

それらの力のバランスにより、小さな争いこそあれ
全体としては安定を保ってきた……。

◆エレブ新暦年表

人竜戦役

約1000年前
- 人と竜が大陸の覇権をかけて争う。
- 神竜族、争いを避けるためナバタ砂漠に隠遁。氷竜ニニアンとニルスも竜の門を経て異大陸へ逃れる。
- 竜族の長、戦闘竜を生み出すべく神竜イドゥンを魔竜に変える。
- 人、「神将器」を作り、これを手にした八神将が竜殿へ侵攻。
- 自然の理が崩壊し「終末の冬」が到来。竜族は本来の姿を保てなくなり、竜石に力を閉じこめ人の姿になる。
- 八神将、竜族の長を撃破。英雄ハルトムート、封印の剣とファイアーエムブレムを用いて魔竜イドゥンを封じる。
- ハルトムート、封印の神殿を見守るべくベルン王国を興す。

約500年前
- 大賢者アトス、ナバタ砂漠にてネルガルと邂逅。
- アトス、神竜族とともにネルガルを襲撃。ネルガルはベルンに逃亡し潜伏。

キアラン内乱

963年
- キアラン侯ハウゼンの娘マデリンが、サカのロルカ族の青年ハサルのもとへ駆け落ちする。

979年
- タラビル山賊団の襲撃により、ロルカ族が壊滅。族長ハサルの娘リン(本名リンディス)だけが生き残る。
- サカの都市ブルガルにてキアラン侯公女リンが発見される。
- キアラン侯弟ラングレンと、公女リンとの間で次期侯爵の後継争いが勃発。
- リン、ラングレンを討ち、祖父キアラン侯ハウゼンと対面。キアランの内乱が終結。

史実に残らぬ戦い

980年
- 暗殺者組織「黒い牙」にフェレ侯エルバートが拉致される。フェレ侯公子エリウッドとオスティア侯弟ヘクトルは、エルバートを探すべく旅立つ。
- エリウッド一行、ラウス侯ダーレンに会うべくラウスへ。ダーレンは逃走。ここでラウス侯がオスティアへの造反を企てていたことが判明。
- ダーレンの奇襲によりキアラン城陥落。エリウッド一行、リンと合流し城を奪還。ダーレンはヴァロール島へ逃走。
- エリウッド一行、竜の門にてダーレンを討つ。一行はエルバートと再会するが、エーギルを奪われエルバート死亡。
- エリウッド一行、ナバタ砂漠でアトスと出会い、ベルン王国の封印の神殿に向かうよう指示される。
- エリウッド一行、ベルンの山頂付近にて黒い牙からファイアーエムブレムを奪い返す。
- 黒い牙がベルン王国王子ゼフィールの暗殺を試みるも、エリウッド一行に阻止される。
- エリウッド一行、封印の神殿にてブラミモンドと出会う。ブラミモンドによって、神将器の封印が解かれる。
- エリウッド、烈火の剣デュランダルを入手。ヘクトル、天雷の斧アルマーズを入手。
- オスティア侯ウーゼル、病没。
- 竜の門にて、ネルガルと決戦。ネルガル撃破後、召喚された火の竜と決戦。神将器を用いて、これを撃破する。

981年
- エリウッドはフェレ侯爵に、ヘクトルはオスティア侯爵およびリキア同盟盟主に即位。

996年
- ベルン王国王子ゼフィール、国王デズモンドを殺害し国王に即位。

ベルン動乱

999年
- ベルン王国、サカ地方およびイリア地方に侵攻。両地方はベルンの支配下となる。
- フェレ侯公子ロイ、リキア同盟軍に参加すべくフェレ軍を率いてオスティアへ進軍。
- ベルン王国王女ギネヴィア、ファイアーエムブレムを持ち出し、フェレ軍に投降。
- アラフェンにてベルン軍とリキア同盟軍本隊が激突。同盟軍本隊は壊滅し、リキア同盟盟主ヘクトルは死亡。
- ベルン軍の侵攻によりオスティア陥落の危機。エトルリア軍の助力により、これを退ける。以降、リキア同盟はエトルリア王国の保護下に置かれる。
- フェレ侯エリウッドがリキア同盟盟主代行となり、新生「リキア同盟軍」を結成。ロイ、同盟軍の将に任ぜられる。
- ロイ率いるリキア同盟軍、エトルリア王国からの出動要請により、盗賊討伐をすべく西方三島に進軍。
- リキア同盟軍、西方三島のエトルリア総督府を制圧し、圧政に苦しむ民衆を解放。
- エトルリア王国にて、宰相ロアーツと西方三島総督アルカルドによるクーデター勃発。国王モルドレッドは軟禁され、ギネヴィアもベルン軍に幽閉。だが、リキア同盟軍の活躍もあり、ギネヴィアは同盟軍に再合流。
- リキア同盟軍、エトルリア王国王都アクレイアへ侵攻。ナーシェンを撃破し王宮を制圧。国王モルドレッドを保護する。
- 国王モルドレッド、リキア同盟と連合軍を結成。連合軍は「エトルリア軍」と命名され、ロイが司令官に任ぜられる。エトルリア軍は、クーデター派の残党狩りを行いつつ、ベルン王国への遠征を開始。
- ロイ率いるエトルリア軍、クーデター派を殲滅。
- エトルリア軍、封印の神殿付近でマードック率いるベルン軍と激突。これを撃破し、神殿にて封印の剣を入手する。
- エトルリア軍、ベルン王宮に侵攻。ベルン近衛兵と激突し、国王ゼフィールを撃破。
- ベルン王国、エトルリア王国に降伏を宣言。ブルーニャをはじめとするベルン軍残党のゲリラ的抵抗もあったが、ひとまず戦争は終結。
- ロイ、竜殿にてヤァンから人竜戦役の真実を聞かされる。その後、ヤァンと激突し、これを撃破。
- ロイ、竜殿の最深部にて魔竜イドゥンと決戦。封印の剣を用いて、これを撃破する。
- エトルリア王国、ベルン王国を解体するものの直接統治を断念。ベルン王国を再建すべく、ギネヴィアが女王に即位。

烈火の剣

封印の剣

人竜戦役

人と竜の戦い

エレブ大陸には、かつて人と竜が共存していた。彼らはそれぞれ穏やかな生活を送っていたが、約千年前に、突如人が竜への侵攻を始めた。後世に語り継がれる「人竜戦役」の始まりである。

強大な力を持つ竜は、次第に人の数に押され始める。そこで、個体数の差を補うために、戦闘竜を生み出すことのできる魔竜を生み出した。魔竜の存在を知った人は、竜に対抗するための武器「神将器」を作り出し、それを8人の英雄たち（後に"八神将"と呼ばれる）に持たせ、竜族の本拠地「竜殿」へと攻めこんでいく。

神将器の持つ魔力と、竜族の強大な力が竜殿に集中したとき、世界の秩序が崩れた。夏に雪が降り、昼が夜になるという異常気象、いわゆる「終末の冬」の到来である。自然の摂理が崩壊したことで大地や空の力は弱まり、竜は本来の姿を保つことができなくなった。そのため、自らの力を竜石に閉じこめ、人の姿をとるようになる。人間は、人と化した竜を集中的に狙い、ついには人が勝利を収めた。

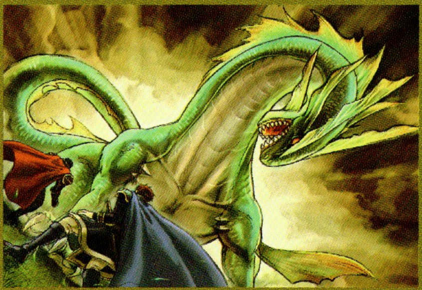


八神将と神将器　ハルトムートたち八神将は、戦争終結後に神将器を封じる。竜を滅ぼし、自然の摂理を崩壊させる力を秘めた武器を、野放しにはできないと考えたのだ。

竜族とは？

エレブ大陸には神竜、火竜、氷竜、戦闘竜といった、さまざまな竜族がいる。このうち、「人竜戦役」で人と敵対したのは、火竜と戦闘竜である。

竜族の中でもっとも強い力を持つ神竜は、戦いを避けるべくナバタの里に身を隠す。また、氷竜たちも神竜と同様に争いを嫌い、「竜の門」を使って異大陸へと避難する。このとき、竜と人の子であるニニアンとニルスも、氷竜と行動をともにした。



ベルン王国の建国

竜族の長が倒れると、魔竜イドゥンは、敵意にのみ反応する無残な生物になり果てる。それを見たハルトムートは、イドゥンを哀れに思い、命を奪うかわりに、剣と宝珠を使って封印を施すことにする。その剣が「封印の剣」であり、宝珠が「ファイアーエムブレム」である。

そして、ハルトムートは、イドゥンを封じた神殿の周辺に国を築き、剣と宝珠さらには神殿を代々王家が見守るものとする。こうして、かの地にベルン王国が誕生した。



大賢者アトスとネルガル

八神将のひとりアトスは、ナバタ砂漠でネルガルという闇魔道士と意気投合する。2人は、神竜と人が共存する理想郷「ナバタの里」を偶然発見し、そこにとどまり、さまざまな神竜の知識を得る。そんな中、生物の生きる力「エーギル」を奪う方法を習得したネルガルは、力に魅せられ、ついには人からエーギルを奪おうとする。だが、アトスと神竜の長は、力を合わせて彼の野望を阻止。その後、数百年間、ネルガルはベルンに潜伏することになる。





人の理を超越した人　アトスとネルガルは、ともに強大な魔力と膨大な知識の持ち主。そのため、いつしか人の理を超越し、長命の身となった。

キアラン内乱

キアランのお家騒動

リキア同盟の諸侯のひとり、キアラン侯ハウゼンには、マデリンという一人娘がいた。彼女がサカ部族ロルカの青年ハサルのもとに駆け落ちしてしまったために、次期侯爵はハウゼンの実弟ラングレンになると目されていた。

だが、エレブ新暦979年、マデリンから手紙をもらったハウゼンは、自分に孫がいることを知る。そして、主から孫娘を探すよう指示されたキアラン騎士ケントとセインは、サカの都市ブルガルで公女リン(本名リンディス)を発見する。山賊の襲撃によって一族や家族を亡くしたリンは、唯一の血縁である祖父のもとに向かうことを決意する。

リンを快く思わない侯弟ラングレンは、彼女に刺客を送り、ついには次期侯爵を巡る内乱が勃発。内戦は日に日に激化し、他領をも巻きこんでいくことになる。だが、リンが激戦の末にラングレンを討ち取ったことで、内乱はようやく終結する。



←リンは旅の途中で、頼りになる仲間をたくさん引き入れる。彼らが、ラングレンを打倒するための重要な戦力となった。



↑苦難の末にキアラン城にたどり着き、侯弟ラングレンと対峙するリン。いつもは優しい彼女も、敵には容赦がない。

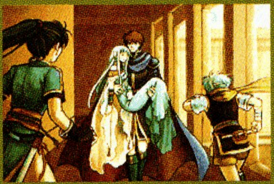
運命の出会い

キアランに向かう途中、リンは2つの運命的な出会いを果たす。ひとつはニニアン姉弟との出会いである。リンたちは、姉弟が暗殺者集団「黒い牙」に追われていたところを救出する。もうひとつは、フェレ侯公子エリウッドとの出会い。エリウッドは、キアラン近隣領主との間で、キアランの内乱に介入しないという約定を取りかわすなど、リンの勝利に大きく貢献する。

キアランに到着したリンたちは、ニニアン姉弟、エリウッドといったんは別れる。だが、その翌年、ともにネルガルを倒す旅に出ることとなる。



←「黒い牙」にさらわれた姉ニニアンを助けるために、ニルスはリンたちに助けを求める。



←エリウッドは気を失ったニニアンを抱え、さっそうと現れる。まるで、"白馬に乗った王子様"のような登場シーンだ。

史実に残らぬ戦い

フェレ侯エルバートの失踪

エレブ新暦980年、ネルガルは、自らの力の源であるエーギルを集めるべく、フェレ侯エルバートを拉致する。さらには、ラウス侯ダーレンをそそのかしてオスティアへの造反を煽り、戦争を起こそうとする。だが、そのことを知らないフェレ侯公子エリウッドとオスティア侯弟ヘクトルは、わずかな手勢を率いてエルバートを探す旅に出る。

ラウスへ向かった一行は、ダーレンがオスティアへの造反を企んでいること、また黒い牙がかかわっていることを知る。キアランでリンを加えた一行はダーレンを追い、一路ヴァロール島へ向かう。

竜の門にてダーレンを討ち、一行はついにエルバートとの再会を果たす。だが、そこにネルガルが現れ、火竜を召喚。ネルガルの真の狙いは、竜のエーギルを奪うことにあった。ニルスの活躍によって火竜は消滅するが、エルバートは、ネルガルにエーギルを奪われて帰らぬ人となる。



←ヴァロール島には、オスティアの密偵レイラの亡骸が放置されていた。ヘクトルたちは黒い牙への怒りに打ち震える。



↑ついにエルバートと再会したエリウッド。だが、エーギルを奪われたエルバートは、息子の腕の中で息を引き取る。

史実に残らぬ戦い

氷竜の姉弟と竜の門

ニニアンとニルスは、氷竜と人の間に生まれた。竜の血を引いているためか、身に降りかかる危険を察知したり、姉弟間で力の受け渡しをしたりと、人知を超えた力を備えている。

また、姉弟は、無数の竜が暮らす異大陸とエレブ大陸との接点である「竜の門」を開閉できる。そのために、竜のエーギルを奪わんとするネルガルに狙われる。





↑→力の受け渡しをする姉弟。ニニアンの力で開放された「竜の門」から、火竜が現れる。

ベルン王国と「黒い牙」

エリウッド一行は、今後の指針を探るべく"大賢者"アトスのもとに向かう。アトスは、ベルン王国の封印の神殿に向かうように指示。だが、ベルン王国は黒い牙の拠点であり、組織の手はベルン王家にまで伸びていた。

黒い牙は、王位継承に必要な宝珠「ファイアーエムブレム」を奪い、王子ゼフィールの暗殺を企てるが、エリウッドたちの活躍で失敗。そして、エリウッドたちは、その功績により、封印の神殿のありかを知ることになる。





国王と王子

国王デズモンドは、聡明な王子ゼフィールを妬んでいた。その嫉妬心が、黒い牙のベルン王家への介入を招くこととなる。



←エリウッドたちは、ナバタ砂漠で"大賢者"アトスと出会う。伝説の八神将を前にし、一行は驚愕する。



←ベルン王国では、黒い牙屈指の使い手である"四牙"たちが、エリウッド一行を待ちかまえていた。

神将器に秘められた力

封印の神殿に到着したエリウッド一行は、八神将"謎多き者"ブラミモンドと出会う。ブラミモンドの協力により、ネルガルに対抗しうる「神将器」を手にすることになる。

竜を倒すための武器として作られた神将器は、強大な力を秘めている。だが、竜を前にすると使用者の意図とは無関係に反応し、必要以上に戦闘に駆りたてられるなど、使用者が大きすぎる力に振り回されることもある。だからこそブラミモンドは、神将器に封印を施していたのだ。実際、エリウッドも、"烈火の剣"デュランダルの暴走により、氷竜の姿になったニニアンを殺めてしまった。



←氷竜の正体がニニアンだと知らなかったとはいえ、彼女を殺めたエリウッドは自責の念にかられる。

烈火の剣 デュランダル



→"勇者"ローランが使用していた大剣。彼の死後、オスティア近郊の溶岩洞窟に封印されていた。ネルガルを倒すために、エリウッドが手にする。

天雷の斧 アルマーズ



→"狂戦士"テュルバンが使っていた斧。西方三島の洞窟にてヘクトルが入手する。使用者をいたずらに戦城に駆りてる斧だ。

THE EREB CONTINENT

史実に残らぬ戦い

ネルガルとの激闘

ニニアンを亡くした悲しみから立ち上がったエリウッドとニルスは、仲間とともにネルガルのもとへ。アトスと共闘し、ついにネルガルを撃破する。さらには、ネルガルが召喚した3体の火竜を、蘇生したニニアンと協力して殲滅。こうして、エリウッドたちの“史実に残らぬ戦い”は終結する。



➡ついに、ネルガルと決着をつけるときが訪れた。アトスとネルガルとの因縁も、ここで終止符が打たれる。



➡ブラミモンドと真の力を取り戻した神将器により、ニニアンが蘇生。彼女は、氷の魔道で2体の火竜を葬り去る。

物語は次世代へ…

エレブ新暦981年、エリウッドは父の跡を継いでフェレ侯爵に就任。同年、ヘクトルも前年に病没した兄ウーゼルの後継として、オスティア侯爵およびリキア同盟盟主となる。その後、両者はロイ、リリーナという嫡子を授かる。

それから15年後の996年、ゼフィールがベルンの国王に即位。諜報筋によると、その裏には、先王デズモンドによるゼフィール暗殺未遂事件があったという。エリウッドとヘクトルは、不穏な動きを見せるベルン王国に一抹の不安を感じていた。





➡侯爵就任時のエリウッド(左)とヘクトル(右)。長い旅を経て、ひとまわり成長した2人の様子が見てとれる。



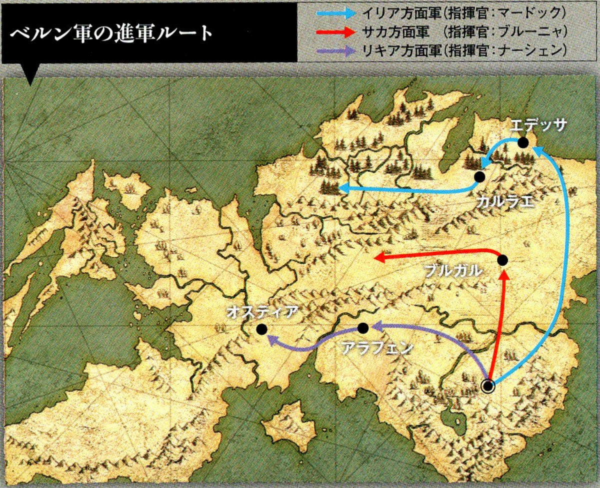
➡エレブ新暦996年、ロイとリリーナは互いの父に連れられ、初めて対面する。

ベルン動乱

ベルン王国の侵攻

エレブ新暦999年、ベルン王国が突然各地に侵攻を開始する。サカ地方やイリア地方は瞬く間に制圧され、その魔手はリキア地方にも伸び始める。

リキア同盟は、盟主ヘクトルのもとに一致団結して戦うが、“ベルン三竜将”ブルーニャ、ナーシェン率いる竜騎士団に大敗を喫する。これ以降、リキア同盟では、ラウス侯エリックのベルン内通、トリア侯オルンの暗殺、さらにオスティアのクーデターなどの裏切りや離反が相次ぎ、そのうえ盟主ヘクトルの戦死もあり、同盟は事実上瓦解してしまう。



そんな中、オスティアがナーシェン率いるベルン軍に包囲される。オスティアが制圧されるかと思いきや、そこに西の大国エトルリア王国の救援が駆けつける。ベルンの横暴を阻止すべく、エトルリアがその重い腰を上げ、“騎士軍将”パーシバルと“魔道軍将”セシリアを派遣したのである。エトルリアの大軍の前に、ベルン軍は撤退を余儀なくされる。

オスティア陥落という悲劇は免れたものの、その代償として、リキア同盟は、エトルリアの保護下に置かれることとなる。

ベルン動乱

ベルン王の妹がフェレ軍に投降

リキア同盟盟主のヘクトルがまだ健在のころ、フェレ侯公子ロイは、病身のフェレ侯エリウッドの名代として、フェレ軍を率い、リキア同盟軍本隊に助勢すべく進軍していた。その途中、ベルンとフェレ領の国境付近で、ベルン王の妹ギネヴィアと出会う。ギネヴィアは、兄ゼフィールの専横を止めるべく、至宝「ファイアーエムブレム」を奪って国を出てきたのだ。同じ目的を持つロイとギネヴィアは、以降戦争終結のために行動をともにする。



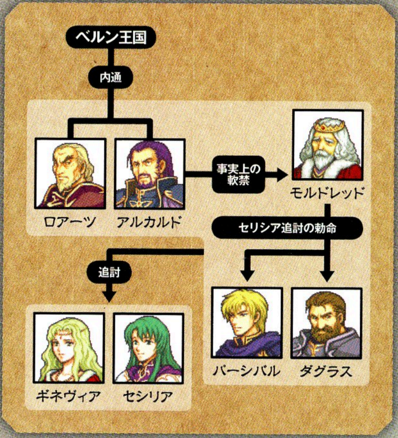
ロイとギネヴィア

2人は、後に戦争を終結させた英雄となる。この出会いがなければ、「ファイアーエムブレム」がロイの手に渡ることはなかった。

エトルリア王国のクーデター

リキア同盟は、年若いリリーナにかわってフェレ侯エリウッドを盟主代行に任命し、体制の立て直しに着手。同時に軍も再編され、同盟軍の将にはロイが任じられた。こうしてできた新生リキア同盟軍は、エトルリア王国からの出動要請を受け、盗賊討伐のために西方三島に出征する。

その間、エトルリア本国では、ベルンと内通していた宰相ロアーツと西方三島総督アルカルドによるクーデターが勃発。国王モルドレッドは軟禁され、ギネヴィアはベルン軍に幽閉される。だが、西方三島を平定したリキア同盟軍がクーデター派を攻撃し、ギネヴィアはロイたちと再合流を果たす。その後、エトルリアの王都アクレイアへと進軍したリキア同盟軍は、王都に居座るナーシェンを撃破して王宮を制圧。国王モルドレッドを保護した。



王子ミルディンとの出会い

ロイは、西方三島でレジスタンスの参謀エルフィンと出会う。彼の正体は、事故で亡くなったとされるエトルリアの王子ミルディン。ミルディンはロイと意気投合し、以降リキア同盟軍に同行することとなる。ミルディンは最後までロイに正体を明かさないが、エトルリアのクーデター鎮圧の際には、彼の王子としての威光が絶大な効果を発揮した。



西方三島のレジスタンス

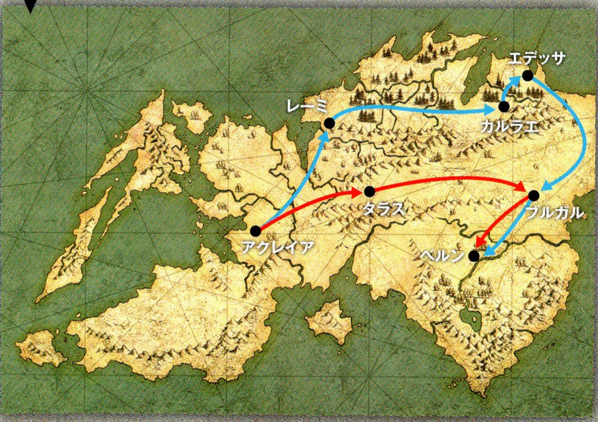
ミルディンと従者ララムは、身分を隠してレジスタンスに加入。西方三島で搾取を続ける、エトルリアの腐敗を目のあたりにして嘆く。

クーデター派の追討

軟禁状態から救出されたエトルリア国王モルドレッドは、リキア同盟との連合軍を結成する。連合軍は正式に「エトルリア軍」と命名され、実績をかわれたロイが司令官に任ぜられる。

新生エトルリア軍は、戦争を終結させるべく本腰を入れ、ベルン王国への遠征を敢行。その途上、クーデター派の残党狩りを同時に行うこととなった。クーデターの首謀者であるロアーツやアルカルドは、志半ばにして辺境の地で命を落とすことになる。

エトルリア軍の進軍ルート



ベルン動乱

エトルリアとベルンの全面対決

クーデター派を殲滅したエトルリア軍は、破竹の勢いでベルンへ進軍する。"三竜将"筆頭のマードック率いる竜騎士団との激戦に勝利し、王宮に到達。ベルン国王ゼフィールは、己の野望を実現させるべくイドゥンを逃がし、ひとり玉座に残る。人に絶望したゼフィールと、人を信じるロイたちとの勝負は、後者に軍配が上がった。



ロイに自分の思いの丈を語るゼフィール。だが、ロイは彼の意見に与せず、両者は激突することになる。

神将器と「封印の剣」

ロイたちは、大陸を転戦しつつ、各地に散らばる伝説の神将器を集めてきた。ゼフィールの「エッケザックス」を含む、8つの神将器を集めた彼らは、竜の本拠地である「竜殿」への道を開くことに成功。神将器とそれに匹敵する「封印の剣」を手にしたロイたちは、最後の戦いの舞台である竜殿へと向かう。

神将器＆「封印の剣」の所在地

No.	場所	名称
❶	オスティア郊外・マグマの谷	烈火の剣デュランダル
❷	ジュトー郊外・古の洞窟	天雷の斧アルマーズ
❸	ナバタの里・神殿	業火の理フォルブレイズ
❹	アクレイア近郊・聖女の塔	至高の光アーリアル
❺	エデッサ郊外・遺跡	氷雪の槍マルテ
❻	サカ草原・遺跡	疾風の弓ミュルグレ
❼	ベルン王宮（ゼフィール所有）	エッケザックス
❽	ベルン郊外・封印の神殿	黙示の闇アポカリプス 封印の剣



ヤァンとイドゥン

竜殿にたどり着いたエトルリア軍は、竜族の生き残りのヤァンと遭遇する。イドゥンの力を利用し、千年来の悲願である竜による大陸支配を実現しようとするヤァンに、ロイは、人と竜の共生を説く。だが、両者の意見は決して一致することはなく、ついには戦うこととなる。

ヤァンを倒した一行は、魔竜イドゥンと対峙。ゼフィールの命に盲従するイドゥンに対し、ロイは"英雄"ハルトムートと同様に「封印の剣」で応戦する。すると……。




竜の復興を願う者たち

竜による大陸支配をもくろむヤァンと、人の治世を終わらせたいゼフィールの目的が一致。両者は共闘することになる。



ヤァンは、ロイたちに「人竜戦役」の真実と、魔竜イドゥンについて語る。



自らを「目覚めた」と称するイドゥンだが、実は単にゼフィールの命令に従っているにすぎない。

ベルン女王ギネヴィアの誕生

国王ゼフィールを失ったベルン王国は、降伏を宣言。ここで、ようやく「ベルン動乱」が終結する。エトルリア王国はベルン王国を解体し、ギネヴィアを女王に戴く「新生ベルン王国」を建国する。故国を裏切ったギネヴィアへの不信感は根強いが、彼女は、非難に耐え、罵声を浴び続けながらもベルンの復興に力を尽くす。



ロイやリリーナは、女王として苦難の道を歩むギネヴィアに同情する。

フェレ領

名君とささやかれる歴代侯爵

リキア東部に位置するフェレ領は、"勇者"ローランが興した「リキア同盟」に属す。軍事大国ベルン王国との国境付近にあるにもかかわらず、治安は良好で、戦火にさらされたベルン動乱期においても、さほど大きな混乱は見られなかった。それもひとえに、エルバート、エリウッド、ロイと続く歴代侯爵の治世が優れていた証といえる。騎兵を中心に構成されるフェレ騎士団は、勇壮で誇り高いとの評判を得ている。



フェレ侯エルバート

エリウッドの父。オスティア侯ウーゼルの理解者でもある。膨大なエーギルを秘めているために黒い牙に拉致され、エーギルを奪われて逝去する。



侯爵夫人エレノア

エルバートの妻。夫や息子エリウッドに深い愛情を抱く。侯爵夫人としての強さも持ちあわせ、夫の訃報を耳にしても気丈にふるまっていた。

エリウッド

リキアーの騎士

エルバートの子。正義感にあふれ、道理の通らないことには決して屈しない騎士道精神の持ち主。また、貴族としては珍しく、どんな身分のものに対しても分け隔てなく接する。

失踪した父を探すべく旅立つが、父の最期を看取るという悲劇が待っていた。さらに、氷竜ニニアンを手にかけるという過ちも犯すが、それらの苦難を乗り越えた末にネルガルを打倒。エレブ新暦981年にフェレ侯爵となるが、ベルン動乱では、病のために軍の差配を嫡子のロイに一任。その間、戦死したヘクトルにかわってリキア同盟の盟主代行となり、ロイたちをバックアップする。



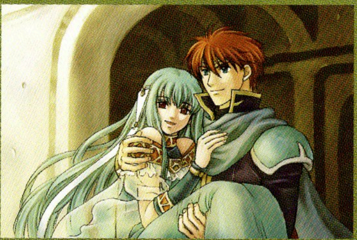
↑人の道を踏みはずす行為があれば、エリウッドはベルンの王妃にさえもくってかかる。



←親友であるヘクトルとは2か月に一度手合わせをしており、30戦14勝12敗4引き分け（エリウッド談）という戦績が示すように、剣の腕前も高い。

if……

エリウッドには、ニニアン、リン、フィオーラの3人の花嫁候補がおり、彼女たちのうち、支援関係をAにした相手とエピローグで結ばれる。なお、下の画像はニニアンと結ばれた場合のもの。

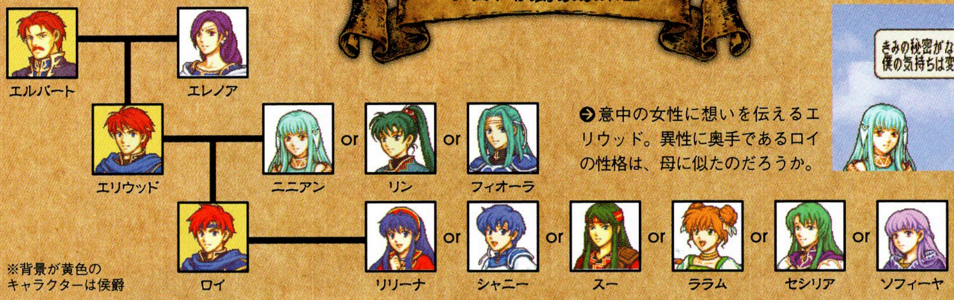




【封印】

【烈火】

フェレ侯爵家家系図



※背景が黄色のキャラクターは侯爵



➡意中の女性に想いを伝えるエリウッド。異性に奥手であるロイの性格は、母に似たのだろうか。

ロイ

エレブを救う若き獅子

フェレ侯エリウッドの息子。帝王学を学ぶために、オスティアに留学したことがあり、事物の本質を見ぬく眼識を有している。また、どんな相手にもものおじしない豪胆さも持ち合わせているが、女性に対しては弱い。

病床の父にかわってフェレ軍を率い、ベルン動乱に参加。リキア同盟盟主のヘクトルからリキア同盟軍を託され、後にエトルリア軍を任されるまでに成長する。ベルン動乱後、将としての手腕をかわれて各国から招聘されるが、それらを固辞し、侯爵としてフェレの地を治めたという。



【封印】



⬅エリウッドとオスティア侯ヘクトルは親友であり、ヘクトルの娘リリーナとロイは幼なじみの関係だ。

if……

ロイと特定の女性キャラクターの支援関係がAになると、エピローグで2人が結婚することになる。ちなみに、花嫁候補はリリーナ、シャニー、スー、ララム、セシリア、ソフィーヤの6名。



ロイの母親は誰?

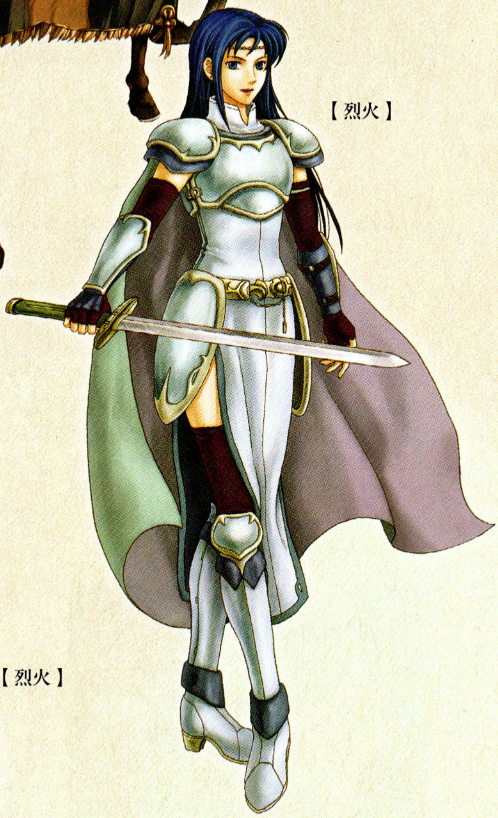
マーカスの話によれば、ロイの母は極寒の高地にしか咲かない白い花が好きだったという。エレブ大陸の極寒の高地というと、まっさきに思い浮かぶのはイリア地方。エリウッドと結ばれる可能性のある3人のうち、ニニアンとフィオーラはイリア出身なので、この2人のどちらかがロイの母である可能性が高いようだ。



【烈火】



【封印】



【烈火】



【烈火】

マーカス

フェレ家を支え続ける重鎮

エルバートの代からフェレ家に仕える古参騎士。エルバートを捜すエリウッドの旅に同行し、ベルン動乱では、ロイに随伴して各地を転戦する。フェレ騎士団をまとめる厳しい将軍であり、主家はもちろんのこと、部下からも厚い信頼を寄せられる。食通という隠れた一面もあり、甘いものに一家言を持っている。

ハーケン

主の敵を取るべく失踪

フェレ騎士団の一員。かつて主君である侯爵に見殺しにされたことがあり、その過去を知ったうえで迎え入れてくれたエルバートに、絶対の忠誠を誓う。エルバートが黒い牙に拉致されたことに責任を感じ、敵を討つべく黒い牙に潜入。そこでエリウッドたちと出会い、一行に加わる。騎士団の同僚イサドラは、将来を誓い合った婚約者。

if……

ハーケンとイサドラの支援関係がAになると、エピローグで2人は結ばれる。旅に出る前にかわした2人の約束が、ついに実現したのであった。

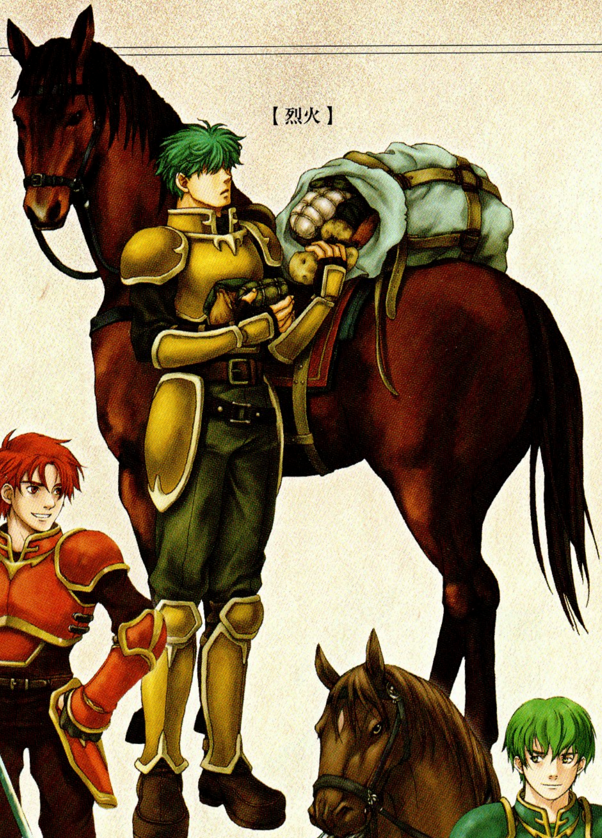
イサドラ

エレノア付きの美しき騎士

フェレ騎士団の一員で、侯爵夫人エレノア付きの近衛騎士。エレノアにエリウッドを守るように命じられ、一行に加わる。地方貴族の娘として生まれるが、騎士に憧れて聖騎士まで登りつめる。すれ違う人が振り返るほどの美人。旅のあとは近衛騎士の任にあたりつつ、ハーケンとの結婚を控え、女性らしさに磨きをかけたという。

if……

ハーケンとの支援関係がAになると、両者はエピローグで結婚する。また、レナートとの支援関係がAになると、騎士からエリミーヌ教団の司祭に転身する。



【烈火】

ロウエン

食に対する異様なこだわり

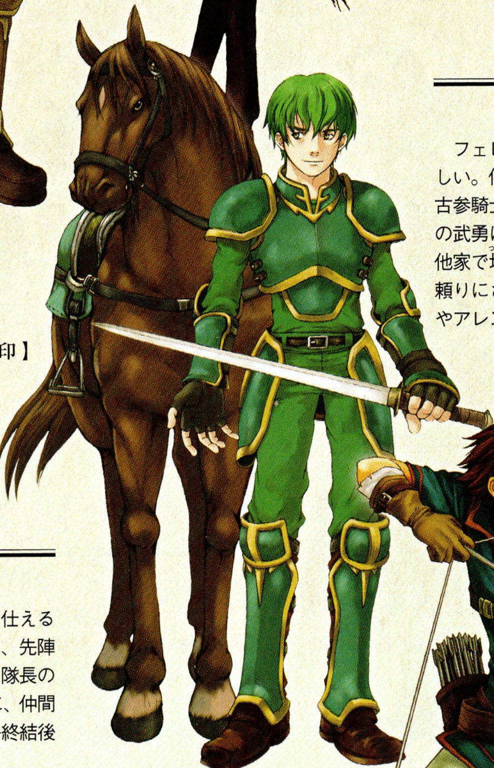
フェレ騎士団の一員だが、叙勲は受けていない従騎士。幼少時に郷里を救ってくれたハーケンに憧れ、騎士を志す。エルバートの父の専属料理人だった祖父の血を引くためか料理が得意で、エリウッドの食事は彼が用意する。大きな袋には、あふれんばかりの食材が詰められている。

if……

ロウエンとレベッカの支援関係がAになると、2人は結ばれる。ロウエンは騎士として、レベッカはロイの乳母として末永くフェレ家に仕えることになる。



【封印】



【封印】

ランス

内に秘めたる闘志

フェレ騎士団の一員。冷静沈着で礼儀正しい。他の騎士団から来た新参者なので、古参騎士に引け目を感じている。だが、その武勇はライバルのアレンも認めるほどで、他家で培った経験も豊富なために周囲から頼りにされている。ベルン動乱後も、ロイやアレンとともに復興に力を注ぐ。

アレン

直情径行な猛者

フェレ騎士団の一員。代々フェレ侯爵に仕える騎士の家に生まれる。勇敢で武勇にも優れ、先陣をきって敵に突っこむ、騎士団の切りこみ隊長のような存在。直情径行の傾向があるために、仲間からたしなめられることもしばしば。戦争終結後もフェレ家に忠誠を誓い続ける。



【烈火】

ウィル

放浪する気ままな旅人

フェレ領出身の若者で、レベッカの幼なじみ。誰とでもすぐに打ちとけられる。家族に楽をさせるべく親友ダンとともに故郷を出奔するが、うまくいかずに各地を放浪。サカ地方を訪れたときにリンと出会い、そのままキアラン騎士隊に仕官する。旅のあともキアラン騎士隊に残った。

if……

ウィルとレベッカの支援関係をAにすると、エピローグで両者が結ばれる。ウィルはキアラン騎士隊を除隊し、レベッカとともにフェレ領のエリウッドに仕えることになる。

レベッカ

兄を探して幾千里

フェレ領出身の村娘。同じ村の出身であるウィルとは、幼なじみの関係にある。山賊に襲われていたところをエリウッドたちに助けられ、恩返しをするために一行に加わる。また、行方不明となっている兄のダンを捜すことも、仲間に加わった理由のひとつ。旅のあとはフェレ侯爵家に仕え、ウォルトを産んだ後にロイの乳母を務める。

if……

レベッカと特定の相手との支援関係をAにすると、エピローグで両者が結ばれる。結婚相手の候補者となるのは、ロウエン、ウィル、セインの3名となる。

【烈火】

【封印】



【烈火】

【封印】



THE EREB CONTINENT

ウォルト

小姑じみたロイの乳兄弟

フェレ騎士団に属する弓兵。レベッカの息子であり、ロイの乳兄弟でもある。非常にまじめで、フェレ侯公子であるロイのことを第一に考えている。その思いが強すぎて、ロイからいやみを言われることもしばしば。戦場で体を張る、マーカスやアレンたちに憧れている。動乱後も、忠臣としてロイおよびフェレ家を支え続ける。

マリナス

行商人から貴族への立身出世

フェレ家に仕える文官。気の弱い小心者だが、大陸を旅する行商人だったために数字に強く、フェレ家の財務を任される。行商人時代、賊に襲われたところをエリウッド一行に助けられ、それを契機に一行に加わる。その後、エリウッドに仕え、念願だった爵位を得る。ベルン動乱期には、ロイをサポートすべく従軍していた。



↑マリナスは軍の物品管理を任されている。愛用の馬車は、エリウッドたちとの旅で入手した逸品。

オスティア領

リキア同盟の中心地

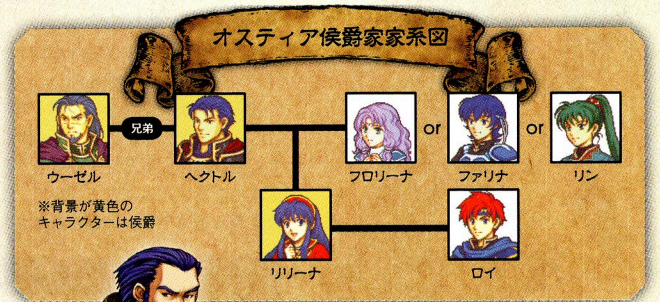
リキア地方西部に位置する。リキアの始祖“勇者”ローランがこの地の領主だったことから、オスティア侯爵は、リキア同盟の盟主を兼任することになっている。他国との交易が盛んで諸産業も活発だが、歴代侯爵が勤倹尚武を奨励していることもあり、浮わついたところは見られない。

騎士団は重騎士を中心に編成され、オスティア城は難攻不落の名城と名高い。また、優れた密偵を多数抱えていることも諜報筋では有名で、情報収集にも注力していることがうかがえる。



オスティア侯ウーゼル

ヘクトルの兄。若年ながら、リキア同盟を統べる盟主として優れた政治手腕を発揮する。武術の腕前も弟以上。ヘクトル不在時に病没する。





ヘクトル ►

豪放磊落なオスティアの雄

オスティア候ウーゼルの弟。言動が貴族とは思えないほど粗暴で、変わり者として知られている。だが、内面は優しさで満ちあふれており、仲間や家族を傷つける者にはいっさい容赦しない。

エルバート失踪の報せを受け、親友エリウッドに同行。旅の途中、部下のレイラ、そして敬愛する兄を失うが、最後まで戦い、ネルガルの野望を打ち砕く。その後、オスティア侯爵およびリキア同盟盟主となり、領地の発展に寄与。数年後には愛嬢リリーナを授かって穏やかなときを過ごすが、それも長くは続かない。エレブ新暦999年に始まったベルン動乱で、敵軍の猛攻を受けて戦死する。

if……

ヘクトルと3人の女性キャラクター、フロリーナ、ファリナ、リンの誰かとの支援関係をAにすると、両者がエピローグで結婚する。下の画像は、リンと結ばれた場合のもの。




【封印】

リリーナ

次代のリキアを担う美しき盟主

ヘクトルの一人娘。ロイとは幼なじみで、2人そろってセシリアのもとで学んでいた。エトルリアの"魔道軍将"セシリアに、魔道の天才と言わしめるほどの才を秘めており、部下や市井の人々の信頼も厚い。

部下のレイガンスらに裏切られ、捕囚となったところをロイ率いるフェレ軍に救出された。造反に気づけなかった自分を恥じ、次期領主となることに不安を抱いていたが、戦後は立派にオスティアの領主を務めあげた。



⬆幼なじみのロイに思いを寄せている。ただ、奥手で鈍感なロイに多少やきもきすることも……。

if……

リリーナとロイの支援関係をAにすると、エピローグで両者は結婚する。結婚を機にオスティアとフェレは1つの国となり、後に誕生する統一国家「リキア王国」の礎となる。

【烈火】



オズイン

オスティア侯の右腕

オスティア重騎士団の一員。オスティア侯爵の腹心として、ウーゼルとヘクトルに仕える。ウーゼルに命じられ、ヘクトルのお目付役として旅に同行する。素行の悪いヘクトルをたしなめることも多く、あまりの口うるささにヘクトルから"じじい"呼ばわりされることもある。オスティア帰還後も、ヘクトルの参謀として活躍する。

if……

オズインとセーラの支援関係をAにすると、エピローグで両者が親しくなることがわかる。支援会話では、セーラが徐々にオズインに熱を上げていく様子がうかがえる。

【封印】



バース

オスティア重騎兵の重鎮

オスティア重騎士団の一員。同時期に騎士宣誓を行ったボールスとは、親友でライバル。ものごとを冷静に見つめるリアリストで、部下はもちろん、主家筋のリリーナに対して厳しい言葉を浴びせることもある。だが、それも部下やリリーナに対する深い愛情があるからこそ。動乱後は、オスティア軍の指揮を任されることになる。



【封印】

ボールス

妹想いの優しい重騎士

オスティア重騎士団の一員。リリーナからロイの護衛を命じられ、ロイと行動をともにする。リリーナのよき理解者であり、実父を亡くした彼女にとっては父親のような存在。妹のウェンディを溺愛しており、常に気にかけている。動乱終結後は、オスティアの復興に尽力する。



↑偶然を装い、何度もウェンディの様子を見にいくボールス。妹が心配で気が気ではないようだ。



【封印】

ウェンディ

未来の重騎士団長

オスティア重騎士の一員。兄ボールスやバースのような立派な重騎士になることをずっと夢見ており、兄のフェレ滞在中に騎士宣誓を行う。重騎士になったばかりの新兵だが、生来のきまじめな性格で日々の研鑽を欠かさない。ベルン動乱から数年を経て、女性初のオスティア重騎士団長となる。



↑重騎士とはいえ、れっきとした女の子。「太ってない」と言いはる姿はかわいらしい。



【封印】

オージェ

悲しき過去を持つ若き戦士

オスティア騎士団の一員。入団したばかりの新兵で、入団時期の近いウェンディと切磋琢磨している。貧しい家庭で育ち、家族を養うために傭兵となった。少年時代、口減らしのために、幼い妹を遠くの村に置きざりにした過去がある。ベルン動乱のしばらく後、大陸に名を轟かす傭兵となる。

マシュー＆レイラ

闇に生きる密偵の悲哀

オスティアの密偵で、2人は恋愛関係にある。マシューは、サカ地方で諜報活動をしたあと、ヘクトルとともに行動。普段はお調子者のようにふるまうが、裏の世界に生きる密偵にふさわしい酷薄な一面もある。

レイラは、ウーゼルの命を受けて黒い牙に潜入するが、正体を暴かれてジャファルに殺害されてしまう。レイラ亡きあと、マシューは恋人の敵を討つことを心に誓う。

if……

マシューとセーラの支援関係をAにすると、エピローグで、レイラを亡くしたマシューの心の傷が、天真爛漫なセーラの言動によって徐々に癒されていく様子が描かれる。

マシュー
【烈火】

レイラ
【烈火】



【封印】



【烈火】

アストール

オスティアに尽くす「影」

オスティアの密偵。ベルンで諜報活動をしていたが、ヘクトル戦死の報せを受けてオスティアに帰還。そこで、ロイたちの仲間になる。軽薄な男を装っているが、国や主への忠誠心は人一倍強く、味方の素性を探るなどの汚れ仕事もいとわない。動乱が終結すると姿を消す。失踪したイグレーヌの夫に、酷似しているらしい。

if……

セーラとオズイン、エルク、マシューのいずれかとの支援関係をAにすると、両者の仲が急接近する。とはいえ、セーラが1人で騒いでいるだけのようにも思えるが……。

セーラ

かしましいシスター

オスティアのシスター。自己中心的な性格。常に奔放な言動で仲間を振り回している。そのため、本当に聖職者なのかと疑われることもある。修道院で厳しい生活を送っていたことが一種のトラウマとなっており、人前ではエトルリアの伯爵令嬢だと言いはる。オスティア帰還後も、騒がしい性格はそれ以前と変わらない。

キアラン領

老侯の後継者争いが勃発

侯爵ハウゼンが治める地。ハウゼンの嫡子マデリンが駆け落ちしたので、次期侯爵は侯弟ラングレンだと目されていた。だが、マデリンの娘リンが発見されたために、後継者争いが勃発。内乱の結果、リンが公女となる。その後、ラウス侯に城を占拠されるなどの混乱もあったが、リンらの活躍により平定される。ハウゼンの死後、リンが爵位を返上したので、キアラン領はオスティア侯に統治されることとなった。



【烈火】

キアラン侯ハウゼン

キアランを治める侯爵。爵位を継がせるべく、一人娘マデリンの遺児リンを探していた。リンが旅から戻ったあと、最愛の孫に見守られて逝去する。



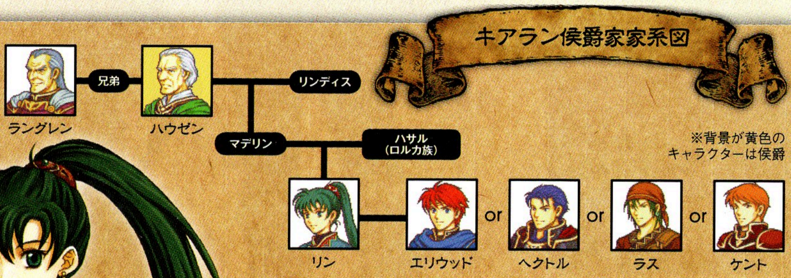
【烈火】

侯弟ラングレン

ハウゼンの弟。キアラン内乱の首謀者で、侯爵の座を奪取すべく執拗にリンを狙い、さらに兄を毒殺しようと画策。最後はリンたちに討たれる。



ハウゼンは、家族をなくしたリンの唯一の肉親。





【烈火】

リン

草原を愛するキアランの公女

サカのロルカ族の族長ハサルと、キアラン公女マデリンの娘。本名リンディス。父母が駆け落ちしたので、サカの草原で育つ。サカの地をこよなく愛し、サカの民であることを誇りとしている。タラビル山賊団に両親を殺されたために、賊を毛嫌いしている。唯一の肉親はキアラン侯ハウゼンで、とても大切に思っている。

ハウゼンを殺害して爵位を強奪しようと企むラングレンを阻止すべく、サカを旅立つ。その後、キアラン公女となり、ラウス侯に制圧されたキアラン城を奪還する際に、エリウッドの一行に参加。旅のあとで祖父の最期を看取り、爵位を捨ててサカの地に戻る。



サカの都市ブルガルにある、精霊が宿るとされる小さな祭壇。リンは、そこで「宝剣マーニ・カティ」を手に入れる。

if……

リンは、支援関係がAの相手によってその後が変化。エリウッドやヘクトルの場合は、リキアにとどまり侯爵夫人に。ラスやケントの場合は、サカに戻って結婚する。



ケント

キアランを守る盾

キアラン騎士隊の一員。リンの捜索のために、セインとともにブルガルを訪れる。一目でリンがキアラン公女だと気づき、以降彼女に付き従う。任務を忠実にこなすものの、度が過ぎるほどまじめ。また、密かにリンに想いを寄せている。旅から帰還後、オスティア統治となった旧キアラン領の監督官となる。



➔ケントとセインがサカの都市ブルガルでリンを発見したことで、物語は大きく展開する。

if……

ケントは支援関係をAにした相手により、その後が変わる。リンの場合はサカへ、フィオーラの場合はイリアへ行って結婚する。ファリナの場合は、イリア傭兵団に転身する。



【烈火】



【烈火】



【烈火】

セイン

女性のために命を賭して

キアラン騎士隊の一員。リン捜索のためにケントと一緒にブルガルを訪れ、リンを発見。以降、彼女と行動をともにする。無類の女好きで、視界に入った女性に声をかけずにいられない。キアラン領がオスティア統治となったのを契機に、騎士隊を除隊。その後は、自由騎士となって大陸各地を駆け回ったという。

if……

レベッカとの支援関係をAにすると、セインは彼女と結婚してエリウッドに仕える。フィオーラとの支援関係をAにすると、イリアへ行って彼女と結婚する。

ワレス

キアラン兵の鬼教官

元キアラン騎士隊の隊長。侯弟ラングレンの命によりリンを捕らえようとするが、リンが正統な公女と確信して彼女に協力。後にベルンで再会し、一行の仲間となる。リンの父ハサルの旧友で、リンに復讐をやめさせるためにタラビル山賊団を壊滅させる。旅のあとは、イリアで開墾に精を出す。

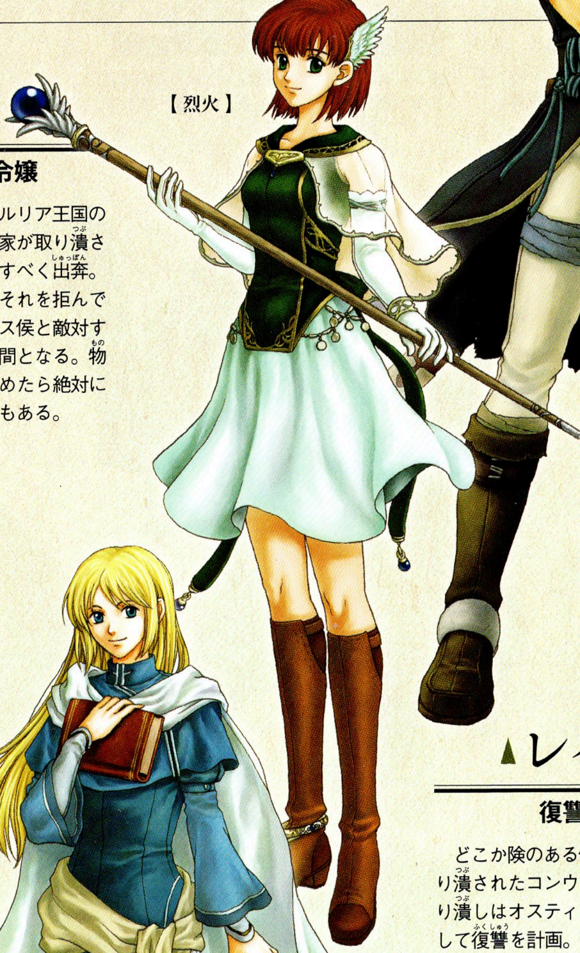
コンウォル領

爵位を剥奪された一族

かつてはコンウォル家が治めていた地。だが、領主である侯爵がリキア同盟の資金を横領した罪で訴えられ、諸侯連合の決定により爵位を奪われる。家は取り潰され、悲観した侯爵夫妻が自死するという悲劇が起こる。その結果、リキア同盟の盟主たるオスティア侯が、コンウォル領を統べることになる。コンウォル家の廃絶をオスティアの陰謀とする噂もあるが、その事実はない。



【烈火】



【烈火】

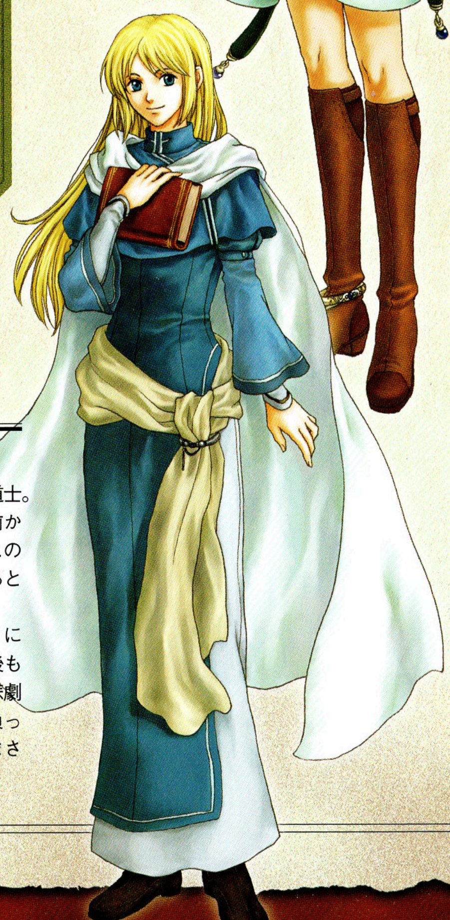
プリシラ

離散した家族を探す令嬢

コンウォル侯爵家に生まれ、エトルリア王国のカルレオン伯爵家の養女となる。生家が取り潰されたと知り、兄レイヴァンたちを探すべく出奔。旅先でラウス侯に見初められるが、それを拒んでとある村に隠れていた。そこでラウス侯と敵対するエリウッドらと出会い、彼らの仲間となる。物腰が柔らかくおとなしいが、一度決めたら絶対に意見を曲げないというがんこな一面もある。

if……

プリシラは、エルクとギィのどちらとの支援関係をAにしたかによって、その後が変化する。エルクの場合はエトルリアで結婚、ギィの場合は2人で駆け落ちをすることになる。



【烈火】

ルセア

血に汚れた聖職者

エリミーヌ教団の見習い修道士。コンウォル家が取り潰される前からレイヴァンに仕えており、この主従関係はネルガルを倒したあとも続いたという。

幼少時に父が盗賊(レナート)に殺される様子を目撃し、その後も孤児院で虐待を受けるなどの悲劇に遭う。そのために心に傷を負っており、心因性の発作にも悩まされている。

レイヴァン

復讐を誓う元公子

どこか険のある傭兵。正体は、リキア諸侯に取り潰されたコンウォル家の嫡男のレイモンド。取り潰しはオスティア侯の陰謀だと信じ、本名を隠して復讐を計画。キアラン城でエリウッドと行動をともにする妹のプリシラと出会い、ヘクトルに近づくために自らも仲間に加わる。

常に険しい表情をしており、「怖い顔」と指摘されることもある。困った仲間を放っておけず、つい手を貸してしまう優しさも持っている。

if……

レイヴァンは、プリシラかルセアとの支援関係がAになると、オスティアへの復讐を断念する。ルセアの場合のみ、ヘクトルにすべてを打ち明ける様子が描かれる。

リキア地方 その他

ダーツ

ファーガス海賊団の特攻隊長

港町バドンを根城にするファーガス海賊団の一員。レベッカの兄ダンにそっくりだが、数年前に大けがをした際に過去の記憶を失ってしまい、ダン本人なのかどうかはわからない。「ヴァロール島を見たい」と言って、エリウッド一行についてきた。その後、ファーガスをかばって海に落ちて行方不明となる。



↑ダーツは、海賊団の頭ファーガスを実父のように慕う。また、ファーガスもダーツを慮っている。



【烈火】

チャド

孤児院仲間の兄貴ぶん

アラフェンの孤児院で育った少年。ベルン軍の侵攻によって孤児院の院長を亡くし、ベルンに恨みを抱いている。院長の敵討ちをすべく、ロイ率いるリキア同盟軍に加わる。孤児院では、最年長だったこともあり、ルゥたちの兄のような存在だった。動乱後は、盗賊から足を洗う。



↑ルゥとレイの兄弟よりも年上だが、2人とは親友のような関係である。



【封印】



【封印】



【封印】

ルゥ

理魔道の申し子

アラフェンの孤児院で育った少年。チャドと同様に、院長の敵討ちをするためにリキア同盟軍に加わる。レイは双子の弟で、どちらもニノの息子。母から魔道の才を受け継いでおり、とくに理魔道の才に秀でている。動乱終結後、孤児院の跡地に魔道学校を開き、数々の魔道士を世に送り出す。

レイ

闇魔道の申し子

ルゥは双子の兄でチャドたちと同じく孤児院で育った。魔道の修行をするために孤児院を飛び出し、独学で闇魔道を習得。西方三島でルゥたちと再会し、ロイの軍に加わる。口が悪く性格もひねくれているが、優しい側面もある。動乱終結後は、古代魔道を極めんとして大陸各地を放浪する。

THE EREB CONTINENT

エトルリア王国

華やかな文化が薫る大国

華やいだ気風を持つ、エレブ大陸の西側の大国。"聖女"エリミーヌ生誕の地としても知られ、エリミーヌ教団の総本山も、この地にある。

ベルン王国に匹敵する軍事力を有し、大軍将・騎士軍将・魔道軍将の"三軍将"が正規軍を率いる。ベルン動乱においては、ベルンの横暴を阻止すべく戦争介入の名目を探っていた。だが、エレブ新暦999年、宰相ロアーツらによるクーデターが勃発し、戦争どころではなくなってしまう。リキア同盟の協力のもとにクーデターを平定すると、ベルンへの遠征を敢行。ベルン国王ゼフィールの打倒に協力し、戦争の終結に大きく貢献した。



【封印】

国王モルドレッド

エトルリア国王。王子ミルディンが逝去したと聞き、覇気を失う。クーデター勃発時には事実上の人質となったものの、リキア同盟軍に救出される。



【封印】

宰相ロアーツ

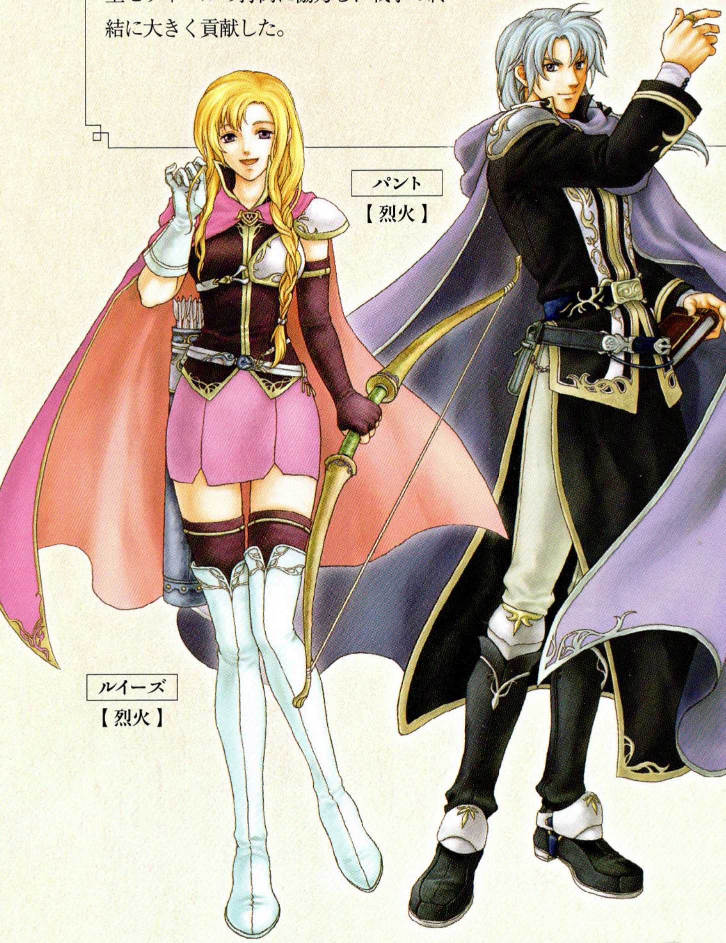
エトルリアの文官。クーデターの黒幕であり、ベルンと共謀し、エトルリアを支配しようとする。ロイたちに野望を阻止され、逃亡先で命を落とす。



【封印】

西方三島総督アルカルド

西方三島の総督。島民たちに労働を強いて搾取した張本人。ロアーツの片棒を担いでクーデターを起こすも、逃亡先でロイたちに敗れて死亡する。



パント【烈火】

ルイーズ【烈火】

パント&ルイーズ

エトルリアのおしどり夫婦

王国名門貴族のリグレ公爵であるパントは、軍部トップの一角"魔道軍将"の地位にある。八神将アトスの弟子にして魔道の達人でもあり、魔道研究に傾倒している。

妻のルイーズは、おっとりとした貴婦人。誰もが認めるほどの美人だが、ルイーズの目には夫しか映っていない。そのため、戦場で2人だけの世界を作ることもしばしば。

2人は、後にクレインとクラリーネの兄妹を産む。また、孤児のエルクや奴隷剣闘士ディークにも、実子と同様の愛情を注いだ。



【烈火】

エルク

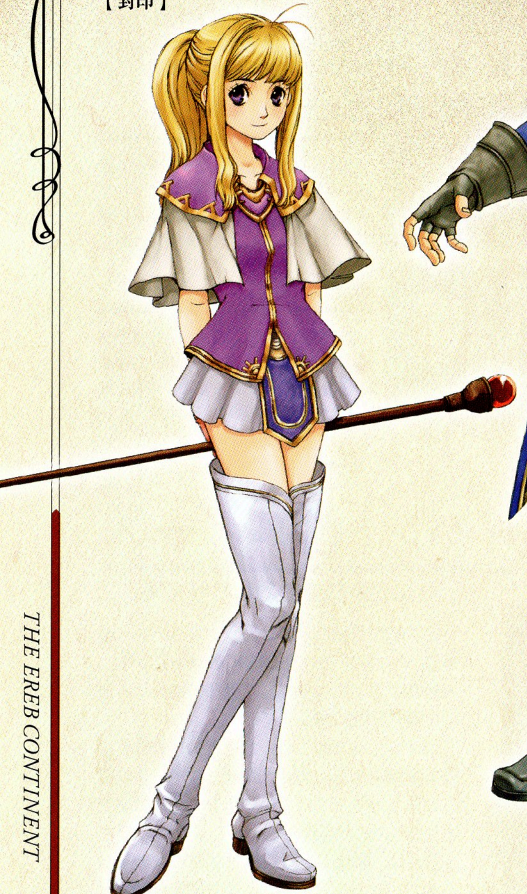
魔道修行にいそしむ苦労人

パントの弟子。パントに拾われ、夫妻から実の子どものように愛される。きまじめな性格で、パントたちの期待に応えようとして無理をすることもある。修行の一環として、セーラやプリシラを護衛する。後に"魔道軍将"に推されるものの、これを固辞して魔道研究に生涯を費やした。

if……

プリシラ、ニノのどちらかとの支援関係がAになると、その相手と結ばれる。セーラとの支援関係がAになった場合は、2人の距離は近づくものの結婚するまでには至らない。

【封印】



【封印】



クレイン

原理原則を重んじる若き将軍

エトルリアの将軍。パントとルイーズの息子で、クラリーネの兄。母から弓の才能を受け継いでいる。エトルリア総督府を襲うリキア同盟軍を鎮圧すべく西方三島に派遣されるが、真の敵は総督府だと悟ってロイたちの仲間となる。原理原則を重んじ、反することがあれば上官にさえもくってかかる。ベルン動乱後、軍を除隊して文官の道を選んだ。



確固たる正義感の持ち主で、雇われた傭兵の身であるティトも、彼に絶対の信頼を寄せている。

【封印】



クラリーネ

怖いもの知らずのお嬢様

パントとルイーズの娘でクレインの妹。父の才能を受け継いだのか、魔道の才がある。大好きな兄に会いたいと、ただそれだけのために旅に出る。不審者としてラウス領で捕らえられるが、城から逃亡。たまたま近くにいたリキア同盟軍と行動をともにする。あまやかされてきたのか、我が強く自由奔放。ベルン動乱後は、おとなしく生家に戻った。



自分をラウス城から逃がしてくれたルトガーに感謝しているのだが、素直に礼を言えず……。

ディーク

チームを率いる名うての傭兵

ディーク傭兵団のリーダー。傭兵団の仲間を引き連れ、ロイ率いるフェレ軍に加わる。かつてエトルリアの奴隷剣闘士であり、そのころクレインの命を救う。それを機にリグレ公爵家に召し抱えられ、家族同然に愛される。だが、身分の低い自分がいると恥になると考え、公爵家を飛び出す。動乱後は傭兵団を解散し、1人で傭兵稼業を続けた。



ロイ率いる軍に居合わせることになったディークとクレインは、十数年ぶりに再会を果たす。

【封印】



ダグラス

国王モルドレッドの忠臣

三軍将を束ねる"大軍将"。エトルリア王家に忠誠を誓っており、国王モルドレッドを守るためにクーデター派に与する。また、王子ミルディン暗殺未遂事件でも「王子逝去」の虚報を流し、王子を西方三島へ逃がす。動乱後に一度は退役するものの、復隊して将軍となった。



⬆戦災孤児だったララムを養女として迎える。彼女に対しては、「親バカ」といえるほどあまい。

【封印】



セシリア

ロイとリリーナの師＆理解者

ベルン動乱期においてのエトルリア王国の"魔道軍将"。オスティアに駐屯していたころ、ロイとリリーナに武術や学問を教えた。クーデター派と内通していたベルン軍に捕らえられるが、ロイたちに救出されてそのまま仲間となる。ベルン動乱後は、エトルリアに戻って復興に尽力した。



⬆弟子筋にあたるロイからの救援要請を受けていたために、セシリアは軍を率いてオスティアに駆けつける。

if……

セシリアは、ロイの恋人候補のひとり。2人の支援関係をAにすると、エピローグで結ばれる。エトルリアの"魔道軍将"から、フェレ侯爵夫人への華麗なる転身は一見の価値あり。

【封印】



パーシバル

エトルリア軍中興の祖

エトルリア三軍将のひとり"騎士軍将"。王子ミルディンに絶対の忠誠を誓い、ミルディンがリキア同盟とともに行動していることを知り、ロイたちの仲間となる。戦争終結後、ダグラスから"大軍将"の座を受け継ぎ、エトルリア軍の再編に尽力した。最後は宰相にまで登りつめる。

ベルン王国

エレブ大陸一の軍事国家

“英雄”ハルトムートが興した大陸東部の軍事大国。この地にしか生息していない飛竜を用いた竜騎士団は精強で、それを束ねる“ベルン三竜将”は軍の要となっている。デズモンド王の治世は、暗殺者集団「黒い牙」が跋扈するなど、政治は腐敗していた。ゼフィールが王になって綱紀は粛清されるが、今度は他国への侵攻を開始してベルン動乱が勃発。戦後、敗れたベルン王国は解体され、ギネヴィアが女王となる「新生ベルン王国」が誕生する。

【烈火】



先代国王デズモンド

凡庸かつ狭量で正妻ヘレーネを憎み、才気あふれる嫡男ゼフィールに嫉妬する。たびたびゼフィール暗殺を試みるが失敗、逆に殺されてしまう。

【烈火】



先代王妃ヘレーネ

デズモンドの正妻。エトルリア出身でルイーズとは旧知の仲。夫との関係は冷えきり、実子ゼフィールを王位に就かせることだけに執心していた。

THE EREB CONTINENT

ゼフィール ►

人の治世に絶望した王

デズモンドとヘレーネの子。幼いころから才気煥発で、臣下からの信頼も絶大。だが、そのあふれんばかりの才ゆえに父のデズモンドから疎まれ続け、たびたび暗殺されかける。ゼフィールは、その父を死を装って殺害。王位を簒奪してベルン王となった。

その後、ゼフィールは、憎しみや妬みといった感情のために無益な争いを繰り広げる人間と、その人間が支配する世界に深く絶望。かつて“英雄”ハルトムートが封印した魔竜イドゥンを呼びさまし、大陸中を無数の竜で埋め尽くして人間を滅ぼすことを決意する。これが、ベルン動乱の発端となる。

だが、そんな彼の野望は、ロイ率いるエトルリア軍によって打ち砕かれ、実現することはなかった。



⬆幼いころ、黒い牙に暗殺されかけた際には、エリウッドやヘクトルたちに救出された。

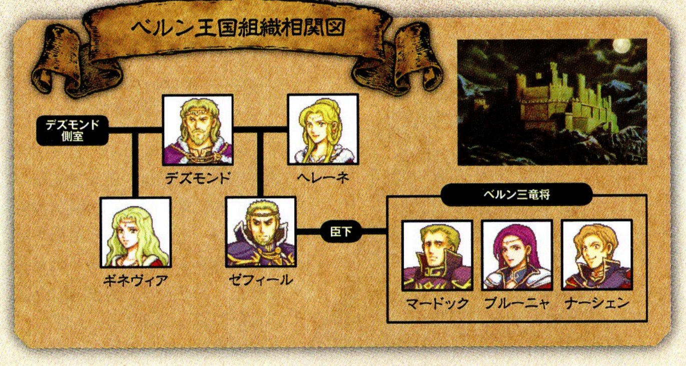


⬆エッケザックスの使い手でもあり、その強さは“魔道軍将”セシリアを一撃で蹴散らすほど。

【烈火】

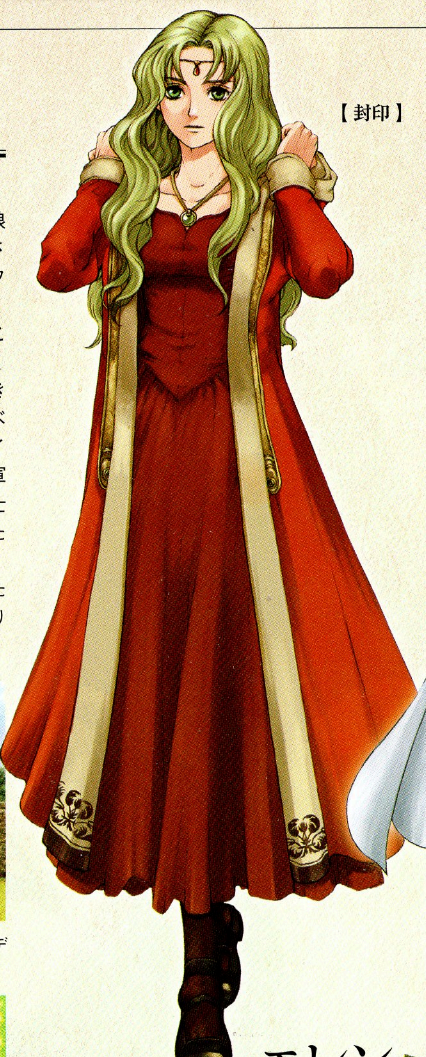
【封印】





ベルンの至宝「ファイアーエムブレム」

ベルン王家には「ファイアーエムブレム」という宝珠が受け継がれている。これは、建国王ハルトムートが魔竜イドゥンを封じるために用いた道具で、歴代国王が大切に保管してきた。幾代も伝わるうちに、王子が成人の儀を迎える際には、ファイアーエムブレムを継承することが慣習となっていった。



ギネヴィア

国を裏切った王妹

デズモンドと彼の側室との間に生まれた娘で、ゼフィールの異母妹。母が父王に寵愛され、彼女自身も父から溺愛されて育つ。ゼフィールのことを非常に慕っている。

父の蛮行によってゼフィールが豹変したことを知っているので、内心では兄を痛ましく思っている。だが、罪のない民が戦争のまきぞえとなることを憂い、兄の野望を阻止すべく「ファイアーエムブレム」を持ち出し、ロイ率いるフェレ軍に投降する。一度はベルン軍に囚われるものの、直属の臣下である竜騎士ミレディに救出され、以降は最後までロイたちと行動をともにする。

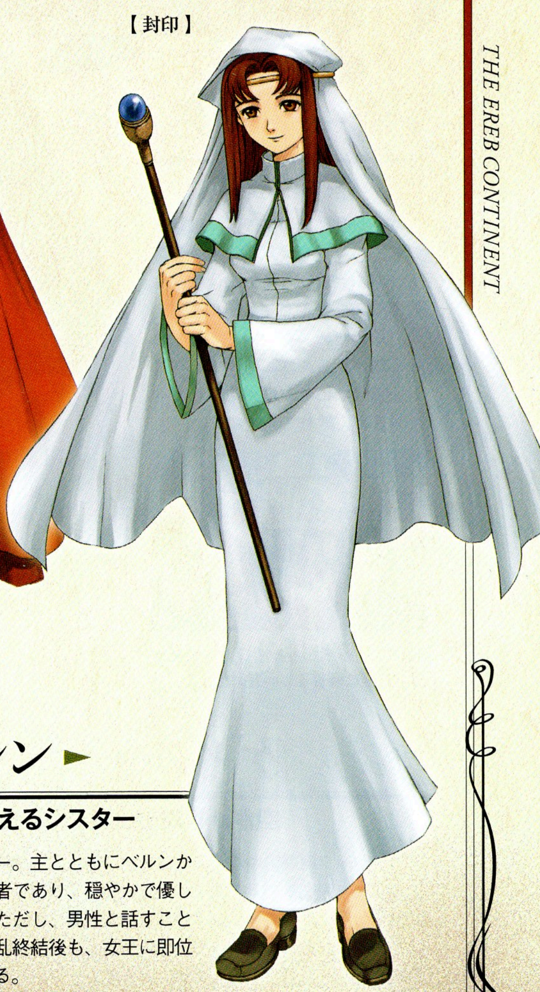
動乱終結後、新たに誕生することになった「新生ベルン王国」の初代女王に即位。裏切り者と罵られながらも、復興に尽力する。



↑ギネヴィアは父より兄になついていたので、デズモンドのゼフィールへの嫉妬に拍車がかかる。



↑酷薄なゼフィールも、ギネヴィアには温情をかける。幼いころの妹の笑顔が去来するのか。

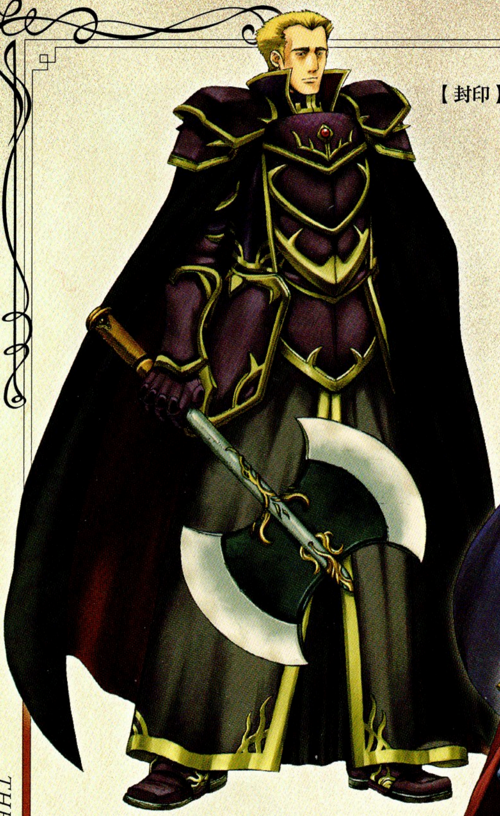


エレン

ギネヴィアに仕えるシスター

ギネヴィア直属のシスター。主とともにベルンから出奔する。典型的な聖職者であり、穏やかで優しく、厚い信仰心の持ち主。ただし、男性と話すことをやや苦手としている。動乱終結後も、女王に即位したギネヴィアを支え続ける。

【封印】



【封印】



ナーシェン

尊大な策士

“三竜将”のひとりで、リキア方面軍の指揮を担当。尊大で部下を使い捨てにするので、人望は皆無に等しい。たびかさなる失敗のせいで三竜将から降格させられそうになり、エトルリア王宮の攻防戦において自ら出陣するものの、リキア同盟軍に負けて死亡した。

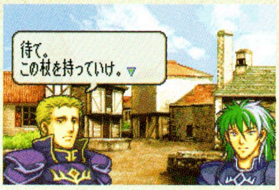


度が過ぎるナルシストで、クラリーネから「下品だ」と言われて取り乱したこともある。

マードック

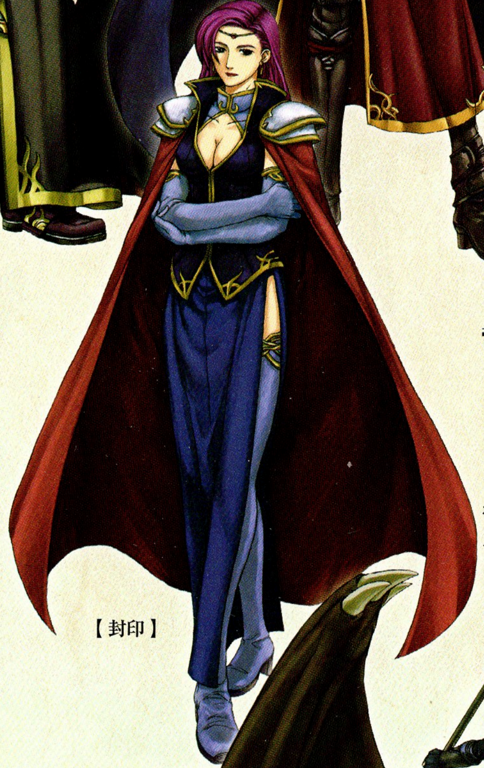
ベルンの防壁

ベルン動乱期の“三竜将”筆頭格にしてイリア方面軍指揮官。デズモンドの治世からその地位にあり、先王に疎まれたゼフィールを支えた。そのため、ゼフィールはもちろん部下からの信頼も厚い。ベルン王宮近郊にて、ロイ率いるエトルリア軍に敗れて死亡する。



エリウッドたちを助けたこともある。当時は若者らしい髪型だった。

【封印】



ブルーニャ

誇り高き将軍

サカ方面軍を指揮する“三竜将”のひとりで、どんな場合も慇懃な態度を崩さない。ゼフィールとともにベルン王宮で戦死することを望むが、後事を託されて王宮を脱出。その後、ベルン軍の残党を率い、正々堂々とエトルリア軍に戦いを挑んで散った。

【封印】



ゲイル

空かける烈士

マードック直属の竜騎士。ミレディの恋人で、敵同士となった後もその身を案ずる。その力は“三竜将”に匹敵するが、ナーシェンの中傷によって竜騎士の地位にとどまる。自分を重用してくれたマードックと国に恩義を感じ、最後までベルン軍人として戦った。



【烈火】

ヒース

竜騎士の誇りを抱いて

ベルン軍でヴァイダの部隊に属したが、ぬれぎぬをきせられて逃亡。ユバンズ傭兵団所属の竜騎士となる。だが、弱者を狙う団の方針に反対し、エリウッドたちの仲間となる。戦いのあと、各地を巡る自由騎士となった。

if……

ヒースとヴァイダの支援関係をAにすると、2人は復隊すべくベルンに帰還する。ヒースとプリシラの支援関係をAにした場合は、身分の違いを気にかけ、結局両者は別れてしまう。



【封印】

ツァイス

母国と実姉の狭間で

ナーシェン旗下の竜騎士で、ゲイルや姉のミレディを尊敬している。ナーシェンに裏切り者と呼ばれて殺されかけたところを、ゲイルにかくまわれる。その後、姉やギネヴィアが母国を捨てた真意を探るべくロイに同行。動乱後は、ベルン軍の再編に尽力する。



【封印】

ミレディ

ギネヴィア親衛隊長

ギネヴィアの親衛隊長を務める竜騎士。ツァイスの姉でゲイルの恋人。国以上にギネヴィア個人に忠誠を誓っており、主の命に従ってギネヴィアをロイたちのもとへと送り、その後も随伴する。動乱終結後、女王になったギネヴィアを支えて国の復興に貢献する。



【烈火】

ヴァイダ

ゼフィールの狂信者

かつてベルン竜騎士団の部隊を率いていたが、市民虐殺のぬれぎぬをきせられて逃亡兵となる。ゼフィールに心酔しており、彼の近くで働きたいがために黒い牙に加担する。だが、エリウッドたちがゼフィールの窮地を救ったことを知り、その一行に加わった。



【烈火】

ドルカス

妻想いの戦士

ガヌロン山賊団に雇われた木こり。足の不自由な妻ナタリーのために金を稼ごうとするが、リンに説得され、山賊団を抜けて仲間に加わる。リンがキアランに帰還すると、エリウッドに雇われる。ネルガルを倒したあとは、妻とともにフェレ領に移り住んだ。

【封印】







⬆⬅ゼフィールの前に姿を現したヤァン。人の滅亡を望むゼフィールは、彼と手を結ぶことを即断する。



⬆ヤァンは「生存競争に勝ちたい」という本能に従うだけで、ゼフィールのような思想はない。

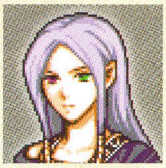
ヤァン

「人竜戦役」を生きのびた竜族

竜族(火竜)の純血種。「人竜戦役」において人間と争った竜族の生き残りで、約千年もの間竜殿で傷を癒していた。竜殿へと進軍したロイたちエトルリア軍に、人竜戦役の真実とゼフィールの真の目的について語り、その後彼らによって倒される。

人竜戦役以来の竜族の悲願である、竜による世界の支配。それは、魔竜イドゥンを復活させて人を滅ぼし、人の支配する世界を終わらせようとするゼフィールと相通じるものがあった。そのため、魔竜の復活によって力を取り戻したヤァンは、ゼフィールと結託。ゼフィールの野望と自分たちの悲願を達成すべく、彼に手を貸す。ゼフィールの死後は、ヤァンがイドゥンの管理を引き継いだ。

【封印】



➡普段はフードを被っているのではっきり確認することはできないが、色の異なる左右の瞳がイドゥン最大の特徴。



イドゥン

心を奪われた悲劇の神竜

ローブに身を包んだ謎の少女。"暗闇の巫女"と呼ばれているが、その正体は戦闘竜を無尽蔵に生み出す魔竜。人竜戦役でハルトムートによって封印されるが、ゼフィールが竜を利用して人を滅ぼすために、その封印を解いた。ゼフィールの命にのみ従い、彼の死後も竜を生み出そうとするが、ロイやファたちに倒される。

かつては神竜だったが、竜族の長に捕らえられて魔竜へと変えられる。その際、命令を確実に遂行させるべく心を奪われ、いわば「戦闘竜を生み出す機械」と化した。



⬅少女から魔竜へと変貌したイドゥン。その圧倒的な大きさを目にして、ロイたちは驚く。

if……

『封印の剣』の終章でファを生存させ、なおかつロイの「封印の剣」を使って魔竜を撃破すると、エピローグで、その後のイドゥンの様子が描かれる。

戦後イドゥンはナバタの里に引き取られ、ファや長老たちと暮らすことになる。心を取り戻したはずなのに、まったく感情を表さないイドゥン。だが、ファとの触れ合いが、彼女に笑みを浮かべさせた。



イリア地方

騎士団が治める極寒の地

大陸北部に位置する極寒の地。"騎士の中の騎士"バリガンが生誕した地としても知られている。悪天候のせいで諸産業が育つことはなく、かわりに傭兵稼業が盛ん。イリアの傭兵はなによりも信用を重んじ、雇い主を決して裏切らない。また、ペガサスはこの地にしか生息しておらず、天馬騎士はイリアの代名詞的存在である。それまでは諸騎士団が各地を治めていたが、ベルン動乱の後に、イリア初の統一国家である「イリア連合王国」が発足する。



↑イリア地方の高き山々には、氷竜が住まうという伝説がある。ニニアン姉弟も、ここで生まれた。



フィオーラ

【烈火】

無垢なる白翼

イリア天馬騎士団の一員で第五部隊の隊長。ファリナとフロリーナの姉。パントに雇われ、ヴァロール島の黒い牙を調査する。そこで、偶然フロリーナと出会い、エリウッドたちの仲間となる。周囲から堅物と呼ばれるほどまじめで、我を殺してでも任務を遂行しようとするが、それ以上に、妹たちを大切にしている。

ネルガルを倒した後も、天馬騎士団の部隊長として各地を飛び回った。

if……

フィオーラには3人の恋人候補がいる。ケントまたはセインとの支援関係をAにすると、イリアに戻ってそれぞれと結ばれる。エリウッドとの支援関係をAにすると、彼と結婚してフェレ侯爵夫人となる。



ファリナ

【烈火】

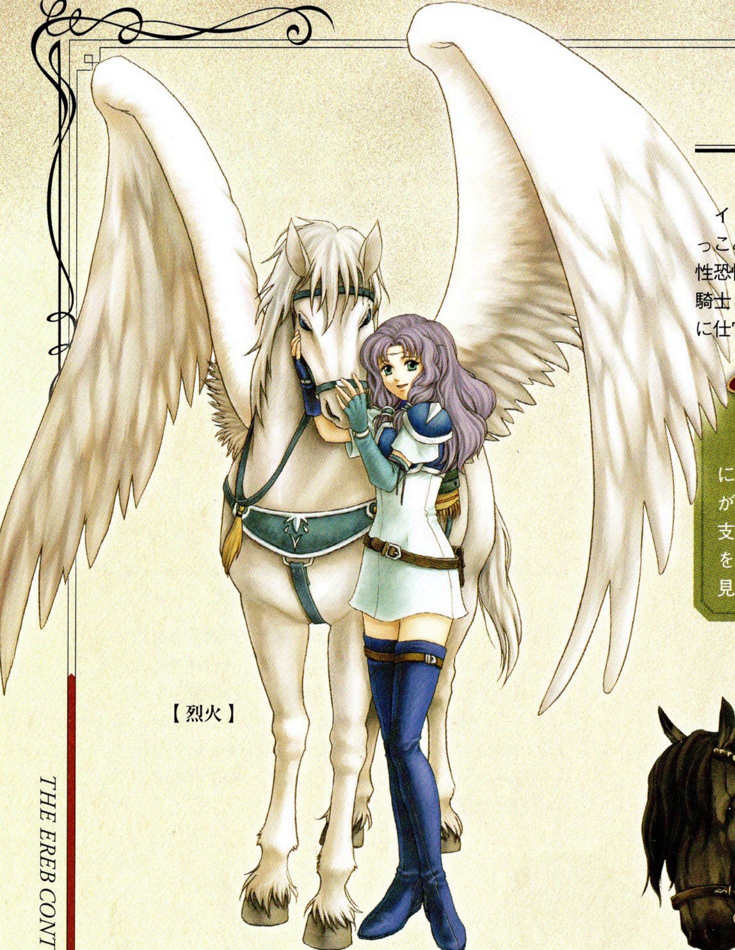
自称"すご腕"の天馬騎士

イリア天馬騎士団の一員で第三部隊に所属する。フィオーラの妹でフロリーナの姉。"すご腕" と自称することからもわかるように、かなりの自信家。自分のせいでフィオーラに膨大な借金を背負わせてしまったために、こつこつ金を貯めており、ときには詐欺まがいの行動をとることもある。ネルガルを倒したあと、姉と同様に天馬騎士団の部隊長に就任した。

if……

ファリナは、ヘクトル、ケント、ダーツの誰と支援関係をAにしたかによって、その後が変化する。ヘクトルの場合はオスティア侯爵夫人となり、ケントやダーツの場合は、そのまま傭兵稼業を続けることになる。





【烈火】

フロリーナ

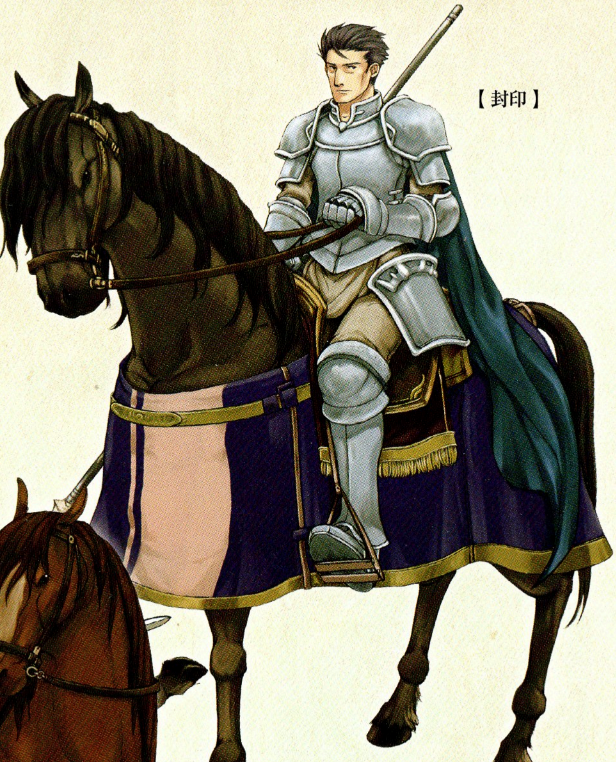
可憐な天馬騎士

イリア出身の見習い天馬騎士で、フィオーラとファリナの妹。引っこみ思案で口べたなので、他人との意思疎通が苦手。泣き虫で男性恐怖症で、そのうえに酒乱。これらの欠点を克服して正式な天馬騎士となるために、親友リンの旅に同行。そのままキアラン侯爵家に仕官する。ネルガルとの戦いの後はイリアへ戻った。

if……

ヘクトルとの支援関係をAにすると、エピローグで2人が結ばれる。また、リンとの支援関係をAにすると、友情を深め合う2人の様子を垣間見ることができる。





【封印】

トレック

のんびり屋の風変わり騎士

イリア傭兵騎士団の一員。ゼロットとともにロイ率いるフェレ軍に加入。のんびりした性格で、戦場でぼーっとしたり居眠りしたりするのは日常茶飯事。そのため、たびたび上官であるゼロットから叱責される。だが、騎士としての能力は高く、"軍神"と評されるほど。動乱終結後もそのスタンスを崩さず、傭兵として各地を転戦した。



【封印】

ゼロット

未来の統一イリア王

イリア傭兵騎士団を束ねる将軍であり、エデッサ城の城主。妻ユーノとの間に一人娘がいる。ヘクトルと雇用契約を結んでおり、彼の死後も盟約を守ってロイたちに加勢する。部下からの信頼も厚いよきリーダーだが、妻には頭が上がらない。ベルン動乱の後に、イリア初の統一国家であるイリア連合王国の初代国王に即位した。



ノア

さすらいの傭兵騎士

イリア傭兵騎士団の一員。ゼロットとともにロイ率いるフェレ軍に加わる。優しい心の持ち主だが、親しい人間を失うことを恐れて他者とは距離をおく。だが、フィルに好意を抱き、自らの思いの丈を伝える。動乱終結後は騎士団を除隊し、ひとりの傭兵として各地を渡り歩いた。



ティト

自分に厳しいリアリスト

イリア天馬騎士団の部隊長。ユーノの妹でシャニーの姉。エトルリア軍のクレインに雇われ、西方三島へ赴任。そこで、雇い主の判断に従ってリキア同盟軍に加入。

家族や仲間を大切にするが、任務のためなら妹にも刃を向ける。ベルン動乱後、妹とともに壊滅状態にあったエデッサ天馬騎士団の再建に尽力した。



ユーノ

蘇った伝説の天馬騎士

ゼロットの妻。天馬騎士団の団長だったが、結婚を機に除隊。ティトとシャニーの姉で、親がわりとなって妹たちのめんどうを見る。夫の留守中、ベルン軍の襲撃を受けて虜囚となるが、ロイたちのエトルリア軍に救出される。

その後、彼らの仲間として戦列に復帰。動乱後、天馬騎士団から"名誉団長"の称号を贈られた。



シャニー

騎士を夢見るムードメーカー

イリア出身の見習い天馬騎士。ユーノとティトの妹。正式な天馬騎士となるべく、ディーク傭兵団の一員となる。その後、傭兵団の仲間とともにフェレ軍に加わる。経験の浅い新兵だが、持ち前の明るさで仲間を鼓舞する。動乱終結後に騎士の叙任を受け、晴れて天馬騎士となった。

if……

シャニーは、ロイの花嫁候補のひとり。2人の支援関係をAにすると、シャニーは天馬騎士として活躍する道を捨て、ロイと結ばれる。その後、ともにフェレ領で暮らすことになる。

THE EREB CONTINENT

【封印】



ニイメ

大陸に名をはせる “山の隠者”

カナスの母でヒュウの祖母。「魔道を志すなら知らぬ者はない」といわれる闇魔道の大家。常に山奥で研究にいそしんでいるために、“山の隠者”とも呼ばれる。

伝説の竜族について調べるために、ロイ率いるエトルリア軍に同行する。動乱後は、再び山にこもって自らの研究に没頭した。

【烈火】



ヒュウ

一族の力を受け継ぐ 若き魔道士

エトルリアのクーデター派に雇われた魔道士。ロイから多額の金をせしめ、リキア同盟軍に寝返った。カナスの息子にしてニイメの孫であり、人のよさは父に、理魔道の才能は母に、そしてバカなところは祖父に似たといわれる。動乱後は、仕官の誘いをすべて断って市井で暮らした。



↑いわゆる守銭奴であり、手にする金額が多ければ真剣に戦う。

【封印】





←カナスがニイメの息子だと知り、驚くパント。“魔道軍将”の地位も、“山の隠者”の名声にはかなわない。

カナス

知識を欲する魔道士

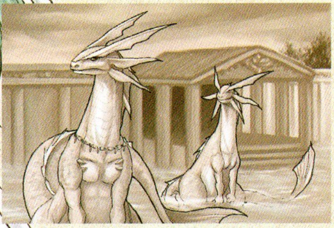
もとは学者だったという異色の魔道士。ニイメの息子でヒュウの父。港町バドンからヴァロール島に渡る手段を探していたところ、偶然エリウッドたちに出会って彼らの仲間となる。ネルガルを倒した後に故郷イリアに戻るが、その数年後、妻とともに吹雪をくい止めようとして命を落とす。

【烈火】





竜の血を引くせいか不思議な力があり、降りかかる危険を事前に察知。



姉弟は「人竜戦役」で異大陸へ避難するが、望郷の念は抑えられない。

ニニアン

氷竜族の巫女

氷竜と人の血を引くイリア出身の少女。竜族の住む異大陸とエレブ大陸を結ぶ竜の門を開ける力を持ち、弟のニルスとともに黒い牙に追われる。逃亡中は、踊り子として生計を立てる。デュランダルの暴走により絶命するが、神将器の力を利用したブラミモンドによって蘇生。ネルガルを倒した後に、竜の門を閉ざすべく弟とともに異大陸へと旅立つ。

if……

ニニアンは、エリウッドに恋心を抱いている。両者の支援関係をAにすると、彼女は氷竜として生きる道を捨て、念願叶いエリウッドと結ばれる。

ニルス

姉を守る健気な弟

ニニアンの弟。黒い牙に追われ、姉と2人で各地を転々とする。その間は、得意の笛を演奏して生活の糧を得る。病弱な姉の身を案じており、ニニアンが命を落とした際には塞ぎこんでしまう。だが、最後には、エリウッドたちと協力してネルガルを打ち破る。その後、蘇生したニニアンとともに竜の門から異大陸へと旅立った。

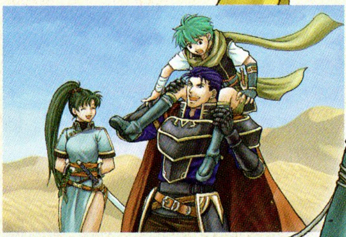
【烈火】



if……



エリウッドとニニアンの支援関係をAにすると、ニルスは姉と別れて、ひとりで異大陸へ向かう。



さまざまな迫害を受けたために、人間不信となったニルス。そんな折、ヘクトルに優しくされて……。

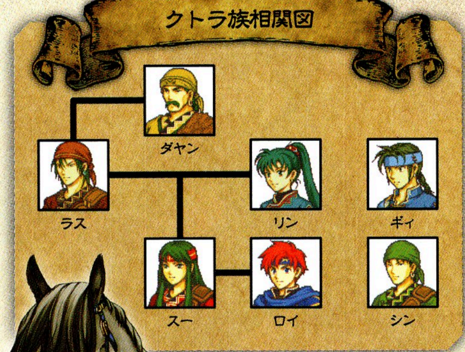


姉の亡骸を見て、ショックを受けるニルス。以降、しばらく口をきけなくなるほどふさぎこんでしまう。

サカ地方

草原を愛する遊牧民が住まう地

大陸内部に広がる大草原。クトラ族やジュテ族など、さまざまな遊牧民が暮らしており、"神騎兵"ハノンもこの地で生まれた。各部族はゲル（テント状の住居）で生活し、精霊や自然そのものを信仰する独特な習俗を持つ。そのため、他国からは奇異の目で見られており、それがいつしか蔑視へと変わっていった。エレブ新暦999年に始まったベルン軍の侵攻により、ほとんどの地域はベルンに支配されるが、動乱終結後には新たな部族が次々と勃興した。



ダヤン

クトラ族の伝説の騎士

クトラ族の族長。ラスの父にしてスーの祖父。大陸にその名を轟かす戦士であり、"灰色の狼"とも呼ばれる。ベルンの侵攻によってクトラ族は事実上滅亡するが、それでもベルンに抗い続けた。動乱終結後、新たな部族を立ち上げる。

【封印】



【封印】



【烈火】



スー

自然と共生する寡黙な少女

ダヤンの孫娘。自然を愛する寡黙な少女。ベルンの侵攻から逃れてトリア侯オルンに庇護されるが、オルンが執事のワグナーに殺害されたために、彼女も囚われの身となる。そこをロイたちに救出され、フェレ軍に加わる。動乱後は、サカに戻って静かに暮らした。

if……

スーは、ロイの恋人候補のひとりである。2人の支援関係をAにすると、スーは故郷であるサカに戻らずに、ロイと結婚してフェレ侯爵夫人となる。

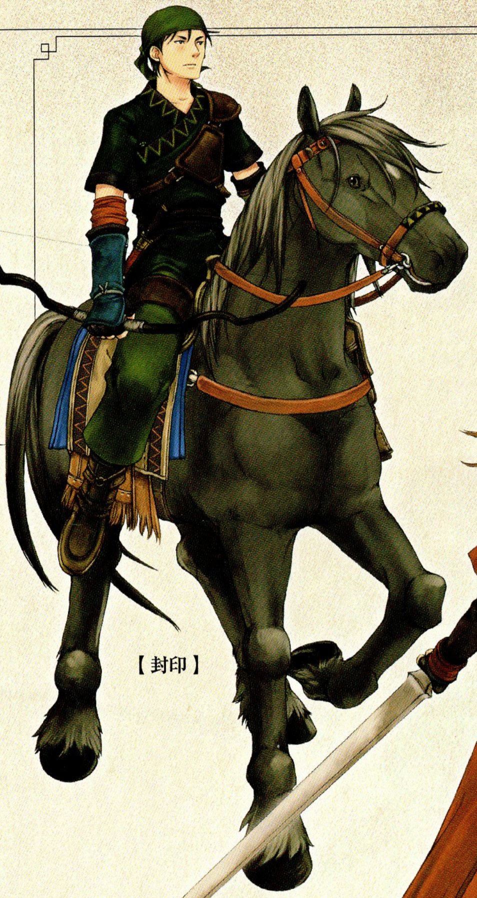
ラス

旅に出たダヤンの跡取り息子

ダヤンの子。幼いころに呪い師が「災いが起きる」と預言したため、それを阻止すべく物心つく前に旅に出る。リンやエリウッドたちとともにネルガルを倒したことで彼の使命は果たされ、十数年ぶりに故郷にいるダヤンのもとに戻った。

if……

ラスは、リンの恋人候補のひとり。両者の支援関係をAにすると、別々にサカの地へと戻った2人は偶然再会し、そのまま結ばれる。そののち、一人娘であるスーを授かることになる。



シン

サカの次代を担う若武者

クトラ族の戦士。ダヤンの命でスーを探す。西方三島でスーと再会し、以降は彼女に付き従う。話しかけることをためらわせるほどに無愛想で寡黙。動乱後はダヤンの立ち上げた部族に加わり、その後に"灰色の狼"の後継者となる。



ギィ

草原を駆ける剣士

クトラ族の戦士。族長ダヤンに剣の才を認められ、サカーの剣士になることを目指し旅に出る。マシューに一宿一飯の恩があり、その恩を返すためにやむなく仲間となる。ネルガルを倒したあとも剣の修行に励み、後には"剣聖"カレルと並び称された。

if......

ギィとプリシラの支援関係をAにすると、なんと2人が駆け落ちする。当初からプリシラを気にしていたギィの想いが、つい実を結ぶことになる。



ルトガー

ベルンへの復讐に燃える剣士

サカの都市ブルガル出身で、サカとベルンの血を引く剣士。一族を滅ぼしたベルンへの復讐を誓っている。ラウス侯エリックに雇われていたが、ロイたちがベルンに敵対していることを知り、フェレ軍に寝返る。動乱のあとは風のように消え、後の消息はわかっていない。



バアトル

最強の男になるために

最強の男を目指し、修行に明け暮れる戦士。マーカスに雇われてエリウッドたちに同行する。旅の途中で後に妻となるカアラと出会い、その後、一人娘のフィルを授かる。ベルン動乱期には、剣術修行の旅に出た娘を探していた。



【封印】



【烈火】



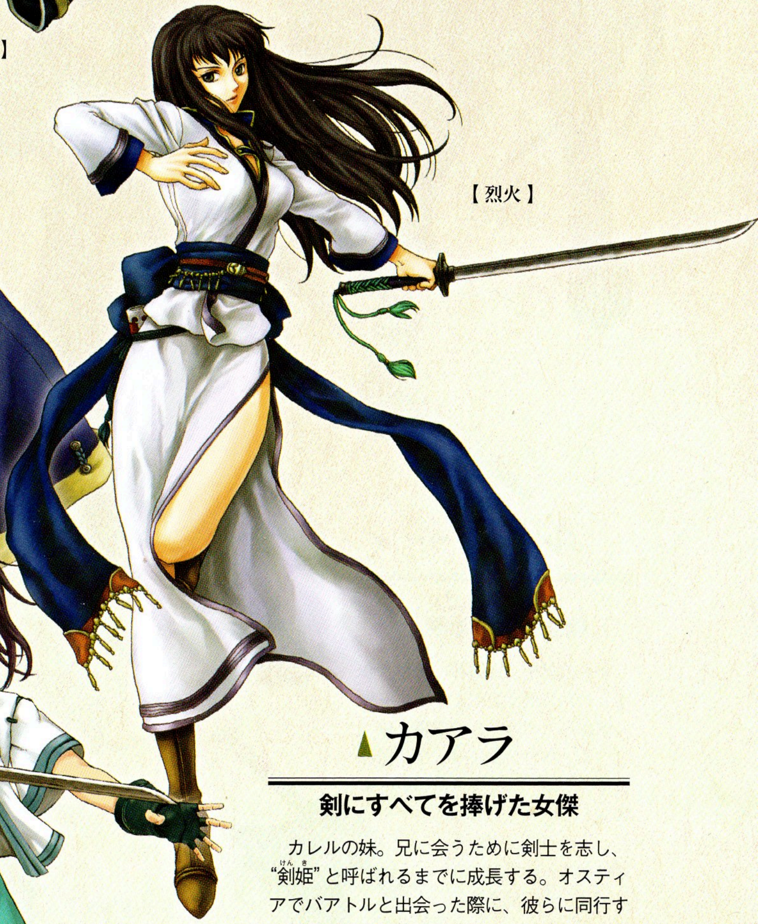
➊剣魔の名は、数多くの者を斬ってきた証でもある。

カレル

伝説とうたわれる剣士

カアラの兄で、"剣魔"の異名を持つ剣の達人。一子相伝の剣技を習得すべく、掟に従って一族を手にかける。旅の途中でエリウッドたちと出会ったカレルは、成長した彼らと戦うことを夢見て、その力を貸す。

その後"剣聖"と呼ばれるまでになるが、戦を嫌ってベルンに隠れ住むようになる。だが、義弟バアトルや姪のフィルとの再会を機に、ロイ率いるエトルリア軍に加わった。



【烈火】

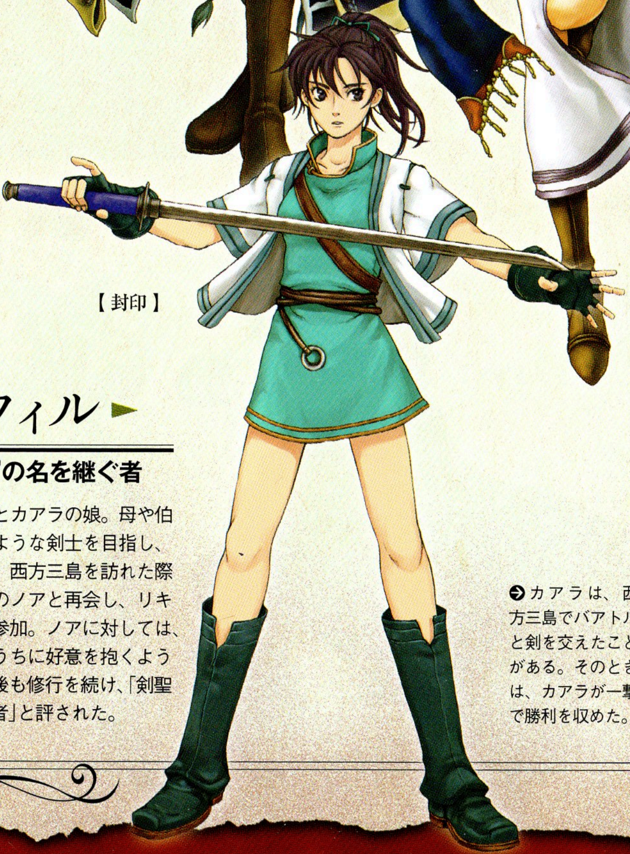
カアラ

剣にすべてを捧げた女傑

カレルの妹。兄に会うために剣士を志し、"剣姫"と呼ばれるまでに成長する。オスティアでバアトルと出会った際に、彼らに同行すれば兄と再会できると考え、エリウッドたちの仲間となる。その後バアトルと結ばれ、フィルを産んだ後に病没する。



➋カアラは、西方三島でバアトルと剣を交えたことがある。そのときは、カアラが一撃で勝利を収めた。



【封印】

フィル

"剣聖"の名を継ぐ者

バアトルとカアラの娘。母や伯父カレルのような剣士を目指し、修行の旅に。西方三島を訪れた際に顔見知りのノアと再会し、リキア同盟軍に参加。ノアに対しては、ともに戦ううちに好意を抱くようになる。戦後も修行を続け、「剣聖の名を継ぐ者」と評された。

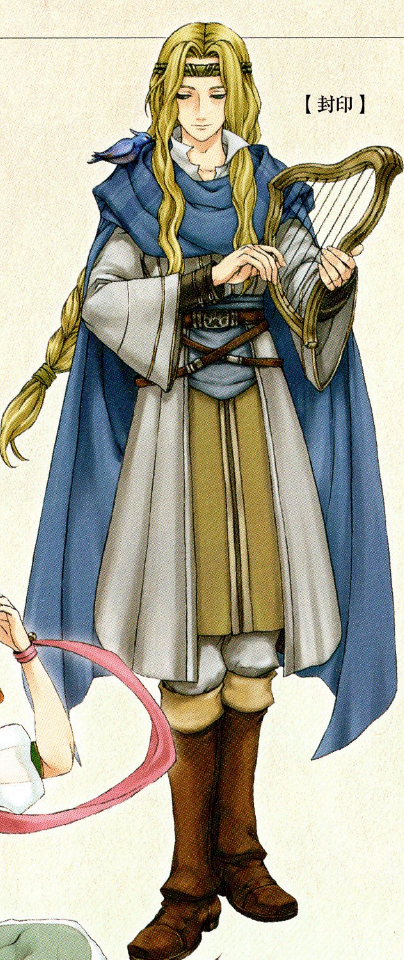
西方三島

圧政に苦しむ辺境の島々

西方三島とは、大陸の西端にある島の総称。エトルリア王国の保護下にあるが、賊やエトルリア総督府の圧政に苦しめられ、島民たちはレジスタンスを組織して抵抗を繰り返した。だが、この地にリキア同盟軍が赴任したことで、事態は一変。エトルリア本国から賊の討伐を命じられた同盟軍が、賊もろとも総督府を一蹴し、三島は平穏を取り戻す。動乱後には、この地に独立国家「西方連合」が誕生した。



【封印】



【封印】

エルフィン

素性を隠したレジスタンスの参謀

西方三島のレジスタンスの一員で、参謀としてエキドナを支える。その正体は、事故で死んだはずのエトルリア王国の王子ミルディン。表向きは事故死とされたが、実はロアーツらによる暗殺未遂事件があったので、ダグラスが王子の身を案じて西方三島に逃がしたのだ。身分を隠したままロイたちに同行し、軍の参謀役をも務め、動乱後はエトルリアに帰還した。



【封印】

エキドナ

西方三島復興のために

西方三島のレジスタンスをまとめる首領。ロイに同行していたララムに窮地を救われ、リキア同盟軍に加わる。西方三島に新たな村を作るという夢があり、協力者を募った。生来の親分肌で、ベルン動乱後に誕生した独立国家、「西方連合」の指導者として擁立された。

ララム

踊りと笑顔で仲間を鼓舞

西方三島のレジスタンスに協力する踊り子。島の窮状をロイに伝え、そのまま一行に加わる。ダグラスの養女であり、養父の命で王子ミルディンに仕える。料理が不得手で、彼女の手料理を食べると七日七晩うめき苦しむという。動乱後は各地を転々とし、踊りで人々を勇気づけた。

if……

ロイとの支援関係をAにすると、エピローグで結ばれる。フェレ領内では、孤児であるララムをめとることに反対する向きもあったが、2人はそれを乗りこえて結婚したという。

THE EREB CONTINENT

ワード

頼りになる熱血戦士

ディーク傭兵団の一員。ディークとともにフェレ軍に加わる。西方三島の出身で、ロットとは幼なじみの関係である。常に冷静なロットとは対照的に、猪突猛進型で熱血漢。動乱終結後は故郷のフィベルニア島に戻り、荒れた土地を開墾し発展に尽くした。



↑生家には姉のメアリがおり、彼女の生活を楽にするために傭兵団に加わった。

【封印】



【封印】



ロット

いつもクールな戦士

ディーク傭兵団の一員。ディークともどもフェレ軍に加わる。フィベルニア島の出身。母や妹のミュウを助けるために傭兵団に入るが、その後に母は病没。理知的な性格だが、度が過ぎるほどの心配性。動乱後は故郷に戻り、ワードの姉メアリと結ばれた。

【烈火】



ガイツ

己の使命を探して

ベルガー商会の御曹司でギースの兄。父が奴隷を酷使する姿を目撃してショックを受け、出奔する。それ以来、自分のなすべきことを模索し続けている。ベルンで顔なじみであったダーツと再会し、エリウッドたちに同行することとなった。

【封印】



ゴンザレス

醜い顔と美しい心

醜い顔の山賊。西方三島の出身で、幼いころから容姿のために迫害される。そのためにやむなく山賊となるが、優しく繊細な心の持ち主であることをリリーナに看過され、リキア同盟軍に寝返る。動乱後は故郷に戻り、軍の英雄として村人に歓待された。

【封印】



ギース

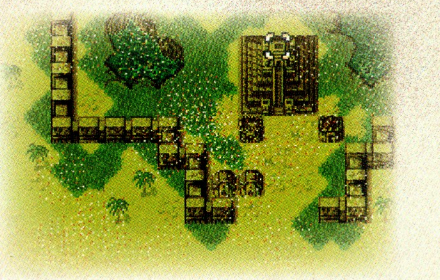
海に生きる男

西方三島を拠点とする海賊。エトルリア総督府の強制労働によって部下を失い、その敵をとるためにリキア同盟軍に参加。ベルガー商会の次男坊で、かつては自社商船の船長を務めていた。動乱後は海運業に従事し、後に"海の王者"と呼ばれるようになる。

ナバタ地方

砂嵐に隠された人と竜の"理想郷"

大陸南西に位置し、その大半は砂漠。砂漠に足を踏み入れる者はほとんどいないが、その奥にナバタの里がある。里には、「人竜戦役」で人と争うことを嫌った神竜と、心清らかな人とが手を取り合って暮らしており、里の存在を知る者には"理想郷"と称されている。エレブ新暦999年にベルン軍によって襲撃されるが、ロイ率いるリキア同盟軍の援護によりなんとか壊滅を免れる。動乱以後も、ナバタの里の竜と人は変わらぬ暮らしを続けたという。



↑砂漠に吹き荒れる砂嵐のおかげで、"理想郷"ナバタの里の位置はわかりにくくなっている。

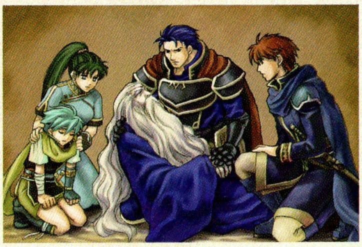


【烈火】

アトス

ナバタ砂漠の生ける伝説

八神将のひとりにして、"業火の理"フォルブレイズを使いこなす賢者。巷では"大賢者"と呼ばれる。強大な魔力と豊富な知識のためか、人の理を超越し、千年以上も生き続けている。ネルガルとは親しい間柄だったが、力を得るために他者の命をないがしろにするネルガルと対立し、神竜と結託して彼に深手を負わせる。エレブ新暦980年、大陸に竜を呼び出そうとするネルガルの野望を阻止すべく、エリウッドたちを導いてともに戦った。



↑ネルガルの野望を阻止すると、アトスは息を引き取る。死の間際、のちのベルン動乱を予言する。

残りの八神将 各顔絵は【烈火】



勇者ローラン

"烈火の剣"デュランダルを使っていた小柄な戦士。オスティア初代領主であり、ヘクトルの直系の祖先。デュランダルに自らの意識を宿していた。容貌はエリウッドに似ている。



謎多き者ブラミモンド

闇魔法の達人で、闇を取りこみすぎて己を失う。アトスと同様に千年以上も生き続け、各地に散らばる神将器に封印を施した。"黙示の闇"アポカリプスの使い手。

神騎兵ハノン

サカ出身の女性戦士。"疾風の弓"ミュルグレを使いこなす。詳細は語られていないが、"ハノンの再来"と評されたスーに似ているらしい。



狂戦士テュルバン

"天雷の斧"アルマーズを愛用した好戦的な戦士。人竜戦役ののちに西方三島で最期を迎えるが、ローランと同じように武器に自分の意識を宿す。ヘクトルにアルマーズを授ける。

英雄ハルトムート

八神将のリーダー的存在。人竜戦役ではエッケザックスと封印の剣を使っていた。魔竜イドゥンを封印した後に、ベルン王国を興す。

聖女エリミーヌ

エリミーヌ教の開祖。後世の人々のためにと、慈愛の心や竜の秘密について記した書物を遺す。"至高の光"アーリアルを使用していた。

騎士の中の騎士 バリガン

"氷雪の槍"マルテを使っていた騎士。騎士を志す者にはおなじみの人物で、ロイも知っていた。イリアの出身。



【烈火】

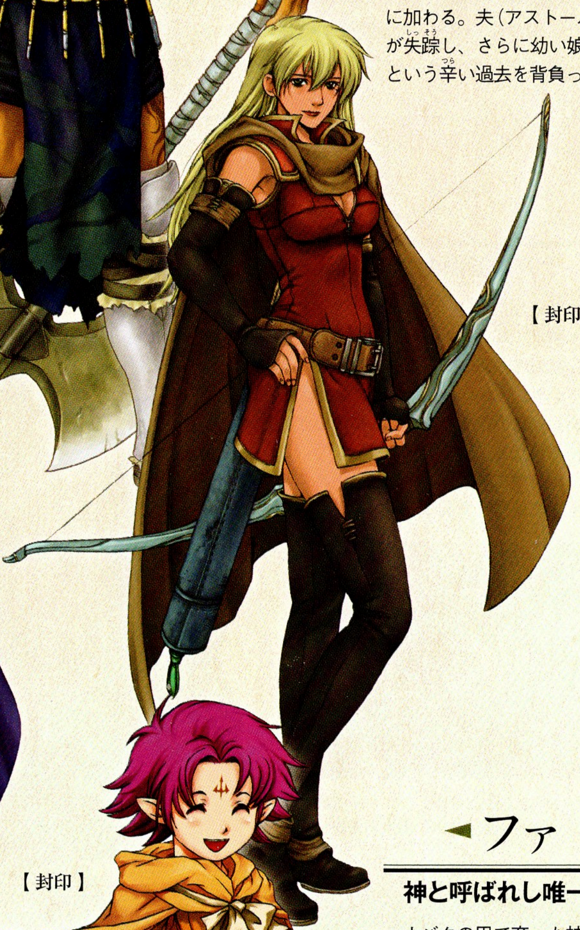
ホークアイ

砂漠の守護者たる偉丈夫

イグレーヌの父。アトスに仕えて砂漠やナバタの里を守っていたが、主の命を受けてエリウッドたちに同行。「人と竜はわかり合える」というアトスの言葉を信じており、氷竜と人の血を引くニニアン姉弟を陰ながら支える。

イグレーヌ

守護者の任を受け継ぐ者



【封印】

父ホークアイの跡を継ぎ、ナバタの里を守る戦士。ソフィーヤの予言にあった「ベルンの不吉な力」の正体を探るべく、リキア同盟軍に加わる。夫（アストールに酷似）が失踪し、さらに幼い娘を亡くすという辛い過去を背負っている。



【封印】

ソフィーヤ

竜の血を引くナバタの巫女

人と竜の間に生まれたナバタの巫女。竜の血の影響で非常に長命であり、予知能力をはじめとする不思議な力を持つ。その力のためにベルン軍に捕らえられるが、ロイたちに救出され、以後彼らの仲間となる。動乱後はナバタの里に戻った。

if……

ソフィーヤはロイの花嫁候補のひとり。2人の支援関係をAにすると、両者は結ばれ、ソフィーヤは侯爵夫人となる。彼女の助言は、周囲に大きな影響を与えたらしい。



【封印】

ファ

神と呼ばれし唯一の竜

ナバタの里で育った神竜の純血種。強大な力を持つために外界から隔離されてきたが、外の世界に興味を抱いて里を脱走。ベルン軍に捕らえられたところを、ロイたちに救出されて仲間となる。動乱後の行方は誰も知らない。



↑ファは、神竜石を使うことで神竜としての本来の姿と力を取り戻す。

THE EREB CONTINENT

その他の地域

【烈火】



レナート

魔の島をさまよう聖者

ヴァロール島（通称“魔の島”）に住む聖職者。かつては屈強な傭兵だったが、ネルガルのモルフ開発の実験台となり、不本意ながら不老の肉体を得る。ルセアの父を殺した犯人であり、新兵時代のワレスを鍛えたのも彼。ネルガルを倒した後に姿をくらませた。

【封印】



ガレット

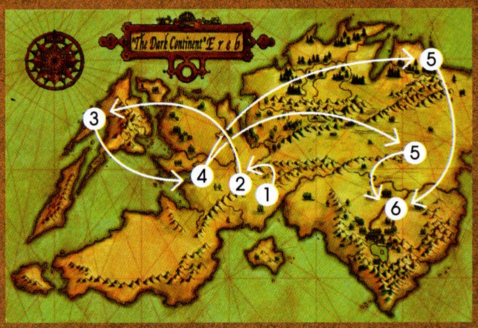
歴戦の狂戦士

ナバタ地方とエトルリア王国国境付近を荒らす山賊の頭目。金品こそ奪うものの、殺生はしないことをポリシーとしている。村を襲った際にリリーナと出会い、彼女の純粋さに心打たれて仲間となる。動乱終結後、山賊から足を洗って農民となった。



【封印】

キャスのお宝探訪



1. トリア
2. オスティア
3. ジェトー
4. アクレイア
5. ブルガルorエデッサ
6. ベルン

キャス

神出鬼没の盗賊

ロイたちの行く先々で（左の地図参照）盗みを働く少女。貴族などの金持ちからしか盗まず、奪った金品を貧しい人に分け与える義賊。ベルンに対抗しようとする領主に故郷の村を焼き払われ、それ以来貴族や戦争を目の敵にしている。盗みを止めるようにロイに繰り返し説得され、彼の仲間に加わった。

エリミーヌ教団

民衆に信奉される教団

“聖女”エリミーヌが創設した教団。教団本部はエトルリア王国にあり、同国にはエリミーヌを祭った「聖女の塔」も建設されている。大陸各地に多数の信徒を抱え、ベルンなどの大国も無視できないほどの政治力を持っている。ただし、彼らの目的はあくまでも「世界の安定と平和」。エトルリア王国のクーデターやベルン遠征に介入したのも、その目的のためである。



“聖女”エリミーヌ

THE EREB CONTINENT

【封印】



【封印】



【封印】



◄ヨーデル

伝説の大司教

エリミーヌ教団の司祭。ベルン王国による弾圧を危惧し、弟子サウルをロイたちのもとへ派遣するなど、たびたびロイたちを援助する。その後、魔竜を封印すべくエトルリア軍に加わる。ニイメとは顔なじみで、両者にはなんらかの因縁があるらしい。動乱後、エリミーヌ教団の大司教となる。



➔さまざまな文献に目を通しており、竜に関する知識は豊富。

◄ドロシー

心美しき弓使い

エリミーヌ教団の信徒。教団からサウルの護衛を命じられており、サウルとともにロイたちの仲間に加わる。弓の腕前は確かだが、地味な容姿のためか、自分に自信を持てないでいる。動乱後は故郷へと戻り、ひとりの女性として平穏に暮らした。



➔サウルの悪癖である女好きには、ほとほと手を焼かされた。

▲サウル

野にある聖者

エリミーヌ教団の神父。ファイアーエムブレムを持ち出したギネヴィアに接触し、そのままロイたちに同行することになる。大の女好きで、美しい女性に声をかけずにはいられない。動乱後は、エリミーヌ教団本部からの誘いを断り、市井の人々のために生きた。

黒い牙

謎に包まれた暗殺者集団

ベルンに拠点を置く暗殺者集団。民衆を助ける義賊だったが、首領ブレンダンがネルガルの下僕ソーニャを後妻にめとってからは、その気風が一変。ネルガルに実権を掌握され、彼の野望のために働く私兵と化してしまう。その結果、リキアを戦乱に巻きこみ、さらにベルンの王位継承に介入するなどの工作を各地で起こした。黒幕のネルガルがエリウッドやヘクトルたちに打倒されると、残った組織も壊滅した。



ブレンダン 【烈火】

黒い牙の首領にして創設者。ネルガルの息がかかったソーニャと結婚し、妻に組織を乗っ取られる。妻の企みに気づいたために殺害された。



ヤン 【烈火】

黒い牙の一員。ブレンダンの側近で、2人でソーニャの養女ニノの出生の秘密を探る。その後、ニノに実母の形見のペンダントを渡した。



←武勇に優れた4名には、"四牙"という称号が与えられる。彼らは、黒い牙の切り札となる存在だ。



←ネルガルは、自ら創造した人造人間「モルフ」を黒い牙に送りこみ、組織を掌握していた。その代表格がソーニャである。



【烈火】

◀ネルガル

災いを招く者

黒い牙の事実上の支配者。人の理を超えた存在で、人竜戦役から生き続けており、強力な古代魔道を使いこなす。

数百年前にアトスと出会い意気投合し、2人でナバタの里を発見。そこで竜の知識を得て、生物から「エーギル」を奪う方法を学ぶ。その後、神竜と手を結んだアトスに深手を負わされ、以来数百年間ベルンに潜伏した。

生物の"生きる力"であるエーギルを奪い、自らの力に変えることができる。効率よくエーギルを集めるべく、フェレ侯エルバートを拉致。さらに、ダウス侯ダーレンを操って、リキアに戦争を引き起こそうとする。また、膨大なエーギルを持つ竜をこの地に呼び出すために、ニニアン姉妹をつけ狙う。だが、神将器を手にしたエリウッドやアトスたちに討たれ、彼の野望は潰えた。



↑右目周辺には、アトスたちに襲われた傷跡がある。そのため、通常はターバンで隠している。

THE EREB CONTINENT

【烈火】



リムステラ

【烈火】



ネルガルの最高傑作

ネルガルの創り出したモルフ。性別は不明。ネルガルに「最高傑作」と言わしめるほどの能力を持つ。負傷したロイドやウルスラたちからエーギルを奪い、主に送り届けた。古代魔道によってさらなる強化を施され、エーギルを奪うべく、エリウッドたちの前に立ちはだかるが、返り討ちにあってしまう。

ソーニャ

主への歪んだ忠誠

ネルガルの創り出した女性型モルフ。主に絶対的な忠誠を誓い、主命に従って黒い牙を掌握すべくブレンダンの後妻となる。孤児のニノを養女としたのも、ネルガルに命じられてのこと。自分を人間だと思いこみ、他のモルフを人形と呼んで侮蔑する。最後まで、自分がモルフだとは気づかなかった。



↑彼女にとって、他者は「選ばれた人間」か「クズ」のどちらかでしかない。

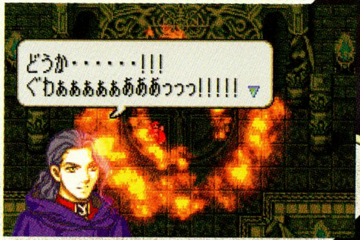
エフィデル

【烈火】



ラウス造反の扇動者

ネルガルの創り出した男性型モルフ。慇懃無礼なふるまいで他者と接する。ラウス侯ダーレンをそそのかし、リキアに戦争を引き起こそうとした実行犯。フェレ侯エルバートのエーギルを奪い、彼に致命傷を与える。不完全な状態で召喚された竜の暴走に巻きこまれ、消滅した。



↑感情を表に出すことはなかったが、死の間際には、驚愕の念と死への恐れを露わにする。

【烈火】



ラウス侯
ダーレン

エフィデルにそそのかされ、オスティアへの反乱を企てた野心家。後に正気を失い、狂気のままエリウッドたちに討たれる。

【烈火】



ラウス侯公子
エリック

ダーレンの嫡男で権力に媚びる日和見主義者。ラウス侯に就任するとベルンに降り、リキアを裏切る。最後はロイたちに討たれた。

ロイド

信念を貫き通す義の戦士

黒い牙の一員。首領ブレンダンの長男でライナスの兄。"四牙"のひとりであり、"白狼"の名で恐れられている。古参メンバーの中核的存在で、義母ソーニャをはじめとする新顔たちに不信を抱く。だが、組織の一員としてエリウッド討伐の命に背くことはできず、エリウッドらと戦って壮絶な最期を遂げる。



妹のようにかわいがってきたニノと対峙するロイド。悲壮な覚悟が見てとれる。

【烈火】



【烈火】



ライナス

「黒い牙」の暴れん坊

黒い牙の一員。首領ブレンダンの次男でロイドの弟。非常に好戦的なことから"狂犬"との異名をとる。だが、"四牙"のひとりであることからもわかるように、腕前は確か。ニノやロイドに言わせると、ヘクトルにどこか似ているらしい。組織の命でエリウッドたちと戦うが、敗北して命を落とした。

【烈火】



ウルスラ

笑顔に隠された狂気

黒い牙の一員。"四牙"の一角を占め、その風貌と酷薄な性格から"蒼鴉"とも呼ばれる。ソーニャから溺愛され、彼女もまたソーニャを妄信している。組織を裏切ったジャファルとニノを粛清しようとするが、そこに居合わせたエリウッドたちに敗北。その後、リムステラにエーギルを奪われて死亡する。



新参者のヴァイダを蔑んでおり、彼女のじゃまをするためなら敵に協力することもいとわない。



【烈火】

ジャファル

“死神”と呼ばれた男

黒い牙の一員。“四牙”のひとりで、“死神”とも称される暗殺者。戦場でネルガルに拾われ、暗殺者としての英才教育を施される。そのために感情に乏しかったが、ニノとの交流が彼を変える。ニノを守るために組織を裏切り、エリウッド一行に加わった。

if……

ネルガルとの戦いの後、ジャファルは賞金稼ぎに追われて姿を消す。ニノとの支援関係をAにすると2人は結ばれるが、ジャファルが賞金首であることは変わらず、行方不明となる。



【烈火】

THE EREB CONTINENT

ニノ

愛を切望する少女

黒い牙の一員。養母のソーニャから虐げられたために愛に飢えており、ジャファルに人を思いやる気持ちを授ける。その後ジャファルとともに黒い牙を裏切り、エリウッドたちの仲間となる。実は名門魔道一族の出身で、魔道において比類なき才の持ち主。

if……

ネルガルを倒した後に結婚してフェレ領に住み、ルゥとレイの双子を産む。夫となるのはエルクかジャファルのどちらかで、ニノとの支援関係をAにしたキャラクターと結ばれる。

ラガルト

組織を抜けて組織に尽くす

“疾風”と呼ばれた、黒い牙の脱走者。“四牙”に匹敵する力を持つが、ネルガルに掌握された組織に見切りをつけて脱退。エリウッドらに協力を求められ、彼らに助勢する。軽薄にふるまってはいるが、仲間を想う気持ちは人一倍強い。ネルガル撃破後は各地を巡り、黒い牙の残党に生きる指針を示した。



↑ロイドたち、かつての仲間がモデルとなったモルフを前にして、ラガルトの想いがこぼれる。



【烈火】

もうひとつのエレブサーガ

コミック『ファイアーエムブレム　覇者の剣』

ゲームとは異なる視点で「ベルン動乱」を描いた、『封印の剣』のアナザーストーリー。15歳でひとり旅に出たアルは、"炎の紋章（ファイアーエムブレム）"の存在を知る。仲間になったタニアの姫のティーナや重騎士ガントとともに、炎の紋章（ファイアーエムブレム）を探す旅を続けるアル。やがてベルン動乱に巻きこまれたアルは、戦いの中で、自らの血に隠された宿命を知ることになる。



ファイアーエムブレム
覇者の剣

原作：井沢ひろし
漫画：山田孝太郎
ジャンプ・コミックス（全11巻）
※絶版のため購入できません。

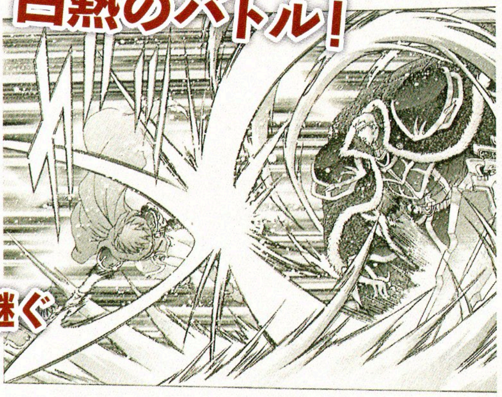
➔ベルン動乱の英雄ロイも、リキア同盟軍を率いて作中に登場する。アルとロイの夢の共闘が実現する。



⬇アルは"英雄"ハルトムートと始祖竜ミリィザの子。両者の力を受け継ぎ、「ドラゴンロード」に覚醒。







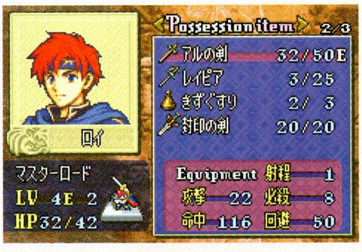
⬅⬆圧倒的な力を持つベルン軍の戦闘竜や、戦争の黒幕ゼフィールとの激闘。手に汗握る白熱のバトルを堪能してほしい。

【　本編とのコラボレーション　】

エレブ大陸の物語である『封印の剣』と『烈火の剣』には、随所に本作『覇者の剣』とのコラボレーションが見られる。

『封印の剣』では、アルたちの名を冠した武器「アルの剣」「ガントの槍」「ティーナの杖」が登場し、村人からも彼らの活躍ぶりを聞ける。また『烈火の剣』では、ワールドマップにティーナの出身地であるタニアの名を見ることができる。

©井沢ひろし・山田孝太郎／集英社
©2002 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS



⬆「アルの剣」を装備したロイ。アルの愛剣「覇者の剣」であれば、もっと強力だったのだが……。



⬆タニアはリキア同盟に属しており、キアラン領のちょうど東側に位置している。

勇者の戦い『スマブラ』 出張編

任天堂ゲームのオールスターが登場することで知られる、人気格闘ゲームの『スマッシュブラザーズ』。
『ファイアーエムブレム』の勇者たちも、このシリーズに参戦している。

マルス & ロイ

【 登場作品 】
『大乱闘スマッシュブラザーズDX』
(ニンテンドーゲームキューブ用ソフト)

2001年に発売された『大乱闘 スマッシュブラザーズDX(以下DX)』では、『暗黒竜と光の剣』からはマルス、『封印の剣』からロイが参戦した。ちなみに、『DX』が発売されたのは、『封印の剣』が発売される1年以上前。発売前のゲームのキャラクターで『スマブラ』に参戦したのは、あとにも先にもロイただ1人である。マルスとロイの2人は海外版にも登場し、人気を博したのだ。





アイク & マルス

【 登場作品 】
『大乱闘スマッシュブラザーズX』
(Wii用ソフト)

2008年発売の『大乱闘 スマッシュブラザーズX』では、マルスに加えて『蒼炎の軌跡』のアイクが参戦。破壊力満点の必殺ワザ「天空」をひっさげ、マリオたち相手に熱戦を繰り広げた。また、本作には「アシストフィギュア」と呼ばれるお助けキャラクターがおり、『烈火の剣』の主人公リンが、アシストフィギュアとして登場した。



参戦キャラクターが一堂に会する「亜空の使者」モードでは、マルスとアイクが夢の共演。



アイクの必殺技「天空」。『蒼炎の軌跡』でのスキル発動時のモーションが、そのままに再現されている。



World Guide

マギ・ヴァル大陸編

収録作品

ファイアーエムブレム

マギ・ヴァル大陸



MAGI VAL SAGA

マギ・ヴァル大陸――。
古より大陸にはびこっていた魔が滅び、
平穏が戻ってから約800年……。
人々は、古より伝承される「聖石」を守護石として、
国家を形成してきた。

そして、
いつしか魔の存在も古の戦いも忘れながら、
大陸はまどろみのような穏やかな平和を保っていた。



だが、大陸歴803年、
突如として大陸全土を巻きこむ異変が勃発する。
「聖石」を持つ国々の中でも最大の版図を誇る
グラド帝国が
皇帝ヴィガルドの命のもと、
ルネス王国に侵攻を開始。

長年の同盟国であったグラド帝国の攻撃に
内陸のルネス王国は反撃もままならず、
次々と要所を落とされていった。
この戦乱の中、
折しも王都を離れていた
ルネス王子エフラムの消息もとだえる。

勢いに乗ったグラド帝国軍の侵攻は
ついに王都まで達し、
ルネス王国は、
今まさに陥落のときを迎えようとしていた……。

◆大陸歴年表

古の時代

約800年前

・マギ・ヴァル大陸に魔王フォデスが現れ、魔物が人を襲い始める。
・英雄グラド率いる5人の勇者たち、聖石を用いて魔物と戦う。
・5人の勇者、竜人族のムルヴァと共闘し、魔王を聖石に封印する。

マギ・ヴァル大戦

801年

・グラド帝国皇子リオン、魔王の魂を封じた聖石の力を利用し、火傷を負った女の子を救う。
・リオン、聖石の力を利用して未来を予見。数年後に発生する「地揺れ」により、グラド帝国が崩壊すると判明。

802年

・グラド帝国皇帝ヴィガルド病没。リオン、聖石から魔石を生み出してヴィガルドを蘇生。だが、このとき魔王にとりつかれ、グラドの聖石を破壊。以降、他の国の聖石を破壊すべく動き出す。

803年

・グラド帝国、ルネス王国に侵攻。
・ルネス王国王子エフラム、前線にて軍を指揮していたが行方不明になる。
・グラド帝国軍、ルネス王都を制圧。ルネス王国王女エイリーク、ゼトらとともに脱出しフレリア王国へ向かう。ルネス王国国王ファードは戦死。
・グラド軍、フレリア王国ミュラン城を制圧。フレリア王国王女ターナ、グラド軍に囚われる。
・エイリーク一行、フレリア東部国境守備隊と合流し、ミュラン城を奪還。ターナを解放。
・エイリーク一行、フレリア王宮にてフレリア王国国王ヘイデンと会談。エイリーク、グラド領レンバール城付近にて交戦中のエフラムの救援に向かう。
・エイリーク一行、境街セレフィユにてナターシャ、ヨシュアと合流。ここでグラド軍が各国の聖石を破壊しようとしていることが判明。
・エフラムたち、わずかな軍勢でレンバール城を制圧。
・水城レンバールにて、ルネス古参騎士オルソンの裏切りが発覚。その後、エイリーク一行、エフラムたちと合流。
・エフラムとエイリーク、フレリア王宮に一時撤退。フレリアの聖石がグラド帝国将軍ケセルダとセライナ率いるグラド軍に破壊される。エフラム兄妹、ヘイデン、フレリア王国王子ヒーニアスらの会談により、ヒーニアスは盟約を取りかわすべくジャハナ王国に、エイリークも同じく盟約をかわすべくロストン聖教国に、そしてエフラムは帝都を制圧すべくグラド城へ進軍することになる。
・エフラム隊、フレリア・グラド国境付近のリグバルド要塞を制圧。
・エイリーク隊、海路でロストン聖教国へ向かうべくカルチノ共和国の貿易港キリスへ。キリスにてカルチノ共和国の長老パブロの命を受けた盗賊の襲撃にあうが、これを撃破。
・カルチノ共和国で内乱が勃発。パブロ、長老クリムトとヒーニアスを殺害すべく両者を襲撃。エイリーク隊、パブロを退け、クリムトとヒーニアスを救出。
・グラド将軍デュッセル、グラド領ベスロンにて反逆罪の疑いをかけられ軍から逃亡。その後エフラム隊に合流。
・エイリーク隊、カルチノ共和国との衝突を避けるべくポカラの里を経て、ジャハナ王国へ進軍。
・グラド将軍グレン、討伐の命を受けエイリークに出会うも、ヴィガルドの行動に疑念を感じエイリークを見のがす。その後、グラド将軍ヴァルターによって謀殺される。
・エイリーク隊、ハミル渓谷にてパブロの軍勢とグラド軍の挟撃にあう。ロストン軍と協力し、これを撃破。
・セライナ、ヴィガルドおよびリオンの命により、ザールブルの街で売られていた竜石を入手。
・ミルラ、失くした竜石を取り返すべくセライナと接触。エフラム隊、ザールブル湿原にてセライナとグラド軍を撃破し、竜石を奪取する。
・エフラム隊、グラド帝都へ侵攻し、ヴィガルドを撃破する。
・グラド軍、ジャハナ王宮を制圧。ジャハナ王国女王イシュメアがケセルダに殺害され、ジャハナの聖石も破壊される。ここでヨシュアがジャハナ王国の王子であることが判明。
・ジャハナ王宮近郊にてエフラム隊とエイリーク隊が合流。その後、ケセルダとヴァルターを撃破する。
・エフラム兄妹の部隊、ルネスへ帰還。オルソンを撃破しルネス城を奪還。玉座の地下でルネスの聖石を入手。
・エフラム兄妹の部隊、大河ナルーベにてフレリア王国のシレーネ隊と合流。ここでリオンと再会し、彼が魔王フォデスにとりつかれていると判明。
・エフラム兄妹の部隊、リオンを追って峰火山ネレラスへ。リオンの計略により、ルネスの聖石を破壊される。
・エフラム兄妹の部隊、ロストン聖教国にて教皇マンセルと面会。その夜、ロストン宮殿にてアーヴ率いるグラド残党の襲撃にあうものの、これを撃退。翌日、ロストンの聖石を入手。
・竜人族の長ムルヴァ、闇の樹海にてリオンと激突。敗れたムルヴァは死竜となって蘇生し、アーヴとともに魔殿護衛の任に就く。
・エフラム兄妹の部隊、闇の樹海にてアーヴとムルヴァを撃破し、魔殿へ侵入。
・エフラム兄妹の部隊、魔殿にてリオンと激突。リオン撃破後、魔王フォデスが覚醒。ロストンの聖石で魔王の魂を封じ、肉体を滅ぼす。
・大陸南部に大規模な「地揺れ」が発生し、グラド帝国が壊滅状態になる。エフラム、グラドの民の救済に向かう。

古の時代

聖石を用いて魔王を封印

およそ800年前、マギ・ヴァル大陸に魔王フォデスが出現し、魔物たちが人を襲い始めた。英雄グラド率いる5人の勇者たちは、魔物に対抗すべく聖なる武器「双聖器」を用い、マムクートと協力して魔王フォデスを「聖石」に封じる。

その後、英雄たちは大陸の各地に新たな国を興し、聖石と双聖器を各国の宝とした。

マムクート(竜人族)の協力

自らの力を竜石に閉じこめた竜人族を「マムクート」と呼ぶ。かつて英雄グラドとともに魔王を封じた彼らは、その後も闇の樹海で魔物の監視を続ける。



マギ・ヴァル大戦

THE MAGIVAL CONTINENT

グラド帝国が大陸各地に侵攻

大陸歴803年、グラド帝国がルネス王国へ侵攻。ルネス王子エフラムは行方不明となり、時をおかずルネス王都も陥落する。国王ファードは戦死するが、王女エイリークはゼト将軍とともに同盟国フレリア王国に脱出。無事に逃げのびたエイリークは、グラド領レンバール城付近で戦っていたエフラムの救援に向かう。



⬆同盟国であったグラド帝国の突然の侵攻に、ルネス王国はなすすべもなく蹂躙されてしまう。

⬇エイリーク一行は、フレリアへの逃避行の途中にミュラン城を奪回、フレリア王女ターナを救出する。



魔王フォデスの復活

魔王の魂を封じた聖石「ファイアーエムブレム」。その力で未来を予知したグラド帝国皇子リオンは、グラドが「地揺れ(大地震)」によって崩壊することを知る。国の危機を知ったリオンは、民を守るべく、魔王の力を利用しようとする。だが、リオンは魔王フォデスに憑依されてしまい、魔王にとってじゃまな聖石を破壊すべくルネスへの侵攻を開始した。



魔王に憑依されたリオン

魔王を復活させたリオンは、その力を自らの体に取りこむ。だが、これが原因で、リオンは魔王に精神をむしばまれることになる。

フレリア軍の三方面同時侵攻作戦

エフラムと合流したエイリークたちは、フレリアにて国王ヘイデンらと御前会議を開く。グラド軍がフレリアの聖石を壊したと聞いた面々は、残りの聖石を死守すべくジャハナ王国にヒーニアスを、ロストン聖教国にエイリークを使者として送ることを決定。そして、エフラムは、皇帝ヴィガルドを討つべくグラド帝国へと進軍する。



⬅グラド軍は、帝国が誇る将軍ケセルダとセライナを派遣し、フレリアの聖石を破壊する。



エイリーク隊

①カルチノの内乱

カルチノ共和国では、親グラド派の長老パブロが穏健派の長老クリムトを襲撃。ヒーニアスの危機を知ったエイリーク隊は、パブロを退けて両者を救う。その後、エイリーク隊はジャハナに向かったヒーニアスと合流する。

エフラム隊

②デュッセル造反

グラド将軍デュッセルは、港町ベスロンで反逆罪に問われて処刑されかける。だが、旧知の仲であるエフラム率いるフレリア軍に救出され、その後、変節した皇帝を救うべくエフラムに加勢する。



⬆デュッセルは皇帝に疑義を持ったために、反逆者扱いされる。

マギ・ヴァル大戦

エイリーク隊

❸グレン謀殺

ジャハナへの途上、エイリークは、ポカラの里でグラド将軍グレンと遭遇。エイリーク抹殺を命じられたグレンだが、ヴィガルドに疑念を抱いて命令を放棄。そのためにヴァルターに謀殺された。

エフラム隊

❹竜石を奪取

竜石を失ったマムクートのミルラは、竜石がグラド将軍セライナの手にあると知り、彼女のもとに向かう。だが、皇帝に忠誠を誓うセライナは説得に応じず、結局彼女を倒して竜石を奪還した。

エフラム隊

❺皇帝の打倒

グラド城へと攻めこんだエフラム隊は、なんとか皇帝ヴィガルドを撃破する。その後、リオンと再会したエフラムは、リオンこそが戦争の首謀者で、彼がヴィガルドを操っていたことを知る。

エイリーク隊／エフラム隊

❻ジャハナ攻防戦

ジャハナ王国では、グラドに内通した勢力が王宮を占拠。女王イシュメアはケセルダに殺され、聖石も壊されてしまう。エイリーク隊も、ケセルダとヴァルター率いる軍に挟撃される。窮地に陥るエイリークたちだが、エフラム隊が救援に駆けつけ、難を逃れることができた。



←女王イシュメアは、聖石を守り切れずに命を落とす。だが、最期の瞬間、最愛の息子ヨシュアとの再会を果たす。

ラーチェル一行の愉快な旅

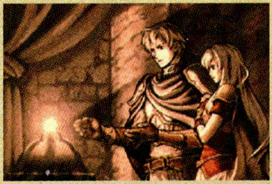
ロストン聖教国の聖王女であるラーチェルは、身分を隠し、お供のドズラとレナックのみを引きつれて魔物退治の旅に出る。その旅の途中でエイリークやエフラムたちと出会い、最終的には目的を同じくする彼らに同行する。



←行きあたりばったりのラーチェルの行動に、護衛として雇われたレナックは辟易する。

残る「聖石」を求めて

リオンの持つ魔石に対抗するには聖石が必要だと判断したエフラムたちは、故郷ルネスに戻る。城の地下室で聖石を入手するが、リオンの計略により砕かれてしまう。そこで、一行は、最後の聖石のあるロストン聖教国へ向かう。ロストンではアーヴ将軍に襲われるものの、なんとか退け、ついに聖石を確保する。



↑反逆者オルソンを倒したエフラム一行は、エフラム兄妹の持つ腕輪を使ってルネスの聖石を手に入れる。

↓ロストン聖教国の“正教皇”マンセルは、エフラムたちに快く聖石を授け、双聖器をも貸し与える。



魔王フォデスとの決戦

聖石を得た一行は、魔王の亡骸がある魔殿へ向かう。魔殿の護衛であるアーヴと死竜を撃破し、魔殿内部へ乗りこみ、激闘の末にリオンを倒す。そして、覚醒した魔王フォデスの魂を聖石に封印、さらに魔王の肉体を滅ぼすことにも成功する。これにより、魔王復活の道は完全に断たれ、戦争は終わりを迎えた。



↑魔殿を守る死竜の正体は、ミルラの親がわりだったムルヴァ。リオン(魔王)に破れ、彼の傀儡と化した。

↓エフラムたちは、聖石に魔王フォデスの魂を閉じこめることに成功。あとは魔王の肉体を滅ぼせば……。



「地揺れ」によりグラドが崩壊

魔王フォデスを封印した一行は、故郷へと帰還する。エイリークとエフラムも王都ルネスへと戻るが、そこに急報がまいこむ。大陸南部で大規模な地揺れが発生し、グラド帝国は壊滅状態になったというのだ。エフラムは、親友リオンが命をかけても守ろうとしたグラドの民を救出すべく、グラドへと向かう。



←エフラムは、リオンと初めて出会ったときのことを思い出していた。亡きリオンの想いに応えるべく、エフラムはグラド帝国へと向かう。

ルネス王国

グラドに蹂躙された内陸の王国

大陸東側の山間部に広がる国で、聖石を守護石とする国のひとつ。"勇王"ファードが治めていたが、大陸歴803年に同盟国だったグラド帝国の侵攻にあう。以後、グラドに降ったオルソンが統治するものの、領内の治安は悪化の一途をたどる。戦争終結後に王子エフラムが帰還し、新王に即位する。



エイリーク

慈愛に満ちたルネスの王女

ルネス王国の王女。ファードの娘でエフラムの双子の妹。慈愛に満ちた優しい性格の持ち主で、王女としての気品もあわせ持つ。争いを嫌うが、民を虐げるグラド軍の非道なやり方を見て、戦うことを決意する。戦争終結後、エフラムとともにルネスに戻り、王に即位した兄を支えた。

if……

エイリークは、ゼト、ヒーニアス、サレフのうち支援関係がAになったキャラクターと結ばれる。ヒーニアスに嫁ぐとフレリアに、サレフに嫁ぐとポカラの里に住まいを移す。

THE MAGIVAL CONTIN



エフラム

恐れを知らない次代の"勇王"

ルネス王国の王子。ファードの息子で、エイリークの双子の兄。勇猛で知られる父に似て、どんな相手をも恐れずに立ち向かう。歴戦の戦士をも唸らせるほどの槍の達人でもある。いっぽう、勉学は不得手で、「本は動かないので嫌い」という"迷言"を残す。戦争終結後にルネスの王に即位し、自国はもちろん、各地の復興にも尽力した。

if……

エフラムは、ターナ、ラーチェルとの支援関係がAになると、どちらかと結ばれる。ミルラとの支援会話では「お兄ちゃん」と呼ばれ、とまどうエフラムを見られる。

●マギ・ヴァル大陸のキャラクターイラストは、すべて「ファイアーエムブレム 聖魔の光石」のものです。

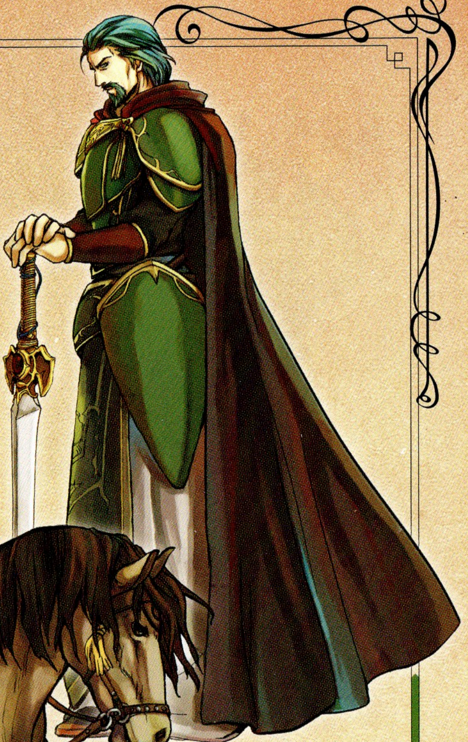
ファード

ルネスを統べる"勇王"

ルネス王国の王。勇敢で武芸に秀でたことから"勇王"と呼ばれる。年老いてからも、エフラムから「俺より長生きする」と評されるほど頑強であった。最愛の子であるエフラムとエイリークをゼトに託し、陥落間近のルネス城に残って戦死する。



↑グラドの侵攻を見ぬけなかった責任をとり、ファードは陥落間近の城に残った。



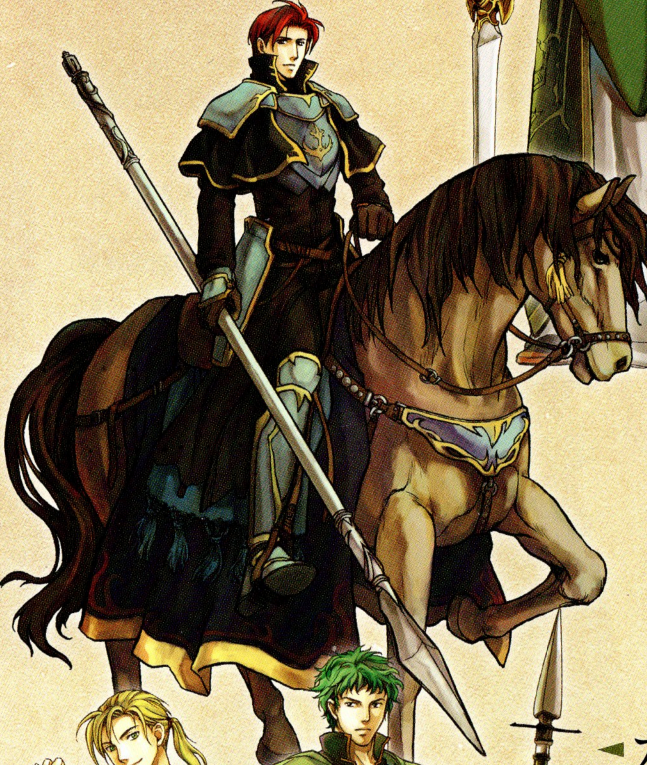
ゼト

騎士団を束ねる若き将軍

ルネス騎士団を率いる将軍のひとり。"真銀の聖騎士"とも呼ばれ、その勇名は各国に知れ渡っている。若い身ながら王から信頼されており、ルネスの聖石にまつわる重大な秘密も知っていた。戦争後も、王に即位したエフラムや王妹エイリークを支えた。

if……

ゼトは、エイリークまたはナターシャとの支援関係がAになると、エピローグで結婚する。どちらと結婚した場合も、変わらずルネスに尽くしたという。





フォルデ

自由を好む奔放な騎士

ルネス騎士団の一員。エフラム直属の騎士。明るく飄々とした性格で、戦場で絵を描いたり昼寝をしたりすることもしばしば。だが、実力は確かで、武道大会で優勝したこともある。同じ騎士団員のフランツは実弟。戦争終結後は、宮廷画家としても活躍する。

if……

フォルデは、ヴァネッサとの支援関係をAにすると、エピローグで結ばれる。彼はルネス騎士団を除隊して、ヴァネッサのいるフレリアに向かったという。

カイル

きまじめな熱血漢

ルネス騎士団の一員で、エフラム直属の騎士。とにかくまじめで、幼なじみで同僚でもあるフォルデとは、対照的な性格。とはいえ、そんなフォルデのことを認めていないかというと、そうでもないようだ。戦争後も、以前と変わらずにルネス王国を支え続ける。

if……

カイルは、ルーテもしくはシレーネとの支援関係をAにするとどちらかと結ばれる。結婚しても彼のルネスへの忠誠心は揺るがず、騎士として働き続けた。



フランツ

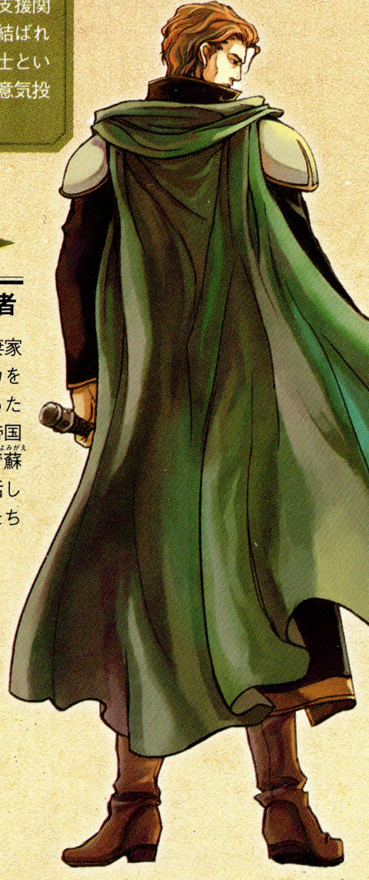
ルネス史上最年少の騎士

ルネス騎士団の一員。将軍ゼトや実兄のフォルデに憧れて騎士を目指し、最年少で騎士団の一員となる。父親もかつてはルネスの騎士であり、ゼト曰く、10年前に亡くなった父にそっくりらしい。戦争終結後も、ルネスで騎士として活躍した。

if……



フランツとアメリアの支援関係をAにすると、2人は結ばれる。新米騎士と見習い騎士という似た境遇の者同士で、意気投合したのだろうか。



オルソン

悪魔に魂を売った造反者

ルネス騎士団の一員で、愛妻家として知られている。妻モニカを病で亡くし、彼女を蘇生させるために、祖国を裏切ってグラド帝国に寝返る。その後、魔石の力で蘇った妻とともにルネス城で生活していたが、帰還したエフラムたちに敗れて命を落とした。





ロス

受け継がれし豪腕

イムの村出身の少年。父ガルシアのような戦士になることを目指しており、父とともにエイリークの仲間に加わる。戦士としては未熟だが、父やジストに稽古をつけてもらい、日々精進する。戦争が終わると、いったん故郷に戻って修行の旅に出た。

if……

ロスとアメリアの支援関係をAにすると2人は結婚する。ちなみに、ガルシアとの支援関係をAにした場合は、別の女性(詳細は不明)と結ばれる。

ガルシア

豪腕を誇る戦士

ルネス王国にあるイムの村出身の戦士。十数年前までルネス軍の部隊長を務めていたが、亡き妻や息子ロスを顧みなかったことを悔い、軍を除隊。だが、ロスに叱咤されて再び戦うことを決意する。戦争終結後、ルネス軍に復帰して再び部隊長を務めた。



コーマ

心も身体も身軽な盗賊

ルネス王国ラクの村出身の少年。手癖が悪く、エイリークの腕輪を盗んだこともある。だが、弱者を労わる優しい性格で、腕輪の騒動の後、ネイミーと2人でエイリークたちの仲間になる。戦争後にルネス軍から誘われるが固辞し、義賊として貧しい人々を支えた。

ネイミー

祖父譲りの弓の使い手

ラクの村出身の少女。極度の泣き虫で、しばしば幼なじみのコーマを困惑させる。"一本矢のゼルヴァ"と呼ばれた弓の達人を祖父に持ち、彼女自身の弓の腕前も非常に高い。戦争終結後はその手腕をかわれ、ルネス軍の弓術の指導者となった。

if……

コーマとネイミーの支援関係をAにすると、両者は結ばれて一男一女を授かる。母となったネイミーは、子どもたちに祖父譲りの弓の技術を伝えたという。

アスレイ

心清らかな聖者

ルネス王国出身の修道士で、ルーテの幼なじみ。神殿の命を受け、魔物たちを浄化していた。ザッハの古森で魔物と戦うエイリークたちに出くわし、彼女たちに同行する。純粋で心優しく、聖職者にふさわしい性格の持ち主。戦争終結後はルネス王都に移住し、たくさんの人々を勇気づけた。

if……

アスレイとルーテの支援関係をAにすると、2人は結婚して男の子を授かる。支援会話では、いつも冷静なルーテがあわてふためく様子が描かれている。

ルーテ

奇知なる魔道

ルネスにある小さな村の出身の魔道士。自称"天才"で、なにかにつけて「私、優秀ですから」とつぶやく。発言に見合う力を持っており、普段から身のまわりのものの研究にも余念がない。アスレイとともにエイリークたちの仲間となる。戦争後は故郷に戻り、"神出鬼没の大魔道士"と呼ばれた。

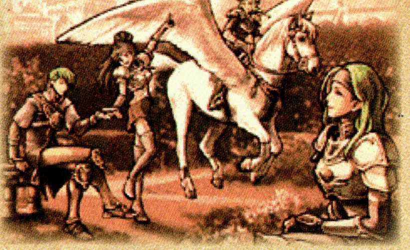
if……

ルーテは、カイルとアスレイのうち支援関係をAにしたほうと結ばれる。結婚後は子どもを出産。生まれた息子の生態観察に没頭したという……。

フレリア王国

豊かな自然に囲まれた国

大陸の北西に位置する国。守護石である聖石は、ヴェルニの塔に祭られている。豊かな自然に囲まれた風光明媚な地であり、名産品はフレリア大魚。大陸歴803年、グラド軍にヴェルニの塔を占拠されて聖石を破壊される。聖石を失った"賢王"ヘイデンは、嫡男ヒーニアスや、フレリアに身を寄せていたエフラム兄妹を大陸各地へと派遣。グラドに対して全面対決を挑む。戦争で勝利を収めたフレリアは、その後も変わらぬ繁栄を続けたという。



↑フレリア王国天馬騎士団は、女性だけで構成されている。王女ターナも天馬騎士のひとり。

ヒーニアス

策謀の王子

フレリア王国の王子。ヘイデンの嫡男でありターナの兄。弓の名手であると同時に、策略家としても知られる。口は悪いが根は優しい。カルチノの内乱に巻きこまれた際に、エイリークたちに救われ、以降彼女らと行動をともにする。戦争終結後、父の跡を継いで国王に即位した。

if……

エイリーク、ヴァネッサ、ラーチェルのうち、支援関係をAにした人物と結ばれる。エイリークは妻、ヴァネッサは愛妾となるが、ラーチェルの場合は単なる恋仲止まりに……。



ターナ

天かける王女

フレリア王国の王女。彼女の身を案じた父ヘイデンや兄ヒーニアスから外出を禁じられるが、親友のエフラム兄妹を助けるべく城を脱け出す。敵に捕まることも多く、その点では家族の心配は妥当だった。非常に気さくで、誰にでも分け隔てなく接する。戦争終結後は母国で平和に暮らした。

if……

ターナとエフラムの支援関係をAにすると、2人は結婚する。エフラムをライバル視しているヒーニアスの胸中は、複雑だったようだ。



ヘイデン

フレリアの"賢王"

フレリア王国の王。優れた政治手腕から"賢王"と呼ばれている。ルネス国王ファードは無二の親友で、その忘れ形見であるエフラム兄妹がフレリアに避難してきた際には、両者を温かく迎え入れた。ターナのことを溺愛する、親バカの一面もある。





ギリアム

フレリアの強固な壁

フレリア王国騎士団の一員で、東部国境守備隊の隊長を務める重騎士。ヘイデンの命を受け、エイリークたちに同行する。寡黙で他者を寄せつけないところがあるが、後輩の相談に乗ったり、アドバイスしたりと意外に世話好き。戦争が終わったあとも、騎士として王家に尽くした。

if……

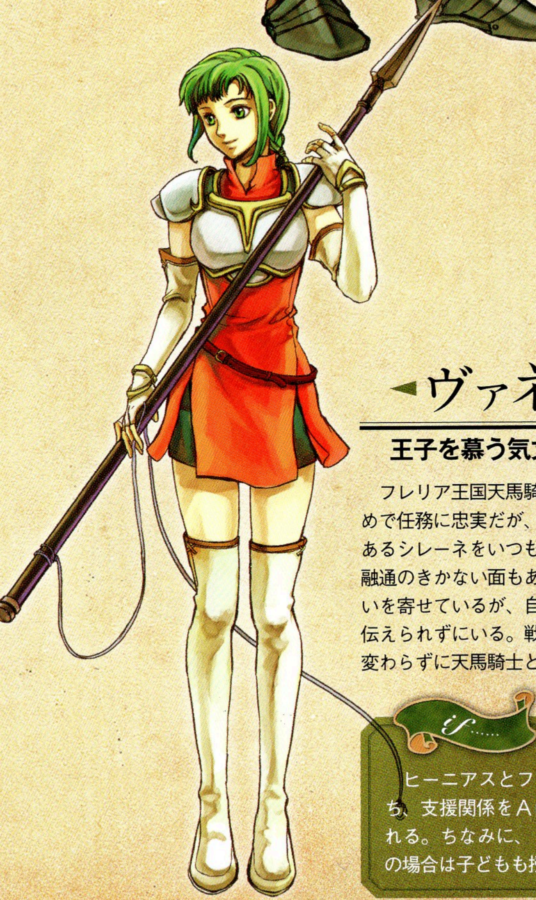
ギリアムとシレーネの支援関係をAにすると、エピローグで両者は結婚する。支援会話では、口べたなギリアムが、シレーネに対して懸命にプロポーズをする場面もある。



モルダ

心優しき神官

フレリア王国に仕える神官。国王ヘイデンのご意見番だが、王の命でエイリークたちに同行することとなる。穏やかな人柄と豊富な知識を持ち合わせ、いつも仲間のことを気にかけている。戦争終結後は、新たに国王となったヒーニアスの相談役となる。



ヴァネッサ

王子を慕う気丈な天馬騎士

フレリア王国天馬騎士団の一員。きまじめで任務に忠実だが、上司にして実姉でもあるシレーネをいつも「隊長」と呼ぶなど、融通のきかない面もある。ヒーニアスに想いを寄せているが、自分の気持ちを素直に伝えられずにいる。戦争終結後も、以前と変わらずに天馬騎士として活躍した。

if……

ヒーニアスとフォルデの2人のうち、支援関係をAにしたほうと結ばれる。ちなみに、ヒーニアスが相手の場合は子どもも授かる。



シレーネ

天馬騎士隊の頼れる隊長

フレリア王国天馬騎士団の一員で、第3部隊を率いる隊長。非常にめんどう見がよく、実妹ヴァネッサや、護衛役として仕えるターナのことを常に気にかけている。いわゆる、仲間うちの“お母さん”的な存在。戦争後は、天馬騎士団の団長に任命された。

if……

ギリアム、またはカイルとの支援関係をAにすると、その相手と結婚する。なお、カイルと結ばれた場合は、天馬騎士団を勇退することになる。

グラド帝国

「地揺れ」という天災が招いた悲劇

大陸南部一帯を領土とする大国で、魔王を封じた聖石「ファイアーエムブレム」を守護石としている。皇帝ヴィガルドが治めていたが、大陸歴802年に病没。そこで、皇子リオンは魔石を用いて父帝を蘇らせ、自らの傀儡として帝国を掌握。翌803年のルネス王国への侵攻を皮切りに、各地へ攻めこんだ。ヴィガルドやリオンがフレリア軍に倒されると、降伏を宣言。だが、その直後に大陸南部に大規模な「地揺れ」が発生し、帝国は事実上壊滅してしまう。



↑飛竜は、グラド帝国にのみ生息している。そのため、必然的に竜騎士もグラド軍にしか存在しない。

THE MAGIVAL CONTINENT



リオン

民を救うべく魔の力を欲した皇子

グラド帝国の皇子。心優しい性格であり、民衆のために聖石の力を有効活用する方法を探る。そんな中、近い将来、グラドが「地揺れ」によって崩壊することを知り、皆を救うために聖石に封じられた魔王の力を利用することを思いつく。最後は魔王に支配され、親友であるエフラム兄妹たちに討たれる。



←リオンは魔の力を得た代償として、魔王フォデスに体を乗っ取られてしまう。

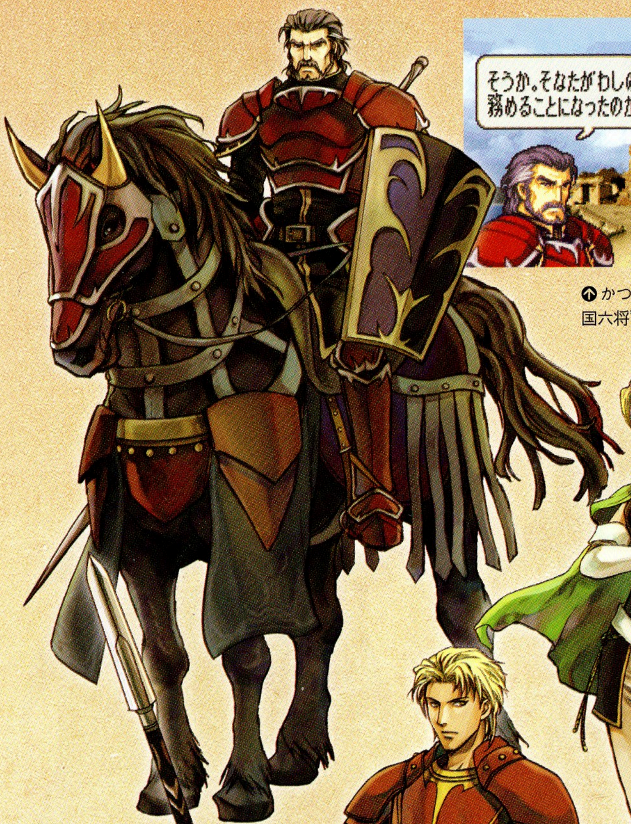
ヴィガルド

"穏健帝"と称された名君

グラド帝国を治める皇帝。温和で優しい人柄から"穏健帝"と呼ばれ、民や臣下から厚い信頼を寄せられていた。だが、大陸歴802年に病で帰らぬ人となる。それを嘆いた嫡子リオンが魔の力を使って蘇生。だが、蘇ったヴィガルドにはいっさいの感情がなく、ただリオンの命に従うだけの操り人形と化した。



↑エフラムたちに敗れると、ヴィガルドの身体は灰となって崩れ落ちる。



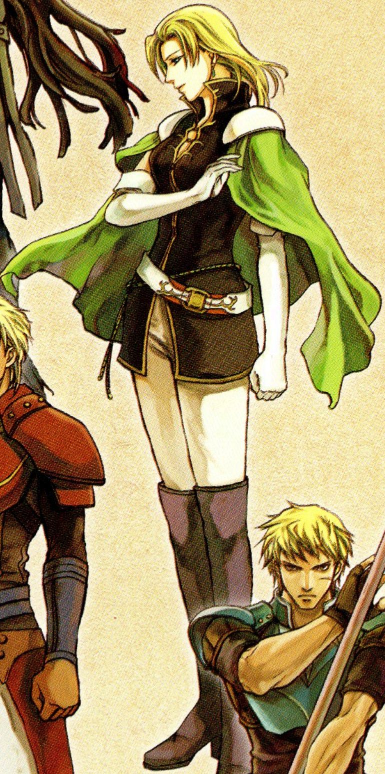


↑かつての"帝国三騎"、現在の"帝国六将"ともに筆頭格にあたる。

デュッセル

"黒曜石"と呼ばれる大将軍

グラドが誇る"帝国六将"にして、かつての"帝国三騎"。"黒曜石"という二つ名を持つ。エフラムの槍術の師でもある。反逆者の汚名をきせられ、処刑されかけたところを、エフラム率いるフレリア軍に救出される。戦後はグラドに戻り、国の復興に心血を注いだ。



セライナ

皇帝に忠誠を誓う"蛍石"

グラド"帝国六将"にして、かつての"帝国三騎"のひとり。"蛍石"の異名を持つ。皇帝ヴィガルドに、恋愛感情にも似た絶対的な忠誠を誓う。そのため、皇帝は生ける屍であると知りながら、ヴィガルドの命令を守るべくエフラムたちと戦い、主命に殉じて散った。





クーガー

母国と兄への誇りを抱いて

グラド帝国の竜騎士。副官として実兄グレンを支える。兄の敵を討つべく、敬慕するデュッセルを信じてフレリア軍に寝返る。普段は温厚だが、戦場では鬼神のような奮闘ぶりを見せる。戦争終結後は各地を流浪し、そののちグラド軍の一兵士となった。

if……

ターナとの支援関係をAにすると、戦争終結後にクーガーはフレリア王国の騎士となる。やがてターナの側近となり、彼女の厚い信頼を得たという。

グレン

無益な争いを嫌う将軍

彼もグラド"帝国六将"にして、かつての"帝国三騎"のひとり。"日長石"という二つ名を持つ竜騎士で、副官クーガーは実弟。戦いを好まず、かつて民を虐殺したヴァルターを国外追放にした。エイリーク殺害の命に従わなかったため、ヴァルターに謀殺される。



◀ケセルダ

王座を夢見る野心家

グラド“帝国六将”のひとり。戦功を上げて新たに将軍となり、“虎目石”の二つ名を授かる。かなりの野心家であり、ゆくゆくはグラド皇帝の座を狙っていたが、ジャハナ攻防戦で、エフラム兄妹率いるフレリア軍に破れて戦死する。



↑ジャハナ攻防戦において、ケセルダは傭兵時代の相棒であったヨシュアとの再会を果たす。



アーヴ▶

魔王を信奉する異端者

グラド“帝国六将”のひとり。ケセルダと同様、新たに将軍に任じられて“血碧石”の名を授かる。かつてはロストンの教えに従っていたが、“正教皇”マンセルにより破門される。その後、人間でありながら魔王に忠誠を誓い、魔物を操る力を獲得した。



▲ヴァルター

奸智に長けた戦闘狂

グラド“帝国六将”のひとり。追放されていたが、リオンに呼び戻されて将軍となり“月長石”の名を授かる。デュッセルの「魔性の槍」をかってに使った際、槍の狂気にあてられ、以来強者との戦いに喜びを覚える戦闘狂となってしまう。ジャハナ攻防戦で、フレリア軍に敗れて戦死した。

グラド帝国軍の再編

かつてグラド帝国軍は、“帝国三騎”と呼ばれたデュッセル、セライナ、グレンの三将軍が統括していた。大陸暦803年のルネス侵攻後、ケセルダ、ヴァルター、アーヴの3名が新たに将軍に任命されたことで、彼ら“帝国六将”を中心とする軍備の再編が行われることになった。

ちなみに、グラドの将軍には二つ名が与えられ、同時に皇帝から同じ名の宝石を賜ることが慣例となっている。



↑新たに将軍に任命された3名は、いずれもリオンによって抜擢されている。

ノール

リオン腹心の宮廷魔道士

グラド帝国の宮廷魔道士。リオン腹心の闇魔道士として、彼の聖石研究に協力してきた。リオンが魔石を生み出し、魔王を復活させた経緯を知る唯一の人物である。魔王に憑依されたリオンに口封じのために処刑されかけるが、エフラムたちに救出され、以降は彼らと行動をともにすることになる。戦争終結後は、亡きリオンの理想を追い求め、国の再建に尽力した。

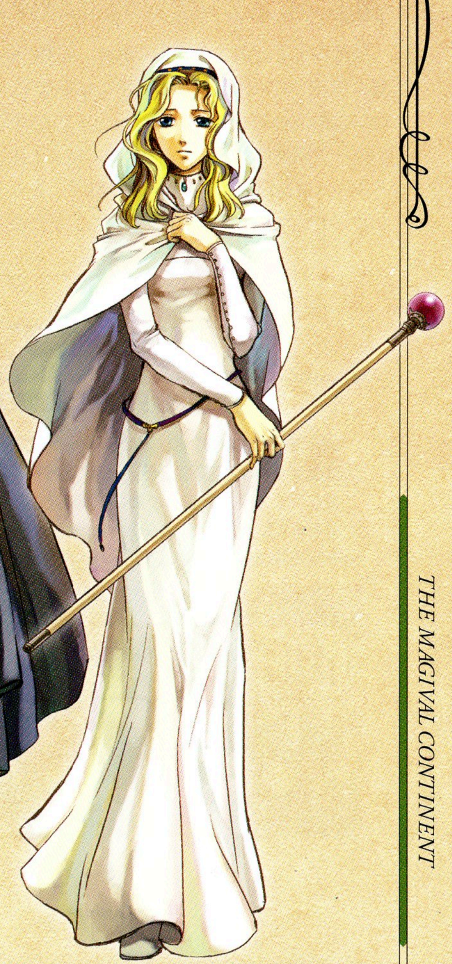


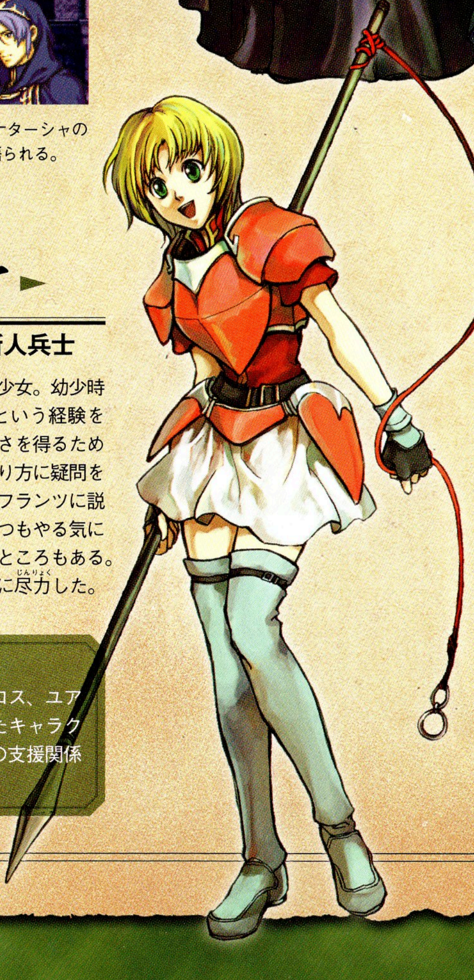


闇の力を使う闇魔道士であるために、民から疎まれきたノール。そのためかどこか内向的。



ノールとデュッセル、ノールとナターシャの支援会話でリオンと聖石の関連が語られる。





アメリア

強くなりたいと願う新人兵士

グラド帝国シルバの村出身の少女。幼少時に、母が山賊に連れ去られるという経験をした彼女は、大事な人を守る強さを得るために軍に入隊する。グラド軍のやり方に疑問を感じていた折、エフラム兄妹やフランツに説得されて彼らの側に寝返る。いつもやる気に満ちているが、少し間の抜けたところもある。戦後はグラドに戻り、国の再建に尽力した。

if……

アメリアは、フランツ、ロス、ユアンのうち支援関係をAにしたキャラクターと結婚。デュッセルとの支援関係をAにすると母と再会する。

ナターシャ

グラドから逃亡したシスター

グラド帝国出身のシスター。グラド軍が聖石を破壊しようとしていることを知り、その情報を各国に伝えようとして反逆者にされてしまう。窮地をエイリークたちに救われ、以降は仲間に加わる。その美貌と優しさ、そして癒しの力から、"戦場に現れる癒しの精"と呼ばれている。戦争終結後はグラドに戻り、国の復興に努めた。

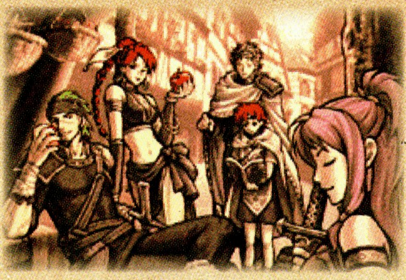
if……

ナターシャのパートナーとなるのは、ヨシュアとゼトの2人。彼らのどちらかと支援関係をAにすると、エピローグで結婚することになる。

ジャハナ王国

傭兵稼業が盛んな灼熱の国

領地の大半が広大な砂漠である、灼熱の国。聖石を守護石としている。過酷な環境のために諸産業がなかなか育たず、傭兵稼業で糊口をしのぐ者が多い。"白沙の女王"と呼ばれるイシュメアが国を治めてきたが、大陸暦803年にジャハナ軍団長カーライルがグラド帝国と通じ、クーデターを起こす。その際、イシュメアは討たれ、聖石も砕かれてしまう。戦争終結後、それまで行方不明になっていた王子ヨシュアが帰還し、新たな王となった。



↑ジャハナ王国には、数えきれないほどの傭兵団がある。こちらは、ジスト傭兵団とその協力者たち。

ヨシュア

大陸をさすらう風来の王子

「傭兵稼業と賭けごとにうつつを抜かす剣士」というのは表の顔で、正体はジャハナ王国の王子。10年ほど前に国を出奔し、立派な王となるべく、見識を養うために各地を放浪する。グラドの傭兵として雇われていたが、ナターシャとの賭けに敗れて彼女の仲間となる。戦争終結後は故郷に戻り、ジャハナの国王に即位した。



←賭けごとが大好きで、仲間とコイントスに興じる。ヨシュア曰く「自分のツキを試す」ためらしいが……。

if……

ヨシュアは、ナターシャとの支援関係をAにすると、エピローグで結婚する。ナターシャにプロポーズをするときも、やっぱり賭けで勝負をしていた。



イシュメア

ジャハナを治める"白沙の女王"

ジャハナ王国の女王でヨシュアの母。前王であった夫を亡くし、玉座に就く。彼女の美貌に魅せられたカーライルがクーデターを起こした際、グラドの将軍ケセルダに殺される。まさに"傾城傾国の美女"であった。政事のために息子のめんどうをみられなかったことを悔むが、息子に看取られながら最期のときを迎えた。



↑ジャハナの人々と「双聖器」を愛する息子のヨシュアに託して、イシュメアは息を引き取る。

ジスト

傭兵団を率いる歴戦の戦士

"砂漠の虎"の名で知られる屈強な戦士。自分の名を冠した傭兵団の隊長を務めている。常に仲間のことを気にかけており、部下からの信頼も厚い"頼れる兄貴ぶん"である。戦争終結後も傭兵として働いていたものの、依頼が殺到したために休業し、気ままな旅に出たという。

if……

テティスとマリカのいずれかと支援関係をAにした場合、エピローグでその人物と結ばれる。また、ヨシュアとの支援関係をAにすると、王となった彼の片腕として活躍する。



テティス

仲間を鼓舞する妖艶な舞

ジスト傭兵団の一員。得意の踊りで仲間を勇気づけるほか、情報収集や兵站の管理など部隊の裏方としても活躍する。幼いころ、実弟ユアンと2人で親に捨てられ、踊りを披露して生活の糧を得ていたという苦労人。戦争後も、踊り子として活躍した。

if……

かねてより隊長のジストに好意を抱いていたテティス。2人の支援関係をAにすると、エピローグで両者は晴れて結ばれて最高のパートナーとなる。

マリカ

"緋閃"と呼ばれる寡黙な剣士

ジスト傭兵団の一員。寡黙で無愛想な剣士。部隊の切りこみ隊長のような存在であり、"緋閃"と呼ばれて恐れられている。傭兵だった父に、幼少時からさまざまな訓練を課せられてきたために、剣の腕前は非常に高い。戦争終結後もジスト傭兵団で活躍した。

if……

ジストとの支援関係をAにすると、エピローグで彼と結ばれる。ヨシュアとの支援関係をAにした場合は、ジャハナ王となったヨシュアに仕えることになる。

ユアン

あどけなき魔道士

テティスの弟。賢者サレフの一番弟子であり、魔道の才能は師が認めるほど高い。とはいえ、まだまだ未熟で修行中の身。姉の所属するジスト傭兵団の面々とは顔見知りで、手伝いをすることもある。戦争後もサレフのもとで修行を続け、その後は世界を巡る旅に出た。

if……

アメリアとの支援関係をAにすると、彼女と結ばれる。また、サレフとの支援関係をAにすると、ユアンが偉大な魔道士となる様子が描かれる。

ロストン聖教国

始祖ラトナの教えを伝える国

大陸北東に位置し、開祖ラトナの教えを現在に伝える宗教国家。ラトナは、かつて魔王を封印した英雄のひとりであり、そのためロストンには魔物や魔王の伝承が数多く残されている。代々教皇が国の代表を務め、守護石である聖石を守ってきた。大陸暦803年、グラド軍のアーヴ将軍によって宮殿を襲撃されるが、フレリア軍の協力により敵を退けることに成功。その後、フレリア軍に聖石を貸し与え、魔王討伐に貢献した。



↑マンセルの姪ラーチェルは、ドズラやレナックを引き連れて魔物征伐の旅に出る。



►ラーチェル

ちょっとわがままな聖王女

ロストン聖教国の聖王女。教皇マンセルの姪にあたる。吟遊詩人のサーガに憧れ、魔物を退治する旅に出た。旅の途中でエフラム兄妹と出会い、彼らの仲間となる。自己中心的な性格であり、常にお供のドズラやレナックを振り回している。戦争後は、叔父の跡を継いで国の指導者となった。

if……

エフラムとヒーニアスのうち、支援関係をAにしたほうと結ばれる。ちなみに、ヒーニアスとの支援会話では、両者が意地の張り合いをしている姿を見ることができる。

ドズラ►

ラーチェル付きの戦士

ラーチェルの従者。幼いころから彼女に仕えており、両親を早くに亡くしたラーチェルにとっては保護者のような存在。子どもを大切にする好漢だが、難しい話は苦手。戦争後も、以前と変わらずにラーチェルの傍らに居続けた。



↑ラーチェルの保護者を自負するドズラの夢は、彼女の花嫁姿を見ること。

▲マンセル

ロストンの"正教皇"

ロストン聖教国の教皇。"正教皇"とも呼ばれている。魔物征伐の旅に出た姪のラーチェルのことを心配しており、彼女の仲間であるエフラム兄妹にも援助を惜しまない。かつて自分の部下であったアーヴを破門し、国外へと追放した。

カルチノ共和国

商業が盛んな新興共和制国家

守護石を持たない新興国家。複数の長老たちによる合議制を採用しており、豪商たちが力を握っているといわれる。大陸歴803年、グラドに共感する長老パブロたちの急進派が、主流派で親フレリア派の長老クリムトらを襲撃。内乱に発展するが、フレリア軍の活躍により鎮圧された。





長老クリムト

カルチノ共和国の長老のひとり。主流派（親フレリア派）の代表。パブロたちに命を狙われていたために、隠れていた。内乱後もフレリアとの同盟を固持した。



長老パブロ

カルチノ共和国の長老のひとり。急進派（親グラド派）の代表であり、内乱の首謀者。クリムトたちの殺害に失敗して国を追われ、フレリア軍に討たれた。

レナック ►

主に振り回される盗賊

カルチノ共和国出身の盗賊。豪商の家に生まれたために、金にはうるさい。仕事でラーチェルの護衛を引き受け、それ以降、ずっと彼女に振り回されることになる。戦争後に帰郷するものの、ラーチェルの命により、強制的にロストンに移住させられる。

ポカラの里

竜族を崇める高地の秘境

大陸の中央には、険しい山々がそびえ立つ。その山頂にほど近い場所に、ポカラの里がある。ここには、マムクートを"竜人さま"と崇める人々が生活している。里の人々は、喧騒を避けるためにできるだけ人と交わらず、自然とともに静かに生きることを望んでいる。





大婆ダラ

ポカラの里の長。サレフの祖母にあたる。古の時代、マムクートが英雄グラドたちに協力して魔王と戦ったという事実を、エイリークたちに伝えた。

if……

エイリークとの支援関係をAにすると、彼女と結ばれる。ミルラとの支援関係をAにした場合は、2人でポカラの里で暮らすこととなる。

▲サレフ

ミルラを守る若き賢者

ポカラの里出身の賢者で、大婆ダラの孫。ユアンの魔道の師匠でもある。マムクートであるミルラを守ることを使命とし、彼女のお供で旅に出る。途中ミルラとはぐれ、その後はエイリーク隊に加わる。戦争後は、ポカラの里に戻ってミルラに仕えた。

人外の者たち

伝説の竜人族と魔王フォデス

マギ・ヴァル大陸には、人間以外にもマムクート（竜人族）や魔物が生息している。マムクートは古くから人に協力的であり、魔王を封印した際にも人に力を貸した。これに対し魔物は、人に仇なす存在である。両者はともに闇の樹海をすみかとするが、魔王の復活により魔物が各地に出没するようになった。



ミルラ

幼き竜人族

幼いマムクート。少女のような姿をしているが、年齢はおよそ1200歳。人見知りをする性格で、なかなか他者とうちとけることができない。

父がわりのムルヴァと闇の樹海で生活していたが、グラドからまがまがしい気配を感じ、その正体をつきとめるべく旅に出る。その途中、従者のサレフとはぐれ、1人でいたところをエフラムと出会って行動をともにするようになる。

戦争後は闇の樹海に戻り、ボカラの里の者たちと暮らした。



↑心を通わせた敵将セライナが死んだことを知り、ミルラは戦争の悲惨さを目のあたりにする。

if......

サレフとの支援関係をAにすると、戦争後にボカラの里で暮らす。エフラムとの支援関係をAにすると、彼にルネスに誘われるが、結局闇の樹海に残ることになる。



ムルヴァ

樹海を守る竜人族の長

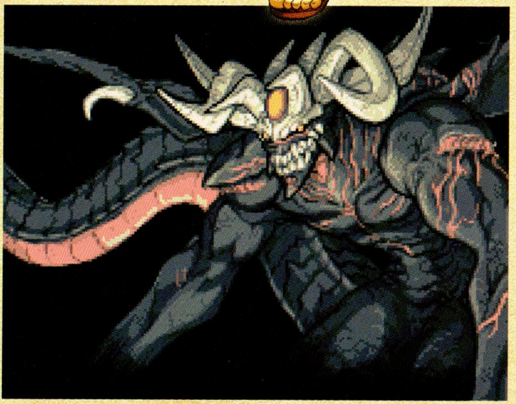
竜人族の長。かつて魔王の封印に協力した竜のひとりで、闇の樹海に出現する魔物を退治している。両親を亡くしたミルラを引き取り、彼女の養父となった。

魔王に憑依されたリオンを倒そうとするが、返り討ちにされる。その後、死竜と化し、魔王の尖兵として魔殿の警護についた。



↑死竜の正体が養父と知ったミルラは、断腸の想いで死竜を倒す。





フォデス

聖石から解き放たれた魔王

かつて大陸に現れた魔王。英雄グラドやマムクートらによって聖石に封じられる。リオンの良心を利用して彼に憑依し、完全復活を果たそうとするが、エフラムたちによって滅ぼされた。



World Guide

テリウス大陸編

収録作品

テリウス大陸



TERIUS SAGA

女神に祝福されし大地、テリウス。
そこには神に近い姿をしたベオク、
神と獣のはざまの姿をしたラグズ、
２つの種族がいた。

彼らは長い歴史の中で争いと和解を繰り返しながら、
それぞれの国を創り、生を営んできた。
そして現在、テリウスには７つの国家が割拠し、
微妙な均衡のもとで安定した時期に
入りつつあるかと思われた。
だが、人々の気づかないところで、
動乱の影は忍び寄りつつあった……。



そして、ベグニオン歴645年。
狂王アシュナード率いるデイン王国が、
隣国クリミアに向け、進軍を開始する。

◆ベグニオン歴年表

時代	年	出来事
神話・伝説の時代		・暁の女神アスタテューヌが世界を創造。
		・ベオクとラグズの先祖である「マンナズ」が誕生。
	前155年頃	・アスタテューヌの起こした大洪水により、テリウス大陸を除くすべての大陸が水没。
		・正の女神アスタルテの加護を受けたオルティナ、ソーン、デギンハンザーが負の女神ユンヌの軍勢を撃退。ユンヌをメダリオンへ封印する。
帝国成立	前131年頃	・ベグニオン王国建国。初代国王は三雄のひとり、オルティナ。
	前95年頃	・オルティナの孫ヨーラムが初代神使となる。
	元年	・ベグニオン帝国成立。ゴルドアを除く、すべての勢力を支配下におく。初代皇帝はオルティナの子孫である神使メシュア。
ベオクとラグズの対立	320年頃	・新天地を求め、ラグズが大移動を開始。
	350年頃	・ガリアに逃れた獣牙族に対し、帝国元老院が討伐隊を派遣。第一次ガリア戦役勃発。
	352年頃	・ベグニオン国内でラグズ奴隷解放運動が起こる。
	355年	・ガリア王国建国。初代国王はソウハルト。
	360年	・第二次ガリア戦役勃発。
	385年	・フェニキス王国建国。初代国王はホルス。
	390年	・元老院が分裂。カラドックを中心とするラグズ協調派が独立し、クリミア王国を建国。
	395年	・ベグニオン帝国とガリア王国の間に和平協定が結ばれる。
	400年	・クリミア・ガリア・フェニキスの三国が正式に国家として認められる。
	405年	・元老院からヘンギストを中心とする反ラグズ派が独立。デイン王国を建国する。
	410年	・デインが隣国クリミアに侵攻。第一次デイン＝クリミア戦争勃発。
	420年	・キルヴァス王国建国。
	425年	・第一次デイン＝クリミア戦争終結。ベグニオンがデイン、キルヴァスに侵攻を開始。
	428年	・キルヴァス王国降伏。
	432年	・クリミア、ベグニオンに宣戦布告。以降数十年に渡り、テリウス大陸は戦国時代に。
	470年	・セリノス王国建国。
	478年	・ゴルドアの仲介により、ベグニオンとデイン・キルヴァスとの間に和平が成立。
	595年	・ミサハがベグニオン皇帝に即位。
	624年	・ベグニオン国内でラグズ奴隷の自由を認める「奴隷解放宣言」が出される。
	625年	・神使ミサハが暗殺。これによって起こった「セリノスの虐殺」により、セリノス王国が滅亡。
	627年	・アシュナードがデイン国王に即位。
	640年	・サナキがベグニオン皇帝に即位。
デイン＝クリミア戦争	645年	・デインがクリミアに侵攻。第二次デイン＝クリミア戦争勃発。
		・グレイル傭兵団が落ちのびたクリミアの姫エリンシアを保護。姫の依頼を受け、クリミアの同盟国であるガリア王国へと向かう。
		・エリンシア姫、ガリア国王カイネギスに謁見。カイネギス、グレイル傭兵団にベグニオン帝国までの姫の護衛を依頼。
		・グレイル傭兵団、ベグニオン帝国に入国。
		・神使サナキ、エリンシア姫にクリミア再興への協力を約束。アイクが爵位を得て、クリミア再興軍の総司令官に就任。デインへの進軍を開始する。
		・クリミア再興軍、デイン王国首都ネヴァサを陥落。
		・デルブレー城にてクリミア遺臣たちと合流を果たす。
		・クリミア再興軍、アシュナードを討ち、王都メリオルを奪還。
		・エリンシアがクリミア国王に即位。
		・クリミアがデインの統治権を放棄。デインはベグニオンの統治下に置かれることになる。
ラグズ＝ベグニオン戦争	648年	・旧デイン領内で、先王アシュナードの遺児ペレアスを旗頭に解放軍が蜂起。
		・義賊集団「暁の団」がデイン解放軍に参加。
		・デイン解放軍が国内のベグニオン駐屯軍の掃討に成功。神使サナキにより、デイン再興が承認され、ペレアスが国王に即位。
		・クリミア王国でフェリーレ公ルドベックによる反乱が勃発するが、失敗に終わる。
		・ガリア・フェニキス・キルヴァスの三国がベグニオン帝国に宣戦を布告。ラグズ＝ベグニオン戦争勃発。
		・元老院により幽閉されていた神使サナキが王都より脱出し、元老院の打倒を宣言。クリミア・ガリア・フェニキスの連合軍を率い、王都に向け進軍を開始する。総司令官にはアイクが就任。
		・正の女神アスタルテ復活。人類を絶滅せんとしたが、アイクたちの活躍により阻止される。
		・ミカヤがデイン国王に即位。
		・スクリミルがガリア国王に即位。
		・フェニキス・キルヴァス・セリノスが統一。初代国王にティバーンが即位。

神話・伝説の時代

アスタルテとユンヌ　2人の女神の争い

はるか昔、暁の女神アスタテューヌは、大地と生き物を造り出した。やがて、女神が生んだ獣の中から、ベオクとラグズの祖先である「マンナズ」が生まれた。

時を経て、マンナズは争い合うようになり、その戦いはベオクとラグズに分かれたあとも続く。そのことに心を痛めたアスタテューヌは、争いを止めようとするが、暴走した力は大洪水という悲劇を引き起こしてしまう。

この悲劇の後、アスタテューヌは、正の女神アスタルテと負の女神ユンヌに分かれる。2人に分かれた女神は、人間を挟んで対立するようになり、ついには大陸全土を巻きこんで戦いを繰り広げることになる。



⬆アスタテューヌとマンナズたち。マンナズは、その後、知恵に優れた"ベオク"と獣に化身する能力を持った"ラグズ"に分かれる。



世界を襲った大洪水

アスタテューヌが起こした大洪水は世界中を飲みこみ、テリウス以外のすべての大陸を沈めてしまう。後にこの大洪水は、邪神が起こしたものとして伝えられるようになる。



女神ユンヌを倒した勇者・三雄

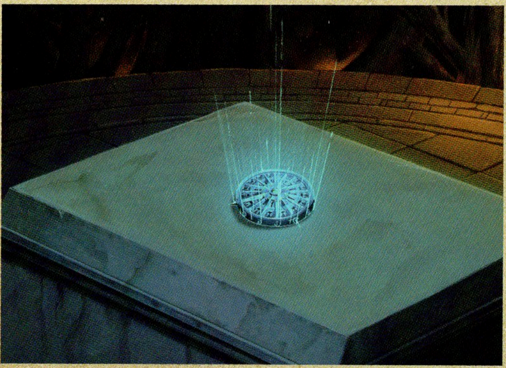
ベオクの女剣士オルティナ、獣牙族の獅子戦士ソーン、そして竜鱗族のデギンハンザー。アスタルテのもと、女神ユンヌを倒した彼ら3人は、"三雄"と呼ばれた。

女神との誓約

戦いの後、ユンヌを消滅させようとするアスタルテに対し、ユンヌを不憫に思った三雄と鷺の民のエルランは、彼女の助命を女神に願う。そして、その代償として、「千年間、大陸を巻きこむような大乱を起こさない」という誓いを立てる。アスタルテは彼らの願いを聞き入れ、ユンヌをメダリオンに封印し、千年の眠りについた。



⬅ユンヌがメダリオンに封印された後、アスタルテも導きの塔で眠りにつく。千年後の平和な世界を夢見ながら……。



蒼炎の紋章メダリオン

メダリオンは、負の気に反応して青い光を発することから、蒼炎の紋章（ファイアーエムブレム）と呼ばれる。普通の人間が持つと、メダリオンの放つ気に負けて暴走してしまう。

THE TERIUS CONTINENT

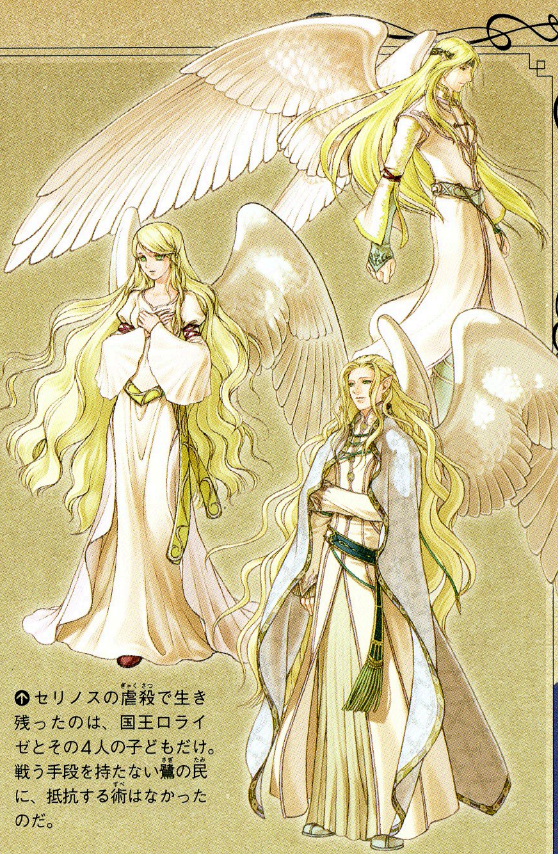
ベオクとラグズの対立

セリノスの虐殺

ベグニオン歴625年、ベグニオン帝国を震撼させる事件が起こった。皇帝でもある神使ミサハが、何者かに暗殺されたのである。暗殺直後、「神使はセリノスの鷺の民に殺された」という噂が流れ、それを信じた民衆が暴徒化。鷺の民を虐殺し、セリノス王国は一夜にして滅ぶ。この事件は、後に「セリノスの虐殺」と呼ばれるようになる。

実はミサハの暗殺は、帝国元老院の手によるものだった。ミサハが、帝国最大のタブーである「歴代神使が印付き」という事実を公表しようとしたために、神使の権威が失墜することを恐れた元老院議員のルカンが彼女を暗殺し、その罪をセリノスの民になすりつけたのだ。事件のあとセリノスの冤罪は晴れるが、真犯人は謎のままだった。

そして、この事件はひとりの男にある決断をさせる。エルランである。ミサハと多くの同胞を失ったエルランは、女神アスタルテによる人類の粛正を願い、女神復活のために行動を開始する。彼の計画、それは大陸中に大乱の種をまくことだった……。



↑セリノスの虐殺で生き残ったのは、国王ロライゼとその4人の子どもだけ。戦う手段を持たない鷺の民に、抵抗する術はなかったのだ。

悲しき宿命の子「印付き」

ベオクとラグズの間に生まれた子は、ベオクからは「印付き」と、ラグズからは「親無し」と呼ばれ、差別されてきた。見かけはベオクと変わらないが、ミカヤのように特殊な能力を持つ者もいる。ベオクに比べて年をとりにくく、正体がばれるのを恐れ、各地を転々として暮らす者も多かった。



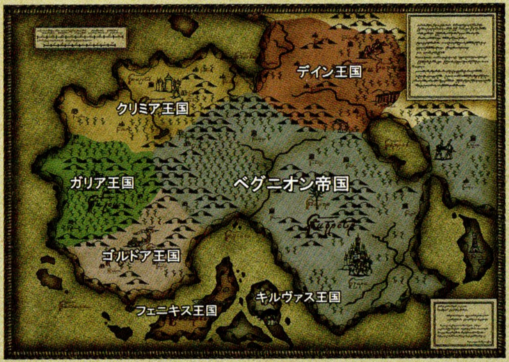
←印付きには、体に混血の証である【印】が現れる。精霊と契約した際に現れる「精霊の護符」と似ているために、間違われることもあった。

デイン＝クリミア戦争

デイン、クリミアへ侵攻

ベグニオン歴645年、アシュナード率いるデイン王国が、突如隣国クリミアへ侵攻を開始。圧倒的戦力を誇るデイン軍に対し、クリミア軍はなす術もなく、王都メリオルは陥落して国王夫妻も殺された。唯一生き残ったエリンシア姫は、わずかな兵に守られて同盟国であるガリアへと向かった。





デイン侵攻前の勢力分布図

国土としては、クリミアとデインはほとんど変わらない。ただ、クリミアが文化の発展に力を注いできたのに対し、デインは武力の向上に力を入れてきた。とくに、アシュナードの治世となってからは、その傾向が強くなっていた。

デイン＝クリミア戦争

アイクとエリンシアの出会い

デイン侵攻の報せを聞いたグレイル傭兵団の団長グレイルは、息子アイクを偵察に向かわせる。仲間とともに王都へ向かったアイクは、途中デイン軍と遭遇。そして、森の中で倒れているエリンシアを発見し、砦へと連れ帰る。

アイクたちが傭兵団と知ったエリンシアは、ガリアまでの護衛を依頼。グレイルは依頼を引き受け、一行はガリアへと向かう。



←エリンシアは、自らがクリミア国王ラモンの娘であることを明かし、グレイルにガリアまでの護衛を依頼する。

ガリアからベグニオンへ

追っ手を逃れて無事エリンシアをガリア入りさせるが、漆黒の騎士の襲撃を受け、グレイルが命を落としてしまう。

父の意志を継いで新団長となったアイクは、残った仲間とともにガリアへ向かう。ガリア国王カイネギスは、宗主国であるベグニオン帝国に、クリミア再興の後ろ盾となってもらうことを提案。アイクに、帝国までのエリンシアの護衛を依頼する。



←漆黒の騎士との戦いに敗れたグレイルはアイクにあとを託し、「ガリアで平和に暮らせ」と言い残して息を引き取る。

クリミア再興軍、立つ

帝国へ向かう途中、図らずも神使サナキを助けたアイクたちは、帝都シエネに招かれる。エリンシア、そしてアイクの人柄を認めたサナキは、帝国がクリミア再興の後ろ盾となることを約束。エリンシアによって爵位を与えられたアイクが総司令官となり、クリミア再興軍が結成される。

ガリア王カイネギス、フェニキス王ティバーンの協力を得たクリミア再興軍は破竹の勢いで進軍し、デインの王都ネヴァサを陥落させることに成功。

そして、旧王都メリオルでの最終決戦で、ついにデイン王アシュナードを倒す。大陸中に戦火を広げ、その負の気によってメダリオンの邪神（アシュナードはユンヌのことを邪神だと考えていた）を解放するという狂王の野望は、アイクたちの活躍によって潰えた。こうして、1年に及ぶデイン＝クリミア戦争は、その幕を閉じることになる。



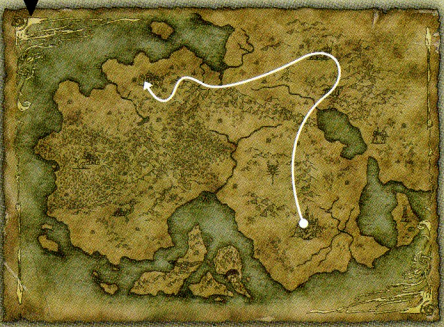


←↑再興軍の活躍を聞きつけ、各地に散らばっていたクリミアの遺臣たちもエリンシアのもとに集まる。その中には、ルキノ・ジョフレ姉弟や筆頭文官ユリシーズの姿もあった。



↑エリンシアから爵位を与えられ、将軍となったアイク。苦しい戦いを勝ちぬき、兵たちの信頼を得ていく。

クリミア再興軍・進軍ルート



ラグズ＝ベグニオン戦争

狂王の遺児現る

戦勝国となったクリミアは、デインの統治権を放棄。デインは帝国の統治下に置かれる。そして、戦争終結から3年、圧政を敷く帝国駐屯軍に対する民衆の不満が高まり、解放軍が蜂起。アシュナードの遺児ペレアス率いる解放軍は、副大将の"暁の巫女"ミカヤのカリスマ性もあって、国内の駐屯軍を一掃することに成功。神使サナキの承認を受けて王国再興を果たす。



解放軍の参謀イズカは、ミカヤを仲間に引き入れ、その名声を利用しようと企む。ミカヤはそんなイズカの思惑を知りつつも、デインのために解放軍に入る決意をする。

ルドベック公の反乱

いっぽう、再興を遂げたクリミアも、平和な時代は長くは続かない。有力貴族であるフェリーレ公ルドベックが、エリンシアに対して反乱を起こしたのだ。

自分こそが王位にふさわしいと信じるルドベックは、エリンシアに不満を抱く貴族を味方につけ、女王の退陣を要求。だが、この反乱は、王宮騎士団とグレイル傭兵団の活躍により、あえなく失敗に終わる。

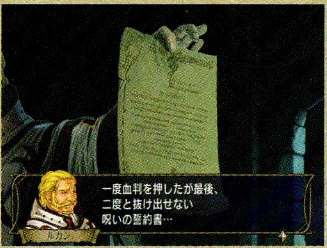


ルキノを人質にとり、自分に王位を譲るように迫るルドベック。だが、エリンシアは、彼の要求を断って王としての覚悟を示す。

ラグズ＝ベグニオン戦争勃発

帰還したラフィエルの口から、「セリノスの虐殺」の黒幕が帝国元老院であることを知ったガリア、フェニキス、キルヴァスの三国は、元老院に対して事件の詳細に関する説明を要求。だが、元老院は三国からの使者を切り捨ててしまう。これに怒った三国は、ラグズ連合を組んで帝国に対して宣戦を布告。すぐさま、帝国に向けて進軍を開始する。その中には、アイク率いるグレイル傭兵団の姿もあった。

元老院はゼルギウスを総司令官に据え、徹底抗戦に出る。さらに、復興したばかりのデインに、ラグズ連合と戦うことを命じる。こうして、大陸全土を巻きこむ大乱の幕が上がった……。



「血の誓約」を盾に、ペレアスに服従を迫るルカン。国民の命を人質にとられたペレアスは、ラグズ討伐をミカヤに命じるのだった。

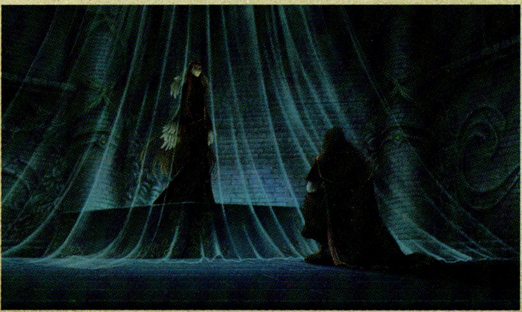


元老院は混乱に乗じ、神使サナキと宰相セフェランを幽閉して帝国を掌握。だが、脱出したサナキはラグズ連合と合流。これにより、サナキを支持するクリミアも戦いに加わり、戦火はさらに拡大することになる。

女神アスタルテの復活

ラグズ連合と帝国の戦いによって大陸に負の気が満ち、ついにメダリオンに封じられていた女神ユンヌが目覚めてしまう。そして、時を同じくして目覚めた女神アスタルテは、誓約が破られたことを知り、人間に対して裁きを下すことを決める。

女神の裁きを止めるために、アイクたちは、ユンヌとともにアスタルテの待つ導きの塔へと向かう。そして、激しい戦いの末、アスタルテを倒すことに成功。人間は、消滅の危機を免れたのであった。



復活したアスタルテに、三雄が立てた誓約が破られたことを報告するエルラン。彼の話を聞いたアスタルテは、全人類の抹殺を決断する。

グレイル傭兵団

英雄を生んだ傭兵団

グレイルが、デインを抜けた後に創設した傭兵団。グレイルの死後は、その息子であるアイクが団長を引き継ぐ。人助けを重んじ、わずかな報酬で働くことも少なくない。落ちのびたエリンシアを偶然助けたことから、デイン軍に追われる。その後はクリミア再興軍の中核となり、デイン打倒に力を貸す。



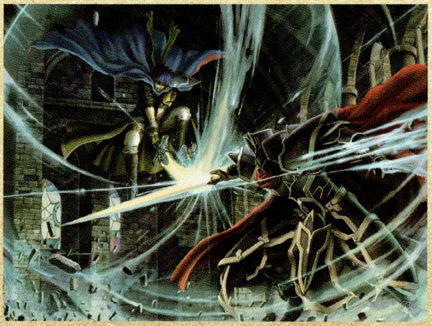
【蒼炎】



【暁】



↑アイクは亡き父の墓前で団長となり、団を守ることを誓う。これが“蒼炎の勇者”の伝説の始まりであった。



↑父グレイルの命を奪った漆黒の騎士。この男との戦いが、アイクを戦士として大きく成長させる。



↑女神ユンヌの力を借りたアイクは、アスタルテを倒して世界を危機から救う。

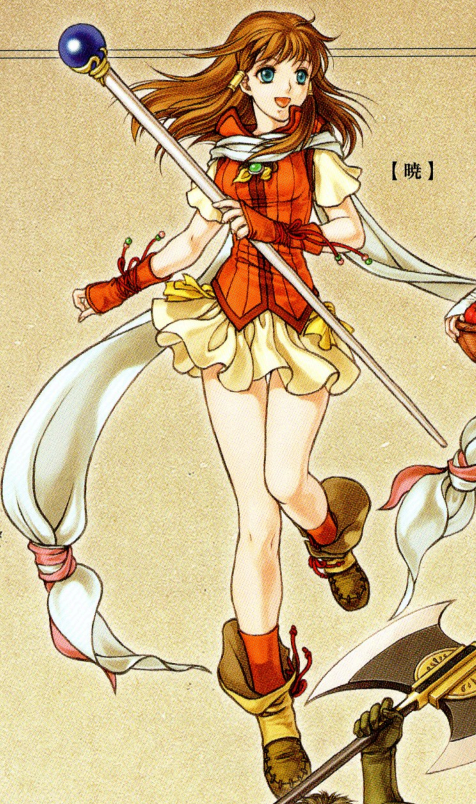
アイク

そして少年は蒼炎の勇者へ

以前はグレイル傭兵団の一傭兵だったが、グレイル亡き後、父の跡を継いで新団長となる。無愛想で口数は少ないが、熱血漢であるために、思ったことを口にせずにはいられない。だが、それこそがアイクの最大の魅力であり、種族の壁を超えて多くの仲間が集まるのも、この性格ゆえである。

クリミア再興軍の総司令官を務めるにあたり、エリンシアから爵位を授けられる。しかし、貴族暮らしが性に合わなかったのか、クリミア復興後に爵位を返上し、再び傭兵家業に戻る。

父の敵である漆黒の騎士は、アイクにとって敵であると同時に目標でもあった。彼との出会いがなければ、アイクが“蒼炎の勇者”と呼ばれるまでに成長することはなかっただろう。



【暁】



【蒼炎】

ミスト

紋章(メダリオン)の守り手

アイクの妹。傭兵団では団員の身のまわりの世話などをしていたが、父グレイルの死後、杖使いとして自らも戦場に出るようになる。母の形見であるメダリオンを、肌身離さず持ち歩いている。

母エルナの血によるものか、生来正の気が強い。そのため、メダリオンを身につけていても、負の気に負けて暴走することはなかった。

if……

ボーレとの支援関係をAにすると、エピローグでボーレと結ばれる。結婚式では大泣きし、アイクを困らせたとか……。



THE TERIUS CONTINENT

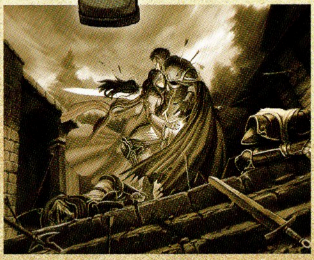


【蒼炎】



【蒼炎】

↓メダリオンの負の気に負けて暴走したグレイルは、愛する妻をその手にかけてしまう。



グレイル

傭兵団の創設者

グレイル傭兵団の創始者で本名はガウェイン。もとはデイン王国の軍人だったが、メダリオンをアシュナードの手から守るために、妻エルナとともにデインを去り、一介の傭兵となる。

一度メダリオンの力に負けて暴走したことがあり、その後悔から自らの利き腕を傷つけて力を封じ、二度と剣を持たないことを己に誓った。

エルナ

凶刃に倒れた母

グレイルの妻で、アイクたち兄妹の母親。バルメニー神殿の神官を務めていた折、さらわれてきた鷺の民の王女リーリアの世話係を任され、メダリオンと「解放」の呪歌を託される。暴走したグレイルを止めるために、その身を投げ出して命を落とした。

【暁】



【蒼炎】



セネリオ

傭兵団の若き参謀

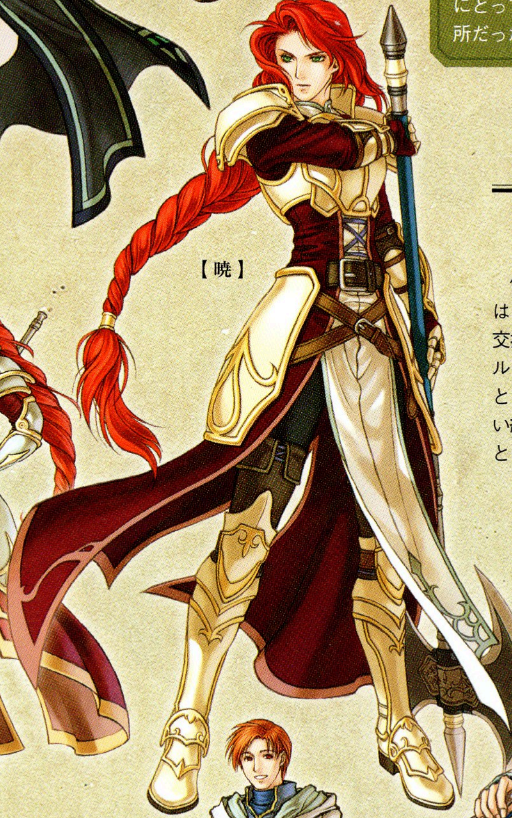
傭兵団の参謀で、その知略は一国の軍師にも引けをとらない。アイクに対する絶対の忠誠を誓っており、彼以外に本心を見せることはない。

実は、デイン国王アシュナードとその寵姫アムリタ（竜鱗族）の息子なのだが、セネリオ本人は、そのことを知らない。

if……

アイクとの支援関係をAにすると、エピローグでアイクと2人で旅に出る。セネリオにとっては、アイクのそばこそが自分の居場所だったということか。

【暁】



【蒼炎】



ティアマト

グレイルの片腕にして頼れる副長

傭兵団の副長で団員の信頼も厚い。もとはクリミア王宮騎士団に所属していたが、交換武官として派遣されたガリアでグレイルと出会い、騎士団を除隊。傭兵団の一員となる。ひとりの女性としてグレイルを想い続けるが、彼女がその想いを口にすることは決してなかった。

【暁】



【蒼炎】



キルロイ

心優しき杖使い

癒しの杖の使い手。幼いころから身体が弱く、傭兵の叔父に憧れていた。山賊との戦いで傷を負ったティアマトを治療したのが縁で、グレイル傭兵団に入団。

温厚な性格で、血を見るのは苦手。女神アスタルテとの戦いが終わると、砦のかたすみに建てた教会で子どもたちを教えた。

オスカー

穏やかな長兄

ボーレとヨファの兄。クリミア王宮騎士団に所属していたが、父の死後、まだ幼かった弟たちのめんどうを見るために騎士団を除隊。グレイル傭兵団の一員として働きながら、弟たちを育てた。

女神アスタルテとの戦いの後、エリンシアの要請によって王宮騎士団に復帰した。



←弟の食事を作っていたためか、オスカーの料理はなかなかのもの。腕前は、ラグズたちも認めるほどだ。

【蒼炎】



【暁】



ボーレ

陽気な次兄

オスカーの弟でヨファの兄。歳が近いせいかアイクとは気が合うらしく、よく軽口を叩き合っている。考える前に行動するタイプで、ヨファから「筋肉バカ」呼ばわりされることもある。

ミストとはお互いに憎からず思っているが、つきあうまでには至っていないようだ。

【蒼炎】



【暁】



ヨファ

けなげな末弟

オスカーとボーレの弟。2人とは母親が異なるが、オスカーたちのことを兄として慕う。母親が会いにきた際は、母と暮らすことより、兄たちと一緒に戦うことを選んだ。

シノンの弟子で、彼から密かに弓と弓作りを学んでおり、その腕前はなかなかのもの。

【暁】



【蒼炎】





↑ヨファの母親。オスカーたちの父が死ぬと、ヨファを捨てて家を出た。

シノン

ニヒルな狙撃手

弓の名手でかなりの自信家。ヨファの弓の師匠でもある。グレイルを尊敬しており、彼の死後、アイクがグレイルの跡を継ぐことに納得できずに団を抜ける。その後、トレガレン長城戦でデイン軍に与してグレイル傭兵団と戦うが、アイクの説得に応じて再び団に戻った。





ガトリー

傭兵団一恋多き男

シノンのことを慕っており、いつもつるんでいる。一度はシノンとともに団を抜けるが、その後復帰。とにかく女性に惚れっぽく、女性の詐欺師に有り金をだまし取られたこともある。ちなみに、恋愛対象としてはラグズであってもかまわないらしい。



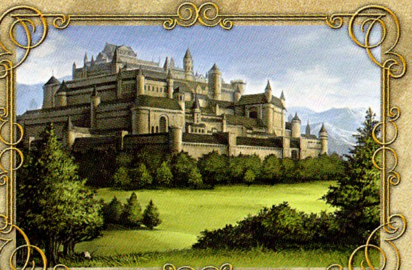
ワユ

目指すは最強剣士！

デインの捕虜収容所に送られそうになったところを、グレイルに助けられて傭兵団の一員となる。強くなることに貪欲で、強そうな相手を見つけると、誰彼かまわず稽古を申しこむ。女神との戦いが終わると、まだ見ぬ強敵を求めて修行の旅に出た。

THE TERIUS CONTINENT

クリミア王国



親ラグズを掲げる王国

武よりも文の発展を目指して栄えた国。親ラグズを掲げ、ラグズ国家であるガリアとも同盟を結ぶ。645年に隣国デインの奇襲を受け、王都メリオルが陥落。国王ラモンをはじめとする王族も、殺されてしまう。その後、ラモンの遺児であるエリンシア姫がデイン王アシュナードを討ち、王国の再興を果たす。

エリンシア

亡国の姫君

クリミア国王ラモンの娘。次期国王にレニングが決定したあとに生まれたので、その存在は公にはされなかった。城から脱出したところをアイクたちに保護され、彼らとともにガリアへ亡命。その後、王族の生き残りとして再興軍を結成。王国再興後は、ラモンの跡を継いで国王に即位した。

優しい心の持ち主で、争いごとを避ける傾向が強く、そこをルドベックにつけこまれた。だが、ルドベックの申し出を断ったことにより、彼女は王としての強さを手に入れることができた。



↑デインとの決戦では、亡き祖母の戦装束を身にまとって戦いに臨んだ。



↑親友の命と国の命運。苦渋の選択を強いられた彼女が選んだものは……。

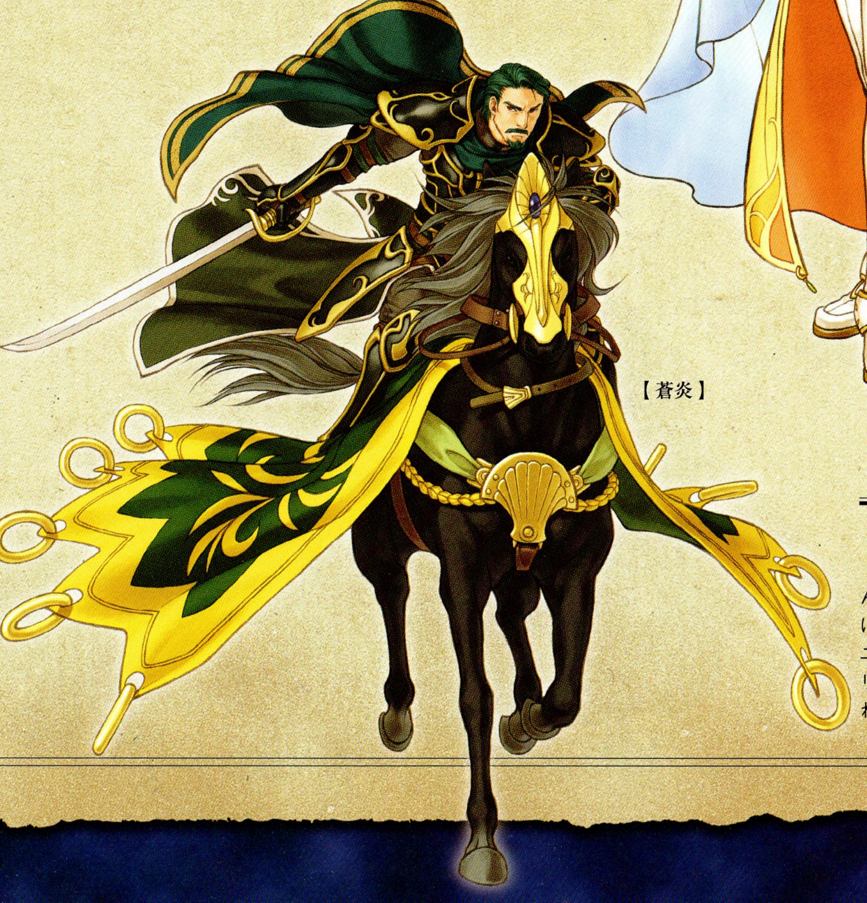
【蒼炎】

【暁】



THE TERIUS CONTINENT

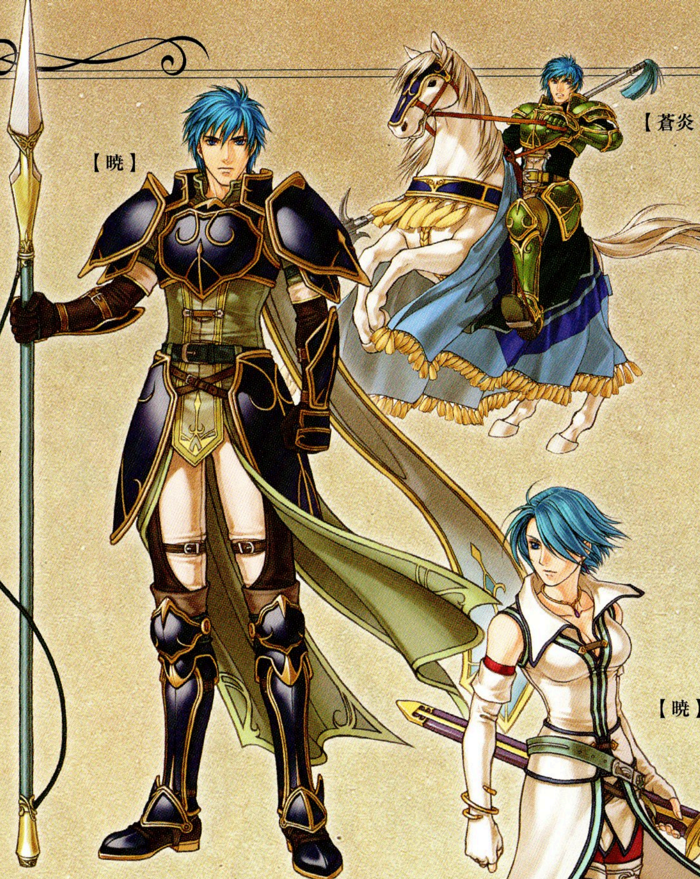
【蒼炎】



レニング

クリミアの王弟

先王ラモンの弟。メリオル陥落の際に死んだと思われていたが、密かにデイン本国に連れ去られ、薬による洗脳を受けていた。ユリシーズによって救出されたレニングは、リュシオンの呪歌によって洗脳から解放され、自分を取り戻すことができた。



◀ジョフレ

女王の忠実なる剣

クリミア王宮騎士団所属の騎士で、エリンシアの乳兄弟。他の遺臣とともにデインへの抵抗活動を続けていたが、エリンシアと再会して再興軍に参加。クリミア再興後は、エリンシアに任せられて将軍となる。エリンシアをひとりの女性として愛しているが、その想いを口に出せずにいる。

if……

エリンシアとの支援関係をAにすると、エピローグでエリンシアと結ばれる。余談だが、エリンシアがジョフレの思い人であることは、周囲には知られていたようだ……。



ルキノ▶

エリンシアのよき理解者

ジョフレの姉。弟とともにクリミア再興軍に参加し、再興後はエリンシアの護衛隊長に任せられる。剣だけでなく、策士としての才能もある。

乳兄弟のエリンシアのことをなにより大切に思っており、フェリーレ公に捕まったときは、彼女のために自らの命を投げ出そうとした。

if……

ユリシーズとの支援関係をAにすると、エピローグで彼との仲が続いていることが判明する。ただし、結婚するまでには至っていないらしい。



ユリシーズ▶

クリミアーの策士

デイン侵攻以前は、王弟レニングの筆頭文官を務める。ルキノ、ジョフレの姉弟とともにクリミア再興軍に参加。復興後は宰相となってエリンシアを補佐。知略に優れ、「クリミアーの策士」として広く知られている。他人に本心をさとらせないためか、常に道化のような話し方をする。

ケビン

オスカーの永遠のライバル

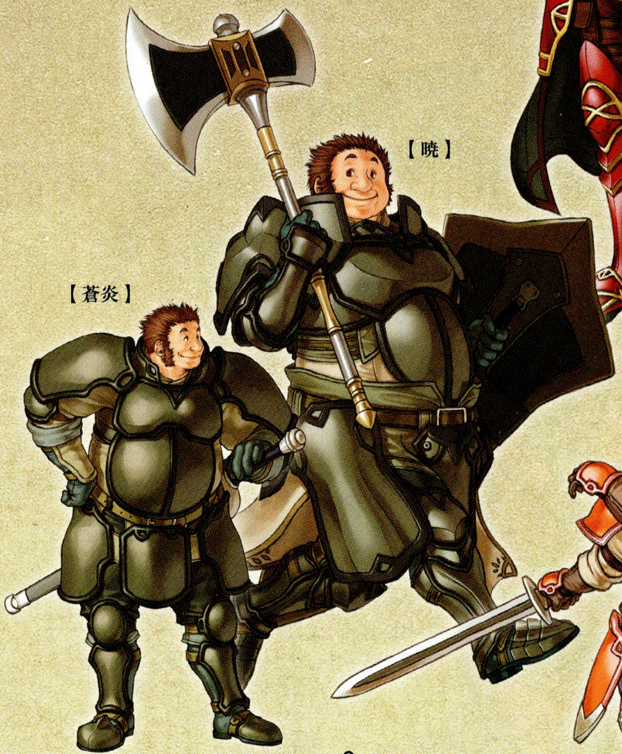
クリミア王宮騎士団に所属の騎士で、うっとうしいほどの熱血漢。カントゥス城で捕まっていたところをアイクたちに助けられ、行動をともにするようになる。クリミア再興後は、王宮騎士団副団長を任される。以前からオスカーのことをライバル視しており、再会後もなにかと張り合う。



【暁】



【蒼炎】

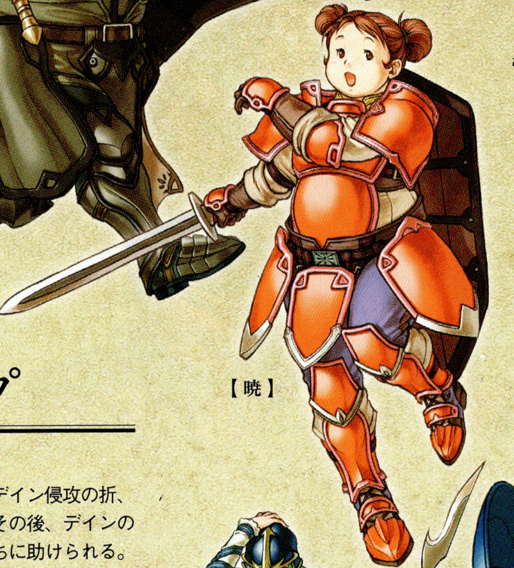


【蒼炎】 【暁】

メグ

婿探しの旅へ

チャップの娘。父の「ツイハークという男に娘をやる約束をした」という言葉を真に受け、婿探しの旅に出る（ちなみに、この約束はツイハークのあずかり知らぬこと）。旅の途中でミカヤたちと出会い、暁の団に加わる。女神との戦いが終わると、故郷に戻って平凡な結婚をした。



【暁】

チャップ

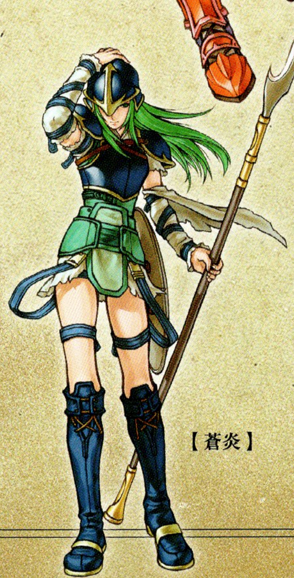
最強の農夫

クリミアの田舎に住む農夫。デイン侵攻の折、民兵としてクリミア軍に参加。その後、デインの捕虜となったところをアイクたちに助けられる。クリミア再興後は故郷のオマ村に戻っていたが、フェリーレ公が反乱を企んでいることを知り、再びエリンシアのもとへ馳せ参じる。

ネフェニー

純朴な戦乙女

チャップと同様にオマ村出身の民兵。チャップとともにアイクたちに助けられ、仲間に加わる。クリミア再興後はオマ村に戻っていたが、フェリーレ公の反乱を阻止するために再び槍を取る。以前はなまりを気にして無口になりがちだったが、カリルのおかげで普通に話せるようになった。



【蒼炎】



【暁】

【暁】



【蒼炎】



マーシャ

兄思いの天馬騎士

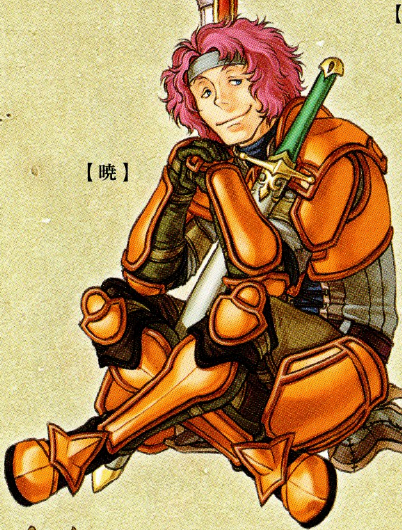
もとはベグニオン天馬騎士団所属の天馬騎士。兄マカロフの借金取りが営舎にまで押しかけるようになり、いづらくなって除隊。兄を捜す旅に出る。クリミア再興後は、エリンシアのすすめでクリミア王宮騎士団に入隊する。お人好しでだまされやすいが、兄の嘘だけはずばりと見ぬく。



【蒼炎】

THE TERIUS CONTINENT

【暁】

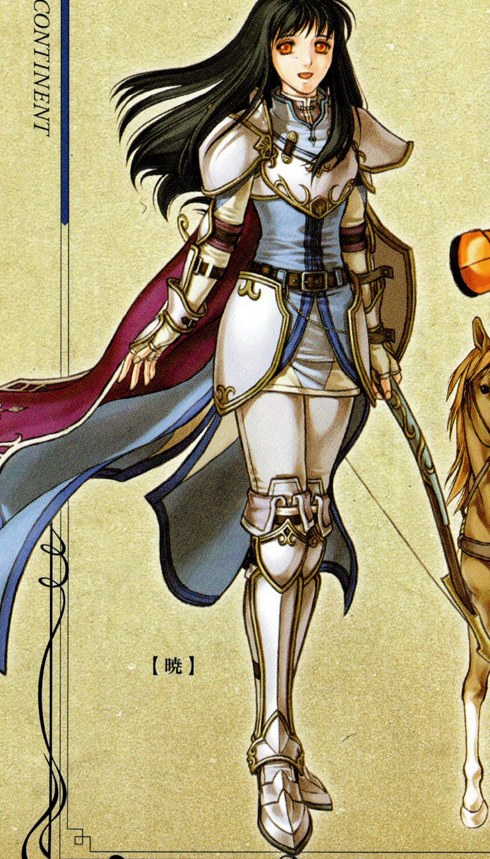


マカロフ

ギャンブル好きのダメ兄貴

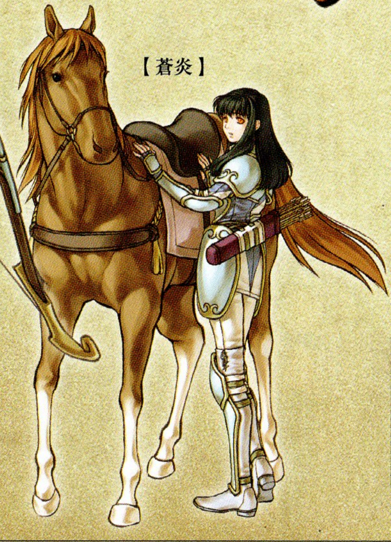
マーシャの兄。ギャンブルがらみの借金が原因でベグニオンを逃亡。その後あちこちを転々としていたが、マーシャに見つかり、グレイル傭兵団で働くことになる。

クリミア再興後は、クリミア王宮騎士団の一員となる。だが、ギャンブル好きとぐうたらな性格が直ることはなかった。



【暁】

【蒼炎】



ステラ

世間知らずのお嬢様

ベグニオンの貴族、ディアメル伯爵家の令嬢。親が決めたルカンとの結婚を拒んで、騎士団に志願。その後アイクと出会い、グレイル傭兵団の一員となる。お嬢様育ちで男性に免疫がなく、マカロフに一目惚れしてしまう。クリミア再興後は、マカロフを追って王宮騎士団に入隊する。

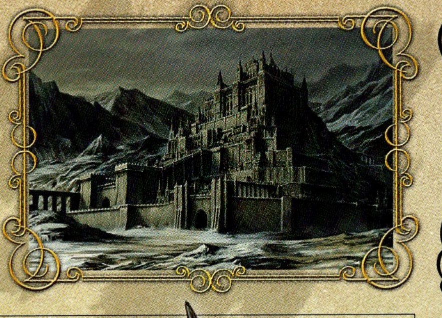
if……

マカロフとの支援関係をAにすると、エピローグでマカロフと結婚する。周囲は反対したらしいが、相手がマカロフとなればそれも当然か……。

デイン王国

狂王が支配する反ラグズ国家

ラグズ強硬派が建国した国家で、反ラグズ志向が強い。645年に隣国クリミアに侵攻。だが、この戦いはデインの敗北に終わり、その後クリミアが支配権を放棄したことで、ベグニオン帝国の統治下に置かれる。648年、先王アシュナードの遺児ペレアスが蜂起。駐屯軍との戦いの末に独立を勝ち取った。





←アシュナードにとって興味があるのは、世界の変革のみ。彼にとっては、己の国の運命さえどうでもよいことだったのだ。



【蒼炎】

アシュナード

邪神復活をもくろんだ狂王

“狂王”の異名を持つ、デイン第13代国王。武芸に秀で、「デインに猛将あり。アシュナードの前では聖騎士一兵団でも霞む」といわれた。力による支配を好み、「弱者は滅び強者は生き残る」が信条。

力がすべてとなる世界を実現させるために、大陸に大乱を巻き起こし、その負の気により、メダリオンに封じられた邪神を解放しようと企んだ。

父王殺しの真相

王位から遠い位置にいたアシュナードが国王になれたのは、父王と他の王位継承者が次々と流行病に倒れたためとされているが、真相はそうではない。

アシュナードは父王をだまして旅の賢者と「血の誓約」を結ばせ、その呪いによって他の王位継承者の命を奪う。そして、最後に父王を殺して王位に就いたのである。



漆黒の騎士▶

デイン最強の剣士

アシュナードの配下で、“四駿”のひとり。常に漆黒の鎧を身につけ、人前に素顔をさらすことはない。正体はベグニオンの騎士ゼルギウス。

メダリオン奪取のために、グレイルと戦ってその命を奪う。ナドゥス城でアイクに倒されて死んだと思われていたが、クリミア＝デイン戦争から３年後、再びその姿を現した。

武器は２本の神剣、ラグネルとエタルド。鎧も女神の祝福を受けており、神剣以外の攻撃を受けつけない。



↑かつての力を封じたグレイルでは、漆黒の騎士にはかなわない。



↑ナドゥス城で倒されたのは、彼の精神を移した鎧だったのだ。



【蒼炎】

ベウフォレス▶

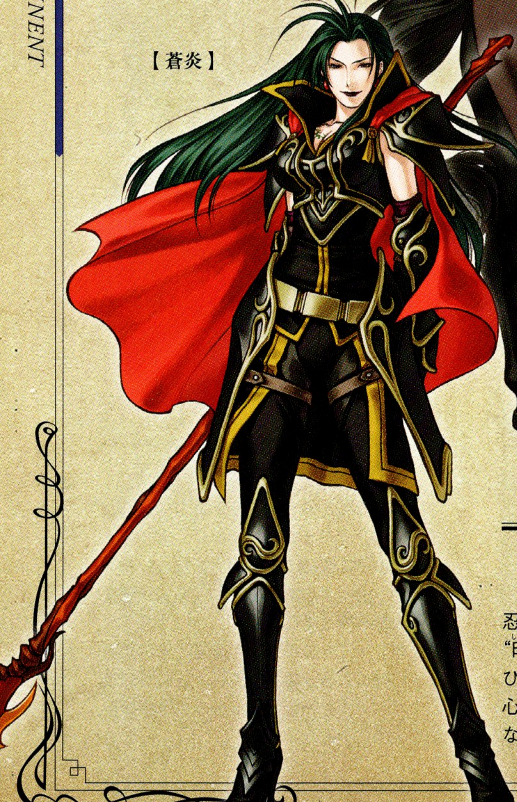
仮面の死に神

デインの将軍で四駿のひとり。幽鬼のような雰囲気を漂わせており、兵士からは“古代の亡霊”あるいは“異界の魔物”と呼ばれ、恐れられている。

その正体は、死んだと思われていたクリミアの王弟レニング。イズカの作った薬で精神を破壊され、ベウフォレスという偽の人格を植えつけられていた。



【蒼炎】



【蒼炎】

◀プラハ

冷酷な女将軍

四駿の中で唯一の女将軍。その性格は残忍冷酷で、部下に対しても容赦がない。また、“印付き”として生まれたために、ラグズをひどく憎んでいる。彼女がアシュナードに心酔していたのは、彼が印付きでも差別しない主だったからかもしれない。



【蒼炎】

▲ブライス

四駿のひとり。アシュナードの父王の時代から王家に仕える。アシュナードの言動に疑問を抱きつつ、最後まで忠義を尽くした。

ペレアス

狂王の遺児

市井で暮らしていたところを、イズカに見出されてデイン解放軍の旗頭となる。ベグニオン駐屯軍の討伐に成功し、父アシュナードの跡を継いでデイン第14代国王に即位するが、ルカンにだまされて「血の誓約」を結ぶ。最後は、誓約を破棄してデインを救うためにその命を捧げた。

if……



特定の条件を満たしペレアスが生き残ると、彼がアシュナードの息子ではなかったことが判明する。



【暁】

アムリタ

悲劇の王妃

アシュナードの寵姫。黒竜王デギンハンザーの娘で、竜鱗族の掟を嫌って国を飛び出した。その後アシュナードと出会い、子をもうける。だが、その際に竜鱗族としての力を失い、生まれた子どもとも引き離されて精神を病んでしまう。

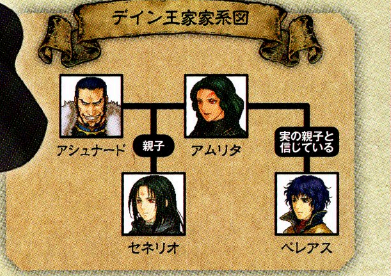


【暁】

イズカ

狂気の天才

アシュナードの下でラグズを生体兵器に変える研究をしていたが、敗戦間際に逃走。その後、ルカンの命を受け、デインに元老院の傀儡政権を立てるためにペレアスを担ぎ出し、デイン解放軍を組織する。



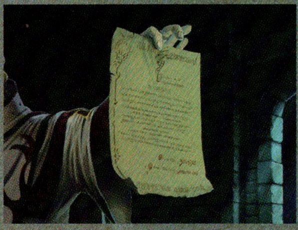
【暁】



「血の誓約」とは？

「血の誓約」とは、相手を縛る一種の呪いである。相手の意に添わない行動をとると、誓約を結んだ人間の周囲の人々が次々と死ぬ。

元老院は、この誓約を、他国を支配するために利用してきたのだ。キルヴァスが元老院に逆らえなかったのも、昔キルヴァスの王が元老院とこの誓約を結んでしまったためである。

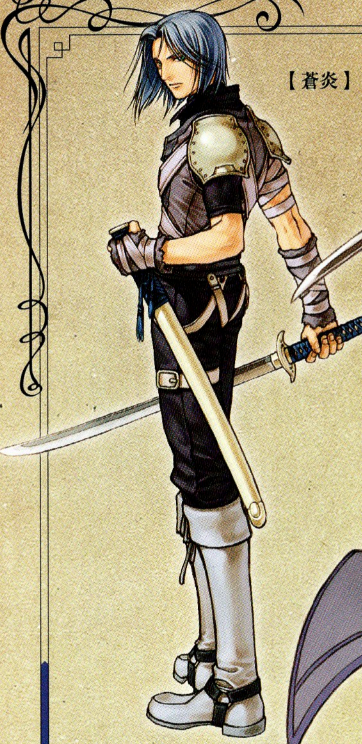


「血の誓約」に用いられる誓約書。これを燃やすなどして処分すれば、誓約は破棄される。



誓約を結ぶと、証として体に印が現れる。国王が誓約を結んだ場合は、次の王に印が受け継がれる。

THE TERIUS CONTINENT



【蒼炎】



【暁】

フリーダ

高潔な女領主

マラドの領主ランビーガの娘。領民を守るためにベグニオン帝国に従う道を選ぶが、帝国駐留軍のあまりの非道ぶりに帝国との決別を決意。デイン解放軍に加わり、ミカヤたちとともにデイン再興のために戦った。



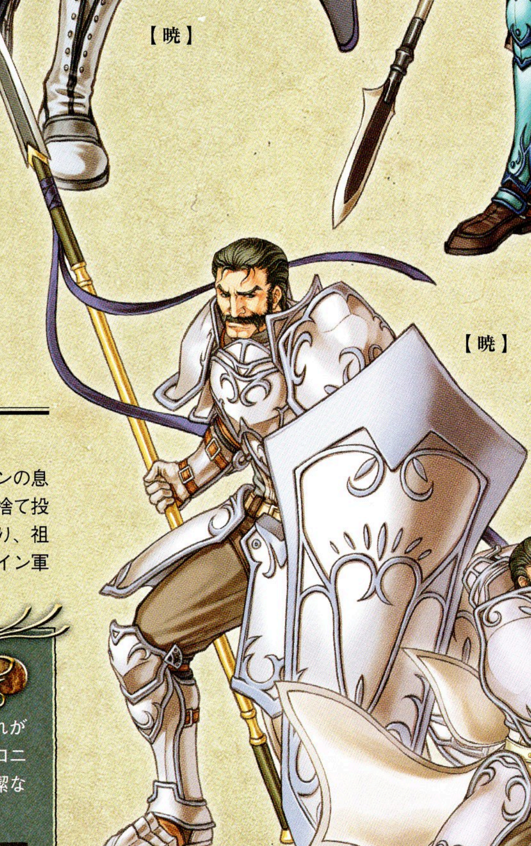
【暁】

THE TERIUS CONTINENT

ツイハーク

義に厚き剣士

デイン生まれの剣士。ラグズを守るためにラグズ狩りを行う自警団に潜入した際に、アイクたちと知り合う。獣牙族の恋人と死に別れており、ラグズに味方するのはそのため。デイン＝クリミア戦争終結後は、デイン解放軍の一員として戦った。



【暁】

タウロニオ

“不動の四駿”と謳われた猛将

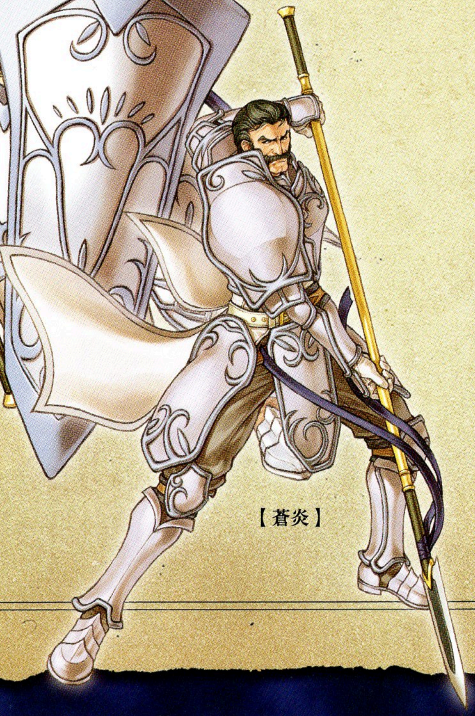
デインの将軍でガウェインの旧友。アイクがガウェインの息子と知ると、親友の剣技が失われることを惜しみ、剣を捨て投降。デイン＝クリミア戦争終結後はデイン解放軍に加わり、祖国の解放に尽力する。女神との戦いが終わったあともデイン軍に残り、軍の要として国を支えた。

不動の四駿

デイン軍の中で最強の戦士に与えられる称号、それが“四駿”である。中でもブライス、ガウェイン、タウロニオ、ランビーガの４人は、そのずばぬけた強さと高潔な人柄から“不動の四駿”と呼ばれた。



ブライス　ガウェイン　タウロニオ　ランビーガ



【蒼炎】

ジル

若き竜騎士

ダルレカ領主シハラムの娘で、ハール竜騎士隊所属の竜騎士。手柄をあせるあまり、単身アイク一行を追跡。その後、なりゆきから彼らと行動をともにする。最初は、ラグズに偏見を持っていたが、やがてそれが誤りだと気づく。デイン＝クリミア戦争終結後は、デイン解放軍に参加した。

if……

ハールとの支援関係をAにすると、エピローグでハールと結ばれる。しかし、ジルのことを「尊敬する上官の娘」としか見ていなかったハールを振り向かせるとは……。



【蒼炎】



【暁】



【暁】



【蒼炎】



【蒼炎】



ハール

飄々たる偉丈夫

デイン所属の竜騎士。もとはベグニオン竜騎士団の一員だったが、上官であるシハラムとともにデインに亡命。普段は飄々としているが、シハラムに対する侮辱だけは決して許さない。デインが敗戦した後は、相棒の騎竜とともに荷運び屋をしていた。

シハラム

ジルの父。ベグニオンの軍人だったが、元老院の腐敗ぶりに嫌気がさし、部下たちとともにデインへ亡命した。

ベグニオン帝国



大陸を統べる超大国

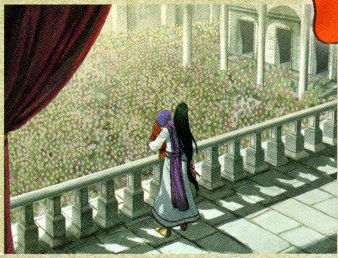
女神アスタルテを信奉する宗教国家で、大陸最大の勢力を誇る。クリミア、デインにとっては宗主国にあたる。初代女王は、"三雄"のひとりであるオルティナ。歴代皇帝は、全員彼女の子孫の中から選ばれてきた。彼女たちは"神使"と呼ばれ、女神の声を聞くことができるとされている。

【蒼炎】



【暁】





←セフェランに抱かれて民衆に手を振るサナキ。幼い神使と美しい宰相という組み合わせは、国民から絶大な支持を得た。

暗殺された悲劇の神使・ミサハ

サナキの祖母で、先代の神使であるミサハ。エルラン（セフェラン）から過去のいきさつを聞き、"印付き"が決して呪われた存在ではないことを知った彼女は、歴代の神使が印付きである事実を公表しようとする。だが、それを阻止しようとする元老院により暗殺されてしまう（このときサナキの姉であるミカヤも行方不明に）。この彼女の死がエルランを深く絶望させ、彼が女神の復活を望む一因となった。



↑ミサハの存在は、エルランにとって希望の光となるはずだったが……。

サナキ

第37代ベグニオン皇帝

祖母ミサハの跡を継ぎ、わずか5歳で神使の座に就く。かつて起きた「セリノスの虐殺」に心をいためており、その贖罪の念から国内のラグズの力になろうとする。

神使になって以来、一度も女神の声が聞こえないことを気にかけていた。女神アスタルテとの戦いで、ルカンから自分が偽りの神使だと知らされ、自分は民を裏切っているのではと悩む。だが、シグルーンたちの励ましを受けて、再び皇帝として生きる決心をする。



【蒼炎】

◄セフェラン

女神による粛正を望んだ男

帝国の宰相にして元老院議長。その正体は鷺の民で、本名はエルラン。帝国の初代女王にして、“三雄”のひとりであるオルティナの夫だった男である。

オルティナとの間に子をもうけるが、それにより化身の能力と呪歌謳いの力を失ってしまう。女神との橋渡し役ができなくなったエルランは、絶望して一時は自殺まで考えるが、ミサハとの出会いにより救われる。だが、そのミサハが暗殺され、さらにセリノスの虐殺で同胞の死を目のあたりにして人間に深く絶望する。そして、「人間には女神による粛正が必要だ」という考えにとりつかれるようになる。

セフェランと名を変えた彼は、手始めとしてアシュナードに接触。彼の王位継承に協力し、メダリオンの存在と邪神復活の方法を教える。アシュナードが倒されると、ペレアスによるデイン再興を画策。相次ぐ戦いによって大陸中に負の気を充満させ、女神アスタルテを目覚めさせようとする。最後はアイクたちに敗れ、サナキの腕の中で息を引き取った。

if……



セフェラン生存ルートに進むと、エピローグで、蘇った“暁の女神”アスタテューヌと談笑する彼の姿が見られる。アイクたちと出会ってから数百年を経て、彼はやっと真のやすらぎを得ることができたのだ。



↑セフェランの理解者は、ゼルギウスただひとり。2人の絆はなによりも固い。



【蒼炎】

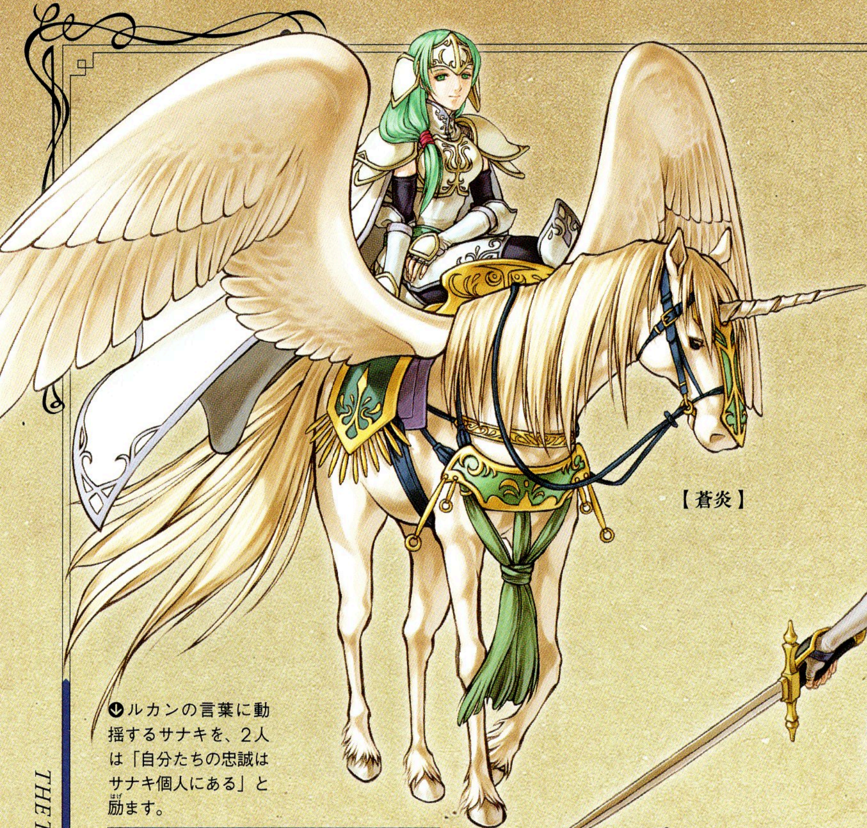
ゼルギウス►

ベグニオンが誇る英雄

ベグニオン帝国の将軍。実は“印付き”で、見た目よりも長い年月を生きている。もとは、デインの軍人だったが、セフェランに仕えるためにベグニオンに渡る。その後は、帝国軍人として武勲を上げつつ、漆黒の騎士としてセフェランのために働く。デイン時代にガウェインから剣を学んでおり、彼を超えることを生涯の目標としていた。最後は、一騎打ちの末にアイクに倒される。



←印付きに生まれ、長い間孤独に耐えてきたゼルギウス。ミカヤに味方したのも、彼女が同じ印付きだったからであろう。



【蒼炎】

シグルーン

神使を守る美しき剣

神使親衛隊隊長。幼いながらも元老院の言いなりとならず、常に民のためを思って行動するサナキに絶対の忠誠を誓う。そして、その忠誠は、サナキが偽りの神使であるとわかっても、いささかも揺らぐことはなかった。



【蒼炎】

タニス

部下思いの副隊長

シグルーンの部下で神使親衛隊の副隊長を務める天馬騎士。シグルーンと同様、サナキ個人に絶対の忠誠を誓う。部下思いで、隊を離れたマーシャのことをずっと気にかけていた。



⬇ルカンの言葉に動揺するサナキを、2人は「自分たちの忠誠はサナキ個人にある」と励ます。



【暁】

ルカン

元老院副議長。サナキを暗殺し、帝国を影から支配しようと企む。先代の神使であるミサハの暗殺を指示したのも、この男である。



【暁】

オリヴァー

自称"美の守護者"。もとは有力七議員のひとりだったが、鷺の民であるリュシオンを奴隷にしようとしたことがばれて失脚する。

元老院有力七議員

ベグニオン帝国において、絶大な影響力を持っている元老院。その中でも、とくに大きな力を持つのが、"七議員"と呼ばれる議員たちである。議長であるセフェランもこの七議員のひとりだが、神使よりの立場をとるために、他の議員からは敵視されている。



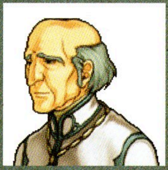
ヌミダ

デイン駐屯軍総督。私腹をこやすためにデインに圧政を敷く。小心者で、ルカンの言いなりとなっている。



バルテロメ

性格は非常に残忍。ベグニオン軍総司令官に着任する際、自分の意に添わぬゼルギウスを処刑しようとした。



ヘッツェル

奴隷商人からラフィエルを救った恩人。セリノスの虐殺を止められなかったことを、ずっと後悔している。

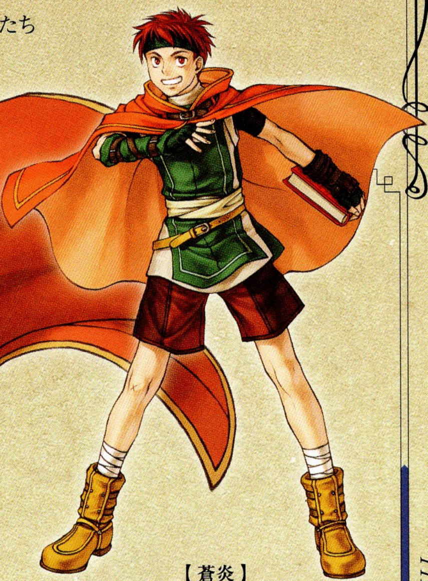
ラグズ奴隷解放軍

目的はラグズの解放

帝国内のラグズ奴隷の解放を目的とする組織。貴族の屋敷に忍びこみ、その家の奴隷たちを逃がしていたが、彼らをじゃま者と思った元老院によって、盗賊の汚名をきせられてしまう。アイクの協力によって無実が明らかとなり、サナキという後ろ盾を得ることができた。



【暁】



【蒼炎】

トパック

解放軍のリーダー

奴隷解放軍の若き首領。トパック自身はベオクだが、ラグズ奴隷に疑問を持ち、奴隷解放のために戦っている。サナキの協力をとりつけるきっかけを作ってくれたアイクに感謝し、デイン＝クリミア戦争ではクリミア再興軍に参加。歳の近いサザとは仲がよく、デインの再興にも一役かう。



【暁】



【蒼炎】



【暁】

ムワリム

首領の守り役

奴隷解放軍の副首領。トパックの親がわりで、「坊ちゃん」と呼んでいる。ラグズ奴隷の子として生まれたために、ベオクの文化に詳しい。女神との戦いの後に帝国史上初のラグズ高官となり、トパックを補佐した。

ビーゼ

解放軍の紅一点

解放軍に所属する鳥翼族の女性。トパックたちとともにデイン解放軍に参加し、駐屯軍と戦う。出会った当初、ミカヤを避けていたのは、彼女が“印付き”であることを、ラグズとしての本能で感じ取っていたためかもしれない。

ガリア王国

獅子が治める獣牙族の国

獣牙族の王国で、獅子をはじめ、虎、猫などのさまざまな種族が住んでいる。クリミアと同盟を結んでおり、デイン＝クリミア戦争の折には、エリンシアを助けてクリミアの奪還に手を貸した。



カイネギス

ガリアの獅子王

“獅子王”の異名を持つガリアの王。クリミアのラモン王と王弟レニング、そしてアイクの父であるグレイルとは旧知の仲である。とくにラモン王とは、ラグズとベオクの共存を実現するために力を合わせてきた。女神との戦いが終わると、王位をスクリミルに譲る。



【暁】



【暁】

スクリミル

次代の獅子王

カイネギスの甥。ラグズ＝ベグニオン戦争では、カイネギスのかわりにガリア軍の総大将を務める。最初は力押しだけの猪突猛進タイプだったが、初めての敗北を経験し、戦士としても、また人間としても大きく成長する。女神の戦いの後、カイネギスの跡を継いで新たな獅子王となった。



ソゼ峠でのゼルギウスとの一騎打ち。この戦いで、スクリミルは生涯初の敗北を経験することになる。



【暁】

ジフカ

獅子王の影

若いころからカイネギスの影武者を務めており、自らの役目に誇りを持っている。戦士としても非常に優れており、兵士たちからも一目おかれている。



【蒼炎】

【蒼炎】

ライ

王の片腕

ガリアの戦士。カイネギスの信任も厚く、ラグズ＝ベグニオン戦争では、スクリミルの補佐役を任される。アイクとは、種族を越えた固い友情で結ばれている。ガリアの戦士には珍しく、どんなときも冷静さを失わない。女神との戦いの後に、新王となったスクリミルの補佐として彼を助けた。

if……

アイクとの支援関係がAになると、カイネギスの即位を見届けたあとガリアから姿を消す。「世界は広く、己の知らぬものは、まだ無限にある」と言い残して……。

レテ

気高き女戦士

ガリアの女戦士。アイクたちと出会った当初は、同族を差別してきたベオクを毛嫌いしていたが、アイクたちと行動をともにするうちに、次第に心を開く。

双子の妹であるリィレに対しては、心配するあまり、ついついきつい言葉を言ってしまい、けんかが絶えない。



【蒼炎】

モゥディ

心優しき獣

デイン＝クリミア戦争の折、ガリア王の命を受け、レテとともにアイクたちの仲間に加わる。無骨だが心優しく、戦いをあまり好まない。ラグズに対しても分け隔てなく接するアイクに、一目おいている。女神の戦いが終わると戦いからは退き、ガリアの森で穏やかな日々を送った。



【暁】

キサ

体は男、心は女？

普段は模範的な兵士なのだが、興奮するとなぜかオカマ口調になる。リィレとは、隊長であるライを巡ってライバル関係にある（もちろんライにその気はない）。



【暁】

リィレ

姉を追いかけて戦場へ

レテの双子の妹。大好きな姉と一緒にいたいという思いから、戦士になった。性格的にまだ幼いところがあり、かっとなってケンカをすることもしばしば。

フェニキス王国



鷹の民が暮らす南の小国

南方に浮かぶ鳥翼族・鷹の民の国。過去に「セリノスの虐殺」を起こし、同族である鷺の民を虐殺したベグニオン帝国を敵視しており、帝国の船に対して海賊行為を働いている。その身体能力を活かし、船を使わずに襲うことから、"船を持たぬ海賊"と呼ばれて恐れられている。



ティバーン

大空の覇者

"鷹王"の名で知られるフェニキスの王。高いカリスマ性と、大陸屈指の戦闘力を持つ。セノリスの虐殺後、国を失ったセリノス王族の後継人となる。女神との戦いの後、統一された鳥翼三国の初代国王に就任した。



↑ガリアの戦士の中でも屈指の実力を誇り、ゼルギウスとさえ互角以上の戦いをする。



ウルキ

王の耳

ティバーンの側近で、鷹王からの信頼も厚い。千里先の音も聞き取る「順風耳」という能力を持っていることから、"王の耳"と呼ばれている。普段はもの静かで、あまり自己主張することはない。



ヤナフ

王の目

ティバーンの側近。千里先を見通す特殊能力「千里眼」を持つことから、"王の目"と呼ばれている。ティバーン、ウルキとは幼いころからのつきあいで、3人だけのときは、ティバーンのことを呼び捨てにしている。

キルヴァス王国

鴉王が治める海賊国家

鳥翼族である鴉の民の国。フェニキス同様、“船を持たぬ海賊”として恐れられているが、こちらは略奪が目的。金次第でベオクの仕事も引き受けるので、他の鳥翼族からはよく思われていない。



【暁】

ニアルチ

ネサラに仕える侍従。ネサラを幼いころから知っており、いまだに「ぼっちゃん」と呼ぶ癖が抜けない。

ネサラ

裏切りの王

キルヴァスの王で“鴉王”の異名を持つ。自国の民をなにより大切に思い、そのために手を汚すこともいとわない。ラグズ＝ベグニオン戦争で連合を裏切ったのも、民を守るためだった。リュシオン、リーアネとは昔なじみで、今も頭が上がらない。



【蒼炎】

セリノス王国

一夜にして滅びた悲劇の王国

鳥翼族である鷺の民の国。平和を愛する国だったが、「セリノスの虐殺」により一夜にして滅亡。以来、国のあった森は帝国が管理していたが、後に神使サナキによってセリノス王族に返還される。

リアーネ

麗しの歌姫

リュシオンの妹。セリノスの虐殺で死んだと思われていたが、事件から20年後、森での眠りから目覚めて兄との再会を果たす。長い間眠っていたためか、精神的に幼いところがある。

if……

ネサラとの支援関係をAにすると、エピローグでネサラと結ばれる。仲むつまじく暮らし、黒翼の男児と白翼の女児の2人の子をもうける。



【蒼炎】



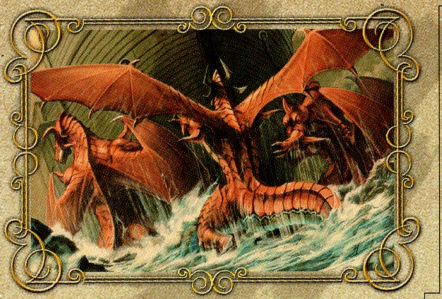
【蒼炎】

リュシオン

白の王子

セリノスの第二王子で、虐殺の数少ない生き残り。憎しみにかられ、「禁呪」を発動させてベオクを滅ぼそうとするが、リアーネとの再会が彼を思いとどまらせる。体が弱く、優れた戦士であるティバーンに憧れている。

ゴルドア王国



閉ざされた竜鱗族の国

ラグズ最強の種族である竜鱗族の王国。建国以来他国との国交を絶っており、鎖国状態にある。国王デギンハンザーの意志により、絶対中立の立場をとっており、ラグズ＝ベグニオン戦争でもラグズ連合に与することはなかった。



【蒼炎】

デギンハンザー

“三雄”の生き残り

“黒竜王”の異名を持つゴルドアの王。女神ユンヌと戦った三雄のうち、ただひとりの生き残りである。ユンヌとの戦いの後、人間たちにアスタルテとの誓約を守らせるために、メダリオンに封じられたユンヌを「邪神」と偽り、自らは絶対的中立を貫く。

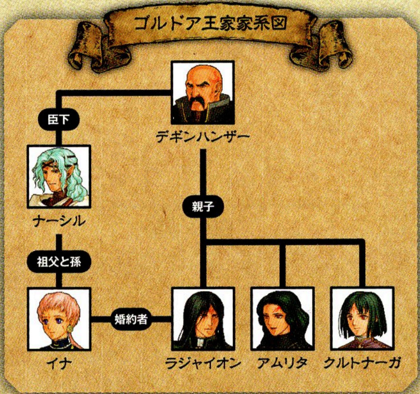
オルティナに子が産まれたとき、友であるエルランがラグズとしての力を失ったことを知った彼は、ベオクとラグズが交わることを禁忌とした。だが、それが、後に印付きに対する差別を生んでしまい、深く後悔する。最後は女神アスタルテの側についてアイクたちと戦い、クルトナーガにあとを託して逝った。



【蒼炎】



化身したクルトナーガ。そのブレスは、頑丈な城壁すらも一撃で破壊してしまう。



クルトナーガ

若き黒竜

デギンハンザーの息子。姉のアムリタを助けるために、一族の掟を破って国を出てデインへ向かう。ミカヤたちとは、そのときに知り合った。デギンハンザー亡きあと、ゴルドアの新国王として生き残った竜鱗族を率い、女神アスタルテと戦った。



【蒼炎】

イナ

掟より愛を選んだ女

婚約者のラジャイオンを探してデインにやってきたイナを待っていたのは、アシュナードによって“なりそこない”にされた恋人の姿だった。イナは、彼のそばにいるために一族の掟を破り、アシュナードの軍師となる。女神との戦いの後に国に戻り、亡き婚約者の子を出産。その子をラジャイオンと名づける。



狂王がイナに下した最後の命令。それは、王都ネヴァサでアイクたちを迎え撃つことだった。



【暁】

ゴート

王子の従者

クルトナーガの従者。デギンハンザーに従い、一度はクルトナーガの敵に回るものの、女神との最終決戦では、新国王となった主人とともに戦う。戦いが終わって国に帰ったあとは、イナの息子の侍従となった。



【蒼炎】

ナーシル

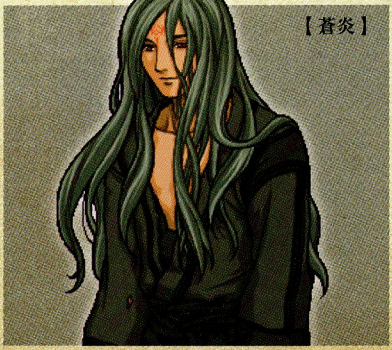
悲しき二重スパイ

イナの祖父。カイネギスへの報告役としてアイクたちに同行するが、それとともにデインの密偵も務める。もちろん、すべてはアシュナードに仕える孫娘のためであった。デイン＝クリミア戦争が集結すると、イナとともに故郷のゴルドアへ戻った。

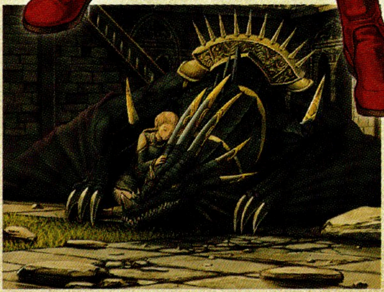
ラジャイオン

妹のため 我が身を犠牲に

ゴルドアの第一王子で、アムリタたちの兄。アムリタの息子を人質にとられ、アシュナードの軍門に下る。イズカの薬によって自我を奪われ、アシュナードの騎竜にされるが、死の間際、リュシオンたちの呪歌によって自分を取り戻すことができた。



【蒼炎】



呪歌によって自我を取り戻したラジャイオンは、愛するイナに抱かれてその生涯を終える。

THE TERIUS CONTINENT

暁の団

民衆を守る義賊集団

デインの首都ネヴァサを中心に活動する義賊集団。ベグニオン駐留軍から物資を奪い、それをデインの民に分け与えていた。新統治官として赴任したジェルドによってネヴァサを追われた後は、デイン再興のためにペレアス率いるデイン解放軍に参加。以後は軍の中核を担うようになる。



【暁】

ミカヤ

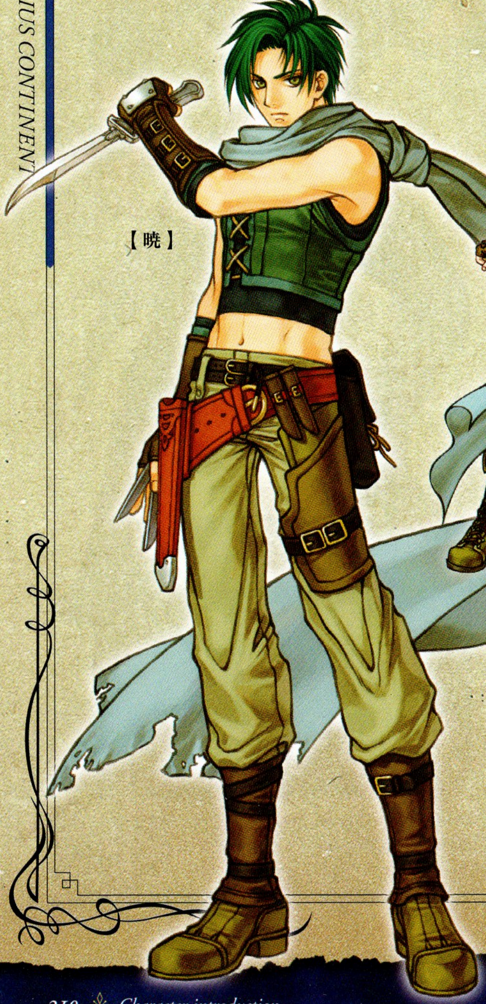
暁の巫女

癒しの力をはじめ、予知能力や他人の心を読む力を持つ。以前は、その銀髪から"銀の髪の乙女"と呼ばれたが、デインの副大将となってからは、"暁の巫女"の名で呼ばれる。デイン再興後は、帝国の手先となることに悩みながらも、国のために戦った。

印付きのため、以前は1か所に長くとどまることを避けてきたが、最後は、愛するデインに残ることを選び、ペレアスの跡を継いでデイン第15代国王となる。



↑実はミカヤは、セリノスの虐殺で死んだと思われていたサナキの姉。ミカヤの不思議な力は、彼女が神使である証だった。



【暁】



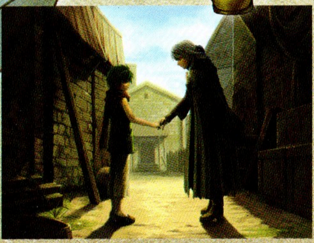
【蒼炎】

サザ

ミカヤの守護者

ミカヤの弟と名乗るが、血のつながりはない。デイン＝クリミア戦争の最中にミカヤとはぐれてしまい、行方を探していたときにアイクたちと出会う。戦争終結後にデインに戻り、ミカヤとの再会を果たす。

ミカヤのことをなにより大切に思っており、彼女のために尊敬するアイクと戦うこともいとわない。ミカヤがデイン国王に即位すると、その側近となって彼女を支えた。



↑まだ幼かったサザは、路地裏でミカヤに拾われ、家族として暮らすようになる。

if......

ミカヤとの支援関係をAにすると、エピローグでミカヤと結ばれる。サザとの結婚は、ミカヤにとっても最高のハッピーエンドではないだろうか。

エディ

路地裏育ちの少年剣士

デインの路地裏育ちで、親の顔も知らない。デイン＝クリミア戦争の折、腕に覚えがあれば兵に取り立てられると聞き、剣の修行を始める。だが軍に入る前に戦争は終わり、その後暁の団の一員となる。下町暮らしが性に合うのか、ミカヤが国王となった後も、特別な地位に就くことはなかった。


【暁】

レオナルド

クールな弓使い

地方貴族の子息として生まれるが、デイン＝クリミア戦争で天涯孤独の身となる。デイン敗戦後、駐屯軍に捕まりそうになったところを、エディに助けられて親友となる。女神との戦いのあとも軍に残り、国の復興に尽くした。


【暁】


【暁】


【暁】


【暁】

ノイス

頼れる年長者

とくにリーダーというわけではないが、若者しかいない暁の団ではなにかと頼りにされている。

友に裏切られてすべてを失い、浮浪者として暮らしていたが、帝国駐留軍の暴挙に義憤を覚え、同胞を救うために立ち上がる。

ローラ

とぼけた聖女

デインに住むシスター。世話になっていた老司祭の薬を入手するために暁の団を頼ったことから、彼らと行動をともにするようになる。少々天然な性格の面があり、暁の団のことをずっと山賊だと信じていたらしい。

ブラッド

気のいい幼なじみ

ローラの幼なじみ。もとはデインの生まれだが、ベグニオンの商家に引き取られ、その後帝国軍に入る。監獄の警備についていたが、そこに送られてきたローラたちを助けたことがきっかけで、暁の団に加わった。

ハタリ王国

砂漠の彼方に広がる幻の国

デインのはるか東にある王国で、獣牙族である狼の民が住んでいる。デインとハタリの間には「死の砂漠」と呼ばれる広大な砂漠が広がり、これまでその存在は幻とされてきた。また、ハタリ自身も、女王ニケの一行が砂漠を越えるまでの800年間、他国の存在を知らずにいた。



➔化身状態でラフィエルの歌に聞き入る、ニケとオルグ。

ニケ ▶

邪眼の女王

ハタリの女王。ラフィエルに同行し、死の砂漠を越えてやってきた。立ち寄った砂漠の遺跡でミカヤたちと出会い、なりゆきから彼らに力を貸すことになる。戦いが終わると、ラフィエルたちとともにハタリへと帰っていった。



【暁】



【暁】



【暁】

◀ラフィエル

折れた翼

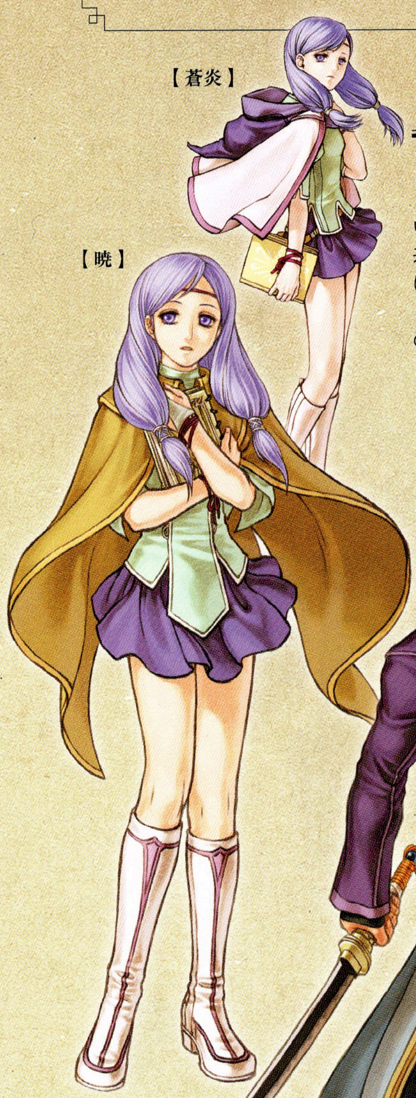
セリノスの第一王子で、リュシオンたちの兄。セリノスの虐殺が起きたあと、死の砂漠をさまよっていたところをニケに助けられ、その後彼女の伴侶となる。謎の声（実は女神ユンヌの声）に導かれ、死の砂漠の遺跡を訪れた。

▲オルグ

寡黙な戦士

ニケの従者。ニケとラフィエルがリュシオンたちに会いにガリアへ向かうと、ミカヤを護衛するためにひとり解放軍に残る。とにかく寡黙で、口をきくことがほとんどない。古代語しか話すことができず、共通語は苦手のようだ。

組織に属さぬ者たち



【蒼炎】

【暁】

イレース

大食漢の魔道士

ひとり旅の途中、空腹で倒れていたところを行商団に拾われ、以来彼らと旅を続けている。見た目に似合わぬ大食いで、いつもお腹を空かしている。人の顔を覚えるのは苦手だが、食べ物をめぐんでくれた相手は決して忘れない。



【蒼炎】

【暁】

フォルカ

裏世界のプロフェッショナル

“火消し”の異名を持つ凄腕の暗殺者で、長い間グレイルの影を務めてきた。彼がグレイルから受けた依頼は2つ。ひとつは、グレイルが暴走した際にその命を絶つこと。もうひとつは、グレイルが追っ手に討たれたとき、彼の秘密を息子アイクに伝えることだった。



【暁】

ソーンバルケ

三雄の末裔

グラーヌ砂漠で隠者のような生活を送っている。実は“三雄”であるソーンの末裔。印付きとしてラグズに差別されてきたために、彼らをこころよく思っていない。女神との戦いの後、同じ境遇の者を集めて小さな村落を作り、国へと発展させた。



【暁】

ヘザー

流しの女盗賊

盗みを働いている最中に、革命騒ぎに遭遇。その際にネフェニーに声をかけられ、押しかけ同然に仲間に加わる。本人曰く「女の子にはとびきり優しくしたい性質」らしい。女神との戦いのあと、盗賊稼業からは足を洗う。

カリル

姉御肌の女傭兵

炎魔法を得意とする女魔道士。クリミア＝デイン戦争の折、自らクリミア再興軍に売りこみにやってきた。クリミア再興後は酒場の女将におさまっていたが、フェリーレ公の反乱が起こると、エリンシアを助けるために再び戦場へと舞い戻る。



↑カリル夫妻の養女、エイミ。周囲は気づいていないが、実は彼女も印付き。

【蒼炎】



ラルゴ

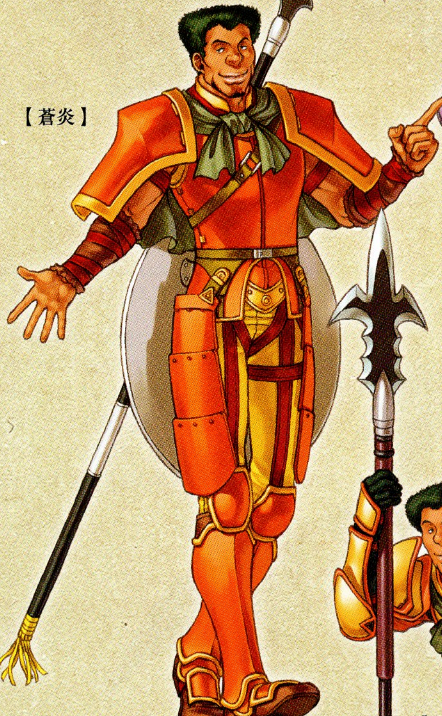
傭兵から酒場の親父へ

流れの狂戦士。カリルとは古いつきあいで、彼女を追ってクリミア再興軍に加わる。デイン＝クリミア戦争のあとカリルと結婚。王都メリオルに、2人の夢であった酒場を開く。利き腕をけがしたために、戦争後は二度と武器を取ることはなかった。

【蒼炎】



【蒼炎】



ダラハウ

花と笑顔を愛する男

屋敷の庭に入りこんだ罰として、オリヴァーに1年間ただ働きをさせられる。その際、屋敷の捜索にやってきたアイクと出会い、仲間に加わる。花が大好きで、屋敷に入りこんだのも、庭があまりにきれいだったため。人を笑わせるのが好きで腹話術も得意。

【暁】



ウハラダ

他人のそら似？

ラルゴの友人。フェリーレ公の反乱の折、傭兵としてジョフレたちに加勢する。姿といい話し方といい、どこから見てもダラハウなのだが、本人は、かたくなに同一人物説を否定する。女神との戦いの後、槍を捨てて大道芸人になった。



←ダラハウが使っていた腹話術の人形の名前がウハラダ。もしかして人形の名前を偽名に。

女神


【暁】

◀アスタルテ

人類に審判を下す裁定者

正の女神。かつては"暁の女神"アスタテューヌと呼ばれていた。大洪水を起こしたあと、二度と同じ過ちを繰り返さないために、負の感情(ユンヌ)を切り離す。ユンヌとの戦いに勝利した後、三雄と「千年の間、大きな争いを起こさない」という誓約を結び、眠りにつく。ユンヌの解放により眠りから目覚めたアスタルテは、戦いを続ける人間に失望し、世界を脅かす存在として滅ぼそうとする。


←復活したアスタルテは、その力を使い、大陸中の人間を石にしてしまう。そして、一部の人間を"正の使徒"として蘇らせ、ユンヌ討伐へと向かわせる。


←神と呼ばれるにふさわしい力を持つアスタルテだったが、最後はユンヌの加護を受けたアイクの一撃によって倒される。

THE TERIUS CONTINENT

ユンヌ▶

紋章に封じられた女神

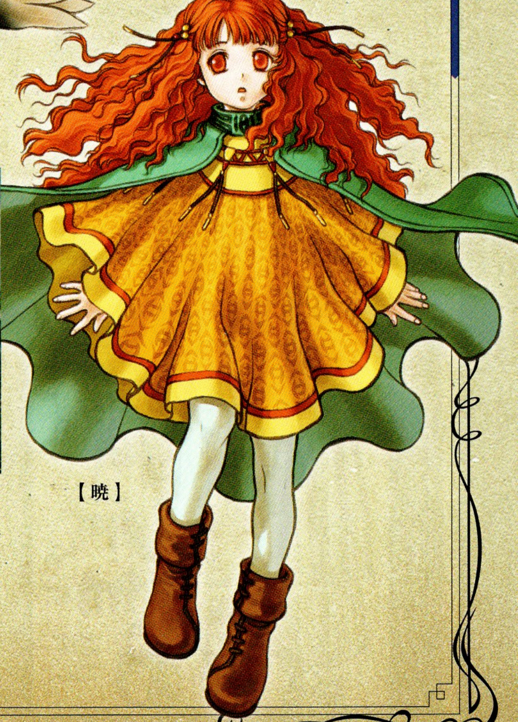
負の女神。アスタルテとの戦いで、彼女の加護を受けた三雄に敗れ、メダリオンに封印される。その後は、鷺の民の呪歌によって長い眠りについていた。

人間を愛しており、ミカヤたちに呼びかけ、「解放の呪歌」によって自らを解放させたのも、戦乱で生じた負の気によって目覚めるのを防ぎ、アスタルテの審判から人間たちを守るためだった。アスタルテが倒されると、彼女と一心同体であるユンヌも消失する。





←↑実体のないユンヌは、ミカヤの体を借りなければ他人と話せない。だが、最期のときだけは、本当の姿でアイクと言葉をかわすことができた。

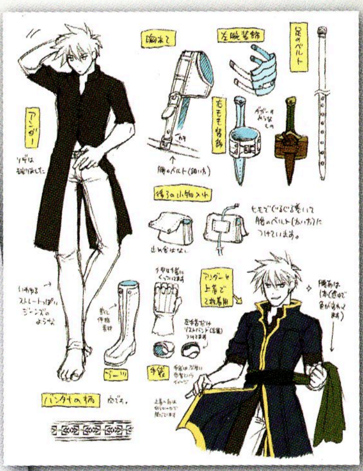

【暁】

『蒼炎の軌跡』ムービー用 設定イラスト

『蒼炎の軌跡』の魅力のひとつにあげられるのが、その迫力あるムービーシーン。
ここでは、ムービー制作のために描き起こされた、アイクたちの設定イラストを紹介しよう。



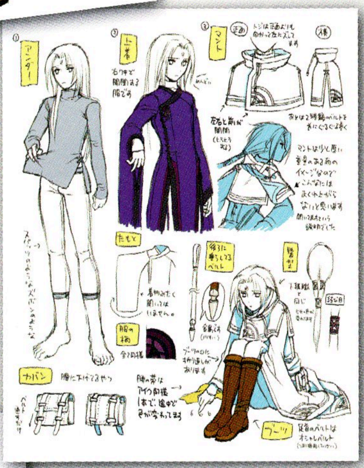
【アイク上級職】



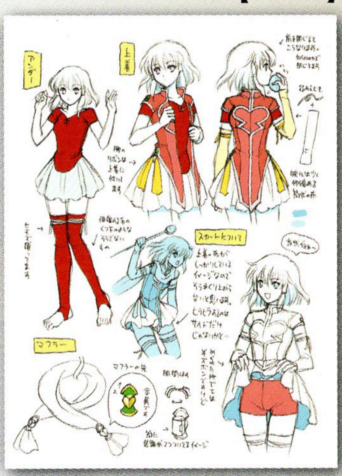
【アイク服装】

➡アイクのコスチュームに関する設定イラスト。太股につけている短剣や小物入れなど、よく見ないとわからない部分まで、細かく設定されている。

【セネリオ】

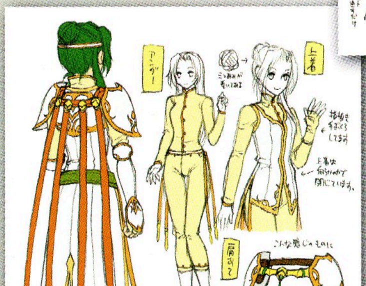


【ミスト】



➡セネリオの設定イラスト。右下に描かれている、いじけたセネリオがとってもキュート。アイクに叱られでもしたのか……。

【エリンシア】



【獣牙族・サイズ対比図】





Gallery & Interview

ギャラリー＆インタビュー

FIRE EMBLEM
TRADING CARD GAME
Illustrations Collection

『ファイアーエムブレムTCG』用に描き起こされたキャラクターイラストを公開。
ゲーム登場時とは異なるイメージで描かれているキャラクターもあって興味深い。

ファイアーエムブレム トレーディングカードゲーム ▶

『ファイアーエムブレムTCG』は、NTT出版から発売されたトレーディングカードゲームで、2001年に第1弾が発売された。プレイヤーは、60枚のカードでデッキを構築。それを使って3×4のマップで戦い、勝利条件の達成を目指す。イラストレーターの山田章博氏や漫画家の藤原カムイ氏がイラストを手がけたカードも発表されて話題を呼んだが、2004年の追加パック第6弾『アカネイアの英雄』を最後に、シリーズは終了した。

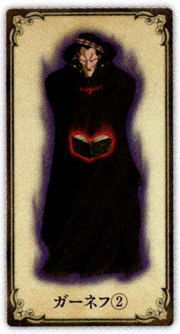


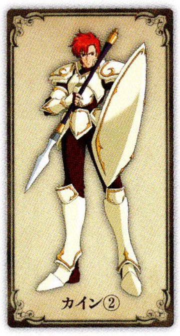
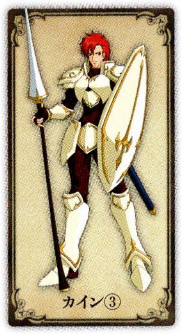


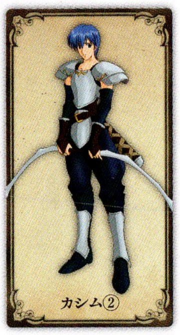
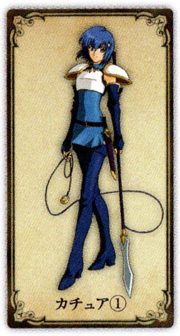

オグマ①

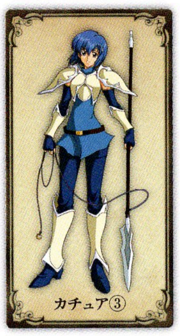
オグマ②

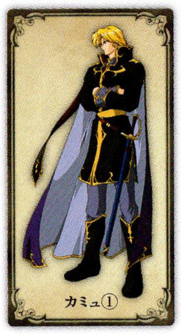
オグマ③

ガーネフ①

ガーネフ②

カイン①

カイン②

カイン③

カシム①

カシム②

カチュア①

カチュア②

カチュア③

ガトー

カミュ①

カミュ②

ゴードン①

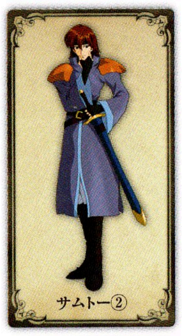
ゴードン②

ザガロ①

ザガロ②

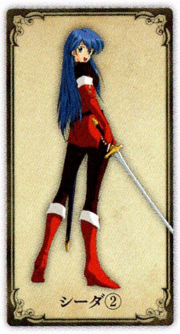
サジ

サムソン

サムトー①

サムトー②

シーザ①

シーザ②

シーダ①

シーダ②

シーダ③

シーダ④


シーダ⑤


シーマ


ジェイガン


ジェイク


ジオル


ジュリアン

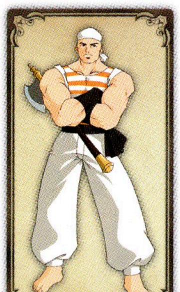

ジョルジュ①


ジョルジュ②


シリウス


セシル①


セシル②


ダロス

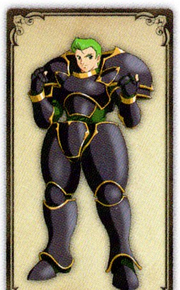

チェイニー


チキ①

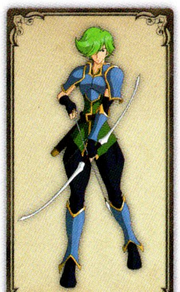

チキ②

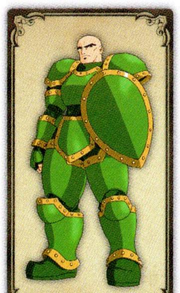

チキ③


ドーガ①

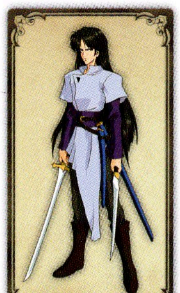

ドーガ②


トーマス①


トーマス②

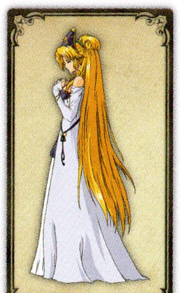

トムス①


トムス②

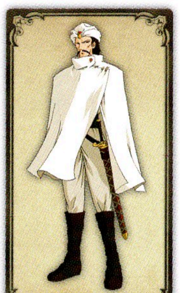

ナバール①

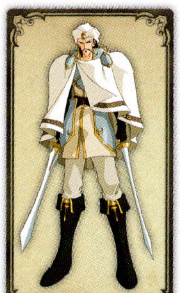

ナバール②


ナバール③

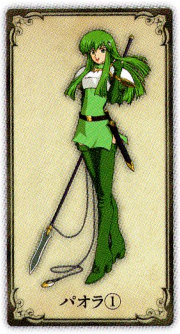

ニーナ

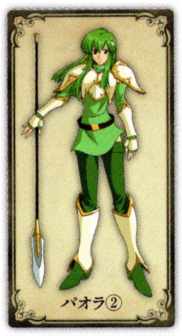

バーツ


ハーディン①


ハーディン②

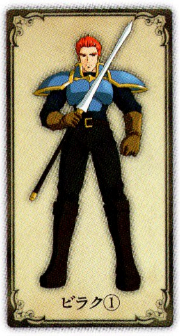

ハーディン③

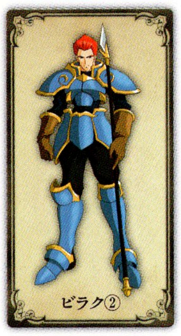

パオラ①


パオラ②


パオラ③


バヌトゥ


ビラク①


ビラク②

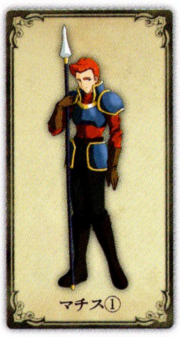

フィーナ①


フィーナ②

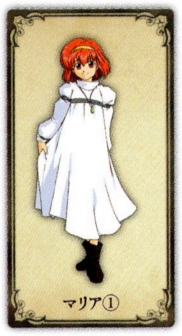

ベック


ボア

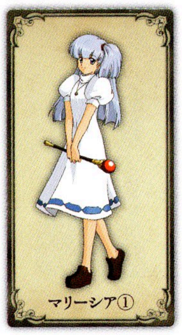

マジ


マチス①


マチス②


マリア①


マリア②


マリーシア①


マリーシア②


マリク①


マリク②


マリク③


マルス①

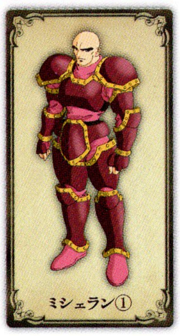

マルス②

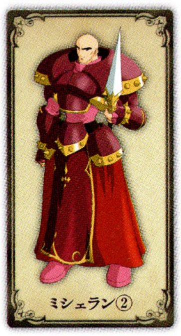

マルス③

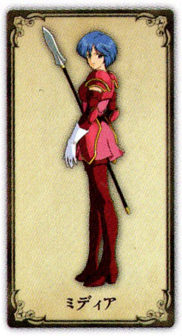

マルス④


ミシェイル①


ミシェイル②


ミシェラン①

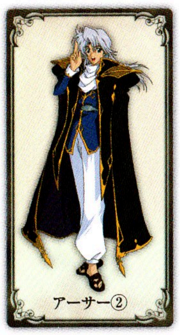

ミシェラン②


ミディア


ミネルバ①


ミネルバ②
メディウス
モーゼス
モドロフ
ユベロ①
ユベロ②
ユミナ①
ユミナ②
ライアン①
ライアン②
ラディ①
ラディ②
ラング
リカード
リフ
リュッケ
リンダ①
リンダ②
リンダ③
ルーク①
ルーク②
レナ①
レナ②
ロシェ①
ロシェ②
ロジャー
ロディ①
ロディ②
ロレンス

聖戦の系譜


アーサー①

アーサー②

アーダン①

アーダン②

アイラ①

アイラ②

アサエロ①

アサエロ②

アゼル①

アゼル②

アミッド①

アミッド②

アリオーン

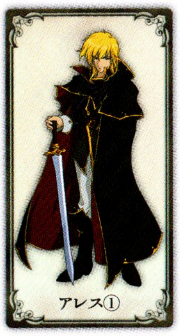
アルヴィス

アルテナ①

アルテナ②

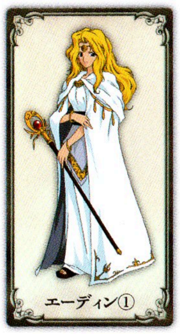
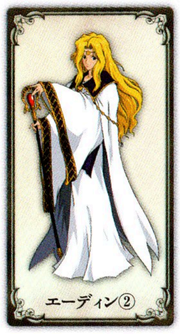
アルテナ③

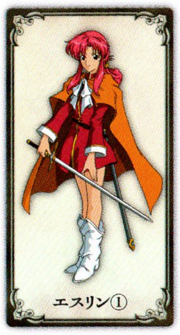
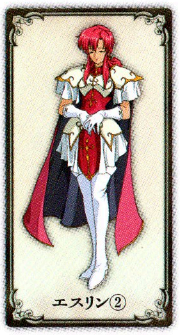
アレク①

アレク②

アレス①

アレス②

アンドレイ

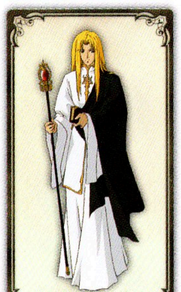
イシュタル

エーディン①

エーディン②

エーディン③

エスリン①

エスリン②

オイフェ


キュアン


クトゥーゾフ


クロード


コープル①


コープル②


サンディマ


シグルド①


シグルド②

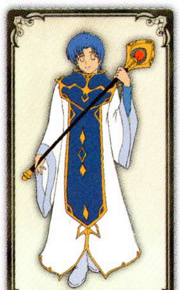

シャガール

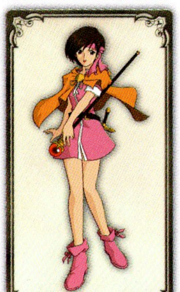

シャナン

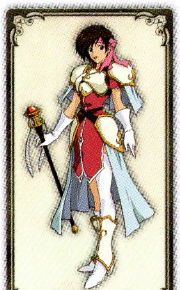

ジャムカ①


ジャムカ②


シャルロー①


シャルロー②

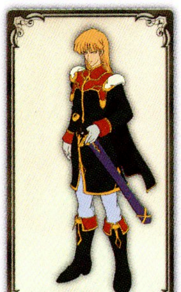

ジャンヌ①


ジャンヌ②


シルヴィア


スカサハ①


スカサハ②


スコピオ


セティ


セリス①


セリス②


ディアドラ


デイジー①


デイジー②


ティニー①


ティニー②


ディムナ①


ディムナ②


ティルテュ①


ティルテュ②


デュー①


デュー②


デルムッド①

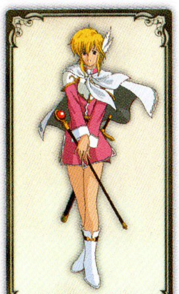

デルムッド②

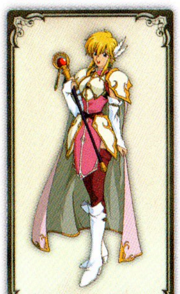

トラバント


トリスタン①


トリスタン②


ナンナ①


ナンナ②


ナンナ③


ノイッシュ


バイロン


パティ①

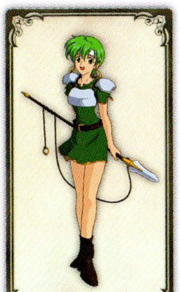

パティ②

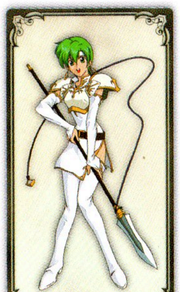

ハンニバル


ヒルダ


ファバル①


ファバル②


フィー①


フィー②

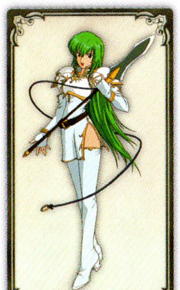

フィン①

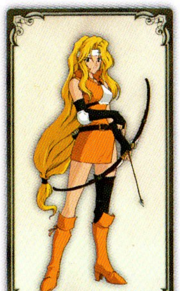

フィン②


フェミナ①

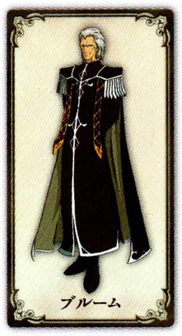
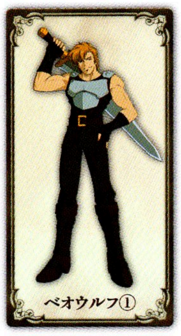

フェミナ②

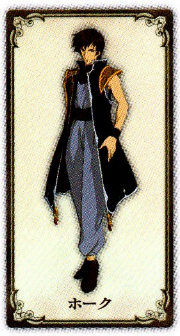

フュリー①


フュリー②

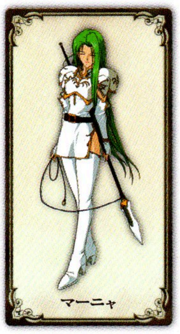
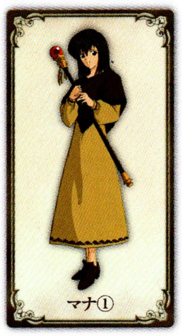
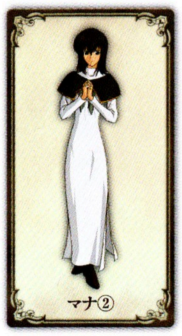

ブリギッド①


ブリギッド②


ブルーム

ベオウルフ①

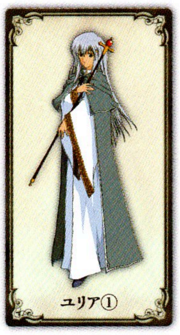
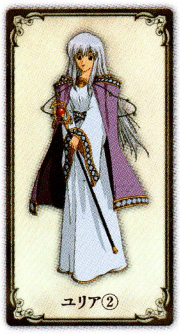
ベオウルフ②

ホーク

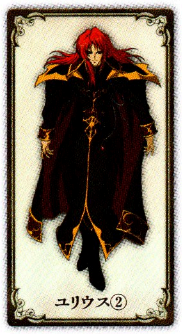
ホリン①

ホリン②

マーニャ

マナ①

マナ②

マンフロイ

ミデェール①

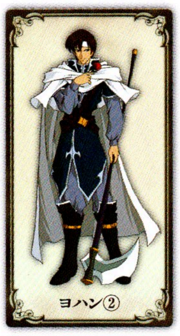
ミデェール②

ユリア①

ユリア②

ユリウス①

ユリウス②

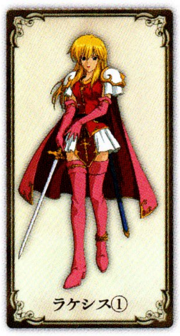
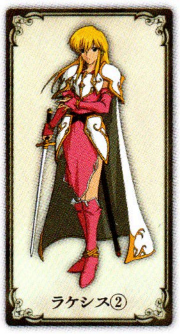
ヨハルヴァ①

ヨハルヴァ②

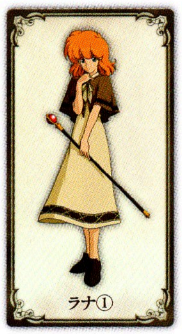
ヨハルヴァ③

ヨハン①

ヨハン②

ラクチェ①

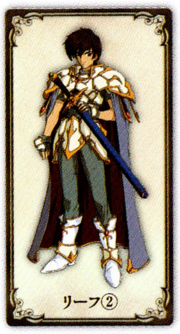
ラクチェ②

ラケシス①

ラケシス②

ラドネイ①

ラドネイ②

ラナ①

ラナ②

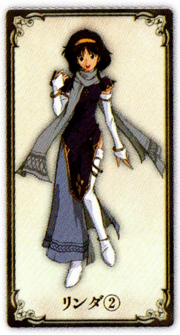
リーフ①


リーフ②


リーン①


リーン②


リンダ①

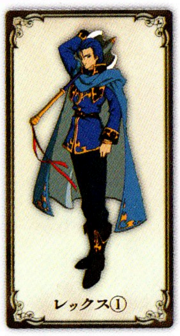

リンダ②


レイリア


レヴィン①

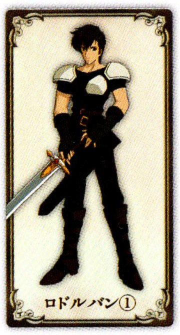

レヴィン②

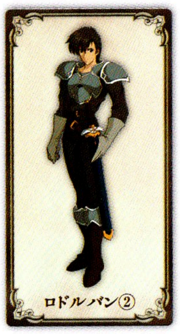

レスター


レックス①

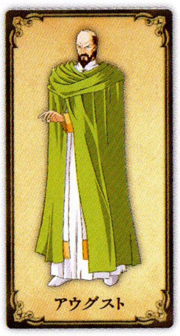

レックス②


レプトール

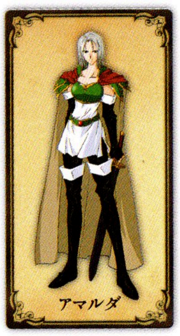

ロドルバン①


ロドルバン②

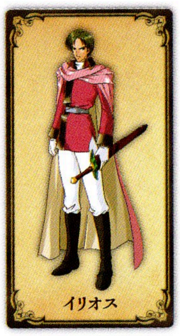
トラキア776


アウグスト

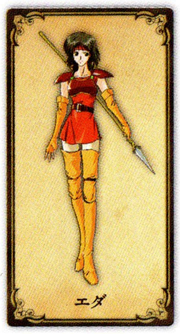

アスベル


アマルダ

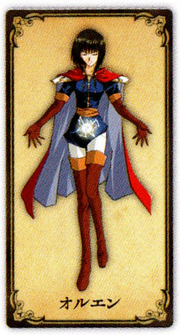

アルバ

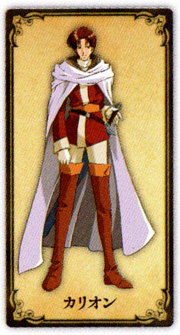

イリオス

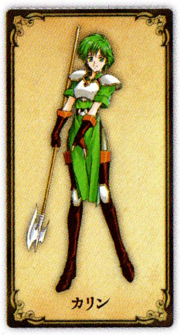

エーヴェル

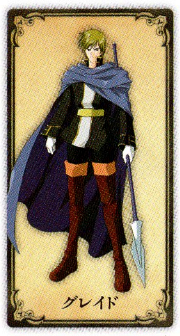
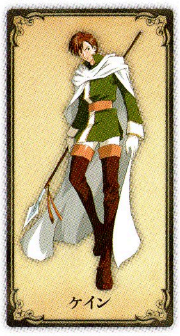
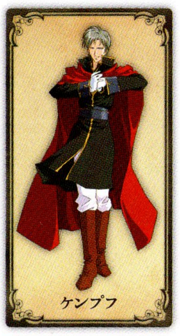
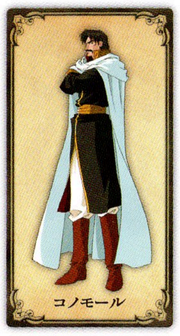
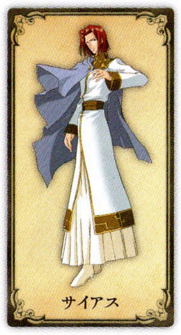
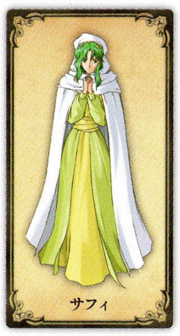
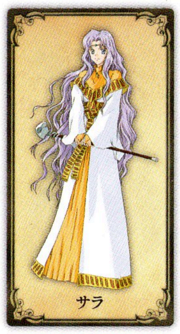

エダ

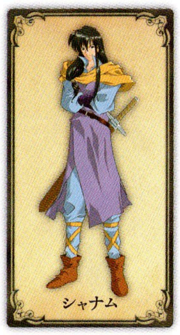
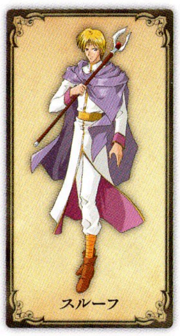

オーシン

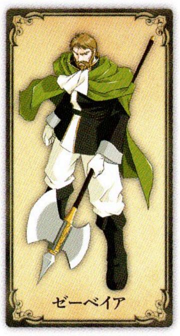

オルエン


カリオン


カリン


ガルザス

グレイド

ケイン

ケンプフ

コノモール

サイアス

サフィ

サラ

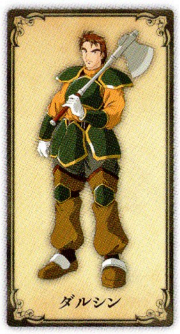
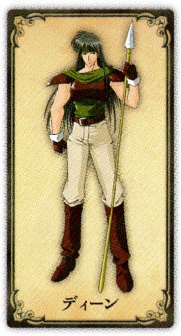
シヴァ

シャナム

スルーフ

セイラム

ゼーベイア

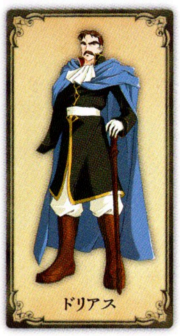
セティ

セルフィナ

ダグダ

タニア

ダルシン

ディーン

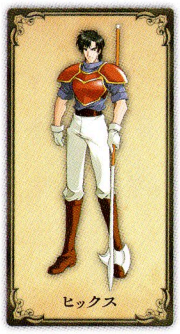
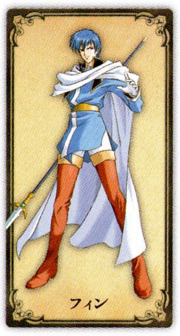
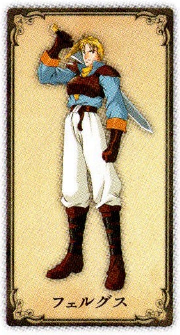
ティナ

デルムッド

ドリアス

トルード

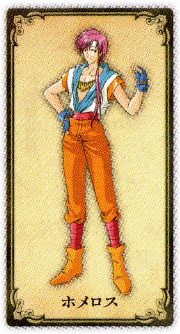
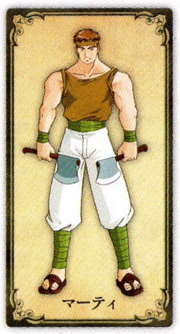
ナンナ

パーン

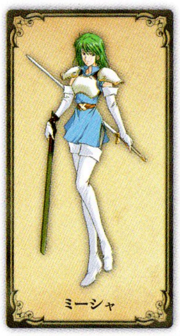
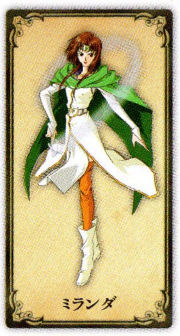
ハルヴァン

ヒックス

フィン

フェルグス

ブライトン

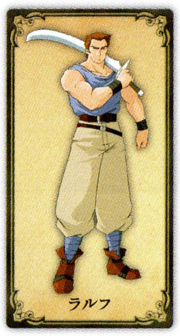

フレッド

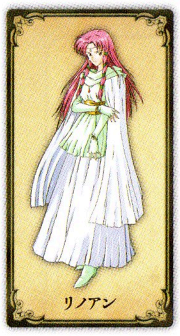
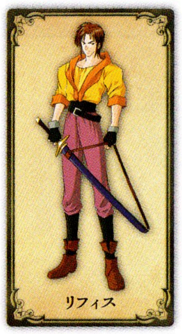
ベルド

ホメロス

マーティ

マチュア

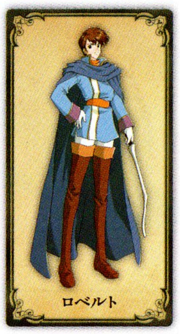
マリータ

ミーシャ

ミランダ

ラーラ

ラインハルト

ラルフ

リーフ

リノアン

リフィス

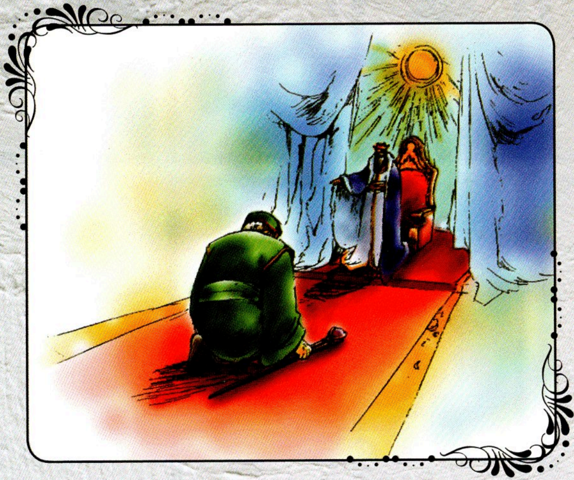
レイドリック

ロナン

ロベルト

#『アカネイア戦記』
イラストギャラリー

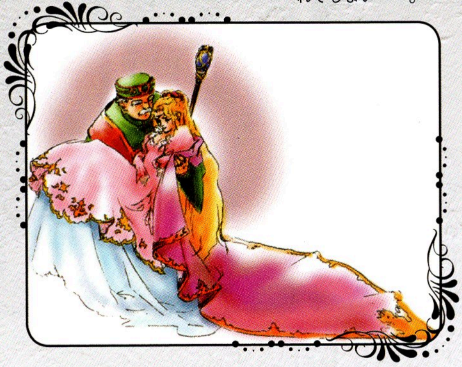
『BSファイアーエムブレム アカネイア戦記編』で、物語を盛り上げるのにひと役かったイベントシーン。
そのイベントシーンで使われた幻のイラストを、まとめて公開！

【 第一話 】
パレス陥落



ドルーアの手がそこまで迫っていることを感じたパレス王は、司祭のボアに娘ニーナを連れて脱出するように命じる。

スリープで眠らせたニーナを抱きかかえ、脱出経路を探すボア。ミディアらと合流できたが、攻め寄せた敵兵に囲まれてしまい……。

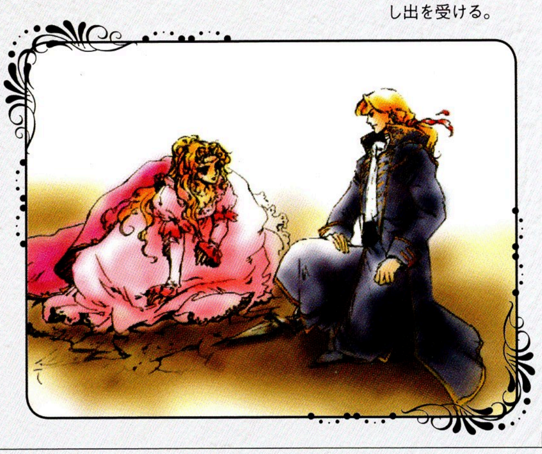




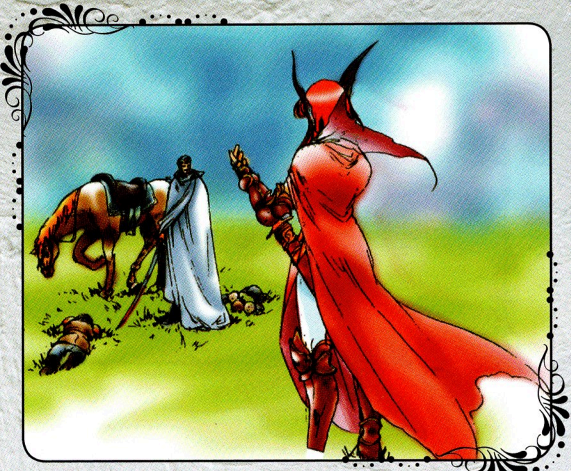
突然のカミュの登場に、我を忘れて斬りかかるミディア。だが、その一撃は、カミュに傷ひとつつけることはかなわなかった。

私の命でよければ、
いつでも差し上げる。
それで気がすむならたやすい事だ。

泣き崩れるニーナに、自分を助け、アイネイア復興に協力してほしいと頼むカミュ。ニーナは、祖国のためにその申し出を受ける。



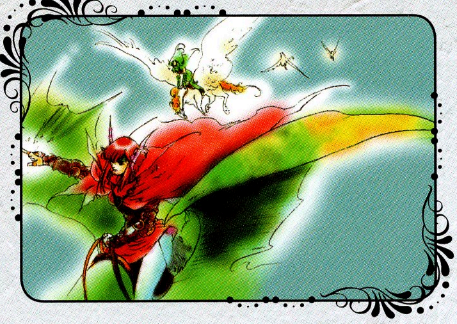
【 第二話 】
赤い竜騎士

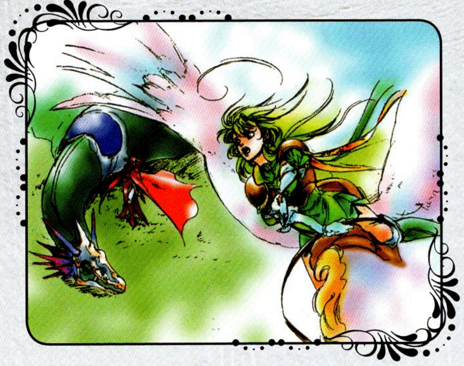


➡狼藉を働いていたマケドニアの脱走兵を、一瞬のうちに倒した謎の男。その場面を目撃したミネルバは、男の剣技に目を見張る。

貴公、たいした腕だな
名は何と？

➡男の正体に興味を持ったミネルバは、パオラに援軍を連れてくるよう命じ、自分は部下のエスト、カチュアとともに男の後を追う。





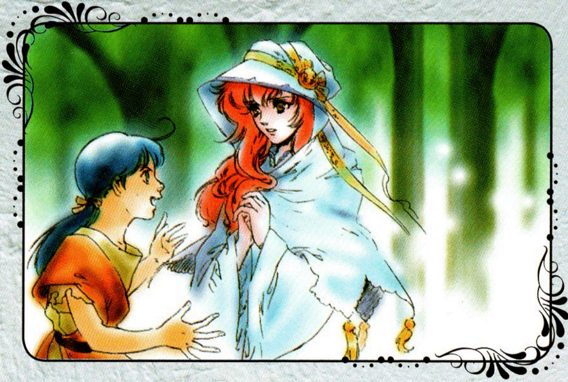
➡謎の男とともに、砦に巣くっていた脱走兵の首領を打ち倒したミネルバ。そこに、パオラ率いる援軍が現れ……。



噂は本当だったな。
赤い竜騎士は知勇兼備の名将だった。
はっはははははは！
次は戦場で会いたいものだな！

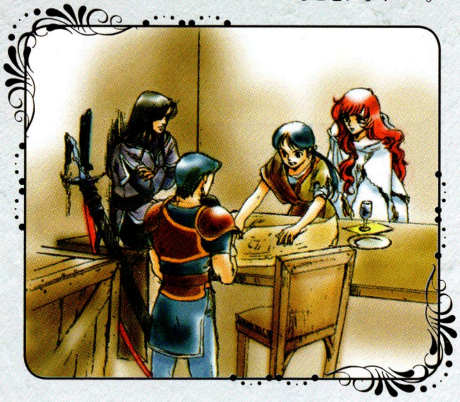
➡自分をオレルアンの“草原の狼”と知りながら見逃したミネルバの懐の深さに、感じ入るハーディン。彼女との次の出会いが戦場であることを期待し、その場をあとにする。

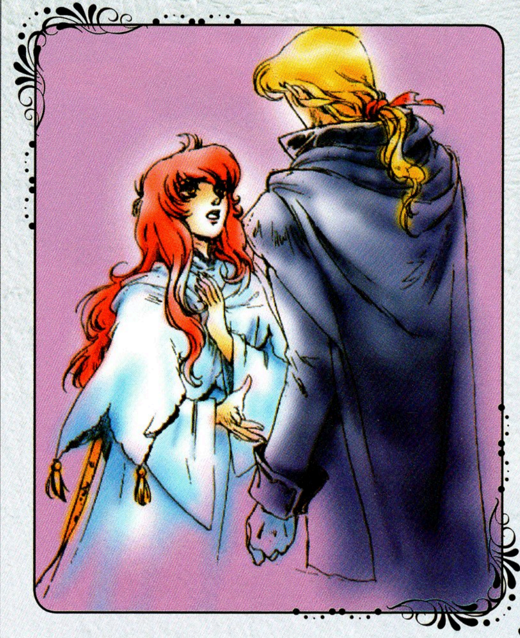
【 第三話 】
正義の盗賊団



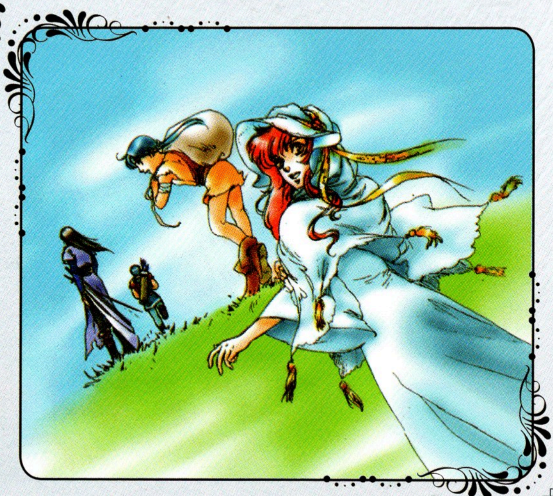
パレス城に盗みに入ろうとするリカード。シスターであるレナは、なんとかいさめようとするが、リカードは聞く耳を持たない。

ひょんなことから凄腕の傭兵ナバール、ハンターのカシムと知り合ったレナとリカード。なぜか4人で城に盗みに入ることになり……。





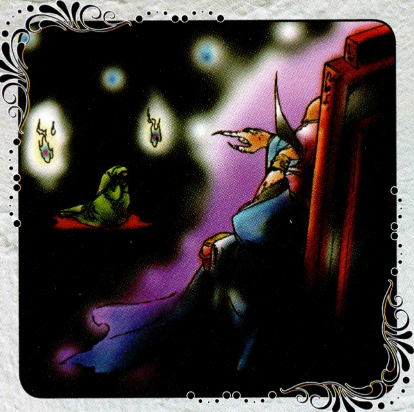
駆けつけたカミュによって一行は囚われの身に。レナは、ドルーアに協力するカミュを糾弾するが……。



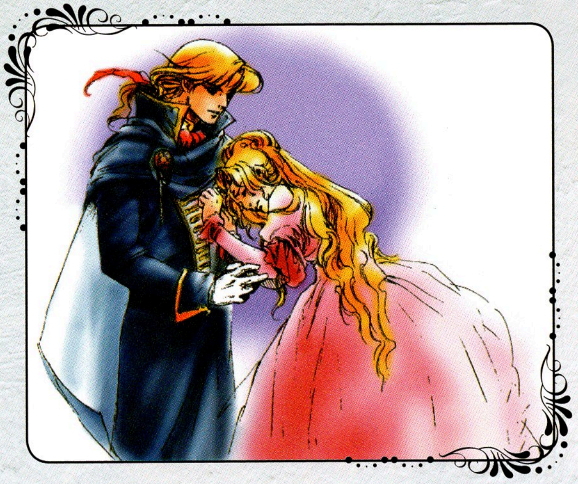
では、お元気で!

ニーナの口添えもあり、無事に解放された一行。レナたちは、見送りに出たカミュに別れを告げ、次なる目的地を目指す。

【　第四話　】
始まりのとき

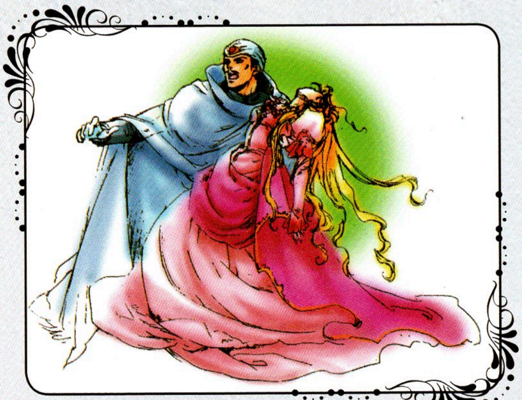


頑（がん）としてニーナを引き渡さないカミュに業（ごう）を煮（に）やしたメディウスは、部下のブルザークにニーナの奪取を命じる。

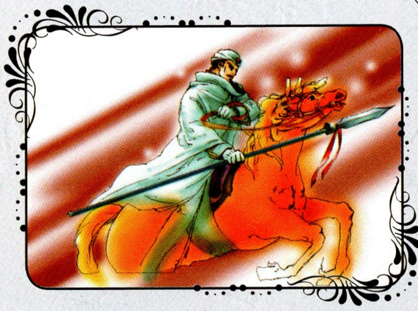


「自分のために全てを捨てる」というカミュの想いを聞き、泣き崩れるニーナ。彼女も、カミュのことを愛していたのだ。

あなたがいたから頑張れたの…！
あなたがいたから……生きてきたの…！

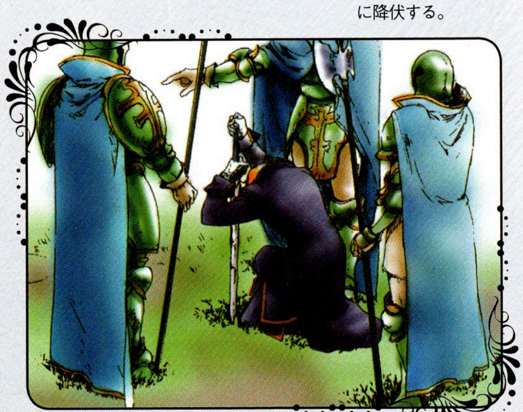


カミュの活躍により、ドルーアの追っ手を逃れたニーナは、駆けつけたハーディンによって救出される。



ニーナ、
臆病な私を許してくれ

ニーナを逃がして力尽きたカミュ。役目を終えたカミュは、戦いで捕まった部下たちの命を助けるために、ドルーアに降伏する。



『新・紋章の謎 ～光と影の英雄～』キャラクターイラスト集

シリーズ最新作、ニンテンドーDS用『ファイアーエムブレム新・紋章の謎 ～光と影の英雄～』のイラストを掲載。
成長したマルスや暗黒皇帝となったハーディン、さらに本作初登場のオリジナルキャラクターにも注目！





Marth
マルス

Sheeda
シーダ

Player
プレイヤーキャラ

『新・紋章の謎』では、プレイヤーの分身となるキャラクターの作成が可能。性別、髪型や髪の色、目もとなどを複数パターンから選べ、右のイメージイラストとまったく異なるキャラクターを作ることも可能だ。


Hardin
ハーディン
Sirius
シリウス
Rody
ロディ
Ruke
ルーク

New Characters

ここで紹介する3人は、『新・紋章の謎』で新たに追加されたキャラクターだ。
兵種や素性など、彼らの詳しいプロフィールは不明だが、きっとマルスたちの心強い味方になってくれることだろう。



Special Interview 辻横由佳

シリーズ全作品の音楽を手がけた辻横由佳氏のスペシャルインタビュー!!
制作時の㊙エピソードなども含めて、お話をうかがった。

つじよこ　ゆか●作曲家。ゲーム音楽を中心に活動している。『ファイアーエムブレム』シリーズの音楽を担当。シリーズ全作品にかかわった、唯一のスタッフである。他の代表作に『ペーパーマリオRPG』『ヨッシーのパネポン』等がある。

Q 『FE』シリーズが20周年を迎えましたが

20年と聞くと、もうそんなに経ったのかと思います。ひとつ作り終えるごとに、実現できなかったこと（やりたかったこと）や反省点が山のように残り、次回作でそれを実現できたとしても次にまた新たなやりたいこと、反省点が出てくるの繰り返しで、気がつけば20年の月日が流れていた……という感じです。

でも、なによりもＦＥシリーズを楽しんでくださるユーザー、ファンのみなさまが温かく見守ってくださっていたから続いてきたのだと思います。

Q どのような経緯で、シリーズにかかわることになったのですか？

インテリジェントシステムズで１作目の開発を始めたときは、まだ音楽を専門とするスタッフがいなくて、音楽好きなプログラマーが試行錯誤しながら作成していました。ところが１つのゲームに曲数や色々な曲調が必要となり、効果音の数も増えサウンドスタッフの必要性が増してきたときに、本当に偶然なのですが、「前にいた会社に音楽をやっている人（私のことです）がいるので声かけてみよう」と開発スタッフのひとりが言ったひと言で、私はFEと出会いました。

オーダーは「とにかく作ってみて」だったと思います。私は初めて目にする耳にすることばかりで、開発スタッフもサウンドをすべて自社でというのが初めてだったので、「とにかくやってみようか!」でしたね。

Q シリーズの音楽を手がけるうえで、心がけている点を教えてください。

歌えること、人に優しくあること、テーマは"愛"です。

Q 「いちばん苦労した曲」「会心の出来だった曲」を教えてください。

おおざっぱですが、マップ曲の作成はいつも他の曲と比べて時間がかかります。GBAあたりから、複数の作曲者で開発していますが、お互いに刺激しあってユニークな曲ができました。

さらっと鼻歌で作ってあとあと苦労している曲は、タイトル曲です。短時間であまり苦労なく作った曲で慕われている曲は、「仲間入り」です。『聖戦』はとりつかれたように作り続けていました（苦労なのか、会心なのか…）。

この仕事をして作曲者の作りこみ度（？）とユーザーの方の人気度は相反していることが多い、と悟りました。



←辻横さんが開発スタッフからもらったお誕生日カード。「花束とダロス」という、意外な組み合わせがGood!!

Q シリーズ全作にかかわられてきて、印象的だった思い出などはありますか？

開発スタッフの熱い戦い（熱意）ですかね。モノ作りにはかかせない戦いですが、みんながいいものを作りたい一心で意見をかわすのですが、時には衝突したりします。意見を聞いてもらえなくて納得できなかったときに、同意見の人が集まって「嘆願書」なるものを書いて、リーダーに持っていったこともありました。ファミコン版『暗黒竜と光の剣』の、出荷間際の梱包された山積みのダンボール箱の前で記念写真を撮ったことも、懐かしい、いい思い出です。

Q 20年前と今を比べ、変化したと感じる点などはありますか？

開発機材の進化でしょうか。パソコンの進化とともにゲームも発展していきました。当時はパソコンが普及し始めたころで、記憶メディアもソノシートレコード（知っています？）のようなペラペラの媒体の8インチや5インチのフロッピーディスクでバックアップをとりました。懐かしいです。

音符を直接プログラムに数値の打ちこみで表現したり、音源（波形）を手打ちで作成したりと手作業的なことが、時代とともに便利なツールができ、コンピュータも処理能力がアップしていき、頭の中にある音が実現しやすくなってきました。環境は大きく変化しましたが、根本的なところは不変です。そこは変化していない部分ですね。"五線紙と鉛筆とピアノ＋鼻歌"、これはずっと変わっていませんね。

Q "プレイヤー"としての思い出は？

せっかちな性格が高じて、FEは苦手なゲームに属します（笑）。真っ先に浮かぶのは、『紋章の謎』序盤でナバールに瞬殺され、戦意をなくしたことですね（涙）。

どのシリーズもそれぞれに個性があって楽しめました（エンディングは他の人のものを見ましたが…）。

Q もっとも好きなキャラクターは誰？

ダロス、ミシェイル、トラバント、アリオーン、美形飛行系が好きです。なので、テーマ曲作成にはいつも力が入ってしまいます。ダロスは海賊ですが、開発スタッフにお誕生日カードをいただいたことがあります。ダロスが花束を持っている絵で、今でも大事に持っています！

Q 最後にシリーズのファンにメッセージをお願いします

FEシリーズが長く続いているのは、楽しんでくださるユーザーが多くいてくださるからです。感想ハガキに励まされたことも多々あります。

FEは開発スタッフだけでなく、ユーザーのみなさんと一緒に作っているゲームだと思います。そして、FEはFEらしく進化していければいいなと思っています。これからも、みなさんと一緒に作り続けられることを願っています。

BOOK GUIDE

『ファイアーエムブレム』シリーズをより深く楽しむためにおすすめしたいのが、攻略本をはじめとする関連書籍。小学館よりこれまでに刊行された攻略本と小説を、まとめて紹介しておこう。

★印の書籍は絶版となっており、販売しておりません。

ファイアーエムブレム百科



★

機種
ファミリーコンピュータ
発売日
1990／04／25
判型
B6判

ファイアーエムブレム外伝



★

機種
ファミリーコンピュータ
発売日
1992／03／14
判型
B6判

ファイアーエムブレム 紋章の謎



★

機種
スーパーファミコン
発売日
1994／01／21
判型
B6判

ファイアーエムブレム 紋章の謎 プロフェッショナル



★

機種
スーパーファミコン
発売日
1994／04／30
判型
B6判

ファイアーエムブレム 聖戦の系譜



★

機種
スーパーファミコン
発売日
1996／06／14
判型
B5判

ファイアーエムブレム トラキア776



★

機種
スーパーファミコン
発売日
1999／10／01
判型
A5判

ファイアーエムブレム 封印の剣



★

機種
ゲームボーイアドバンス
発売日
2002／04／30
判型
A5判

ファイアーエムブレム 烈火の剣



機種
ゲームボーイアドバンス
発売日
2003／06／18
判型
A5判

ファイアーエムブレム 聖魔の光石



機種
ゲームボーイアドバンス
発売日
2004／11／17
判型
A5判

ファイアーエムブレム 蒼炎の軌跡



機種
ニンテンドーゲームキューブ
発売日
2005／06／13
判型
A5判

ファイアーエムブレム 暁の女神



機種
Wii
発売日
2007／04／12
判型
A5判

ファイアーエムブレム 新・暗黒竜と光の剣



機種
ニンテンドーDS
発売日
2008／10／03
判型
A5判

小説版 Fire Emblem ファイアーエムブレム 紋章の謎1～4

★

[スーパークエスト文庫]　著者：高屋敷英夫　イラスト：おちよしひこ　判型：A6判

『紋章の謎』の第2部、「英雄戦争」を描いた小説。マルスたちはもちろんのこと、ゲーム中ではあまり脚光を浴びなかったキャラクターの雄姿も描かれている。小説オリジナルキャラクターも多数登場する。残念ながらすでに絶版。

著者の高屋敷英夫氏は、本作のほかにも、アニメやドラマの脚本・シリーズ構成を多数手がけている。代表作にアニメ『めぞん一刻』『逆境無頼カイジ』『蒼天航路』『RAINBOW-二舎六房の七人-』など。



ワンダーライフスペシャル
[任天堂公式ガイドブック]

20th Anniversary

ファイアーエムブレム大全

●監修 ―――― 任天堂株式会社
株式会社インテリジェントシステムズ
●企画・編集 ―――― 土田章晴(超音速)
開田大輔(〃)
加藤康之(〃)
清水耕司(〃)
福田純子
髙山邦雄(小学館)
●カバー・本文デザイン ―――― 戸部明美(at)
●SPECIAL THANKS TO ―――― 北 千里
金田榮路
こがわみさき
おがきちか
山田孝太郎
辻横由佳
成広 通(インテリジェントシステムズ)
山上仁志(任天堂)

ファイアーエムブレム 暗黒竜と光の剣 ©1990 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 外伝 ©1992 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 紋章の謎 ©1994 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 聖戦の系譜 ©1996 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム トラキア776 ©1999 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 封印の剣 ©2002 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 烈火の剣 ©2003 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 聖魔の光石 ©2004 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 蒼炎の軌跡 ©2005 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 暁の女神 ©2007 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 新・暗黒竜と光の剣 ©2008 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム 新・紋章の謎 ～光と影の英雄～ ©2010 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
Licensed by NINTENDO

2010年7月5日 初版第一刷発行
2010年7月31日 第二刷発行

●発行人 ―――― 塩谷雅彦
●印刷所 ―――― 三晃印刷株式会社
Printed in Japan
●製本所 ―――― 株式会社若林製本工場
●発行所 ―――― 〒101-8001
東京都千代田区一ツ橋2-3-1
電話 編集03-3230-5409
販売03-5281-3555
株式会社小学館

●ゲームの内容などに関する電話でのお問い合わせにはお答えできません。

●造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら、制作局コールセンター(☎0120-336-340)にご連絡ください。送料小社負担にてお取り替えいたします(電話受付は土・日・祝日を除く9:30～17:30)。
●Ⓡ〈日本複写権センター委託出版物〉本書を無断で複写・複製(コピー)することは、著作権法上の例外を除いて禁じられています。本書をコピーされる場合は、事前に日本複写権センター(JRRC)の許諾を受けてください。
JRRC〈http://www.jrrc.or.jp eメール:info@jrrc.or.jp 電話:03-3401-2382〉

©SHOGAKUKAN 2010 ISBN978-4-09-106467-7

[任天堂公式ガイドブック]

Fire Emblem

20th Anniversary

ファイアーエムブレム大全

ファイアーエムブレム　暗黒竜と光の剣　©1990 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　外伝　©1992 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　紋章の謎　©1994 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　聖戦の系譜　©1996 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　トラキア 776　©1999 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　封印の剣　©2002 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　烈火の剣　©2003 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　聖魔の光石　©2004 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　蒼炎の軌跡　©2005 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　暁の女神　©2007 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　新・暗黒竜と光の剣　©2008 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　新・紋章の謎　～光と影の英雄～　©2010 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS

小学館

Licensed by NINTENDO

[任天堂公式ガイドブック]

Fire Emblem

20th Anniversary

ファイアーエムブレム大全

ファイアーエムブレム　暗黒竜と光の剣　©1990 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　外伝　©1992 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　紋章の謎　©1994 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　聖戦の系譜　©1996 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　トラキア 776　©1999 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　封印の剣　©2002 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　烈火の剣　©2003 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　聖魔の光石　©2004 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　蒼炎の軌跡　©2005 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　暁の女神　©2007 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　新・暗黒竜と光の剣　©2008 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS
ファイアーエムブレム　新・紋章の謎　～光と影の英雄～　©2010 Nintendo/INTELLIGENT SYSTEMS

小学館

Licensed by NINTENDO

ISBN978-4-09-106467-7

C9476 ¥2667E

定価：本体2,667円＋税

雑誌 69905-67　小学館